

1985~1986年冬期の積雪に伴う被害

五十嵐 高 志*

国立防災科学技術センター雪害実験研究所

Snow Damage in Winter of 1985/86

By

Takashi Ikarashi

*Institute of Snow and Ice Studies,
National Research Center for Disaster Prevention,
Nagaoka Niigata-ken, 940, Japan*

Abstract

Data of snow damages in winter of 1985/86 were accumulated from articles of news paper to make actual snow damages condition clear.

The number of such articles exceeded a thousand cases, and 981 snow damages occurred in 28 including Tokyo and Hokkaido prefectures. 631 snow damages of these had casualties; 136 men were killed and 981 men were wounded (29 men killed in snow avalanches, 17 men killed in traffic accidents due to a slip car, 17 men killed in accidents of river and open channel to pour snow and water (*ryūsetsukō* in Japanese), and 413 men wounded in ski, 219 men wounded in traffic accidents due to a slip of car, 208 men wounded in railway accidents).

The number of snow damages to buildings and facilities was a small number. However, the damages to facilities of transmission of electricity and those of a railway had a great influence on every day life and traffic of many people in wide area.

The snow damage period was mainly from the end of January to the middle of February. This period corresponds to the heavy snowfall season; in this period, Japan was covered with cold air, and the air temperature at 700 mb surface over Wajima in Ishikawa prefecture was lowered to about -20°C . Particularly during a snowfall, snow damage occurred frequently.

* 第1研究室

目 次

1.はじめに	2	5.雪崩災害現地の積雪断面観測	17
2.1985~1986年冬期の気象概況	2	5.1観測の方法	17
2.1 全国の気象概況	2	5.2 使用計測器・道具	17
2.2 降雪概況	4	5.3 観測方法	18
2.3 大雪警報、雪崩注意報	4	6.観測結果	20
3.調査期間、調査方法	4	6.1 積雪断面観測	20
4.調査結果	7	6.2 積雪相当水量 および積雪全層密度	25
4.1 積雪に伴う被害記事一覧	7	7.おわりに	25
4.2 被害の発生分布	7	参考文献	26
4.3 被害の発生期間	7	付 表	27
4.4 被害の内容	12	付 図	130
4.5 人的被害	12		
4.6 交通障害、物損、 その他の被害	15		

1. はじめに

積雪地帯では59年、60年、61年の3年、連続して豪雪に見舞われた地域が続出し、さまざまな雪害や積雪災害が発生した。

1985~1986年冬期の積雪に伴う被害を、新聞記事から収集して被害の実態と特徴をまとめた。

積雪に伴う被害の発生は、新聞に掲載された記事の収集によると、28都道県で1,000件を越えている。これらの被害は、交通機関（バス、列車、船舶、空港、電気、通信など）、集落やレジャー施設、農地や森林、果樹園などで発生している。また、これらの被害の発生によって、通常の社会生活が混乱または阻害され、あるいは人命が奪われたり、財産の滅失、生産活動の鈍化などさまざまな影響をおよぼした。

2. 1985~1986年冬期の気象概況

日本気象協会提供の1985年11月1日から1986年4月30日までの、毎日午前9時の天気図と気象概況を巻末に付図として示した。以下の気象概況は、日本気象協会提供資料および新潟県気象月報に基づいて述べる。

2. 1 全国の気象概況

11月は上旬に北日本の上空に寒気が入り、北海道から雪が降り始めた。中旬には全般に冬型の気圧配置が続き12日~15日にかけて日本海上空に-26℃の寒気が入り、荒れ模様の天気が続き、北日本の各地で初雪が降った。下旬も冬型の気圧配置が続き、東北地方は太平洋側も雪が降った。青森（青森県）では11月30日に積雪47cmという11月最深積雪を記録し、大雪となった。

12月は上旬の前半は北日本が中心の冬型の気圧配置で経過したが、後半は関東、西日本に北東気流が入って、奥多摩（東京都）、京都（京都府）、福岡（福岡県）などで初雪となった。中旬は全国的に寒波に覆われ、北陸地方を中心に中国地方から東北地方にかけて大雪となつた。

下旬は冬型の気圧配置が24～25日に一時強まり、北陸以北の日本海側で大雪となつた。30～31日には日本海を低気圧が通過し、北海道では風雪が強まつた。

1月は上旬の旬半ばから冬型の気圧配置が強まり、北海道から九州までの広い範囲で雪が降り、東北地方から北陸地方にかけて大雪となつた。7～8日は雪の降り方は弱まつたが、9～11日は再び冬型の気圧配置が強まり、北陸地方を中心に北海道および本州の日本海側で大雪となつた。中旬は13～14日は発達した日本海の低気圧の影響と、その後の冬型の気圧配置の強まりにより、北海道は暴風雪となつた。下旬は21～28日の間、強い冬型の気圧配置が続き、 -48°C の寒気の中心が北海道の上空に入り込み、23日には稚内で -50.1°C を記録した。雪は北陸地方を中心に日本海側で降り続き、各地で3年連続の豪雪となつた。26日には新潟県西頸城郡能生柵口（ませぐち）で、大規模な表層雪崩が発生して、11世帯36人が生き埋めとなり、13人が死亡するなど、この期間は各地で雪害が発生した。29日以降は冬型の気圧配置もゆるみ、大雪の続いた地域でも晴れ間が広がつた。

2月は上旬の1～2日は弱い冬型の気圧配置であったが、3～9日は強い冬型の気圧配置が続き、北海道から本州の広い範囲で雪が降り続き、5日には青森（青森県）で積雪185cmを記録し9年ぶりの大雪、6日には高田（新潟県）で積雪が324cmに達して戦後最深を記録した。また、8日には東京（東京都）で積雪5cmとなつた。中旬は11～13日は北日本で強い冬型の気圧配置となり、北海道を中心に大雪となつた。14～15日に日本の南岸を低気圧が通つた後、16～17日は再び強い冬型の気圧配置となり、東北地方から北陸地方を中心に大雪となつた。18～19日は日本の南岸を低気圧が発達して通過し、関東・甲信地方を中心に大雪となつた。下旬は20～22日は弱い冬型の気圧配置であった。23日に低気圧が通過した後、28日にかけて強い冬型の気圧配置が続き、東北地方から北海道を中心に強い雪が断続して降つた。

3月は上旬1～4日は冬型となつたが、雪の降り方は弱かった。その後、天気は周期的変化を繰り返して、冬型は長続きせず、日本海側の雪の降り方は弱まつた。中旬は日本の南岸を低気圧が通過することが多くなつたが、太平洋側の地方でも雪の降り方は弱かった。下旬は22～24日は低気圧が東シナ海から日本の南岸を、台風なみに発達して通過したため、本州の太平洋側と四国地方の山沿いを中心に強い風を伴つた大雪となり、関東・甲信地方を中心に雪害が発生し、首都圏（東京都、神奈川県）で転倒事故、停電、断水、交通マヒなどの大被害が発生した。

4月は上旬の6～7日に北日本を中心に冬型の気圧配置となり、天気はしぐれたが、旬を通して移動性高気圧が周期的に日本を覆い晴天に恵まれた。中旬は11日に北日本の上空に寒

気が入り、一時的に冬型の気圧配置に変わったが、その後は移動性高気圧と低気圧、気圧の谷の通過で天気は周期的に推移した。寒暖の差が大きかった。下旬は21~22日に気圧配置が梅雨型になり全国的に雨となり、四国から東海地方の各地で大雨となった。また、27日は日本海の低気圧が東進し、日本海側の各地でフェーン現象となり高田（新潟県）で気温31.0℃を記録した。旬を通して天候は周期的に推移したが、気温は北冷西暑で経過した。

2. 2 降雪概況

今冬の主な降雪期間、降雪地域、日降雪、積雪の深さの特徴を表1に示した。11月下旬に東北地方から北陸地方に降雪があり、青森（青森県）では30日に積雪47cmが観測され、11月の最深積雪記録となった。表1に示したように今冬は大きな降雪期間が11月下旬を含めて11回あり、降雪地域、積雪の深さなどに、降雪期間ごとに地域的な特徴が顕著であった。

2. 3 大雪警報、雪崩注意報

気象庁予報部は、低気圧および大雪に関する全般情報等を発表して、一般の注意をうながす一方、全国の各関係気象官署でも、暴風雪警報、大雪警報のほか、大雪、風雪、雪崩、着雪、霜、低温等に関する注意報や情報を発表して、一般の注意を喚起した。表2に新潟地方気象台で発表した大雪警報および雪崩注意報の例を示した。今冬は大雪警報が9回、雪崩注意報が3回発表されている。雪崩注意報は延日数150日、連続発表日数は141日間であった。

3. 調査期間、調査方法

調査期間は、昭和60年11月13日から昭和61年6月18日までとした。

調査の方法は、新聞に掲載された雪、雪害、吹雪、雪崩、凍結、結氷、融雪水などに伴う被害記事を、朝日新聞*、毎日新聞**、新潟日報、茨城新聞、日本海新聞、山陰中央新報、中国新聞の7紙から収集した。

また、雪崩災害については、現地調査を実施した。これらの調査内容、調査期間などを表3にまとめて示した。

* 11版▲で配達地域は青森、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野各県の全域のうち新潟県長岡市で配達されているもの。

**11版●で配達地域は、通常時は新潟県全域、冬期間は宮城、山形、新潟、長野各県である。このうち新潟県長岡市で配達されているもの。

1985～1986年冬期の積雪に伴う被害——五十嵐

表1 降雪期間、降雪の中心地域、日降雪、積雪の深さの特徴

降雪期間	降 雪 地 域	特 徵
12月15～18日	東北地方～ 中国地方 (北陸中心)	日降雪は多い所で30～60cm、積雪は平野部で50～100cmとなった。高田(新潟県)では15日63cm、福井(福井県)では17日55cmの日降雪を観測した。
1月4～6日	東北地方～ 北陸地方	日降雪は多い所で40～90cm、積雪は平野部で40～100cmとなった。
1月9～11日	北海道～ 本州の日本海側 (北陸中心)	高田(新潟県)では10日104cm、11日93cmの連続の激しい日降雪となつたのをはじめ、広尾(北海道)では10日96cmの記録的な日降雪を観測した。
1月21～28日	日本海側 (北陸中心)	日降雪は多い所で連日50～70cm、平野部の多い所で100～250cmに達し、山沿いでは300cmを超えた。福井、敦賀(ともに福井県)では27日それぞれ、60cm、55cmの日降雪を観測した。
2月3～9日	日本海側 (北陸中心)	日降雪は多い所で70～130cm、積雪は平野部の多い所で200～320cmに達した。この期間の高田(新潟県)の日降雪は、3日82cm、4日87cm、5日51cm、6日54cm、7日21cm、8日なし、9日26cmと一週間の合計で300cmを超えた。
2月11～13日	北 海 道	日降雪は多い所で30～40cm、積雪は多い所で200～270cmに達した。
2月16～17日	東北地方～ 北陸地方	日降雪は多い所で50～70cm、積雪は300～360cmに達した。宮古(岩手県)では16日60cmの日降雪を観測した。
2月18～19日	関東地方～ 甲信地方	この期間の最深積雪は東京(東京都)18cm、甲府(山梨県)46cm、横浜(神奈川県)37cm、前橋(群馬県)26cm、熊谷(埼玉県)22cmが観測され、特に甲府では累年として第1位の記録となった。
2月24～28日	北海道～ 東北地方	日降雪は多い所で30～50cm、積雪は多い所で380cmに達した。
3月22～24日	本州の太平洋側 と四国地方の山 沿い	日降雪は山沿いの多い所で30～80cmとなり、各方面に大きな被害をもたらした。23日には河口湖(山梨県)で81cm(累年として第1位)日光(栃木県)で80cm、秩父(埼玉県)で46cmの日降雪が観測された。

この表での日降雪とは、前日21時から当日21時までの降雪の深さを元に記述してある。

表2 新潟地方気象台から発表された大雪警報および雪崩注意報

1. 大 雪 警 報

番 号	発 令 期 間 (年 月 日・時 分)	継 続 時 間
1	1985年12月15日17時20分 ~ 16日 8時00分	14時間40分
2	1986年 1月 5日15時50分 ~ 6日17時00分	25時間10分
3	〃 1月 9日16時10分 ~ 11日16時10分	48時間00分
4	〃 1月22日16時20分 ~ 23日 9時50分	16時間30分
5	〃 1月23日15時40分 ~ 24日17時00分	25時間20分
6	〃 1月25日17時00分 ~ 28日 6時10分	61時間10分
7	〃 2月 3日17時00分 ~ 6日10時30分	65時間30分
8	〃 2月 6日17時15分 ~ 7日 6時00分	12時間45分
9	〃 2月 9日18時30分 ~ 10日 5時30分	11時間00分

2. 雪 崩 注 意 報

番 号	発 令 期 間 (年 月 日・時 分)	継 続 時 間
1	1985年12月15日17時20分 ~ 22日 5時30分	6日12時間10分
2	〃 12月22日17時10分 ~ 25日10時00分	2日16時間50分
3	〃 12月29日15時10分 ~ 1986年 5月19日 5時40分	141日14時間30分

表3 雪害資料収集および現地調査

調 査 者	調 査 期 間	調 査 内 容
五十嵐 高志 *宮 本 誠	1985年11月13日 1986年 6月 8日	朝日新聞、毎日新聞、新潟日報、茨城新聞、日本海新聞、山陰中央新報、中国新聞の7紙から雪、結氷、凍結、融雪水などに伴う被害の新聞記事を収集
山 田 讓 五十嵐 高志 納 口 恭 明 白 武 耕一郎 林 与 一	1985年12月18日	新井市上小沢(工事現場)の雪崩災害 積雪断面観測調査 雪崩被害、雪崩規模、雪崩走路、地形植生、見通し角などの調査を実施
山 田 讓 五十嵐 高志 納 口 恭 明 林 与 一	1986年 1月27日~28日	西頸城郡能生町櫛口(集落)の雪崩災害 積雪断面観測調査 雪崩規模、雪崩走路、雪崩被害、見直し角などの調査を実施
五十嵐 高志	1986年 7月24日	新潟地方気象台資料調査 雪崩注意報、大雪警報など

* 管理部企画課資料調査室専門職

4. 調査結果

4.1 積雪に伴う被害記事一覧

新聞から収集した資料を、1985～1986年冬期の積雪に伴う記事一覧として、巻末に付表として示した。付表は新聞から得た積雪地域の雪害や行政機関等の処理や対応などを、発生日順に整理して、記事の内容が分かるように、発生日の下に簡単な事項を示してある。また、発生場所は新潟県については県名を省略して示した。発生場所の下に掲載新聞名、月日、頁などの出典を示した。

4.2 被害の発生分布

冬期間に多少なりとも雪の積もる場所を合計すると、国土の全面積の約80%におよぶといわれている。また、豪雪地帯は、国土の52%にもおよんでいる。このため、積雪に伴う被害も、北海道、本州、九州と広い地域で発生している。

1985～1986年冬期の積雪に伴う被害を、付表に基づいて都道県別に集計して、発生件数を表4および図1に示した。被害は図1に示したように、北海道、東北地方、北陸地方に多く発生しているが、関東地方、東海地方、山陰地方でも発生している。被害はこれらの地方の28都道県で発生した。

新聞に掲載された被害記事が、5件以上の都道県について図2に示した。新潟県が極端に多くなっているが、これは被害が多いことと、記事を収集した新聞の中心が地方新聞であるため、小規模の被害も掲載され、収集できたためである。一方、他の都道県の件数は、全国紙を中心であるため、大規模の被害が中心に掲載されるためである。したがって、図2に示した件数は、新潟県の件数には、小規模の被害が含まれて多くなっている。他の都道県の件数は、大規模の被害や人的被害が中心で、小規模の被害が含まれないため少なくなっている。

4.3 被害の発生時期

新聞に掲載された積雪に伴う被害記事を、各月の旬別に集計して図3に示した。被害の発生は、降雪や積雪と同時に始まり、消雪で終了する。日本列島は南北に長いため、降雪が早く消雪の遅い地方では、11月中旬から被害が発生し、5月上旬の消雪まで続く。消雪後に発見される被害は5月下旬まである。しかし、大半の被害は、12月中旬から3月末に発生している。これらの被害発生件数を日別に集計して、日本の上空の寒気、石川県輪島上空700mb温度（毎日午後9時）と対応させて図4に示した。図4に示したように、日本の上空が寒気に覆われ、輪島上空の温度が-20°C前後に低下すると、積雪に伴う被害が多く発生している。この傾向は冬期間を通して顕著に対応している。また、表1の降雪の多かった地方を図4に示したが、寒気によって被害が多く発生した地方とも対応している。

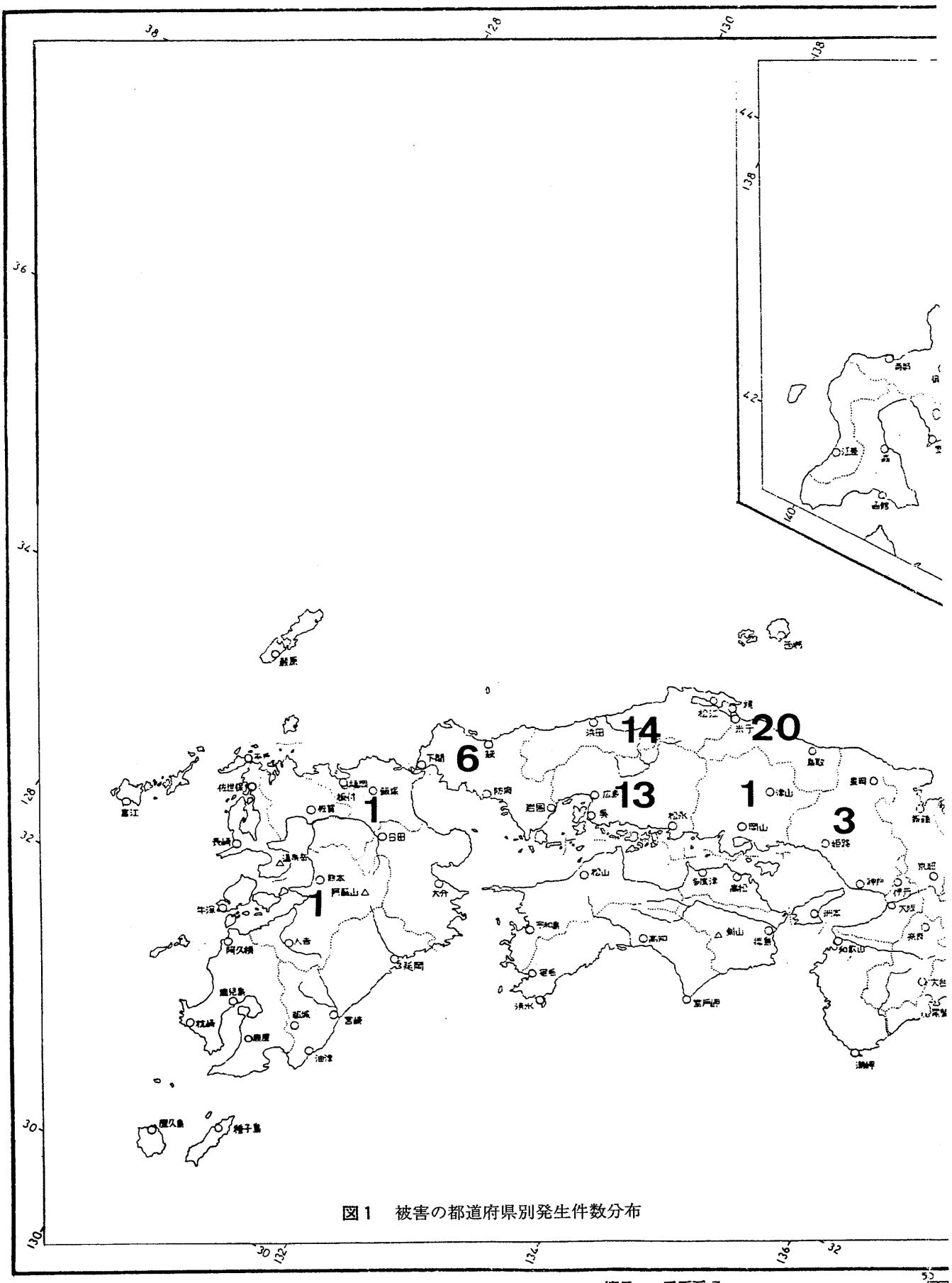
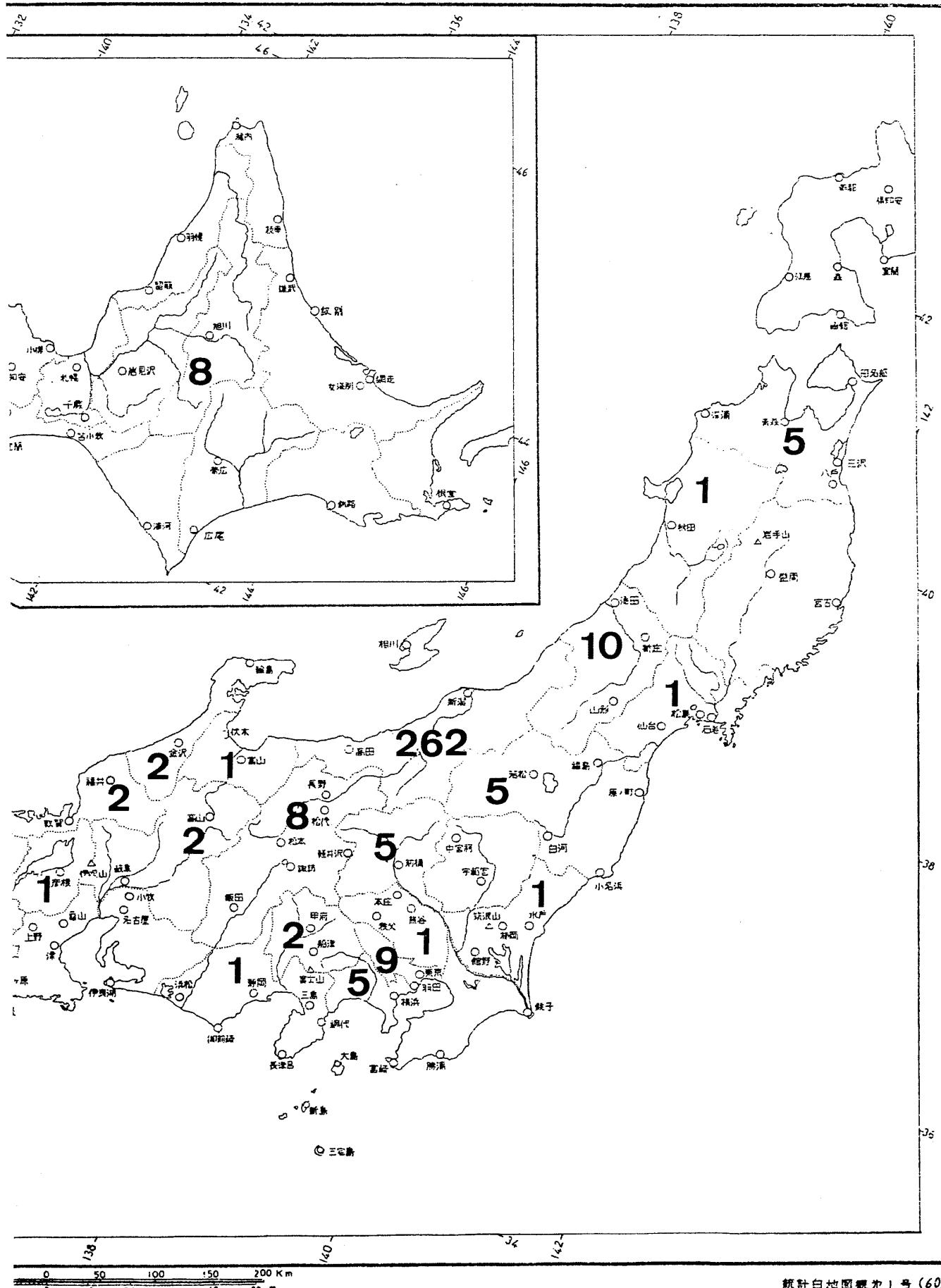


図1 被害の都道府県別発生件数分布

縮尺 五百万分一

1985～1986年冬期の積雪に伴う被害——五十嵐



統計白地圖標記 1 号 (60)

表4 被害の都道県別発生件数および種類

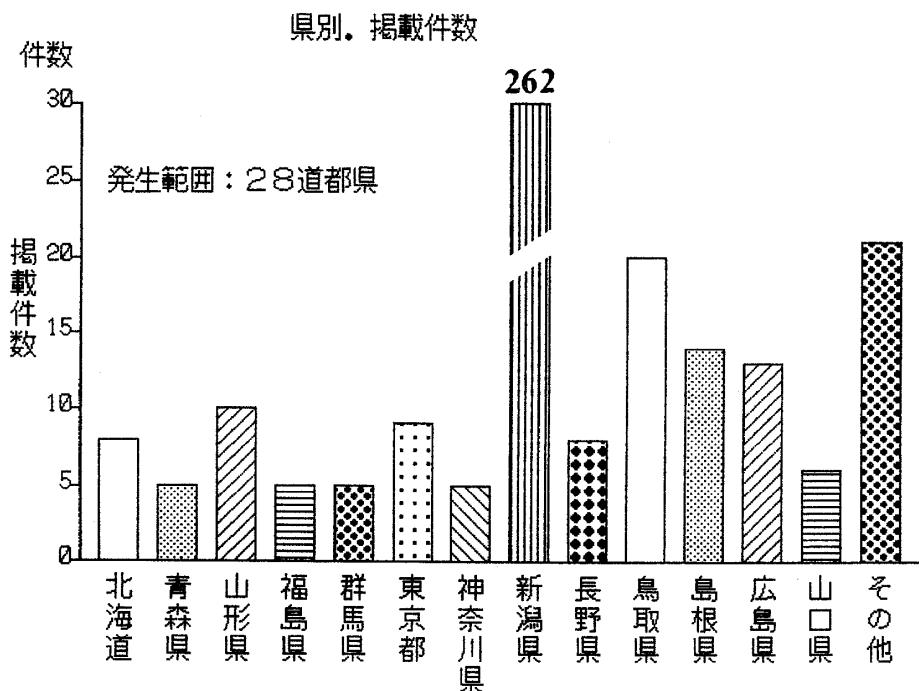


図2 都道県別被害の発生状況（28都道県）

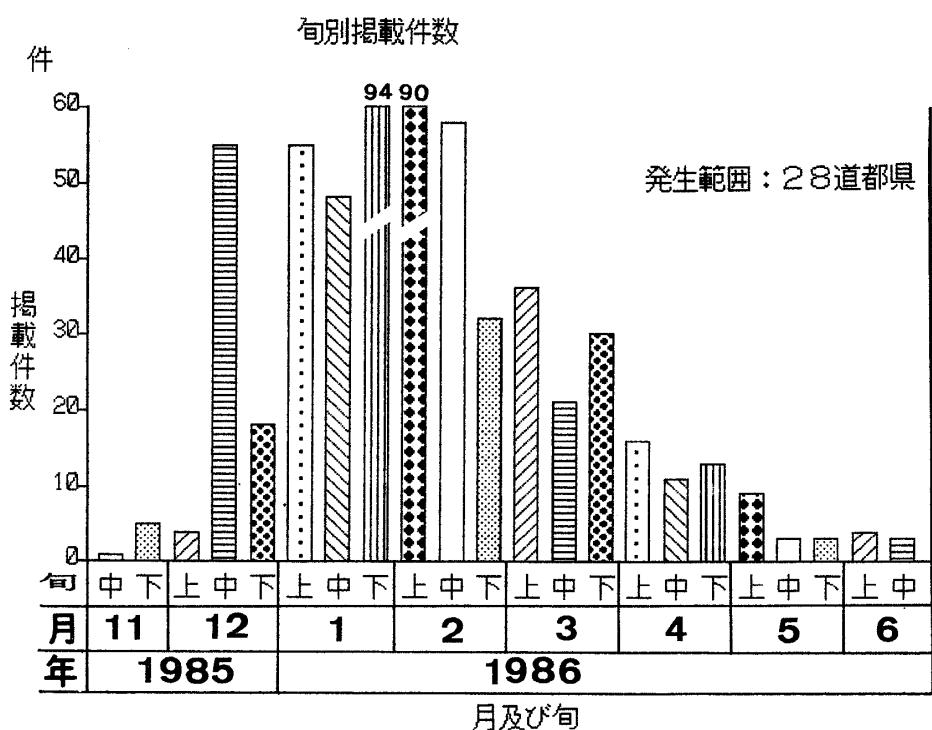


図3 被害の発生時期

北海道、東北、北陸、中部地方の被害は、積雪が多く、積雪期間が長いため、降雪期間中、寒冷時、融雪期に多く発生するが、冬期間を通して発生している。

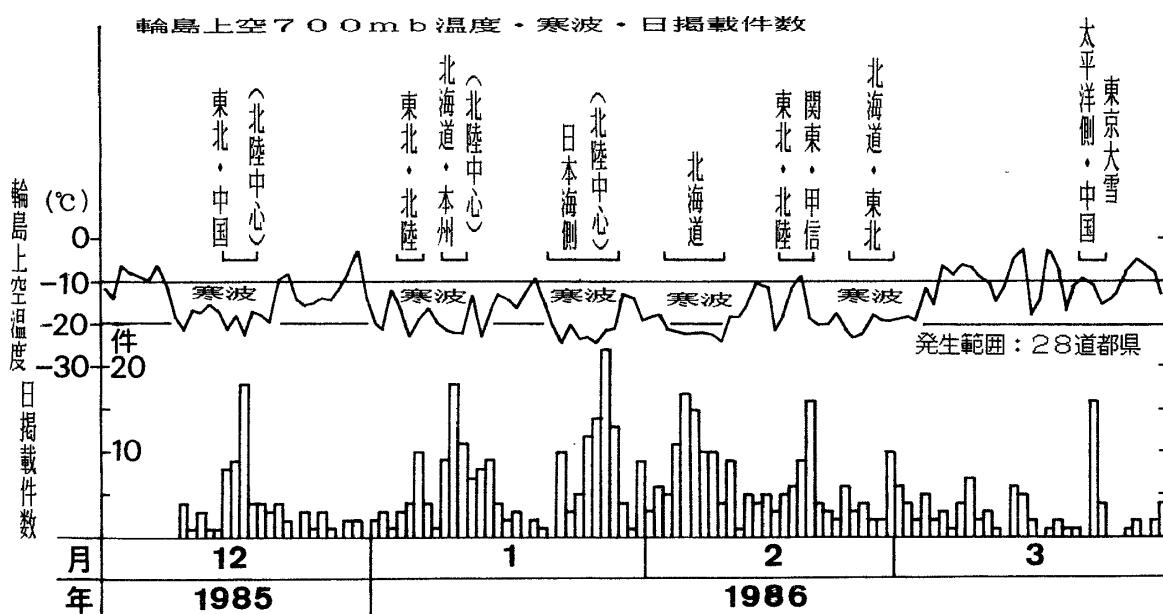


図4 石川県輪島上空700mb温度、寒波、被害の日件数

関東、東海、山陰、九州地方の被害は、降雪時や降雪直後に集中して発生している。

4.4 被害の内容

広い地域で発生する被害は、地域や期間によって、被害の内容が異なっている。

北海道、東北、北陸、中部地方の被害の内容は、雪の重みによる建物の倒壊、吹雪による視界悪化や凍死、路面の積雪（圧雪）や路面凍結による車のスリップ事故、降雪や積雪による道路の通行止めや列車の遅延・運休、屋根の雪下ろし中の転落死、雪崩による生き埋めや死傷と家屋や施設の損壊、送電施設の損壊による広範囲の停電、冠雪による果樹や林木の折損、融雪水による浸水、スキー場やレジャー施設での事故、消雪後発見される農地や水路・道路の欠壊など多岐にわたっている。

関東、東海、山陰、九州地方の雪害の内容は、降雪が少なく、積雪期間も短いため、路面の積雪（圧雪）や路面凍結による車のスリップ事故、歩行者の転倒などの人的被害と、一時的の降雪や積雪による交通機関の混乱で、通勤通学客を含む利用客数10万人に影響を与える大規模な交通障害が中心となっている。

4.5 人的被害

付表に基づいて人的被害を、種類別に集計して表5および図5に示した。また、原因別死

1985～1986年冬期の積雪に伴う被害——五十嵐

表5 雪による原因別死者、負傷者(人)

被　害　の　種　別	全　国		新　潟　県	
	死　者	負傷者	死　者	負傷者
雪崩	29	16	18	13
雪下ろし中に転落	9	10	8	10
雪が滑落して下敷	7	8	6	4
積雪の重みで建物が倒壊、下敷	1	3	0	1
河川、流雪溝、側溝、貯水池に転落	17	1	14	1
除雪車、除雪機械	6	5	3	5
除雪作業中、歩行者	6	72	2	1
圧雪、凍結、スリップ衝突	17	219	7	96
吹雪、視程悪化	10	15	3	12
踏み切りで立ち往生、列車	2	208	2	4
スキー授業、スキーヤー、スキー場	5	413	1	7
凍死	13	0	5	0
消雪パイプ等の修理中	0	2	0	2
火災、ガス爆発、ガス中毒	11	7	4	3
土砂崩れ、落石、地すべり	3	2	3	2
合　計	136	981	76	161

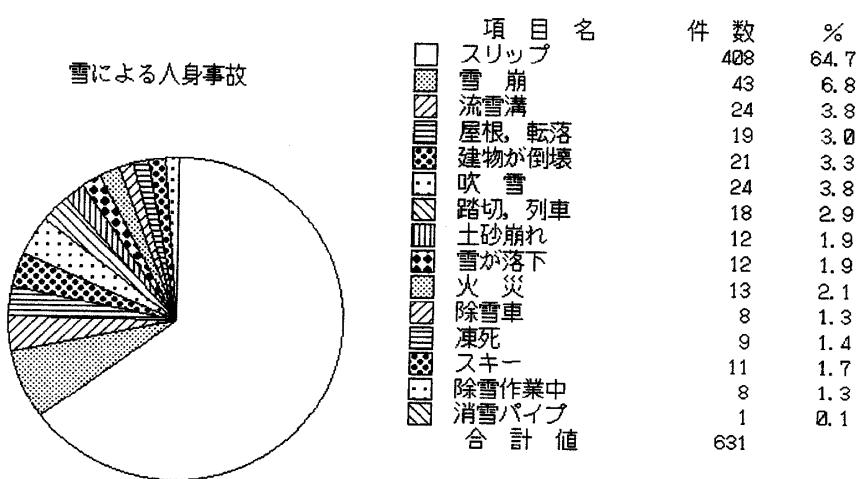


図5 雪による人身事故

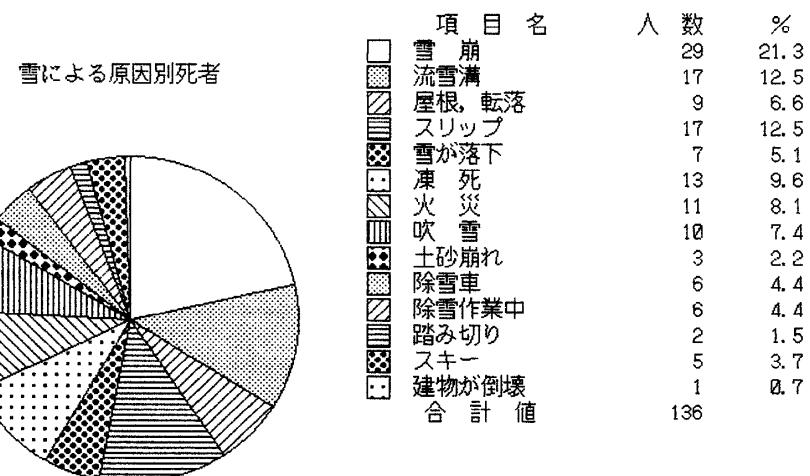


図 6 雪による原因別死者

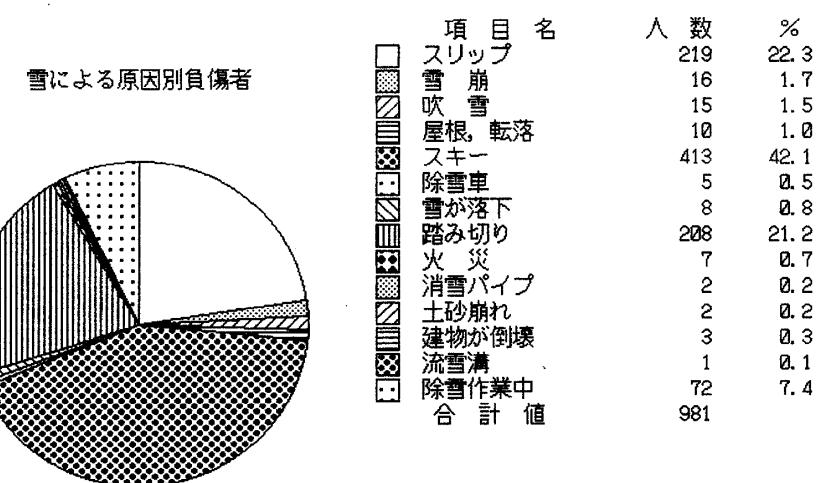


図 7 雪による原因別負傷者

者を図6、原因別負傷者を図7に示した。

人的被害の発生件数は631件で、路面の積雪（圧雪）や路面凍結などによる車のスリップ事故が圧倒的に多く発生している。

原因別死者は雪崩が最も多く29人、次が路面の積雪（圧雪）や路面凍結などによる車のスリップ事故が17人となっている。

原因別負傷者はスキーに関連したもの413人、スリップ事故219人、列車に関連したもの219人、除雪作業中72人、雪崩16人、吹雪15人、雪下ろし中の転落10人の順であった。

人的被害の発生件数の最も多い、路面の積雪（圧雪）や路面凍結などによる車のスリップ事故を、都道県別に集計して表6に示した。表6に示した11都道県で799件発

生し、このうち343件に人的被害があった、これは発生件数の43%である。

これらの人的被害のうち、表5に示したように新潟県の死者は76人、負傷者は161人で、今冬の全体の死者56%，負傷者16.4%であった。

4. 6 交通障害、物損、その他の被害

交通障害は降雪や積雪が原因で、事故や故障による单一的被害と道路や鉄道、送電や通信の機能マヒに伴う複合的被害がある。前者の被害は、範囲が狭く、復旧も短時間で可能であるが、後者の被害は広範囲におよぶ場合が多く、復旧には長時間を要し、二次的、三次的の影響をおよぼしてしまう。このため交通障害の場合は、発生件数よりも障害の規模や範囲が、被害の大きさを左右する傾向が強い。

3月23日に関東地方に降った雪は、道路、鉄道、空港、送電施設、水道施設などで事故や機能低下が続出し、多くの被害を発生させ、その復旧には数日を要している。表5に示した列車の負傷者208人は、東京都田無市で3月23日に発生した西武鉄道の電車衝突事故1件の204人で占められている。これは降雪による列車の機能低下が原因であったと伝えられている。この事故は、一次的には多数の負傷者を出し、二次的には列車が運行不可能になり、三次的には広範囲の他の列車の運行に影響を与えててしまうという最悪の例を示している。

積雪地帯の道路管理機関は、道路の機能維持と安全確保を目的に、降雪や積雪の状態によって、道路の交通規制を実施している。表7に新潟県内の道路交通規制の実施状況を示した。このような規制の運用によって、交通障害の二次的あるいは三次的被害の発生を防止している。

表6 道路の積雪（圧雪）、路面凍結などによる車のスリップ事故発生状況

	件 数	死 者	負傷者
北 海 道	1	4	0
茨 城 県	1	1	0
群 馬 県	3	0	4
新 潟 県	3 4 3	7	9 6
東 京 都	1	1	1
山 梨 県	1	1	2
長 野 県	1	0	1 1
鳥 取 県	1 8 6	1	1 9
島 根 県	1 1 6	0	1 6
広 島 県	1 4 4	1	6 9
山 口 県	2	1	1
合 計	7 9 9	1 7	2 1 9

表7 雪崩の危険による交通規制（新潟県）

年月日	区間，規制内容
1985.12.17	糸魚川市小滝一長野県境の国道148号線を当分の間，夜間 (19時～翌朝7時) 全面通行止め
1985.12.20	糸魚川市平岩一長野県境の国道148号線を当分の間，夜間 (19時～翌朝7時) 全面通行止め
1986.1.10	中魚沼郡中里村小出一南魚沼郡塩沢町上野間(15km)の 国道353号線を全面通行止め
1986.2.6	糸魚川市根小屋一長野県境間(16km)の国道148号線を 当分の間，全面通行止め
1986.3.11	糸魚川市根小屋一糸魚川市山之坊間(11km)の国道148 号線を当分の間，夜間(19時～翌朝7時) 全面通行止め

物損被害は、集落、交通機関、各種施設などで発生しているが、小規模の被害が多く、大規模の被害は少ない。被害は、積雪の重みや雪崩などで、住家や建物、送電施設、レジャー施設などに集中している。

物損被害は、小規模で範囲が狭い反面、人的被害を併発する場合が多い。1月26日夜、新潟県西頸城郡能生町柵口の権現岳で発生した表層雪崩は、住家11棟、非住家8棟を倒壊した他、13名の人命を奪った。

その他の被害では、融雪水による床上・床下浸水、果樹や林木の折損、農地や道路・水路の決壊、融雪水による地すべりや土砂崩れの誘発などである。これらの被害は、修復するまでに長時間を要する場合が多い。

表8に新潟県内の雪崩や地すべりの危険による避難勧告の例を示した。新潟県消防防災課の調査では、県内に雪崩発生の予想される危険個所が2,452箇面あり、このうち過去に人家などに影響をおよぼす雪崩が起きたことのある斜面916箇所が含まれている。また、新潟県は地すべり多発県であるため、冬期間に雪崩や地すべりの危険が予想された場合は、住民に避難勧告を発令して、被害の発生を防止している。

積雪の重みによる被害は、建物の倒壊のみならず、ガス管の折損を引き起してガス爆発や災害に至る被害もある。冬期間の火災は、積雪のため逃げ場(口)が塞がれ焼死する被害や消火活動が阻害され、被害が増大する場合が多い。また、積雪で暖房機器の排気口が塞がれて、ガス中毒死する被害も発生している。

表8 雪崩、地すべりの危険による避難勧告（新潟県）

勧告日時	市町村名	世帯	人数	勧告の背景
1985.12.12	東頸城郡安塚町	1	2	地すべりが発生して住宅の床下に亀裂がみつかったため
1986.1.26	北魚沼郡守門村	5	17	表層雪崩発生の恐れがあるため自主的に避難した
1986.1.26	北魚沼郡広神村	2	8	表層雪崩発生の恐れがあるため自主的に避難した
1986.1.27 (18:15)	西頸城郡能生町	20	53	二次災害の恐れがあるため (30日6時40分に解除された)
1986.1.28 (13:00)	中魚沼郡中里村	5	14	2年前の大雪崩災害時の積雪4mを超えたため
1986.1.28	中魚沼郡津南町	2	8	雪崩発生の恐れがあるため
1986.1.28	十日町市	1	7	亀裂がみつかり雪崩発生の恐れがあるため
1986.1.28	北魚沼郡湯之谷村	1	1	雪崩発生の恐れがあるため
1986.1.28	北魚沼郡入広瀬村	1	1	雪崩発生の恐れがあるため
1986.1.28	北魚沼郡守門村	38	157	雪崩発生の恐れがあるため (30日午後に解除された)
1986.2.6	西頸城郡青海町	3	4	雪崩発生の恐れがあるため (21日16時に解除された)
1986.2.6	西頸城郡能生町	12	26	大雪崩災害の起る直前の積雪、気象条件と似ているため (12日17時で5日ぶりに解除された)
1986.3.30 (3:15)	東頸城郡松代町	11		地すべりが発生して河川が土砂で埋まり鉄砲水の恐れがあるため (6時に解除された)
1986.4.2	北魚沼郡川口町	1	6	土砂崩れが発生する恐れがあるため
1986.4.23 (17:30)	中頸城郡妙高村	1		地すべりが発生しているため
合計	15市町村	105	304	

5. 雪崩災害現地の積雪断面観測

表3に示した新潟県内で発生した雪崩災害現地で、積雪の状態を測定して、災害時の積雪の状態を明らかにするため、自然状態の積雪の断面観測を行った。

5.1 観測の方法

観測は、「積雪の観測法（清水弘, 1965）」および「積雪の分類名称（日本雪氷学会, 1967）」、「地上気象観測法（気象庁編, 1971）」に準拠した。

5.2 使用計測器・道具

観測に用いた計測器・道具は、以下の通りである。

- (1) スコップ：アルミ製角型スコップにパラフィンを塗って使用した。
- (2) 雪べら：ステンレス製で平面部の周縁には、雪を切るための刃をつけたものを使用した。
- (3) 雪尺：3mの伸縮式アルミ製測量用スタッフ（箱尺）を使用した。
- (4) 秤：雪の重量測定用に、アイコーエンジニアリング（株）製作の秤量2kg、最小単位

1 g のデジタル式プッシュプルゲージ（型式7002N）を使用した。

- (5) 採雪器：雪層の密度測定には、北大低温研式ステンレス製角型100cc（採雪部の大きさは、長さ 5.5cm, 幅 6.0cm, 厚さ 3 cm）のスノーサンプラーを使用した。また、積雪全層の平均密度測定には、アルミ製神室型スノーサンプラー（採雪面積20cm², 1 m³ 3 本継ぎ）を使用した。
- (6) 硬度計：積雪の硬度測定には、カナディアンゲージを使用した。この硬度計は、2種類の本体（測定範囲 0 ~ 1 kg および 0 ~ 10 kg）と 7 種類のアタチメント（測定面積 10cm², 5 cm², 1 cm², 0.5 cm², 0.4 cm², 0.2 cm², 0.1 cm²）からなり、それらの組合せによって、硬い雪から軟らかい雪まで測定が可能である。
- (7) 温度計：雪温の測定には、サーミスタ温度センサ 2 本付属の携帯型温度計を使用した。この温度計は、小型軽量で、測定範囲 -43.2°C ~ +120.7°C, 分解能 0.1°C, 4 桁液晶表示などの機能を備えている。
- (8) ラムゾンデ：先端角度 60° のステンレス製ラムゾンデで、1 本 1 m 1 kg 5 本組を使用した。この組には重り 0.5 kg, 1 kg, 2 kg と重りのガイド棒 1 m 1 kg が付属している。

5.3 観測方法

断面観測は、乱されていない平坦地の自然積雪について行った。

図 8 に積雪の断面観測の観測項目と測定位置を示した。観測項目および方法を、観測順序

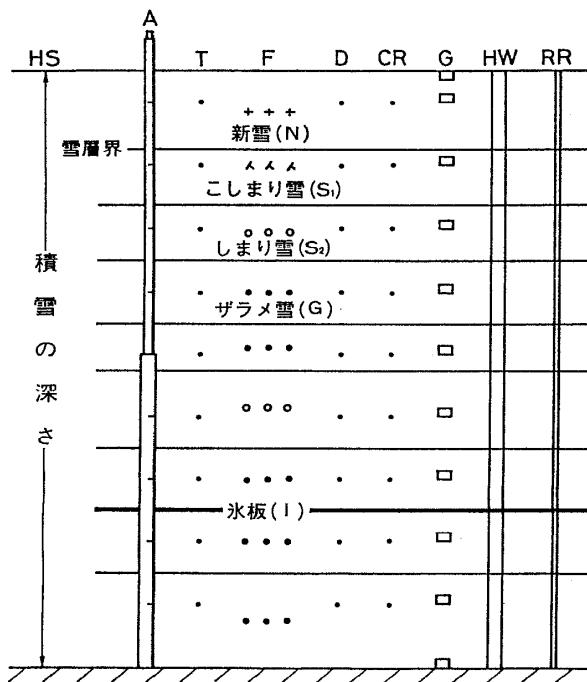


図 8 積雪断面観測の順序、項目、位置

HS: 積雪の深さ (cm) A : 雪尺 (cm)

T : 雪温 (°C) F : 雪質 D : 雪粒の大きさ (P.25本文 a, b, c, d)

CR : カナディアン硬度 (kgf/cm²) G : 密度 (g/cm³)

HW : 積雪相当水量 (kg/m², g/cm³) RR : ラム硬度 (kgf)

に従って示すと、以下の通りであった。

- (1) 雪温 (T) : 断面に沿って10cmごとに温度計のセンサを、雪壁の中に水平に15~20cm差し込み、数分間おいて読みとった。
- (2) 雪質 (F) : 断面の小さな凹凸は雪べらで削り、鉛直な平面に仕上げる。この断面から「積雪の分類名称」に基づいて雪質を目視観測、雪層界を雪尺から読みとった。
- (3) 粒度 (D) : 10cm間隔で測定するとともに、薄い雪層に関しては、それぞれの雪層の粒度も測定した。
- (4) 硬度 (C R) : 測定はほぼ10cm間隔で、雪層に応じて測定した。

写真1にカナディアンゲージを、また、図9に測定方法を示す。

測定方法は図9に示したように、カナディアンゲージ本体 (i) に適当なアタッチメント

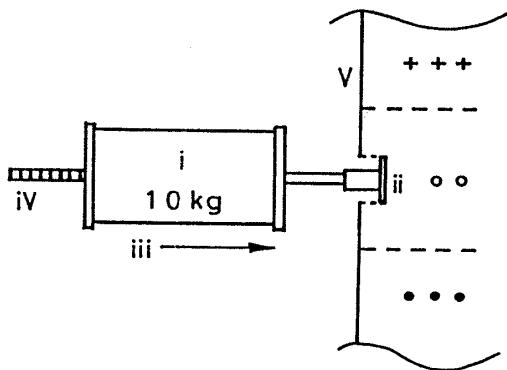


図9 カナディアンゲージの測定法

- i : カナディアンゲージ本体
- ii : 測定用アタッチメント
- iii : 押し込む方向
- iv : 抵抗値読みとりスケール
- v : 積雪の断面 (鉛直面)

ント (ii) を接続し、測定しようとする雪層壁面 (V) に、アタッチメントの平面部を密着させて、静かに矢印方向 (iii) へ押し込む。雪層壁面をアタッチメントが突き破った時の指示値を、抵抗値読みとりスケール (iv) で読みとる。この読みとり値を使用したアタッチメントの面積で除して、測定した雪層壁面の雪の硬度 (kgf/cm^2) を求めた。

- (5) 雪層の密度 (G) : 測定の間隔は約10cmで、すべての雪層の密度 (g/cm^3) を求めた。しかし、スノーサンプラーの厚さ (3 cm) の制約により、少数ではあるが薄い雪層の場合、上下の雪層を含めて測定した場合もある。
- (6) 積雪相当水量 (HW) : 積雪の表面から地面までの積雪を、神室型スノーサンプラーで採雪して、採雪した雪の重量を測定して $\text{HW}(8\text{mm})$ を求めた。また、採雪した雪の深さ、つまり積雪の深さから、積雪全層の平均密度 \bar{G} (g/cm^3) を求めた。
- (7) ラム硬度 (RP) : 積雪表面から地面までの積雪のラム硬度 (kgf) を、5 cm沈下を目安に測定した。

6. 観測結果

6. 1 積雪断面観測

積雪の断面観測結果は、表9および図10に新井市上小沢、表10および図11に能生町柵口の自然積雪を示した。表9、表10は過去に報告された「長岡における積雪断面観測資料(1985~1986)、(五十嵐・1986)」の形式を用いた。

図10、図11は、前述の「積雪観測法」に基づいて表示してある。

表9~表10および図10~図11で使った記号および符号を、まとめて表示し簡単な説明を付記しておく。

表9 積雪の断面観測値 (新井市上小沢)

		60年12月18日		積雪の深さ 140 cm	天 气 ①	気 温 0.7°C	観測時刻 11時55分~13時35分		
雪 質		雪 温		雪粒の大きさ		密 度		硬 度	
位 置 cm	名 称	位 置 cm	T °C	位 置 cm	D	位 置 cm	ρ g/cm³	位 置 cm	R kgf/cm²
140~115	N	139	-0.5	140~115	b ~ d	137	0.040	135	0.015
115~ 75	S	130	-2.2	115~ 75	b c	130	0.120	125	0.050
75~ 50	S	120	-3.4	75~ 50	a	120	0.080	115	0.012
50~ 28	S	110	-3.6	50~ 28	a	110	0.090	105	0.050
28~ 24	G	100	-3.4	28~ 24	c	100	0.080	95	0.022
24~ 0	S	90	-3.2	24~ 0	a	90	0.090	85	0.025
		80	-3.0			80	6.110	75	0.026
		70	-2.8			70	0.120	65	0.035
		60	-2.5			60	0.120	55	0.065
		50	-1.8			50	0.150	45	0.100
		40	-1.4			40	0.170	35	0.100
		30	-0.7			30	0.180	27	0.650
		27	0.0			27	0.310	20	0.500
		20	-0.1			20	0.230	10	0.400
		10	0.0			10	0.220	5	0.600
		0	0.0			0	0.220		

スノーサンプラー

雪重量 ÷ 断面積 ÷ 積雪深 = 積雪平均密度

$$\frac{\text{g}}{\text{m}^2 \text{ cm}} = \frac{530}{20} \div \frac{155}{} = 0.171 \text{ g/m}^3$$

|| g/m^3

積雪相当水量 26.5

表10 積雪の断面観測値（西頸城郡能生町柵口）

61年1月28日		積雪の深さ 406 cm		天 气 ＊	気 温 0.5°C	観測時刻 10時35分~12時30分			
雪 質		雪 温		雪粒の大きさ		密 度		硬 度	
位 置 cm	名 称	位 置 cm	T °C	位 置 cm	D	位 置 cm	ρ g/cm³	位 置 cm	R kgf/cm²
406~366	N	400	-0.0	406~366	b c	403	0.070	400	0.012
366~336	S	390	-3.3	366~336	b	400	0.110	390	0.012
336~313	S	380	-3.5	336~313	a	390	0.100	380	0.022
313~297	S	370	-3.3	313~297	a	380	0.110	370	0.040
297~282	S	360	-3.2	297~282	a	370	0.120	360	0.060
282~278	S	350	-3.2	282~278	a	360	0.120	350	0.060
278~262	S	340	-3.3	278~262	a	350	0.120	340	0.065
262~255	S	330	-3.3	262~255	a	340	0.120	330	0.070
255~251	S	320	-3.3	255~251	a	330	0.130	320	0.080
251~208	S	310	-3.1	251~208	a	320	0.140	310	0.130
208~206	G	300	-3.1	208~207	a	310	0.160	300	0.100
206~180	S	290	-3.0	207~180	a	300	0.150	290	0.110
180~178	G	280	-2.8	180~178	b	290	0.160	280	0.130
178~167	S	270	-2.8	178~167	a	280	0.170	270	0.250
167~155	G	260	-2.6	167~155	d	270	0.200	260	0.300
155~116	G,S	25	-2.4	155~116	a ~ d	260	0.200	250	0.150
116~115	I	240	-2.3	116~115	c	250	0.190	240	0.400
115~ 95	G,S	23	-2.0	115~ 95	a ~ c	240	0.230	230	0.350
95~ 64	G	220	-1.7	95~ 64	d	230	0.220	220	0.400
64~ 19	G	210	-1.4	64~ 19	c	220	0.220	210	0.400
19~ 0	G	200	-1.5	19~ 0	· · ·	210	0.210	200	0.700
		190	-1.1			200	0.260	190	0.600
		180	-0.9			190	0.230	180	0.800
		170	-0.7			180	0.250	170	0.700
		160	-0.4			170	0.230	160	0.800
		150	-0.0			160	0.420	150	0.400
		140	-0.0			150	0.390	140	0.400

61年1月18日		積雪の深さ 406 cm		天 气 ※		気 温 0.5°C		観測時刻 10時35分～12時30分	
雪 質		雪 温		雪粒の大きさ		密 度		硬 度	
位 置 cm	名 称	位 置 cm	T °C	位 置 cm	D	位 置 cm	ρ g / cm³	位 置 cm	R kgf/cm²
		130	0.0			140	0.420	130	0.500
		120	0.0			130	0.430	120	1.000
		110	0.0			120	0.430	110	1.600
		100	0.0			110	0.370	100	0.800
		90	0.0			100	0.430	90	0.800
		80	0.0			90	0.330	80	0.600
		70	0.0			80	0.400	70	1.100
		60	0.0			70	0.430	60	0.800
		50	0.0			60	0.430	50	1.200
		40	0.0			50	0.430	40	1.400
		30	0.0			40	0.430	30	1.000
		20	0.0			30	0.470	20	1.200
		10	0.0			20	0.490		
		0	0.0						

スノーサンプラー

雪重量 ÷ 断面積 ÷ 積雪深 = 積雪平均密度

$$\frac{\text{g}}{\boxed{2.280}} \div \frac{\text{m}^2}{\boxed{20}} \div \frac{\text{cm}}{\boxed{384}} = \boxed{0.297} \text{ g/m}^3$$

$$\parallel \quad \text{g/m}^2$$

$$\boxed{\text{積雪相当水量}} \quad \boxed{114.0}$$

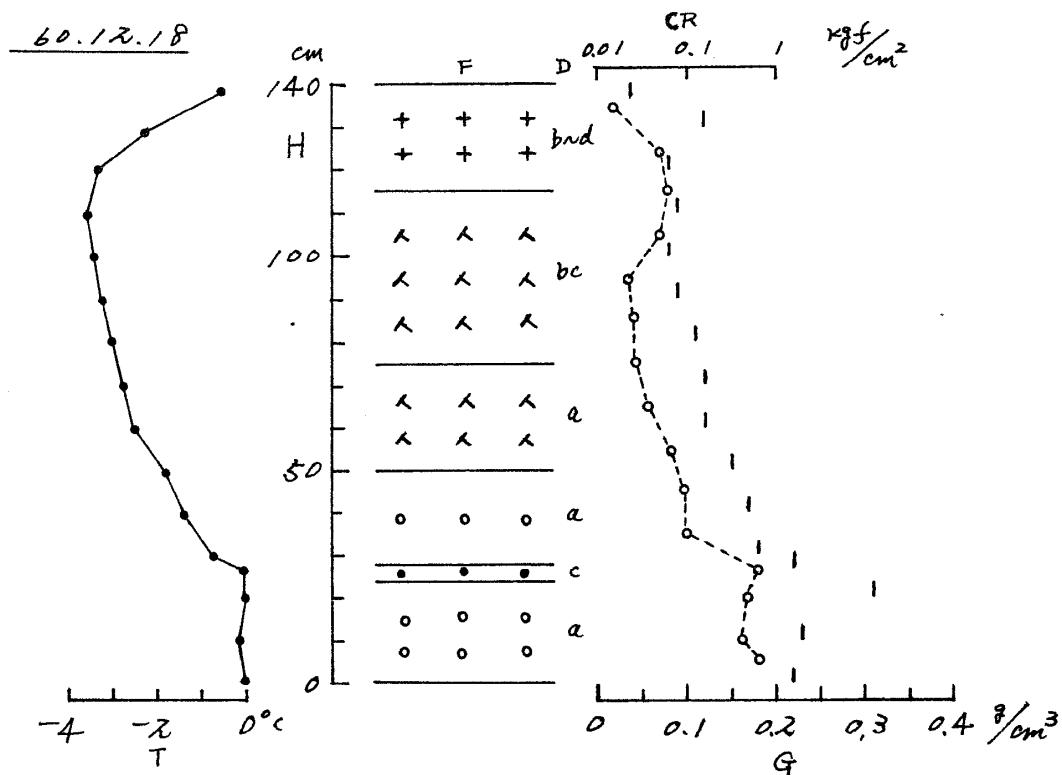


図10 雪崩災害現地の自然積雪断面観測図
 T : 雪温 F : 雪質 D : 雪粒の大きさ
 G : 密度 CR : カナディアン硬度
 場 所 : 新潟県新井市上小沢
 観測日時 : 1985年12月18日11時55分~13時35分
 観測者 : 五十嵐高志 納口恭明

記号の説明

天気………晴 : ① 雪 : *

F - 雪質………新雪 : N および + + +

こしまり雪 : S および 人 人 人

しまり雪 : S および ○ ○ ○

ざらめ雪 : G および ● ● ●

しまり雪
アラレ
混合 : S *

しまり雪
ざらめ雪
混合 : S ** および ○ ● ○ ●

冰 板 : I および i

水中などで測定不能 : . . .

61.1.28

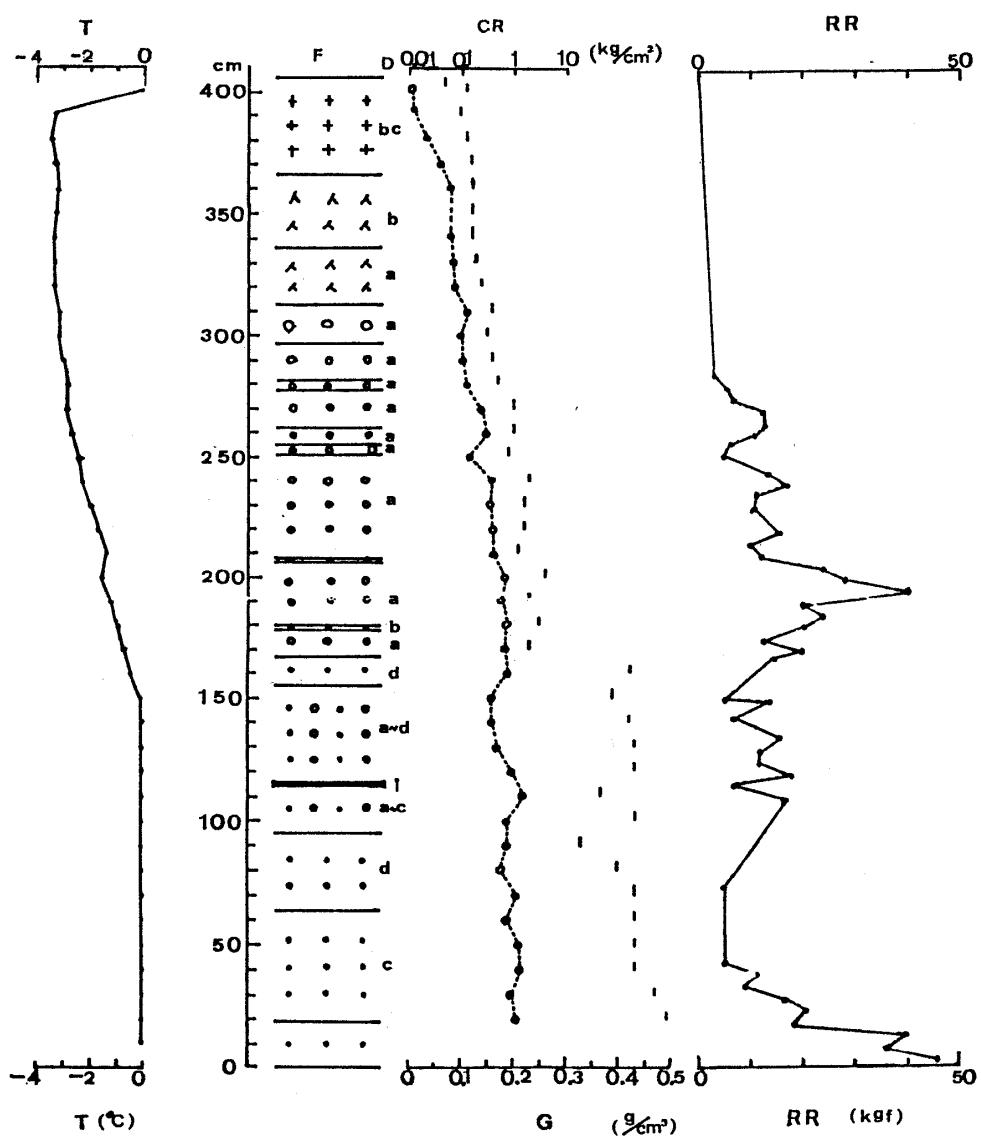


図11. 雪崩災害現地の自然積雪断面観測図

T : 雪温 F : 雪質 D : 雪粒の大きさ
 G : 密度 CR : カナディアン硬度 RR : ラム硬度
 場所 : 新潟県西頸城郡能生町柵口
 観測日時 : 1986年1月28日10時35分~12時30分
 観測者 : 五十嵐高志 納口恭明

D—粒度…… a : 0.5mmより小さい
b : 0.5～1.0mm
c : 1.0～2.0mm
d : 2.0～4.0mm
e : 4.0mmより大きい
… : 水浸しで測定不能

T—雪温 (°C) ……図10, 図11では実線でつないだ黒丸

G—密度 (g/cm³) ……図10, 図11では縦の短い棒, それぞれの棒は密度の測定区間を表し,
測定場所は棒の下端である。

CR—硬度 (kgf/cm²) ……図10, 図11では破線でつないだ白丸

H—位置 (cm) ……地面からの距離を表し, 雪質および雪粒の大きさは上限, 下限の範
囲を示した。

注) 図10, 図11の雪層境界は, 氷板のある場合とない場合を区別して, 前者を細い—, 后者を太い—で表した。

6. 2 積雪相当水量および積雪全層密度

新井市上小沢の雪崩災害現地の自然積雪の深さ(HS), 積雪相当水量(HW)および積雪全層平均密度 (\bar{G}) の観測結果は, それぞれ155cm, 26.5mm, 0.171g/cm³であった。

また, 西頸城郡能生町柵口の雪崩災害現地の自然積雪の深さ(HS), 積雪相当水量(HW)および積雪全層平均密度 (\bar{G}) の観測結果は, それぞれ384cm, 114mm, 0.297g/cm³であった。測定場所が水田の中だったため, 下部約20cmは採雪ができないため測定しなかった。

7. おわりに

本報告は, 当センター管理部企画課資料調査室で収集した資料も含めて, 1985～1986年冬期の積雪に伴う被害の実態をまとめた。

本報告は, 新聞を通して得た情報が中心になっているため, 各分野の機関や担当者の資料とは異なる。これは新聞の情報が, すべての雪害を記事として扱うのではなく, 新聞社の取り扱うニュースの量や価値によって, 情報が取捨選択された記事を掲載しているためである。

降雪や積雪に伴う被害は, 規模が比較的小さい場合が多い。しかし, 1件1件の被害は小さいが, 広い範囲で長期間にわたって発生するため, 結果として大きな被害になってしまう。

積雪地帯でも冬期間の道路交通が高水準で保障されるようになった。したがって, 道路交通に依存した生産活動や生活様式が取り入れられた, 社会構造を形成している。

車のスリップ事故や道路機能の低下による交通障害は, 每冬増加しているが, 積雪地帯の社会構造に適応した対策を急がなければならない。また, 雪崩災害, 屋根の雪下ろし中の転

落死など、毎冬のように発生する被害の軽減処置や防止方法の早期実現が不可欠となってきている。このような状況の中で、積雪地帯の雪害の実態を明らかにし、その雪害の防止あるいは軽減方法を検討したい。

雪害に伴う被害の資料収集では、国立防災科学技術センター資料調査室の宮本誠専門職、本報告をまとめるに当り、雪害実験研究所第1研究室の納口恭明研究員の御助力を得た。以上を記して謝意を表明する。

参考文献

- 1) 五十嵐 高志 (1985) : 昭和59~60年冬期の積雪に伴う被害—新潟県・長野県・他一・防災科学技術研究資料, 第104号, 109pp.
- 2) 五十嵐 高志 (1986) : 長岡における積雪断面観測資料 (1985~1986) . 防災科学技術研究資料, 第114号, 140pp.
- 3) 五十嵐 高志 (1986) : 1985~1986年冬期の積雪に伴う被害の特徴. 昭和61年度日本雪氷学会秋季大会講演予稿集, 日本雪氷学会, 東京, 講演No.104
- 4) 気象庁編 (1971) : 地上気象観測法. 気象庁, 東京, 266pp. 101~104, 141~157.
- 5) 気象庁編 (1985~1986) : 700MB 1200 GMT. 天気図, 気象庁, 東京, 1985年11月1日~1986年5月31日.
- 6) 松本 幹 (1985~1986) : 天気図日記. 気象, No. 361~367, p.22~23参照
- 7) 日本雪氷学会 (1967) : 積雪の分類名称. 雪氷の研究, No.4(1970), 日本雪氷学会, 東京, 57pp. 31~50.
- 8) 新潟地方気象台 (1985~1986) : 気象概況, 新潟県気象月報, 1985年11月~1986年4月, p.1 参照
- 9) 清水 弘 (1965) : 積雪観測法. 雪氷の研究, No.4(1970), 日本雪氷学会, 東京, 57pp. 1~28

(1987年1月7日 原稿受理)

付表

1985～1986年冬期の積雪に伴う被害記事一覧（＊新潟県以外）

発生年月日 (事項)	場所・機関等 (新聞名, 月日, 頁)	記事の内容
1985. 11. 13 スリップ	東蒲原郡津川町栄山 朝. 11. 14-17	未明から東蒲原郡の津川町, 鹿瀬町, 上川村の市街地に初雪が降った。この雪のため8時ごろ, 国道49号線でスリップによる軽乗用車とトラックの衝突事故があり, 1人が軽いけがをした。
11. 25 規制	日本道路公団 新. 11. 26-18	14時13分, 関越自動車道の六日町インター～谷川パーキングエリア間でチェーン規制をした。(27日10時に解除された)
11. 25 スリップ 交通機関	新潟県 朝. 11. 26-21	県内は, 大陸からの寒気の流入により, 各地で未明から雪となり, 新潟市など平野部でもこの冬初めての本格的な雪景色となった。この雪のため各地でスリップ事故が続発。また, 国鉄新潟鉄道管理局管内でポイント故障などのため, 特急列車, 普通列車18本に最高90分から10分の遅れが出, 通勤客など約4,000人の足が乱れたほか, 海や空の便も混乱した。スリップによる交通事故は, 0時から17時までに80件が発生, 北魚沼郡川口町の国道17号線で, 3台の衝突により8人が重軽傷を負ったのをはじめ, 23人がけがをした。このため県警では18時, 今冬初のスリップ注意報を発令した。
* 11. 25 列車	山形県東田川郡 藤島町 新. 11. 26-18	10時14分ごろ, 国鉄羽越線藤島駅構内で, 機関車のパンタグラフが雪の重みで下がったため, 列車が運転不能となった。この事故の影響で特急列車3本, 普通列車5本に1時間15分～30分の遅れが出た。
* 11. 26 大雪	北海道函館地方 新. 11. 27-19	24日から降り続いている雪は26日夕方になって小降りになった。函館空港は除雪のため一時閉鎖されるなど26日も離着陸が終日混乱。28便中16便が欠航した。
11. 30 スリップ	新潟県 朝. 12. 1-17	県内は冬型の気圧配置が強まり, 各地でこの冬一番の冷え込みとなり, 新潟市では初氷が観測された。また, 本格的に降り始めた雪のため, スリップ事故が相次ぎ, 29日夜から30日朝にかけて, 9件のスリップ事故が起き9人がけがをした。このため県警では6時半, 県下全域にスリップ注意報を出し

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1985.12.10 踏切	上越市西田中 新. 12. 11-18	た. 8時20分ごろ、国鉄信越線の警報機と遮断機のある田中第3踏切内で、雪のため脱輪した乗用車に普通列車が衝突した。この事故で乗用車は大破し、男性運転者(31才)は顔や右ひざなどを打ち1箇月の重傷、同乗の女性(37才)も右手などに軽いけがをした。同電車は現場に約15分間停車した。
12.10 注意報	新潟県地方気象台 新. 12. 11-19	新潟地方気象台によると、大陸から強い寒気が南下したため、9日から発令中の波浪警報と強風、大雪注意報を10時半に更新して警戒を呼びかけている。
12.10 消雪パイプ	小千谷市薄生 毎. 12. 12-20	17時ごろ、国道17号線で消雪パイプの作業をしていた作業員がトラックにはねられ、男性(63才)1人が右足骨折で1箇所半の重傷、男性(45才)1人が頭を切るなどの軽傷を負った。
12.10 スリップ	新潟県警交通部 新. 12. 11-19	県警交通部は18時、県下全域に今冬4度目のスリップ注意報を発令した。同部のまとめでは降雪に伴う県内のスリップ事故は、0時から16時半までの間に33件発生、うち人身事故は4件で6人が負傷、物損事故は高速道路の8件を含めて23件だった。
12.11 スリップ	西蒲原郡味方村白根 新. 12. 12-18	8時ごろ、凍った路面にハンドルをとられスリップした乗用車が自転車に追突した。この事故で、自転車に乗っていた男性(47才)が道路わきの用水路の橋げたに頭を強打、脳挫傷で死亡した。
12.12 スリップ	見附市新田町 新. 12. 13-22	4時50分ごろ、国道8号線で大型トレーラーがスリップして真横になったところへ、後続の大型トラックが追突、男性(38才)1人が頭に軽いけがをした。この事故で同国道は11時近くまで通行止めとなった。
12.12 スリップ	中蒲原郡龜田町 茅野山 朝. 12. 13-19	7時50分ごろ、国道49号線の凍結路面でスリップした乗用車が対向車線にはみ出し、対向車と正面衝突したところに後続の乗用車が突っ込んだ。この事故で男性(25才)1人が頭など

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		に約1箇月の大けがをしたほか、男性(47才)1人が頭に約3週間のけがをした。
1985.12.12 地すべり	東頸城郡安塚町 真萩平 新. 12. 14-23	16時ごろから地すべりが始まり、13日13時ごろ、住宅床下に7～10cmの亀裂が数箇所走っていたため、1世帯2人に避難勧告が出され、隣家に非難した。
* 12.13 通達	中央防災会議 新. 12. 14-20	国土庁、警察庁など19省庁による災害対策関係省庁連絡会議が国土庁で開かれ、今冬の雪害対策について協議した結果、来週中にも中央防災会議(会長・中曾根首相)会長名の通達を関係機関、地方公共団体に出し、降積雪地の防災体制の強化を早めに図ることになった。通達では、2年連続して多発した雪による死亡事故の防止と雪崩対策の2点が強調されることになっており、後手に回らないよう、関係機関の早めの対応を促すとともに住民への啓発に取り組むこととしている。
12.14 視界	三条市一ノ門2 毎. 12. 16-17	17時20分ごろ、市道でバイクに歩行者がはねられ、顔や腰などを打って1箇月半の重傷を負った。原因はみぞれでバイクの風防ガラスが曇り、前がよく見えず歩行者に気づかなかつた。
12.15 スリップ	三条市大島 新. 12. 16-18	0時過ぎ、国道の緩いカーブで乗用車がスリップして対向車線にはみ出したため、対向車と正面衝突した。この事故で男性(22才)が左ひざの骨を折る大けがをした。事故当時、道路に5cmの圧雪があった。
12.15 除雪中	柏崎市宮平 毎. 12. 17-17	7時半ごろ、国道252号線沿いの自宅車庫前の路上で除雪作業をしていた男性(52才)が乗用車にはねられ、肋骨骨折などで3箇月の重傷を負った。
12.15 スリップ	中頸城郡柿崎町上輪 新. 12. 17-18	19時半前、北陸自動車道下り線で、トラックが雪のためスリップして横向きになったところへ、大型トラックが追突、さらに後続の乗用車とライトバンが次々に玉突き衝突した。この事故で、同線の柿崎一柏崎間は3時間20分にわたって閉鎖された。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1985.12.15 警報	新潟地方気象台 新. 12. 16-19	新潟地方気象台は17時20分、佐渡を除く県内に今冬初の大雪警報を発令した。
* 12.15 列車	鳥取県岩美郡岩美町 東浜 山. 12. 16-16	4時半ごろ、国鉄山陰本線東浜駅構内で、40cmの積雪のためポイントが動かなくなり、約1時間後に復旧した。この事故で、普通列車1本が15分後れたほか、特急列車2本と普通列車2本がそれぞれ約10分後れた。このため10時、米子鉄道管理局では、鳥取駅一居組駅間にラッセル車を初出動させ、1往復除雪した。
* 12.15 スリップ	広島県広島市佐伯区 五日市町五日市 中. 12. 16-15	5時50分ごろ、国道2号線西広島バイパス高架橋上り線で、路面凍結のため、大型ダンプカーがスリップしたり、ハンドルを取られた乗用車や大型トラックなど13台の車が次々に玉突き衝突し、車に乗っていた8人が重軽傷を負った。事故車が130mにわたって上り線をふさいだため、約2時間通行止めになった。右足骨折の1箇月の重傷、男性(29才)、腰部打撲などで2週間の軽傷、男性(19才、19才、20才、20才)女性(18才)、顔などに3日間の軽傷、男性(51才)、肋骨を折って1箇月の重傷、女性(18才)。
* 12.15 スリップ	広島県佐伯郡 廿日市町御前 日. 12. 16-17	5時40分ごろ、国道2号線西広島バイパス高架橋下り線で、スリップした車が道をふさがれて停車した乗用車2台に、大型トラックが追突、2人が軽傷を負った。廿日市署の調べでは、路面凍結によるスリップとみている。同バイパスは約4時間閉鎖された。
* 12.15 雪崩	長野県 朝. 12. 16-22	11時10分ごろ、中央アルプス千畳敷の天狗沢で雪崩が発生、登山者3人のうち男性(28才)1人が巻き込まれ、約70m流されて仲間に助けられたが、骨盤骨折で1箇月の大けがをした。雪崩は、約200m上部から押し寄せてきた幅20mの表層雪崩。
12.16 用水路	南蒲田原郡栄町 福島新田	17時ごろ帰宅途中、用水路にかかる鉄骨製橋を渡る際、誤って深さ2.5mの用水路(水深15cm)に転落し、上にあがることが

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
	新. 12. 19-18 新潟地方気象台 注意報	できずに凍死した。男性(57才)。 新潟地方気象台は17時に佐渡を除く県内に大雪・雪崩注意報を発令した。
* 12. 16 スリップ	山口県美祢市 東厚保町堀越 中. 12. 16タ-3	5時45分ごろ、中国自動車道美称ー小月インター間下り線で凍結防止剤を散布中の氷雪作業車にトラックが追突、らさに後続のトラック同士2台が追突事故を起こした。この事故で、運転者1人が顔や背中に2週間のけがをした。男性(22才)同自動車道下り車線は、この事故のため、4時間通行止めになった。県警高速隊の調べでは、積雪でトラックがスリップしたためらしい。
* 12. 16 列車	山口県徳山市 中. 12. 16タ-3	7時30分ごろ、山陽新幹線小郡駅ー徳山駅間を走っていた列車の運転士が、異常音に気づき、列車を広島駅に止めて点検した結果、2号車など3箇所の窓ガラスに長さ15cmのヒビが入っているのが見つかり、テープで応急修理をした。新幹線総局広島管理部は、線路上の固まった雪を列車が巻き込んだものとみている。同列車は45分遅れで広島駅を発車した。
* 12. 16 列車	島根県仁多郡仁多町 三成 山. 12. 17-16	6時10分ごろ、国鉄木次線亀嵩駅ー出雪三成駅間で、普通列車の運転士が雪の重みでネムの木(直径50cm、長さ10m)1本が倒れ、線路をふさいでいるのを発見、急停車した。また同線出雲横田駅ー亀嵩駅間でも雑木の枝が雪でたわみ、線路に倒れる恐れがあるのが発見された。これらの処理のため、普通列車5本が20分から1時間遅れた。
* 12. 16 火災、停電	島根県江津市 嘉久志町 山. 12. 17-16	16時25分ごろ、江津中央公園入り口付近で木製電柱が燃えるという変った火事が起きた。電線のある付近が約30cmほど焼けた。この火事で付近の約20世帯が約1時間半停電した。江津消防署と中国電力江津営業所の調べでは、海上のしけで、しぶきを含んだ塩分交じりの雪が、電線の周囲の碍子(がいし)に付着し、漏電したらしい。
*	12. 16 島根県	15時までに県下各地で積雪や路面凍結のためスリップ事故が

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
スリップ	山. 12. 17-12	相次ぎ、松江市で物損事故23件など、合計47件の事故が発生した。また、大和村で小学校3校が雪のため臨時休校した。交通も乱れて、出雲空港では積雪と視界不良のため、午前の4便が欠航したほか、バス路線も隠岐島で5路線41便が運休した。約100隻の漁船が係留されている隠岐郡西郷町の八尾川では、漁師が漁船の沈没を防ぐため懸命に船に積もった雪を取り除いた。
* 1985. 12. 16 列車	広島県広島市 中. 12. 16ター 3	山陽新幹線は、小郡駅ー新下関駅間、名古屋駅ー新大阪駅間の積雪で、始発列車から両区間で100~160km/hの徐行運転を行った。このため広島駅を通過する列車は上りが45分、下りが30分前後それぞれ遅れた。
* 12. 16 税制大綱	自民党税制調査会 新. 12. 17-19	昭和61年度の税制改正作業を進めている自民党税制調査会(加藤六月会長)は16日までに、近年、豪雪地に多く建てられている高床式住宅の固定資産税、不動産取得税を軽減する措置を決めた。17日正式決定する税制大綱に盛り込まれる。
12. 17 雪崩	糸魚川市小滝 毎. 12. 18-16	8時50分ごろ、国鉄大糸線小滝駅ー平岩駅間で小規模の表層雪崩が発生、約90m ³ の雪が長さ30mにわたって線路を埋めた。通りかかった普通列車がこの雪に突っ込み動けなくなつたが、ロータリー除雪車が出動して脱出した。30余人の乗客は全員無事であった。列車ダイヤは15時から平常に戻った。
12. 17 雪崩	糸魚川市小滝 新. 12. 18-18	朝、国道148号線の長野県境付近2箇所で表層雪崩が発生、さらに危険があるため9時半から小滝ー長野県境間12kmが全面通行止めとなった。(18日13時に解除された)。また、同市根小屋ー小滝間3.2kmも同様に雪崩の恐れのため当分の間、19時から7時までの夜間通行止めとなつた。
12. 17 列車	西蒲原郡分水町 新. 12. 18-19	13時35分ごろ、国鉄越後線大河津駅構内の下り線で、普通列車が雪を抱き込み脱線した。また、国鉄金沢鉄道管理局管内の雪による影響で、特急列車8本に3時間半から40分の遅れが出た。なお、15時半に国鉄信越線長岡ー直江津ー妙高高原、

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1985.12.17 雪崩	新井市上小沢 新. 12. 18-1	国鉄越後線吉田一柏崎間にそれぞれ今冬初の第2次運転規制(旅客20%, 貨物30%運休)が発動された。 16時20分ごろ、災害復旧工事現場で雪崩が起き、作業員6人が巻き込まれた。約1時間後全員救出したが、女性(36才)一人が、窒息で死亡、また、女性(51才)1人が右背損傷で2週間のけがを負った。雪崩は高さ30m, 幅60m, 深さ1.8mの表層雪崩であった。事故当時、県内には大雪雪崩注意報が出されていた。
12.17 倒壊	糸魚川市谷根 朝. 12. 19-17	17時半ごろ、自宅敷地内にある木造二階建て延87m ² の農作業小屋が、屋根に積もった雪の重みで全壊した。中には耕運機やトラクターなどの農機具が入っていた。
12.17 スリップ	新潟県警交通部 新. 12. 18-19	県警交通部によると0時から17時までに県内で96件のスリップ事故が発生、今冬最高を記録した。また、空の便も新潟~大阪2往復4便が欠航した。
* 12.17 列車	島根県仁多郡仁多町 亀嵩 山. 12. 18-17	9時半ごろ、国鉄木次線出雲三成駅~亀嵩駅間で、普通列車の運転士が雪の重みで杉の木1本(直径17cm, 長さ17m)が倒れ、線路をふさいでいるのを見つけ急停車した。事故は防げたが、復旧作業などのため同列車など普通列車2本が50分遅れた。
* 12.17 除雪	島根県飯石郡赤来町 赤名 山. 12. 18-17	15時ごろ、赤穴八幡宮参道で、ダンプから雪下ろし作業をしていた男性(33才)が荷台と車体に上半身を挟まれ、三次市内の病院に運ばれたが、1時間半後に死亡。
* 12.17 停電	島根県 山. 12. 18-17	県内は雪の重みで倒木による電線の切断が相次ぎ、隠岐島で1,200戸が停電したのを最高に、松江市、簸川郡大社町、大田市などで3,975戸が停電した。深夜までに復旧したが、隠岐島の都万村那久で依然270戸が停電、付近は1m近い積雪のため復旧のめどがたっていない。
* 1985.12.17 休校	島根県 山. 12. 18-17	隠岐島を中心に、県西部の山間部などで小学校、中学校など13校が休校した。また、小学校、中学校、高校合わせて22校

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1985. 12. 17 スリップ	山口県下松市和田 中. 12. 18夕- 3	が午前中で授業を打ち切ったほか、小学校1校が下校時間を1時間早めて、地区ごとに集団下校した。
* 12. 17 列車	兵庫県城崎郡香住町 中. 12. 17夕- 3	18時45分ごろ、国道2号線の末武大橋西詰めで、軽ワゴン車が、停車中の乗用車に追突して横転、軽ワゴン車の2人が横転した車を起こそうとしているところへ、大型トラックが衝突した。この事故で、軽ワゴン車とともに軽ワゴン車の同乗男性(47才)が、約8mはね飛ばされ、胸の骨などを折って収容先の病院で死亡した。下松署の調べでは、事故当時、雪のため路面が凍結しており、軽ワゴン車も大型トラックもブレーキをかけたが、スリップしてそのまま突っ込んだと見ていく。
* 12. 17 列車	兵庫県城崎郡香住町 山. 12. 18-17	国鉄米子鉄道管理局によると、県北部に降った大雪で山陰本線は豊岡以西でダイヤが大幅に乱れた。激しい吹雪のため、特急列車が同線香住駅で1時間40分立ち往生、鳥取駅に2時間半遅れて到着したのをはじめ、同線の乱れは午前中続いた。
* 12. 17 ガス中毒	広島県広島市西区 庚午南 新. 12. 20-19	県北部の大雪のため、国鉄香住駅で特急列車が一時立ち往生するなど3時間5分遅れたのをはじめ、普通列車1本が1時間20分、特急列車1本が43分遅れた。
* 12. 17 交通機関	広島県 中. 12. 18-17	夜、会社の家族寮で、強制吸排気式石油温風ヒーターのゴム製排気管(直径5cm)が壁の付け根で一部外れていたため、一家4人が一酸化炭素中毒にかかり3人が死亡、1人が意識不明の重体。死亡、男性(45才)、男子(15才)、女子(11才)、重体、女性(40才)。
* 12. 17	石川県加賀市	死亡、男性(45才)、男子(15才)、女子(11才)、重体、女性(40才)。
		県北西部の山沿いで雪が降り続き、国鉄可部線に昨年より13日早くラッセル車が出動した。また、雪の影響で、同線の上下列車合わせて4本が50分から30分遅れた。一方、路線バスも2経路が運休したほか、芸北町を経由するバスは軒並み約1時間遅れた。
		積もった雪の重みで小型漁船5隻が沈没した。また、県内の

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
沈没, 休校	山. 12. 18-17	小中学校で雪のため臨時休校するところもあった。
* 1985. 12. 17	福井県坂井郡金津町	融雪用に地下水をくみあげたため、断水する被害があった。
断水, 休校	山. 12. 18-17	また、県内の小中学校で雪のため臨時休校するところもあった。
* 12. 17	北陸自動車道	北陸自動車道は雪のため、福井ー金沢東インター間など2区間で通行止めとなった。
通行止め	山. 12. 18-17	
* 12. 17	国鉄金沢鉄道管理局	大雪のため国鉄北陸線では17時現在、上り線は全面ストップ、特急列車、普通列車合わせて31本が全区間などで運休、福井から大阪、米原方面への列車は上下線とも最高1時間20分遅れた。金沢鉄道管理局は、雪害対策本部を設置、警戒を強めた。
* 12. 17	中部地方、中国地方	日本列島は強い寒気団にすっぽり覆われた。降り続く雪のため、国鉄北陸線では立ち木が倒れて線路をふさぎ、上り線が全面ストップ、東海道・山陽新幹線も3日続きのべた遅れ。石川県の小松空港では全便が欠航するなど被害が続出、気象庁は福井県、富山県などに大雪警報を出して警戒を呼びかけている。
列車	中. 12. 18-19	中国地方でも山陰や中国山地沿いを中心に雪が降り続いた。このため、所により積雪が1mを超し、この雪の影響で山陽新幹線は小郡駅ー新下関間で160km/hの徐行運転を続け、広島駅着の上り列車が20~8分遅れたほか、下り列車も米原付近の積雪のため35分前後の遅れが出て、14万人の足に影響を与えた。一方、空の便も山陰側の出雲、米子、鳥取の三空港で視界不良のため欠航が続出した。
		21時までの各地の積雪は、広島県山県郡芸北町八幡で110cmに達したほか、同県北婆郡高野町新市で90cm、島根県飯石郡赤来町赤名で80cmとなった。このほか夕方までに市内でも1cmの積雪となったほか、山口市でも7cmの積雪を記録し、一時は瀬戸内沿岸部でも激しく雪が降った。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1985.12.18 通知	新潟県総務部 朝. 12. 19-17	県消防防災課は、県内全市町村に対して防災行政無線で、人家、工事現場などの雪崩危険箇所、屋根雪災害について万全の対策をとるよう総務部長名で一斉に通知した。
12.18 除雪会議	佐渡ヶ島 朝. 12. 19-17	61年冬期道路確保(除雪)会議が開かれ、同島内の除雪計画が県相川土木事務所から発表された。島内の両津ー入川線、赤玉ー両津線、城雲台ー乙和池ー相川線、川茂ー畠野線の4路線は、除雪車が使用できなかったり雪崩の危険があるので、全面通行止めにした。
* 12.18 列車	山口県小郡地区 中. 12. 18タ-3	東海道・山陽新幹線は、山口県小郡地区、岐阜県、滋賀県の降雪で速度規制され、このため上下線の各列車が10分から45分遅れた。
* 12.18 規制	宮城県議会 新. 12. 19-18	スパイクタイヤの使用による粉じんの発生を防止するため、同タイヤの使用を規制した全国初の条例が18日、宮城県議会において全会一致で可決、成立した。昭和61年4月1日から施行される。
* 12.19 霜. 列車	広島県三原市 中. 12. 19タ-5	5時50分ごろ、国鉄呉線三原駅ー糸崎駅間で、電車が5回にわたって停電し、途中で停車した。須波駅で点検したところ2両目と6両目のパンタグラフに大量の霜がついており、架線の霜が原因で接触不良になったらしい。このため、同電車が32分遅れたのをはじめ、後続の上下9本の列車が18分から1分遅れ、通勤や通学客5,000人に影響があった。
* 12.19 スリップ	鳥取県東伯郡関金町 関金宿 山. 12. 20-18	未明、国道313号線で乗用車が、信号待ちで止まっていた軽ワゴン車の後方に停車しようとブレーキを踏んだが、路面が凍結していたためスリップし追突、小破させた。双方にけが人はなかった。
* 12.19 スリップ	島根県益田市白上町 山. 12. 20-18	朝、自転車に乗っていた小学男児(11才)が、軽トラックを避けようと左に寄った際、路肩の雪にハンドルをとられて道路中央に転倒、後方からきた軽トラックにはねられ、腰の骨を折るなど2箇月の重傷を折った。益田署によると、軽トラッ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1985.12.19 スキー場 スキー授業	山形県西村山郡 西川町大井沢 朝. 12. 20-23	クはブレーキを踏んだがスリップして突っ込んだらしい。 11時10分ごろ、町立大井沢小・中学校裏でスキー授業中の小学4年生男子(9才)が、ゲレンデ登はん用ロープトウの巻きあげドラムに上半身を巻き込まれ意識不明の重体となった。衣類か何かがからまつて巻き込まれた。
12.20 列車	糸魚川市平岩 新. 12. 21-18	6時10分ごろ、国鉄大糸線平岩駅構内で、普通列車が雪に乗り上げ脱線した。この事故のため同線は、12時半過ぎまで不通となり、12時57分発の普通列車から平常ダイヤに戻った。
12.20 スリップ	西蒲原郡味方村吉江 新. 1. 4-21	11時15分ごろ、少年が運転していた乗用車が、雪でスリップして新潟交通電鉄線路上に転落した。近くで作業中の人が、接近中の電車に緊急事態を知らせたため、電車は現場の50m手前で停車して衝突を免れた。
12.20 スリップ	三条市直江町4 新. 12. 22-18	22時半ごろ、国道8号線でハンドル操作を誤り雪の壁に乗用車が突っ込んだ。
12.20 雪崩	糸魚川市平岩 新. 12. 21-18	国道148号線は平岩一県境間4kmが雪崩の危険があるため、20日以降当分の間19時から7時まで夜間通行止めとなった。迂回路はない。
12.21 踏切	中魚沼郡中里村 新. 12. 22-18	6時半前、国鉄飯山線越後水沢駅—越後田沢駅間の桂踏切で普通列車と乗用車が衝突した。十日町署の調べでは、乗用車がバックで踏切を渡ろうとしたが、15cmほどの圧雪で渡り切れないうちに列車が来た。この事故で列車は先頭車のブレーキ管が折れたが、1時間後自力で脱出した。また、同線の普通列車上下4本が30分から1時間半の遅れとなつたが、けが人はなかった。
12.21 転落	北魚沼郡川口町川口 新. 12. 22-18	10時ごろ、自宅の二階建てトタンぶき屋根の雪下ろし中、誤って足を滑らせ約8m下のブロックべいに転落、左太ももの骨を折る重傷を折った。男性(27才)。
12.21 転落	中魚沼郡津南町 下船渡	午前、1人で自宅屋根の雪下ろし中誤って3.8mの軒下に転落、雨だれ受けの石に頭を打って脳挫傷で死亡した。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
	新. 12. 23-19	女性(67才).
* 1985. 12. 21	北海道札幌市西区 人軒九条西1丁目 中. 12. 21夕-3	7時10分ごろ、国鉄札沼線桑園駅-新琴似駅間の茨戸街道踏切(遮断機付き、無人)で、普通列車と除雪ロータリー車が衝突、列車は前から2両が脱線、除雪車は大破した。乗客、乗務員などにけがはなかった。札幌西署の調べによると、除雪車が踏切わきの溝に脱輪、立ち往生したところへ列車が突っ込んだ。
12. 22 転落	南魚沼郡塩沢町大沢 新. 12. 23-19	15時15分ごろ、自宅の屋根の雪下ろし中、誤って二階屋根から2.5m下の雪の上に転落、腰の骨を折る重傷を折った。女性(56才)。
* 12. 22 スリップ	群馬県利根郡水上町 新. 12. 23-19	1時半ごろ、関越自動車道関越トンネル水上口から約200m入った下り車線で乗用車がスリップし、上り車線側トンネル側壁に衝突、前部を中破した。県警高速隊の調べでは、路面が凍結しており、ハンドルを取られて急ブレーキをかけたためスリップしたらしい。この事故で、上り線が30分、下り線が1時間通行止めになった。また、同トンネルの湯沢口では2km渋滞した。
12. 24 列車	中頸白郡妙高村関山 新. 12. 25-18	3時35分ごろ、国鉄信越線の関山駅-妙高高原駅間で、貨物列車が車輪に雪をはさみ走れなくなった。また、同線の黒姫駅-妙高高原駅間のポイントが凍結で動かなくなった。この影響で特急列車、急行列車、普通列車など合わせて12本に20分から1時間20分の遅れが出た。現場付近は23日夕方から降り続いていた雪と強風のため、吹きだまりができていた。
12. 24 土砂崩れ	佐渡郡羽茂町滝平 新. 12. 26-19	15時半前、林道開設工事現場で、高さ約12m、幅約30mにわたって約1,300m ³ の土砂が崩れ落ち、作業員2人が生き埋めとなった。現場は山側の斜面が急勾配で、約20cmの積雪があったため、水分を含んだ土砂が一気に崩れ落ちたらしい。死亡、男性(40才)、女性(52才)。
* 12. 24	福島県耶麻郡	7時29分ごろ、国鉄磐越西線猪苗代駅構内で、快速列車がホ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
列車 1985.12.25	猪苗代町 毎. 12. 25-18	ームを150m行き過ぎ、安全側線に入り1両目が脱線、停止した。仙台鉄道管理局などの調べでは、原因は事故当時地吹雪で約25cmの積雪があり、ブレーキがきかなかったらしい。乗客125人にはけがはなかった。
スリップ	刈羽郡小国町二本柳 新. 12. 26-19	17時半前、国道を歩いていた老人がトラックにはねられ、2時間後に脳挫傷で死亡した。道路端の歩行者に気づき、ブレーキをかけたがスリップしたらしい。男性(61才)。
* 12.26 ガス中毒	兵庫県神戸市 東灘区田中町 新. 12. 28-18	21時20分ごろ、三洋電気の欠陥石油ファンヒーター(CFH-S 22F)が原因とみられる一酸化炭素中毒事故があり、子どもが死亡、両親が重体となった。同機種による中毒事故は20日にも大阪府交野市であり、三洋電気は新聞広告などで点検、補修を呼びかけていた。死亡、男児(7才)、重体、男性(34才)、女性(31才)。
* 12.26 ガス中毒	熊本県熊本市 南反畠町 新. 12. 31-18	夜、締め切った部屋でガストーブをつけ放しにしていたため、酸欠状態となり一酸化炭素中毒で老夫婦が死亡した。ガストーブは酸欠で自然に消え、都市ガスだけが漏れ続いているため、発見がもっと遅れたならば爆発する危険もあった。男性(77才)、女性(73才)。
* 12.26 規則	宮城県公安委員会 朝. 12. 27-22	県公安委員会は、4月から11月の無積雪期間にスパイクタイヤの使用を禁止する公安委員会規則を改正した。この改正でスパイクタイヤ使用禁止が初めて法的に打ち出されたことになり、雪国でのスパイクタイヤ問題への対応に影響を与えそうだ。同規則に違反した場合の反則金は3,000~5,000円。
* 12.27 路面凍結	群馬県利根郡新治村 新. 12. 29-18	18時半ごろ、国道17号線で二重衝突事故があり4人が重軽傷を負った。路面は雪が凍っていたが、乗用車はタイヤチェーンなど着けていなかった。男性(21才)運転車はひざの骨を折って約1箇月のけが、同乗者2人が顔や足に2週間から3日のけがをした。
* 12.29	福岡県田川郡	夜、練炭式掘りこたつで、一酸化炭素中毒とみられる事故に

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
ガス中毒 * 1985. 12. 29	添田町津野 新. 12. 31-18	より1人が死亡, 1人が意識不明の重体となった. 死亡, 男性(82才), 重体, 女性(73才).
スリップ	北海道枝幸郡枝幸町 目梨泊 中. 12. 30-15	15時35分ごろ, 国道238号線カーブで, 乗用車とトラックが衝突した. この事故で, 乗用車に乗っていた男性(62才)と女性(58才, 27才), 女児(5才)の全員が, 全身を強く打って死亡, トラックに乗っていた親子3人が重軽傷を負った.
		枝幸署の調べによると, 事故当時, 現場は雪が降り, 路面がシャーベット状で滑りやすかったが, 視界は良かった。乗用車がカーブで横滑りして急にセンターラインを越えたため, トラックが乗用車の横面に食い込む型で衝突した。乗用車がハンドル操作を誤り, スリップしたとみている。
* 12. 30 落雪	山形県山形市上宝沢 新. 12. 31-19	4時半ごろ, 蔵王スキー場目玉沼付近の山林で, 冬山訓練中の高校山岳部員の造った雪洞が崩れ, 部員2人が雪に埋まり1人が死亡, 1人が軽い凍傷を負った。雪洞は高さ約12mの木の下にあり, 前日の暖かさで緩んだ雪が落下して雪洞を埋めたらしい。寝袋にくるまっていたため脱出が遅れたとみられる。死亡, 男子(16才), 凍傷, 男子(16才).
* 12. 30 雪崩	長野県 朝. 1. 1-22	1時ごろ, 北アルプス前穂高岳(3,090m)奥又白谷中島新道上部尾根付近で幅約20mにわたって雪崩が起き, テントに寝ていた6人が巻き込まれ, 約300m流された。3人は自力で脱出したが, 1人は窒息死, 1人は肺出血や内臓破裂などで重体, 1人が行方不明となった。(1日朝遺体で収容された)。死亡, 男性(54才), 女性(27才), 重体, 男性(27才).
1986. 1. 1 用水路	小千谷市薄生 毎. 1. 5-21	5時ごろ, 自宅から約300m離れた表沢川(幅2.5m, 水深5cm, 高さ1.4m)の橋を渡る途中, 誤って転落, 首の骨を折って死亡した。男性(68才).
1. 1 凍死	西頸城郡能生町 大平寺	町内の親類宅数軒に年始のあいさつに出かけ, 酒を飲んだ自宅近くまで戻った男性(65才)が, 泥酔して水田に寝込んで

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 2 スリップ	新. 1. 5-22 長岡市川崎町 新. 1. 4-23	<p>凍死した。</p> <p>22時半ごろ、国道17号線東バイパスで、ライトバンが雪のためスリップし、ハンドル操作を誤り、道路左側の案内標識柱に激突した。この事故で助手席の女性(49才)は胸を強く打って死亡、男性運転者(54才)と同乗男性(20才)が頭などを打って1～2週間のけがを負った。</p>
* 1. 2 雪崩	青森県中津軽郡 岩木町 新. 1. 4-23	<p>11時半ごろ、岩木山(1,625m)の9合目の鳳鳴ヒュッテの約100m下の通称種蒔苗代付近で、幅約50m、長さ約100m、深さ約50cmの表層雪崩が発生、登山者5人のうち4人が巻き込まれ、3日13時過ぎまでに雪崩発生地点の約50m下の斜面で全員遺体となって収容された。男性(25才、26才、32才、45才)現場一帯は積雪約2mで、昨年末に降り積もって固まった雪の上に1日午後から降り続いた雪が約50cm積もり、新雪部分が表層雪崩を起こしたらしい。</p>
* 1. 2 スリップ	鳥取県、島根県、 兵庫県 日. 1. 3-18	<p>山陰地方は強い寒気団に覆われ、日中になっても気温が上がりらず、最高気温が豊岡市1.7℃、鳥取市1.9℃、米子市1.8℃、松江市2.2℃と平年を6℃前後下回る寒い1日となった。このため各地で本格的な雪が降り、スリップ事故が相次ぎ、12時までに24件のスリップ事故があり4人が軽いけがをした。</p> <p>また、この雪の影響で、鳥取空港の午前中の東京、大阪行き各1便が欠航したほか、米子空港でも午前中の東京便が40分遅れた。</p>
* 1. 3 凍死 1. 4 路面陥没	福島県双葉郡富岡町 新. 1. 5-23 小浜 西蒲原郡岩室村間瀬 新. 1. 6-19	<p>14時ごろ、小浜海岸の岩場で、散歩中の老人が足を滑べらせあごを打って気絶、そのまま凍死した。男性(69才)。</p> <p>20時過ぎ、有料道路越後七浦シーサイドラインで、路面が幅8m、深さ2mにわたって陥没、同ラインは23時から間瀬一巻町五ヶ浜間が前面通行止めになった。現場はポッカリと大きな穴ができ、雪融け水が大量にたまっており、早朝からの30cmの降雪も重なって、復旧のめどは立っていない。</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 1. 4 スキーヤー	山形県米沢市 新. 1. 5-23	8時10分ごろ、天元台スキー場で、スキー合宿中の中学生がスキーの練習中、リフトの鉄柱に衝突して首の骨を折り即死した。男子(15才)。
* 1. 4 スリップ	山梨県東八代郡 御坂町二之宮 新. 1. 5-23	11時ごろ、中央自動車道下り線で、乗用車が路肩に停車中の乗用車に追突した。この事故で、車を停車してチェーンを取りつけていた男性(36才)がはねられ即死、手伝っていた同乗男性2人が腰の骨を折るなど1箇月のけがをした。県警高速隊の調べでは、路面の雪がシャーベット状に積もり始めており、チェーンをつけるため乗用車が停止しようと左に急ハンドルを切りスリップ、ブレーキを踏んだがそのまま突っ込んで追突した。
1. 5 地吹雪	中頸城郡頸城村手宮 毎. 1. 6-21	13時半ごろ、北陸自動車道上り線で、地吹雪のため視界がきかなくなって停車した乗用車に2台が追突した。
1. 5 地吹雪	中頸城郡頸城村 島田新田 毎. 1. 6-21	14時半ごろ、北陸自動車道上り線で、地吹雪のため視界がきかなくなって停車した乗用車に4台の玉突き事故が発生した。このため同上り線は上越インターから柿崎インターまで17.8km区間を通行止めにした。
1. 5 警報	新潟地方気象台 新. 1. 6-19	新潟地方気象台は15時50分、佐渡を除く全県に今冬2度目の大雪警報を出した。同気象台によると、日本海北部の上空5,000m付近に-45℃以下の強い寒気があって東南東に進んでいる。このため5日から6日朝にかけて海岸部、平野部で大雪となり、その後山沿いに移っていく。
1. 5 列車	南魚沼郡大和町浦佐 新. 1. 6-19	18時41分ごろ、国鉄上越新幹線浦佐駅構内の上り本線で、ポイント故障が発生。列車2本に18~51分の遅れが出た。新潟鉄道管理局の調べでは、当時同駅付近は、1時間に7~8cmの降雪があったことから、ポイントの線路部分が雪で凍結、基本レールに密着せず電流が流れなくなったためではないかとみている。
1. 6	北魚沼郡堀之内町	3時50分ごろ、町道を除雪中の大型ロータリー除雪車が、道

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
除雪車 1986. 1. 6	新. 1. 7-18 刈羽郡西山町別山	路に倒れて死亡し雪に埋まっていた男の人を巻き込んだ。小出署の調べでは、男の人は両足切断などロータリー車に巻き込まれた衝撃でバラバラの状態であったが、解剖の結果、ロータリー車に巻き込まれる前に病死あるいは凍死していた。
踏切 1. 6	新. 1. 7-18 西ヶ原郡青梅町市振	7時半過ぎ、国鉄越後線内越踏切で乗用車が雪のためスリップして脱輪したところへ普通列車が衝突した。この事故で列車は現場に18分停車した。けが人はなかった。
吹雪 1. 6	新. 1. 7-19 柏崎市上田尻	9時過ぎ、国道8号線で道路わきの吹きだまりに突っ込んだ乗用車に後方から来た乗用車が衝突した。この事故で乗用車を引き出すために、吹きだまりに突っ込んだ車と前に止まっていた車の間で、脱出作業をしていた男性(69才)が両車間にはさまれ、頭がい骨骨折などで死亡した。事故当時、現場は吹雪で視界が30mほどしかなく、圧雪で滑りやすい状態だった。
踏切 1. 6	新. 1. 7-18 南魚沼郡大和町浦佐	11時前、国鉄信越線第3田尻踏切で、ライトバンがスリップして脱輪したところへ貨物列車が衝突した。貨物列車は現場に44分停車、後続の急行列車に20分の遅れが出た。けが人はなかった。
転落 1. 6	新. 1. 8-19 南蒲原郡中之島村	11時ごろ、自宅のトタン屋根の雪下ろし中、誤って約4m下の側溝に転落、コンクリート角に頭を強く打って死亡。約20m流された。男性(22才)。
除雪中 1. 6	新. 1. 8-19 三条市保内鎌田	18時過ぎ、刈谷田川左岸雪捨て場で、大型ダンプカーの荷台を上げ、その上でスコップで雪を落としていたところ、雪と一緒にすべり落ち、荷台後部(あおり)と雪に挟まれ、胸の骨などを折って死亡した。男性(27才)。
踏切 1. 6	新. 1. 8-18	20時ごろ、国鉄信越線の下保内第2踏切で、乗用車が雪でスリップし立ち往生しているところへ貨物列車が通過、乗用車は後部をひっかけられ大破したが、運転者は無事であった。なお、列車は右前部のステップを破損した程度で、機関士は

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 6 注意報	新潟地方気象台 新. 1. 7-19	事故に気づかず運転を続けていた。 強い寒気に覆われた県内は、断続的に雪が降り続き、国鉄では上越新幹線が一時ストップしたほか運休、遅れが続出した。空、海の便も欠航が相次ぎ、北陸自動車道も一時ストップし、県民の足は大幅にマヒした。しかし、新潟地方気象台では、寒気は峠を越したとして、佐渡を除く全県に出されていた大雪警報を、夕方、大雪注意報に切り替えた。
1. 6 用水路	新津市田島 毎. 1. 22-17	11時半ごろ、自宅前の除雪をしていた老人が誤って用水路に転落、雪の重みで動けなくなっているところ、通りかかった小学生6名が発見、近くに住む老人の協力を得て救助した。
* 1. 6 列車 交通機関	広島県、島根県、 山口県 中. 1. 6 ター 1	中国地方は山陰側と中国山地の山間部を中心に、断続的に雪が降り続き、この雪で中国・山陽自動車道は下り線の広島ジャンクション(広島県広島市安佐北区)と六日市インター(島根県鹿足郡六日市町)間、上り線の六日市インターと戸河内インター(広島県山県郡戸河内町)間が通行止めとなったのをはじめ、各地でチェーン規制を実施した。広島市内の道路も路面が凍結し、ノロノロ運転が続いた。また、山陽新幹線は山口県下の雪のため朝から徐行運転した。このため午前中の上下26本の列車が軒並30分前後遅れ、乗客25,000人の足に影響が出た。
1. 7 火災	三条市北中 新. 1. 9-18	19時ごろ、住宅の薪風呂の火が近くにあった薪入れ箱に燃え移り、風呂場のビニール製波板の戸1枚を燃やした。当時、同市内は雪のため交通渋滞がひどく、消防車が現場へ到着するのに時間がかかったが、家人が消し止め大事に至らなかった。
1. 7 火災	三条市塙野目 新. 1. 9-18	19時半前、住宅の風呂釜の煙突の継ぎ目が雪の重みではずれ天井裏の一部を焦がした。
* 1. 7 交通機関	西日本、九州地方 山. 1. 7-17	日本列島は強い寒気団に覆われ、京都など各地で今冬一番の冷え込みになったほか、日本海側の山形、新潟、石川、福井

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		県と福島県に大雪警報が出された。9年ぶりに19cmの積雪を観測した鹿児島のほか、九州地方各地や西日本各地で雪が降った。この雪の影響で、東海道・山陽新幹線は始発から、一部区間で徐行運転に入ったため、上下列車75本が10分から35分が遅れ、乗客50,000人に影響した。また、空の便も2往復4便が欠航した。このほか中国自動車道の広島ー山口県境の下り線が一時通行止めになった。
*1986. 1. 7 暖房機	三洋電気株式会社 朝. 1. 8-23	三洋電気(株)の井植薰社長は、欠陥石油ファンヒーターによる死亡事故の責任をとり、辞任する意向を明らかにした。東京三洋電気製造の石油ファンヒーター(CFH-S221 F)空気孔の設計ミスによる不完全燃焼で、これまでに18件の一酸化炭素中毒事故が発生、4人が死亡した。
1. 8 落雪	三島郡越路町塚野山 新. 1. 9-19	13時半ごろ、自宅裏の流雪溝付近で除雪作業をしていた老人が、鳥小屋の屋根から約16m ³ の雪が滑り落ち、下敷きになった。付近の人が約20分後に掘り出ましたが、即に窒息死していた。男性(83才)。
1. 9 列車	東蒲原郡鹿瀬町 日出谷 新. 1. 10-23	10時ごろ、国鉄磐越西線日出谷駅ー山都駅間のポイントが雪で切り替えられなくなり、普通列車5本に10分～2時間半の後れが出た。
1. 9 列車	北魚沼郡守門村 新. 1. 10-23	12時20分ごろ、国鉄只見線越後須原駅構内で、列車が雪を抱き込み運転不能となった。このため、同線の普通列車2本が運休となった。
1. 9 列車	長岡市滝谷 新. 1. 10-23	16時15分ごろ、国鉄上越線越後滝谷駅構内で、普通列車が雪を抱き込み、運転不能となった。復旧作業が17時半までかかかったため、通勤通学のラッシュアワーと重なり、上、信越線は運転再開後も無ダイヤ状態が続き、軒並み約5時間遅れた。
1. 9 倒壊	三条市田島2 新. 1. 11-21	23時半ごろ、木造平屋建て約20m ² の空き倉庫が、屋根の雪の重みで倒壊した。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 9 警報	新潟地方気象台 新. 1. 10-23	冬型の気圧配置が続いている県内は、上越、中越、下越の一部で雪が降り続き局地的に大雪となった。このため新潟地方気象台は16時10分、上、中、下越に大雪・波浪警報、佐渡に波浪警報を出した。同気象台によると、能登半島から上越の海岸、中越の平野部から山沿い、会津地方にかけて雷を伴った強い雪雲が停滞しているため、ところによって大雪となった。
1. 9 列車	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 10-23	新潟鉄道管理局管内の国鉄が大雪のため混乱、上越線が一時ストップするなどして、通勤通学客の足に影響が出た。
1. 9 欠航	新潟県 新. 1. 10-23	佐渡汽船は新潟一両津間のジェットフォイル2往復、新潟一赤泊間1往復と小木一直江津便が欠航、また、新潟空港も千歳一新潟間が1便欠航した。一方、岩船汽船の岩船一栗島間1往復が欠航した。
* 1. 9 交通機関	島根県 山. 1. 10-14	朝から断続的に雪が降り、各地でスリップ事故が多発したほか、一部の交通機関に影響が出た。県警が8日19時から9日15時までにまとめた雪によるスリップ事故件数は計67件。うち、人身事故が5件発生し、計12人が軽いけがを負った。一方、県内の交通機関は、本土と隠岐を結ぶフェリー4便が全便欠航したほか、仁多郡仁多町と大原郡大東町内を走る路線バスの2路線6便が運休、浜田市や益田市内で路線バスが1時間近く遅れを出し、通勤、通学客の足に影響が出た。また、出雲空港を出発する東京、大阪行きの午前の便がそれぞれ40分遅れて飛び立った。
* 1. 9 欠航	島根県 日. 1. 10-16	西部地区を中心に新しく5~20cmの積雪があった。このため米子空港で午前中の東京、大阪行き各1便がそれぞれ欠航した。
1. 10 倒壊	小千谷市片貝町3 新. 1. 11-21	0時半ごろ、木造平屋建て車庫1棟約90m ² が、積雪1.5mの屋根の雪の重みで全壊、中のトラック2台が大破した。
1. 10	北魚沼郡川口町	7時過ぎ、関越自動車上り線で、大型トラックがスリップし

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
スリップ	新. 1. 11-21	て中央分離帯に衝突するなど、北陸自動車道中之島・見附一関越自動車道小出間で雪のためスリップ事故が相次ぎ、11時までに合わせて7件11台の事故が発生した。このため、同区間の上り線52.4kmが正午過ぎまで約1時間半にわたって閉鎖された。
		一方、北陸自動車道の柿崎一柏崎間下り線も、スリップした大型トレーラーが道路をふさいだため、2時間にわたって閉鎖された。また、一般道路でも16時までに県内で合わせて32件のスリップ事故が発生、1人が重傷、8人が軽傷を負った。
1986. 1. 10	柄尾市天下島	7時半過ぎ、木造平屋建て工場約495m ² のうち、80m ² が積雪
倒壊	新. 1. 11-20	のため倒壊した。同工場は8日に雪下ろしをしたが、倒壊したところだけ雪下ろしをしておらず、屋根に約1.2mの雪が積もっていた。
1. 10	長岡市	10時半ごろ、北陸自動車道上り線長岡北バス停付近で、ライ
スリップ	朝. 1. 11-21	トバン同士がスリップして追突、運転者1人が首に軽いけがをした。
1. 10	新潟地方気象台	新潟地方気象台は、11時30分に下越地方の大雪警報を解除した。
警報	新. 1. 10-1	しかし、上、中越地方の大雪警報は依然、継続発令されている。
1. 10	長岡市村松町	1時半ごろ、自宅二階屋根で雪下ろし中、誤って4.7m下の雪
転落	新. 1. 11-21	の上に転落し、心臓マヒで死亡した。男性(60才)。
1. 10	柏崎市	12時ごろ、北陸自動車道下り線で、大型車2台がスリップし
スリップ	朝. 1. 11-21	て中央分離帯の雪壁に突っ込み、同線は柿崎インター～柏崎インター間が約2時間通行止めとなった。
1. 10	刈羽郡小国町	12時過ぎ、自宅作業小屋の裏で除雪作業をしていたところ、
落雪	上谷内新田	高さ3.5mの小屋の屋根から、約21m ³ の雪が落下し、男性(75才)が下敷となって窒息死した。
1. 10	加茂市上町	15時ごろ、木造平屋建て賃貸駐車場(115m ² , 6台収容)の車
倒壊	新. 1. 11-21	庫が、積雪1.5mの重みで屋根の中央部がV字型に壊れ、乗

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 10 対策本部	新潟県 新. 1. 10-1	用車2台が大破した。 夕方までに中、下越地方の10市町村で豪雪対策本部が設置された。市町村は次のとおり。三条市、北魚沼郡入広瀬村、同守門村、古志郡山古志村、三島郡越路町、刈羽郡小国町、中頸城郡柿崎町、南蒲原郡下田村、栃尾市、小千谷市
1. 10 交通規制	中魚郡中里村 每. 1. 11-16	十日町署は、18時から南魚沼郡塩沢町上野と中魚沼郡中里村小出間の国道353号線約15kmを、雪崩の危険があるため、当分の間通行止めにした。迂回路は国道253号線。
1. 10 雪崩	小千谷市上片貝 新. 1. 11-21	9時前、国道117号線わきの斜面で、幅8m、長さ15mにわたって表層雪崩が発生。約80m ³ の雪が国道に滑り落ち、通行中の乗用車が埋まった。運転者は自力で脱出し無事であった。同国道は1時間半にわたって全面通行止めになった。
1. 10 降雪	中越地方 新. 1. 11-21	9日早朝から降り出した雪は10日も終日降り続き、各地で記録破りの降雪となった。長岡市では前日からの24時間の降雪が105cmで、56豪雪に次ぐ戦後2番目の記録となり、10日夕方の積雪も187cmに達した。小千谷市でも24時間で111cmの観測史上最高の降雪で街並みが埋まった。この予想をはるかに上回る降雪で、各地の消雪パイプもオーバロードとなり、車の立ち往生が続出したほか、高速道路もスリップ事故が相次いで一時閉鎖された。国鉄も新幹線を除く各線で列車が立ち往生、長岡駅では立ち往生の列車の乗客1,000人が列車内や駅周辺の旅館で眠れぬ一夜を明かす事態となった。
1. 10 休校	新潟県 毎. 1. 11-16	県教育委員会によると、雪の影響で、県内の公立学校のうち中越地方を中心に高校8、中学校2、小学校4の計14校が臨時休校となったほか、小・中・高校合わせて111校が20~30分始業時間を延ばしたり、午後の授業を打ち切った。
1. 10 交通機関 路面圧雪	長岡市 毎. 1. 11-16	交通網が大幅に乱れ、新幹線を除く国鉄は終日マヒ。長岡を中心の中越地方を路線とする越後交通バスも見附-栃尾間が運休となったほか、各線路とも1~2時間の遅れを出し、大

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 10 雪崩	長岡市濁沢 毎. 1. 11-16	幅に乱れた。市内の道路は圧雪のため、チェーンをつけた車もスリップするなど、あちこちで立ち往生する車が続出、1.5km進むのに1時間近くかかるなどの混乱が続いた。
1. 10 降雪	北魚沼郡入広瀬村 山. 1. 12-16	市立太田小学校の通学路2箇所に表層雪崩が発生、他の通学路も危険と判断したため、同校は休校した。降雪がこのまま続けば11日も休校の可能性が強い。
* 1. 10 スリップ	鳥取県 日. 1. 11-10	新潟地方気象台の観測によると、10日朝までの1日の降雪量は、入広瀬村で174cmを記録した。これは昭和35年12月30日の130cmを超える、同村では戦後最高。
1. 11 列車	上越市 朝. 1. 12-17	寒気団の影響で厳しい冷え込みになり、山間部を中心に雪に見舞われ、このため県内全域でスリップ事故が相次いだ。県警のまとめによると、10時現在、この寒波により23件のスリップ事故があり、3人が軽いけがをした。なかでも西部地区で、今年に入ってからのスリップ事故が17件と、昨年の6件を大幅に上回っている。事故のうち10件は日野郡日野町坂井原の国道181号線四十曲峠で起こっている。
1. 11 雪崩	長岡市妙見町 朝. 1. 12-17	4時ごろ、国鉄信越線春日山駅構内で、急行列車が雪を抱き込み運転不能となった。同列車は予定より12時間遅れて発車した。
1. 11 対策本部 救助条例	新潟県 新. 1. 12-1	8時40分ごろ、国道17号線で作業員17人が、道路わきの山の斜面の除雪作業中、斜面の高さ約10mのところから約3m ³ の雪が崩れ落ち、3人の作業員が崩れた雪と一緒に道路上まで流されたがけがはなかった。
		県は12時、県豪雪対策本部(本部長・金子副知事)を設置し、市町村に対し雪害対策について万全を期すよう指示した。同本部の設置は3年連続で昨冬より14日遅い。また、県は小千谷市、刈羽郡小国町、中頸城郡頸城村に災害救助条例を適用した。一方、新たに12市町村が豪雪対策本部を設置し、設置市町村は合計22市町村となった。新たに設置

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 11 注意報	新潟地方気象第 新. 1. 12-1	した市町村は次の通り、上越市、十日町市、中頸城郡大潟町 同吉川町、同頸城村、同三和村、同清里村、東頸城郡大島村 西頸城郡名立町、同能生町、刈羽郡高柳町、三島郡三島町。 新潟地方気象台は、海岸、平野部の大雪は峠を越したため、 16時10分、上、中越に出ていた大雪警報を2日ぶりに大雪注意報に切り替えた。
1. 11 除雪機	燕市燕 新. 1. 13-19	6時半ごろ、国道289号線の歩道で、小型ロータリー式除雪機で除雪中、作業員が右足を巻き込まれ、ひざ下から切断、 3箇月の重傷を負った。調べによると、作業員は積もった雪の上にあがっていたが、足を滑らせて歩道に落ち、除雪機に巻き込まれた。男性(39才)。
1. 11 列車	小千谷市 毎. 1. 13-17	23時5分ごろ、国鉄上越線小千谷駅構内で普通列車が雪に乗り上げて脱線した。
1. 11 休校	新潟県教育委員会 新. 1. 12-18	大雪のため上、中越地方を中心に臨時休校、始業時間の繰り下げをする学校が相次ぎ、高校15校が休校、6校が始業時間を繰り下げたほか、16校が早退させた。小中学校でも休校34校、始業時間繰り下げ11校、早退15校に上った。
1. 11 降雪	上越市高田 新. 1. 12-1	上越市では、10日9時から11日9時までの24時間の降雪量が観測史上第3位の140cmとなった。
1. 11 路面圧雪	西頸城郡能生町鬼無 新. 1. 12-1	国道8号線は、西頸城郡名立町から糸魚川市にかけて圧雪にぬかって走行不能となる車が相次いだ。鬼無では大型トレーラーがスリップ、この排除などのため能生町能生小泊一糸魚川市中宿間約18kmが約5時間全面通行止めになったのをはじめ、20箇所でトラブルが発生。同国道は完全にマヒした。
1. 11 列車	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 12-1	県内の新幹線を除く国鉄各線は、降り積もる雪に除雪作業が追いつかずダイヤは大幅に乱れた。上越、信越、只見、飯山北陸の5線区で、特急列車31本、急行列車8本、普通列車79本の計118本が運休した。
* 1. 11	鳥取県	鳥取地方気象台は9時50分、県内全域に大雪注意報を発令し

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
スリップ 1.12	日. 1. 12-16 長岡市	た。日本海を南下した雪雲の影響で、鳥取市は終日雪に見舞われた。このため、各地でスリップ事故が相次ぎ、八頭郡郡家町内で県道を歩いていた主婦が、スリップした乗用車にはねられ、頭に2週間のけがをするなど、10時までに県内で23件のスリップ事故があった。また、鳥取空港で3便、米子空港で2便が雪のため欠航した。
列車 1.12	毎. 1. 13-17	4時35分ごろ、国鉄上越線越後滝谷一小千谷間で、除雪中のラッセル車が吹きだまりに突っ込んで運転不能となった。この復旧作業に手間どり、長岡一越後湯沢間が上下線とも不通、また、信越線も長岡一柏崎間が9時半ごろ不通となった。このため、上越線浦佐駅で特急列車2本の乗客が、6～7時間にわたって車内にカン詰めになったが、上越新幹線で長岡へ輸送した。
転落 1.12	長岡市宮内5 新. 1. 13-19	9時45分ごろ、住宅の屋根で雪下ろし作業中の男性(21才)が、誤って6m下の雪の上に転落、腰の骨を折って3箇月の重傷を負った。
除雪機 1.12	小千谷市上ノ山 新. 1. 13-19	16時半過ぎ、自宅前道路を小型除雪機で除雪中、ロータリー部に付着した雪を取り除こうとして、誤って回転中のロータリーのハネに接触し、左手中指を切断した。男性(48才)。
倒壊 1.12	刈羽郡小国町千谷沢 毎. 1. 14-16	16時40分ごろ、木造平屋建て車庫1棟約90m ² が、屋根の積雪1.5mの重みで倒壊、乗用車8台がつぶれた。
* 新幹線 1.12	滋賀県、岐阜県 毎. 1. 13-19	11日夜から12日朝にかけて両県内に降った雪の影響で、東海道・山陽新幹線は、新大阪一名古屋間の一部区間で、上下線とも始発から13時過ぎまで徐行運転した。このため、上下62本が10分から21分遅れ、約40,000人が影響を受けた。
* スリップ 1.12	鳥取県西伯郡大山町 上方 日. 1. 13-16	1時半ごろ、国道9号線で軽ライトバンと大型トラックが衝突。この事故で軽ライトバンの運転者が、全身を強く打ち病院に収容されたが、内臓破裂などで死亡した。男性(53才)米子署の調べによると、事故当時路面には3～4cmの雪があ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 1. 12 火災	鳥取県岩美郡国府町 高岡 日. 1. 14-14	<p>り、軽ライトバンが雪にハンドルを取られ、対向車線にはみ出したのが原因とみられている。</p> <p>21時半ごろ、住宅の一階6畳間付近から出火、木造トタンぶき二階建ての母屋約225m²と隣接の納屋鉄筋二階建て約90m²をそれぞれ全焼した。鳥取県の調べによると、東部消防局のポンプ車7台が出動したが、道が狭いうえ約50cmの積雪があるなどで、現場の5km近く手前から消防車が近づけず、消防署員が現場にかけつけた時には、ほぼ消えていた。消失した住宅は隣家から約1km離れた一軒家であった。出火の原因はストーブの火が干してあった洗濯物に燃え移ったのではないかとみている。</p>
1. 13 踏切	西蒲原郡吉田町 新. 1. 14-18	<p>8時半過ぎ、国鉄越後線栗生津駅構内の通称半右エ門踏切で乗用車と気動車が衝突し、乗用車は気動車の車体下に巻き込まれて約160m引きずられて大破したが、運転者は奇跡的に無事だった。また、気動車もブレーキ管などが壊れ、現場に40分近く立ち往生した。踏切は警報機も遮断機もない第4種踏切で、乗用車が一時停止しようとしたが雪でスリップ、そのまま突っ込んでしまった。</p>
1. 13 除雪車	東頸城郡松之山町湯 新. 1. 14-19 山	<p>11時ごろ、県道を歩行していた老女(73才)が、バックしてきた除雪作業中の大型除雪車にひかれて即死した。</p>
1. 13 ガス爆発	南蒲原郡下田村森町 新. 1. 14-19	<p>12時半ごろ、住宅の台所付近でガス爆発があり、台所の床や天井がめくれたほか、窓ガラスが吹き飛んだ。三条署の調べでは、前日の午前中に屋根の雪下ろしをした雪の重みで、プロパンガス(50kg入り)ボンベと鉄パイプの継目が緩み、漏れたガスが台所の床下に充満し、自家井戸ポンプのモーターの火花が引火して爆発したらしい。爆発当時、家族3人が居間に居たが無事だった。</p>
1. 13 凍死	西蒲原郡黒崎町山田 新. 1. 20-19	<p>夜、帰宅途中の男性(42才)が、吹雪のため道に迷い信濃川左岸河川敷で死亡した。</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 13 路面圧雪	上越市鳥ヶ首 新. 1. 14-18	国道8号線は、11日未明から圧雪で各所に通過車両のスリップ事故が続出、23時から上越市鳥ヶ首一西頸城郡能生町木浦間約15kmが全面通行止めとなっていたが、8時に33時間ぶりに解除された。
1. 13 対策本部	新潟県 毎. 1. 14-16	県豪雪対策本部に入った連絡によると、新たに中魚沼郡川西町、三島郡与板町で雪害対策本部を設置した。県内の雪害対策本部設置は、これで24市町村になった。
1. 13 休校	新潟県教育委員会 毎. 1. 14-16	新潟県教育委員会によると、中学1校、高校1校が雪のため臨時休校した。
* 1. 13 スキー場	北海道虻田郡 俱知安町 中. 1. 14夕-3	21時ごろ、宿泊客がニセコ東山スキー場に出かけたままホテルに戻っていないと、ホテルから俱知安署に届け出があった。同署は14日朝から警察官など42人を動員して捜索しているが見つかっていない。行方不明、男性(30才)。
1. 14 倒壊	見附市新町3 新. 1. 15-19	4時ごろ、鉄骨モルタル造りのドーム型平屋建て倉庫1棟、957m ² の屋根の中央部が、約1mの積雪の重みで陥没する形で倒壊した。見附署の調べでは、倉庫は15年ほど前に建設され、老朽化していた。
1. 14 踏切	柏崎市上田尻 新. 1. 15-19	8時半ごろ、国鉄信越線第3田尻踏切で乗用車が立ち往生したところへ急行列車が衝突、乗用車は大破、列車もブレーキ部分を壊した。この事故の影響で安田駅一茨目駅間で上下線とも不通となったが、10時5分に復旧した。また、同急行列車は安田一長野間を運休、特急列車など6本に20分から1時間半の遅れが出た。柏崎署の調べでは、踏切内に10mの圧雪があり、スノータイヤにチェーンをつけていなかった乗用車がスリップした。当時は吹雪で視界は100mほどだったため、非常ボタンを押したが間に合わなかった。
1. 14 豪雪被害	新潟県 新. 1. 15-19	県豪雪対策本部(本部長・金子副知事)は、今回の豪雪被害の概要を庁議に報告した。それによると、人の被害は死者8人、重傷12人、軽傷11人の計31人。死因は雪下ろし中の転落

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 14 列車 1. 14 列車 * 1. 14 吹雪 朝. 1. 16-19 町 * 1. 14 吹雪 当別町 朝. 1. 16-19 * 1. 14 吹雪 朝. 1. 16-19 * 1. 14 列車 山口県宇部市厚東区 瓜生野 中. 1. 14夕-3 1. 15 歩行者 三条市石上 1 新. 1. 17-18	国鉄新潟鉄道管理局 毎. 1. 15-16 北魚沼郡川口町 新. 1. 15-19 北海道宗谷支庁豊富 朝. 1. 16-19 町 北海道石狩支庁 当別町 朝. 1. 16-19 北海道札幌市東区 朝. 1. 16-19 山口県宇部市厚東区 瓜生野 中. 1. 14夕-3 三条市石上 1 新. 1. 17-18	<p>4人、屋根雪の落下で下敷2人、雪崩1人、その他1人。死者8人のうち61才以上が5人で、老人が目立っている。住宅の被害は、床下浸水が5件。</p> <p>雪崩は新井、栃尾、小千谷の3市で3件発生し、死者1人、軽傷3人を出した。</p> <p>県内を襲った記録的大雪で国鉄は上越線8本、信越線3本、飯山線5本の計16本の普通列車が運休した。</p> <p>16時過ぎ、国鉄上越線の越後川口駅構内で、架線に氷が張り着き、下り線が運転不能となった。現場は-2℃の寒さと強い吹雪のため復旧作業に手間どり、開通は20時となった。この影響で普通列車4本が最高4時間半遅れた。</p> <p>14時15分ごろ、空地で近くの老人が凍死していた。8時ごろ吹雪の中を1人で外出した。男性(85才)。</p> <p>15時半ごろ、太美町の町道で吹雪で立ち往生した車から助けを求めて外へ出たところ、心臓発作を起して死亡した。男性(48才)。</p> <p>17時ごろ、吹雪の中を帰宅中の男性(60才)が心不全を起こして町道で死亡していた。</p> <p>6時40分ごろ、東海道・山陽新幹線上り線で、レールに異常があることを示す信号が流れた。小郡保線区で調べたところレールの片方が折れ、幅約1.5cmのすき間があいているのを発見した。同保線区と宇部署は、急激な冷え込みでレールがもろくなつて、ひびが入つたとみているが、金属疲労の可能性もあるため、さらに原因を調べている。この事故のため、同線は現場の前後3km区間で時速30km/hの最徐行運転が続けられ、各列車は軒並み15~20分の遅れが終日続いた。</p> <p>21時ごろ、石上大橋で、同橋の歩道両側2mずつには、約1.2mの積雪があり歩けない状態なため、車道の中央分離帯寄りを歩いていた女性(77才)が、後ろからきたトラックにはねら</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1.15 列車, 吹雪	北海道 朝. 1. 16-19	れ死亡した。三条土木事務所では、16日朝から同橋の歩道除雪を始めた。
北海道 朝. 1. 16-19	北海道は台風並みの低気圧が通過した影響で、全道各地が局地的な猛吹雪に襲われた。このため国鉄の運休が相次ぐなど交通が大混乱したほか、札幌郊外の国道では計450台近くの車が雪に埋まって立ち往生。動けなくなった車から助けを求めて外に出た人や道に迷った人々計4人が、吹雪の中で行き倒れになって死んだ。	
* 1.15 吹雪	北海道空知支庁栗沢 朝. 1. 16-19 町	9時半ごろ、帰宅途中の老人が、吹雪のため道に迷って、自宅近くの田んぼで凍死体で発見された。男性(76才)。
1.15 転落	青森県黒石市内町 中. 1. 16 夕-3	16時15分ごろ、御幸公園で遊んでいた小学生が、除雪されて高さ約2.5mに積み上げられた雪の上に登ったところ、バランスを崩して約1m下の雪の中に頭から転落、窒息死した。男子(11才)。
1.16 転落	小千谷市寺町 新. 1. 17-18	8時半過ぎ、鉄筋二階建て住宅の屋根で、作業員10人が雪庇落としをしていたところ、雪庇が一気に落ちたため、作業員2人が約7m下に雪庇と一緒に転落した。このため男性(67才)1人が腰を打って全治1箇月の重傷。
1.16 踏切	見附市反田町 新. 1. 17-19	18時前、国鉄信越線の反田第2踏切から見附駅寄りへ30m行った線路敷で、普通列車が軽乗用車に衝突、はずみで車は下り線内へ飛ばされた。さらに、車は同列車の通過直後に来た特急列車の前部に巻き込まれ、同踏切から300m見附駅寄りへ引きずられた。この事故で、車は大破、運転者は押しつぶされて死んだ。また、信越線は上下線とも20時20分ごろ開通したが、特急列車3本、急行列車2本、普通列車7本の計12本が2時間15分から30分の遅れとなり、約2,000人が影響を受けた。見附署の調べでは、近くの反田第3踏切から、乗用車が線路敷内を道路と間違えて進入したが、途中で気づきUターンしようとして立ち往生したのが事故の原因とみている。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 17 雪崩	中魚沼郡川西町 中仙田 新. 1. 18-16	事故現場が道路交通法上の踏切でないことから、県警は交通事故としては取り扱わず、新潟鉄道管理局も踏切事故ではなく、車両障害として取り扱うという珍しいケース。 0時半過ぎ、国道252号線の左側の山の斜面で雪崩が起き、近くに止まっていた乗用車が巻き込まれ、ドアとボンネットがへこんだが、運転者は車から離れていて無事であった。雪崩は高さ30m、幅10m、深さ1mで約300m ³ 。この雪崩の復旧作業のため、同国道は約2時間通行止めになった。
1. 17 流雪溝 * 1. 17 遭難	南魚沼郡大和町茗荷 新. 1. 19-19 沢 静岡県駿東郡小山町 須走 中. 1. 19-19	夜、帰宅途中の老人が誤って流雪溝(幅60cm、深さ50cm)に落ちて死亡した。男性(63才)。 富士山五合目付近で、オートバイのツーリング中、霧のため帰り道がわからなくなり遭難して、雪洞や無人の山小屋で3日間過ごしていた男性(21才)が救助された。御殿場署の調べでは、この男性は14日10時半ごろ遭難し、3日ぶり(17日21時ごろ)に無人の山小屋で発見され病院に収容された。両足に凍傷を負う重傷だが元気はよい。
1. 19 落雪	長岡市十日町 新. 1. 20-19	16時15分ごろ、室内装飾会社の構内で消雪パイプの巡回中の男性(60才)が高さ10mのカマボコ型倉庫の屋根の上から崩れ落ちた約4.5m ³ の下敷になって死亡した。
1. 19 停電	長岡市坂之上 1 新. 1. 22-18	夕方、停電事故が発生、近くのマンション住民がエレベーターの中に閉じ込められた。東北電力長岡営業所の調べでは、電柱の開閉器と電線の接続部分を覆う防護ビニールシートが、雪のためにずれて、電線接続部分がショートし発火、停電したものとわかった。20日夜にも同じ電柱のケーブル分岐点付近から再び火花が上る事故が続いた。
1. 20 遊び、列車	上越市春日新田 1 新. 1. 21-19	11時12分ごろ、国鉄信越線直江津駅-黒井駅間で、幼児が貨物列車にはねられ、右腕や両足をヒザ下から切断する大けがをした。列車は現場に約13分停車した。上越北署の調べによると、自宅近くの線路わきで雪原を歩く「しみ渡り」遊びを

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 22 スリップ	西蒲原郡分水町 熊ノ森 新. 1. 23-19	<p>しているうち線路に入り込んだ。女児(2才)。</p> <p>昼前、国道116号線で10トントラックがスリップして、車が横向きとなって脱輪した。この事故処理のため、同国道は1時間半近く通行不能となった。燕署の調べでは、トラックの前方で物損事故があったが、地吹雪で視界が悪く、急ブレーキをかけたため。現場は3～4cmの圧雪が凍結していた。このほか、17時までに同署管内で17件のスリップ事故が発生した。</p>
1. 22 吹雪	上越市薄袋 新. 1. 24-20	<p>15時30分ごろ、市道で道路右側を歩いて下校途中の中学生が乗用車にはねられ、右足首骨折で1箇月の重傷を負った。運転者は、けがをした中学生を病院に運んだまま逃げていた。</p> <p>事故当時は吹雪で視界が悪く歩行者に気づくのがおくれたらしい。男子(14才)。</p>
1. 22 警報	新潟地方気象台 新. 1. 23-19	<p>16時20分、新潟地方気象台は、佐渡を除く県内に今冬4度目の大雪警報を発令、警戒を呼びかけた。同気象台によると、この雪は北海道西海上で-48℃という強い寒気によるもので、23日夕までの24時間で、上・中越地方の山沿いで1mの降雪が予想されている。この寒波はあと1,2日続く見込み。</p>
1. 22 スリップ	中頸城郡柿崎町 新. 1. 23-19	<p>18時前、北陸自動車道柿崎インター入口で、大型トラックがスリップして横転、一時、上り、下り線とも同インターから車が入れなくなった。</p>
1. 22 ガス爆発	中頸城郡柿崎町角取 朝. 1. 24-19	<p>20時25分ごろ、住宅でプロパンガスが爆発、一階居間、台所、床、窓ガラスが壊れ、男性2人(70才、36才)が顔や足などに軽いやけどを負った。家の外壁に取り付けていた配管が雪の重みで壊れ、漏れたガスが床下に充満、居間の掘りごたつの煉炭の火で引火したらしい。</p>
1. 22 スリップ	三条市 新. 1. 23-19	<p>最高気温が正午で-1.2℃と今年に入って3度目の真冬日となった三条市では、17時までに三条署で取り扱った交通事故は、人身事故2件を含むスリップ事故が24件に達した。</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 22	岩船郡荒川町	国道345号線の金屋ー新光寺間が地吹雪のため全面通行止めとなった.
吹雪	新. 1. 23ー19	
1. 22	新潟県教育委員会	吹雪のため下越地方の豊栄市立横井小学校, 岩船郡関谷中学校など4小, 中学校で児童, 生徒が早退した.
吹雪	新. 1. 23ー19	
1. 22	共産党新潟県委員会	共産党新潟県委員会(小林与藏委員長)は, 今冬の異常豪雪下で, 市町村への災害救助法・条例の機敏な適用を県に要請した.
要請	新. 1. 23ー16	10日から13日にかけて, 上, 中越地方を襲った「61豪雪」で, 小千谷市など三市町村が, 県災害救助条例の適用を受けたが, ほかに10市町村が, 災害救助法や同条例の適用水準を超していたことが, 同委員会の調べで明らかになった. 前述の条例や救助法の適用を上回る雪に見舞われながら, 雪下ろしなど行政サービスが受けられなかった10市町村があったが, 豪雪災害は, 風水害に比べゆっくりと進み, 長期化する場合が多く, 法や条例の適用時期が難しく, また, 救助法や条例の基準を行政がよく理解していなかったことを同委員会は指摘した.
1. 22	国鉄新潟鉄道管理局	冬型の気圧配置が強まった県内は, 降雪量は少なかったものの, 強い北西の風が吹き荒れた. このため, 午後から夜にかけて国鉄白新線で, 地吹雪のため駅構内のポイント切り替えができなくなるなどで, 列車5本が20分から1時間遅れたほか, 国鉄越後線と同磐越西線の普通列車3本が運休した. また, 19時から国鉄は信越線長岡駅ー黒姫駅間と上越線宮内駅ー水上駅間を第2次規制した.
吹雪, 規制	新. 1. 23ー19	
1. 23	西頸城郡能生町百川	2時30分ごろ, 国道8号線で除雪作業中のグレーダーを追い越そうとしたタンクローリー車が, 対向してきた大型トレーラーと衝突, 大型トレーラーの運転者が顔面切創, 右腕挫傷などで2箇月の重傷. この事故処理のため同国道は, 6時前まで全面通行止めとなった.
通行止め	新. 1. 24ー20	
1. 23	新潟地方気象台	新潟地方気象台は, 県内に22日から出していた大雪警報をい

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
警報	新. 1. 24-20	ったん大雪注意報に切り替えたが、15時40分、再び今冬5度目の大雪警報を出した。同気象台によると、輪島上空に寒気が入り強い冬型の気圧配置になっているため、雪の降りやすい状態が2～3日続く見込み。
1986. 1. 23 チェーン	新潟県公安委員会 新. 1. 24-21	最近普及し始めたゴム製タイヤチェーンの性能試験を行なった結果、スノータイヤより登はん力、制動力などが優れていることが大筋で分かった。県警では、早ければ2月上旬の県公安委員会で規則改正を行ない、滑り止め装置として認める方針を固めた。
1. 24 踏切	新発田市大栄町 新. 1. 25-20	3時過ぎ、国鉄白新線竹の花踏切で、立ち往生した乗用車に貨物列車が衝突した。この事故で乗用車は中破、列車はブレーキを破損し、現場に約50分停車した。
1. 24 除雪機	柏崎市女谷 新. 1. 25-21	17時過ぎ、自宅裏庭で除雪作業中、誤って除雪機のロータリーに足を巻き込まれて右足を切断、出血多量で1時間後に死亡した。男性(47才)。
1. 24 注意報	新潟地方気象台 新. 1. 25-21	17時、佐渡を除いて県内に出されていた大雪警報を大雪注意報に切り替えた。しかし、依然冬型の気圧配置が続き、雪の多い地方では引き続き雪崩の起きやすい状態が続いている。
1. 24 対策本部	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 25-21	国鉄新潟鉄道管理局では、このところ降り続いた雪のため、14時に雪害対策本部を設置した。
1. 24 条例	新潟県 新. 1. 25-21	県豪雪対策本部(本部長・金子副知事)は、新たに三島郡越路町、北魚沼郡守門村、同入広瀬村、中頸城郡吉川町の四市町村に対し、県災害救助条例の適用を決めた。
* 1. 24 吹雪	青森県東津軽郡 平館村 毎. 1. 25-23	9時25分ごろ、平館灯台から東6kmの平館海峡で、カーフェリーと貨物船が衝突、船長が腰を打って重傷を負ったほか、乗組員1人が軽傷を負った。貨物船は船首部分を、また、カーフェリーは左舷部分を小破したが、双方とも自力で帰港した。事故当時の現場付近は、風速約10m/sの猛吹雪で、視界は100mしかなかった。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 25 列車	北魚沼郡川口町 新. 1. 26-21	国鉄飯山線は、十日町駅6時18分始発の下り普通列車が、越後川口駅～岩沢駅間で雪を抱き込みたち往生した。このため同線は十日町駅～越後川口駅間が、16時半まで全面運休となつた。
1. 25 列車	糸魚川市前川 朝. 1. 26-21	9時40分ごろ、国鉄北陸線前川踏切で、軽トラックが雪のためスリップして立往生、遮断機が下りて取り残された。特急列車が通りかかったが200m手前で停車、軽トラックも遮断機を突き破って脱出したため衝突は避けられた。
1. 25 側溝	南魚沼郡大和町浦佐 新. 1. 26-22	11時半ごろ、住宅付近で友達と遊んでいた幼稚園児が、わきを流れる側溝(幅30cm、水深50cm)に誤って落ち、水を飲んだらしく意識不明の重体。男児(6才)。
1. 25 転落	加茂市岡の町4 新. 1. 26-23	15時前、9人で倉庫の屋根の雪下ろし中、1人が誤って5m下のアスファルトの地面に転落、左肩、骨盤、肋骨などを骨折する重傷を負った。男性(46才)。
1. 25 転落	三島郡与板町与板 新. 1. 27-21	15時半ごろ、一人で自宅の屋根の雪下ろし中、誤って3.2m下の雪の中に転落、首の骨を折って死亡した。男性(51才)。
1. 25 積雪、浸水	十日町市 新. 1. 26-23	激しい雪が降り続いている十日町地方は、17時に市街地の積雪が276cmとなり、一昨年の「59豪雪」時をしのぐ三年連続の豪雪となった。このため流雪溝もフル稼動した結果、下流町内で水があふれて住宅や商店の床下浸水が起った。
1. 25 警報	新潟地方気象台 新. 1. 26-23	依然、冬型の気圧配置の続いている県内は、上越、中越を中心とする降雪が続き、新潟地方気象台は17時、同地方に出されていた大雪注意報を大雪警報に切り替えた。同気象台によると上越、中越を強い雪雲が覆っており、ドカ雪が予想される。
1. 25 除雪車	南魚沼郡六日町 小栗山 新. 1. 26-23	17時ごろ、スキー場駐車場内でスキーヤーが、駐車場を除雪中のバックしてきた大型ショベルカーにはねられ、頭の骨を折るなどして重体。男性(30才)。
1. 25 雪崩	東頸城郡松代町孟地 新. 1. 26-23	17時過ぎ、町道で雪上車が雪崩に巻き込まれ、運転者が道路下30mの雪の中から遺体で発見された。男性(39才)。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 25 排雪	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 26-23	国鉄新潟鉄道管理局は、上越線長岡駅～越後湯沢駅間の排雪作業を行うため、同区間で6本、只見線で2本を運休した。
1. 25 救助条例 対策本部	新潟県 新. 1. 26-23	県は新たに小千谷市、上越市、柏崎市、刈羽郡小国町、同高柳町、中頸城郡頸城村、同柿崎町、同清里村、同三和村、古志郡山古志村、北魚沼郡広神村、中魚沼郡川西町、同津南町東頸城郡浦川原村、同松代町、同松之山町、同大島村、西頸城郡名立町の18市町村に災害救助条例の適用を決めた。同条例の適用市町村は計22自治体となった。 また、県豪雪対策本部に入った連絡によると、新たに柏崎市中魚沼郡津南町、同中里村、南魚沼郡六日町、同塩沢町、同大和町、北魚沼郡川口町、同小出町、同湯之谷村、東頸城郡安塚町、同牧村、中頸城郡板倉町の12市町村が豪雪対策本部を設置した。これまでに豪雪対策本部を設置した市町村は、41自治体となった。
* 1. 25 スリップ	群馬県利根郡水上町 阿能川 毎. 1. 27-21	23時ごろ、関越自動車道の関越トンネル上り線で、群馬県側入口から1.1km付近を走行中の乗用車が、路面が凍結していたため、スリップして側壁に激突した。さらに5分後、その100m後方でも乗用車がスリップ側壁にぶつかり動けなくなった。運転者2人だけはなかったが、この事故で同トンネルは、上下線とも約50分間通行止めになり、上り線に乗用車など6台が一時閉じ込められた。
1. 26 火災	十日町市下組 新. 1. 27-21	0時ごろ、車庫の中で乗用車が燃えているのを、除雪帰りのブルドーザの運転者が発見した。付近の人と消火器などで消そうとしたが消えず、爆発の恐れがあると、ブルドーザーで鉄骨の車庫ごとつぶし、雪をかけて消した。
1. 26 吹雪	上越市三田新田 新. 1. 27-21	3時ごろ、国道18号線で歩行者が乗用車にはねられ、首の骨を折って3箇月の重傷、事故当時は猛吹雪で視界が悪く、歩行者に気づくのが遅れたため。男性(45才)。
1. 26	西頸城郡青海町須沢	10時半ごろ、自宅前の町道を除雪作業中の女性(68才)がバッ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記　事　の　内　容
除雪車	新. 1. 27-21	クしてきた除雪車(タイヤショベル)の前輪に右足をはさまれ、骨折で3箇月の重傷。
1986.1.26	南魚沼郡六日町	午前、国道253号線の小栗山～八箇峠間で、長さ30m、幅8m、深さ1mの雪崩が発生、同国道が一時通行止めになった。
雪崩	新. 1. 29-17	県豪雪対策本部は12時、新たに新井市、糸魚川市、西頸城郡能生町、北魚沼郡小出町の4市町に、県災害救助条例を適用した。これで今回の豪雪による同条例適用市町村は26となっ
1.26	新潟県	た。
救助条例	新. 1. 27-21	13時前、国道17号線で道路を横断中のスキー客が、ライトバンにはねられ頭を強く打って病院に運ばれる途中死亡した。
スリップ	南魚沼郡湯沢町三俣 新. 1. 27-20	運転者が急ブレーキを踏んだがスリップして、逃げるスキー客を追いかけるようにひいてしまった。現場は直線道路だが路面に約3cmの圧雪があった。男性(25才)。
1.26	国鉄新潟鉄道管理局 規制、列車	新. 1. 27-21
規制、列車		国鉄新潟鉄道管理局では、15時に雪害対策本部を設置、上越線の宮内駅～水上駅間、只見線の小出駅～只見駅間で、特急、急行などの中、長距離列車を大幅に間引いて短距離輸送に重点を置く、第4次規制に入った。また、16時までに特急12本、急行4本を含む65本の列車を運休したほか、同夜の夜行特急列車8本も運休となった。一方、国鉄飯山線は、快速列車など5本が運休となり、27日0時から越後川口駅～戸狩駅間が第5次規制に入り、通勤通学列車以外は全面運休となった。
1.26	北魚沼郡川口町中山 スリップ	新. 1. 27-21
吹きだまり		17時半過ぎ、関越自動車道の下り車線、川口トンネル出口付近で乗用車など13台が、雪の吹きだまりに突っ込んだりスリップしたのをきっかけに玉突き衝突した。この事故で1人が右手を折るけがを負ったほか、2人が軽いけがをした。現場は緩やかなカーブで、路面は凍結し、圧雪が12～13cm程度。激しい吹雪で視界はかなり悪かった。
1.26	北魚沼郡小出町 スリップ	新. 1. 27-21
		18時半ごろ、関越自動車道の下り車線、小出トンネル出口付近で、乗用車4台が衝突、女性2人と子ども2人がけがをし

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		て近くの病院に運ばれた。現場は緩やかなカーブで、路面は凍結し、圧雪が12～13cm程度。激しい吹雪で視界はかなり悪かった。この事故で下り線六日町～小千谷インター間が3時間の通行止めとなった。
1986.1.26 落雪	栃尾市栃掘 新. 1. 27-21	20時前、市道わきの松の木から約2m ³ の雪が落下、通りかかった軽乗用車を直撃、フロントガラスを壊した。このため運転者は手首などに1週間のけが、また、同乗者も首、腰など打撲のけがをした。男性(35才)、女性(35才)。
1.26 雪崩	西頸城能生町柵口 新. 1. 28-1	23時過ぎ、権現岳(標高1,108m)で表層雪崩が発生、住家11棟が巻き込まれ、11世帯36人が生き埋めとなった。徹夜の救出作業の結果、23人が救助されたり、自力ではい出して助かったが、13人が遺体でみつかった。助かった人の多くは足の骨を折ったり、打撲傷を負っており、うち9人が近くの病院に入院した。埋まった住家は10戸が全壊、1戸が半壊した。雪崩は幅200m、長さ600m、厚さ5mの規模で、約65万m ³ の雪が集落の山側の半分を一瞬にしてのみ込んだ。地元消防団や新潟県警などから約800人が出動して、救出作業に当ったが、雪が深くて大型機械を現場に入れることができず、救出作業は難航した。
1.26 避難	北魚沼郡守門村大倉 朝. 1. 28-21	住宅の近くの鳥屋ヶ峰(標高600m)で表層雪崩の恐れがあるため、5世帯17人が公民館に避難した。
1.26 避難	北魚沼郡広神村水沢 朝. 1. 28-21 新田	住宅の裏山で表層雪崩の恐れがあるため、2世帯8人が親類宅などに避難した。
* 1.26 列車	国鉄新幹線総局 毎. 1. 27-22	東海道新幹線は、岐阜県の関ケ原付近の雪のため、始発から最終まで、名古屋から新大阪間の一部で徐行運転。このため上下線188本が最高31分から7分遅れ、13万人の足に影響が出た。
1.27 踏切	五泉市佐取 新. 1. 28-18	4時30分前、国鉄磐越西線の咲花踏切でトラックがスリップして脱輪したが、レッカー車で運び出され衝突事故を防止し

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 27	東頸城郡大島村 牛ヶ鼻	た. 9時ごろ、住宅の裏山で雪崩が発生、崩れた約8,700m ³ の雪の一部が、住宅の二階の窓ガラスを破り部屋に流入した。事故当時、家の人は階下に居たため無事だった。
1. 27	東頸城郡松代町池尻 新. 1. 28-19	10時半ごろ、国道253号線で雪崩があり、通行中の乗用車が埋まったが、運転者は窓ガラスを破って自力で脱出して無事だった。
1. 27	南魚沼郡六日町 新. 1. 29-17	午前、国道253号線の小栗山～八箇峠間で、長さ30m、幅7m、深さ1.5mの雪崩が発生。同国道が一時通行止めになった。 また、国道353号線でも小規模の雪崩が頻発している。
1. 27	北魚沼郡川口町 和南津 新. 1. 28-18	13時半ごろ、関越自動車道の上り線で、タンクローリー車が停車中の大型トラックに追突、運転者は胸を強く打ち1時間半後、収容先の病院で死亡した。男性(35才)。 事故当時、現場は吹雪で視界が約150m、路面には5cmほどの圧雪があり、50km/hの規制が実施されていた。前方で大型車など4台がスリップし、雪壁に突っ込むなどして立ち往生していたため、止っていた大型トラックに、タンクローリー車の運転者が気づくのに遅れたためと、県警高速隊ではみている。
1. 27	北魚沼郡広神村 三ツ又 新. 1. 28-19	13時半ごろ、県道三ツ又～小出線で、長さ50mにわたって雪崩が発生、幅員5mの同県道が高さ3mの雪で埋まった。このため、三ツ又部落の17世帯63人が孤立した。
1. 27	北魚沼郡入広瀬村 大柄山 新. 1. 28-19	13時半ごろ、鏡ヶ池付近の国道252号線で雪崩が発生、幅員7.5mの同国道は、長さ60m、高さ3.5mの雪に埋まった。夕方には復旧した。
1. 27	西蒲原郡味方村白根 新. 1. 28-18	20時過ぎ、走行中の乗用車が、凍結した路面でスリップして対向車線に飛び出し、対向してきた乗用車と正面衝突した。この事故で、スリップした乗用車の男性(40才)運転者が、右膝骨折で1箇月の重傷、対向車の男性(36才)運転者と男(33才)同乗者が顔に軽いけがをした。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 27 積雪	長岡市 新. 1. 28-17	長岡市は昨冬に次いで2年連続して雪害対策本部(本部長・日浦晴三郎市長)を設置したが、9時現在、積雪が225cmに達したため県へ災害救助条例の適用を申請した。
1. 27 積雪	小千谷市 新. 1. 28-17	国の災害救助法が適用された小千谷市では、27日9時現在の積雪が市街地で330cm、山間地の塩谷地区で440cmになった。
1. 27 積雪	北魚沼郡広神村 新. 1. 28-17	国の災害救助法が適用となった広神村では、27日14時現在、役場前で積雪380cmとなった。
1. 27 警報	新潟地方気象台 新. 1. 28-18	新潟地方気象台によると、上越、中越、下越の山沿いを中心に降り続いている雪は、28日朝方、一時的に弱まるものの、日中は再び新しい寒気団が入り込むため、はじめ平野部で強い雪が降り出し、その後山沿いに移る見込み。このため、上越、中越、下越地方で大雪警報、強風、波浪、雪崩注意報をそれぞれ継続し、注意を呼びかけている。
1. 27 列車	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 28-18	大雪の影響で県内の国鉄各線で、特急列車、急行列車、普通列車など50本を運休した。
1. 27 休校	新潟県教育委員会 新. 1. 28-18	同委員会に入った連絡では、県内を襲っている大雪で、上越、中越地方の小、中学校を中心に臨時休校が相次いだ。休校となったのは高校が4校、中学校が3校、小学校は13校に達した。また、始業延期、早退は30校だった。
1. 27 その他	新潟県 新. 1. 28-16	県会普通会計決算審査特別委員会で、知事は、柵口の雪崩事故に関連し、県地方防災計画の中で、雪崩危険箇所の指定点検を今後とも十分に実施したいとの方針を明らかにした。また、柏崎刈羽原発の降雪への影響調査を実施しない考えを明らかにした。
1. 27 視察	新潟県 新. 1. 28-17	県会克雪対策特別委員会は、柵口の雪崩事故で委員会を開き29日に現地視察することを決めた。
1. 27 調査団	日本社会党 新. 1. 28-17	社会党県本部(志苦裕委員長)は、柵口の雪崩災害で国会、県会議員で調査団を構成、28日に現地入りする。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 27 視察団	公明党 新. 1. 28-17	公明党県本部(江口金吾本部長)は、同党に県豪雪対策本部と柵口雪崩災害対策本部を設置した。また、同党本部は、28日、多田省吾副委員長ら国会議員の視察団を送り込んだ。
* 1. 27 調査団	災害対策関係省庁 連絡会議 新. 1. 28-17	政府は、柵口の雪崩災害で多数の死傷者が出たことを重視、災害対策関係5省庁の担当官5人を現地に急派する一方、13時から災害対策関係省庁連絡会議(国土庁、警視庁など19省庁)を開き、山崎平八郎国土府長官を団長とする政府調査団11省庁18人を構成して派遣することを決めた。
* 1. 27 視察	自由民主党 新. 1. 28-17	自民党は、柵口の雪崩事故に関して、井上孝党災害対策委員長を団長に地元国会議員らが、29日に現地視察する。
* 1. 27 河川	山形県西置賜郡 小国町栄町 毎. 1. 31-18	21時半以後から行方不明になっていた男性(26才)が、30日10時50分に通称大沢川(幅4m, 水深40cm)の橋の下で水死体で発見された。帰宅途中に雪で滑って橋から5m下の川の中に落ち水死したらしい。
* 1. 27 スリップ	鳥取県東部 山. 2. 4	県東部の海岸部を中心に20~50cmの積雪を記録。このため、国鉄山陰線鳥取駅~倉吉駅間でラッセル車が初出動した。一方、この雪のため、県内で40件のスリップ事故が発生した。
1. 28 スリップ	北魚沼郡川口町中山 新. 1. 29-19	0時過ぎ、関越自動車道下り線で、除雪車にトラックが追突、トラックの運転者が運転席に挟まれ、腹部圧迫のショックで即死した。男性(45才)。県警高速隊の調べでは、雪のためスリップしたトラックが川口トンネル出口付近を除雪中の除雪車の腹部に突っ込んだものとわかった。この事故で同線は4時間半閉鎖された。
1. 28 雪崩	十日町市下条地区 願入 新. 1. 29-19	木造二階建て約250m ² の牛舎が雪崩で全壊して埋まった。中にいた17頭の肉牛のうち8頭が死んだ。また、雪崩が発生した同じ斜面に亀裂が見つかり、近くの1世帯7人が知人宅へ避難した。
1. 28 注意報	新潟地方気象台 毎. 1. 29-20	新潟地方気象台は6時10分、25日夕から継続して出されていだ大雪警報を大雪注意報に切り替えた。

発生年月日 (項 目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記 事 の 内 容
1986. 1. 28 勧告	中魚沼郡中里村 毎. 1. 29-20	13時, 中里村は, 2年前に大雪崩が起きた清津峡温泉地の積雪が4mを超えたため, 同地区の5世帯14人に避難勧告をだした. 同村では, 59豪雪の清津峡温泉雪崩災害と柵口の雪崩災害を教訓に, 早めに避難勧告を出した.
1. 28 勧告	中魚沼郡津南町 毎. 1. 29-20	津南町は, 雪崩の恐れがあるため, 2世帯8人に避難勧告を出した.
1. 28 勧告	北魚沼郡郡湯之谷村 毎. 1. 29-20	湯之谷村は, 雪崩の恐れがあるため, 1世帯1人に避難勧告を出した.
1. 28 勧告	北魚沼郡入広瀬村 毎. 1. 29-20	入広瀬村は, 雪崩の恐れがあるため, 1世帯1人に避難勧告を出した.
1. 28 勧告	北魚沼郡守門村 朝. 1. 29-21	豪雪に見舞われている守門村では, 雪崩の恐れがあるため, 新たに5地区の33世帯に避難勧告が出され, 同村で避難勧告が出されたのは7地区の38世帯157人となった. この日勧告が出されたのは, 大宿地区の9世帯35人をはじめ, 二分, 高倉, 貫木, 渋川地区で, 17時までに13世帯が公民館や親類宅に避難を終えた. しかし, 村役場の勧告に応じない世帯もあり, 説得を続けている. 同村では, 最も積雪の多い高倉地区で28日9時現在, 平年より2m多い432cmを記録している. (30日午後解除された).
1. 28 休校	新潟県教育委員会 新. 1. 29-19	県教委のまとめによると, 雪の影響で県内の公立学校のうち上越, 中越地方の高校6校, 中学校1校, 小学校6校の計13校が臨時休校したほか, 小, 中, 高合わせて23校が始業時間を延ばしたり, 午後の授業を打ち切った.
1. 28 対策会議	北陸農政局 新. 2. 2-16	北陸農政局は, 管内で今冬の大雪による農作物などの被害が出てきているため, 同局に豪雪対策連絡会議を設置した.
1. 28 対策本部	新潟県 毎. 1. 29-20	県豪雪対策本部を県豪雪災害対策本部に変更した. 同本部は県内各地の豪雪による被害状況をまとめ, 県会克雪対策特別委員会に報告した. 被害の概要によると, 27日現在雪崩による被災者を含めた死傷者の内訳は, 死亡26人, 重傷

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 1. 28 列車	国鉄新潟鉄道管理局 毎. 1. 29-20	33人、軽傷18人。建物の被害は住宅全壊8戸、一部損壊3戸 床上浸水2戸、床下浸水9戸となっている。また、豪雪対策本部を設けた市町村は49市町村にのぼり、このうち3市町村が災害救助法を、34市町村が県災害救助条例の適用を受けた。 一方、同本部は今冬の大雪を「61豪雪」と呼ぶことにした。 ダイヤの混乱が続いている国鉄は、除雪作業のため上越線宮内駅～水上駅間で、第4次規制(旅客列車70%減)、信越線長岡駅～黒姫駅間で第3次規制(同40%減)となった。このため、上越線、信越線、只見線、米坂線、飯山線で計47本の列車が運休した。また、白新線ではポイント凍結で、列車が一時運転不能となり、計17本の列車に15分から1時間40分の遅れが出た。
見舞金	自治体 新. 1. 29-1	柵口の雪崩災害に対し、愛知県、三重県、岐阜県、静岡県は知事名で災害見舞金を新潟県に贈った。
転落	刈羽郡小国町横沢 新. 1. 31-22	17時ごろ、住宅周辺の雪をスノーダンプで運搬中の女性(56才)が、誤って高さ3mの雪の山から転落、右股を折る大けがをした。
特別措置	東北電力(株) 新. 1. 30-19	東北電力は、県下の豪雪で家屋倒壊などの被害を受けた世帯に対する特別措置を決め、国に認可申請した。特別措置が適用されるのは、国の災害救助法および県災害救助条例が適用されている17市町村である。
視察	厚生省 新. 1. 30-19	厚生省社会局の藤内実施設課長補佐は、小千谷市および北魚沼郡広神村を訪れ、豪雪状況を視察した。
雪庇	十日町市 新. 1. 30-19	3年連続の豪雪となった十日町市は、市街地の真ん中で雪崩危険箇所の雪庇落としを実施した。雪崩危険箇所は、がけの高さは30mほどで、真下に住宅やアパートなど13軒が建てられている。
融資	小千谷市 新. 1. 31-21	小千谷市は、今年の集中豪雪により生産、販売の減少で資金繰りに困っている市内の中小企業向けに、豪雪対策特別融資

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		を行うことを決め, 30日から受付を始めた。同融資は59年, 60年に続く3年連続。
1986. 1. 31 列車	国鉄新潟鉄道管理局 新. 1. 31-23	国鉄新潟鉄道管理局は, 上越線の線路側雪の排雪作業を行うため, 同線の普通列車5本を計画運休した。
1. 31 チェーン	新潟県公安委員会 新. 2. 1-18	県公安委員会(鈴木正二会長)は, 県内の雪道では滑り止め装置として使用が認められなかったゴム製と樹脂製タイヤチェーンの使用を認めるとの規則改正を行い, 7日から施行することを決めた。
1. 31 要望	日本社会党 新. 2. 1-16	日本社会党県本部(志苦裕本部長)は, 柵口の雪崩災害など今冬の豪雪対策に対する緊急対策の実施を知事に要望した。
1. 31 融資	新潟県労働金庫 新. 1. 31-23	県労働金庫では, 61豪雪被災組合員や中小企業向けに, 激甚災害融資と中小企業従業者災害対策融資を行うことを決めた。
1. 31 非常取扱	信越郵政局 新. 1. 31-23	信越郵政局では, 災害救助法が適用された県内3市町村の郵便局(18局)で, 為替貯金, 簡易保険, 郵便年金の非常取扱いを実施した。
1. 31 特別措置	生命保険各社 新. 1. 31-23	61豪雪で災害救助法が適用された西頸城郡能生町, 小千谷市, 北魚沼郡広神村の3市町村の契約者から申し出があった場合保険料払い込みや保険証券による貸し付について, 特別措置をとることを決めた。
1. 31 緊急情報	南魚沼郡六日町 新. 2. 1-15	町は, 豪雪緊急情報第1号を新聞折り込みで配布, 災害防止, 節水, 屋根の雪下ろしに伴う転落事故防止, プロパンガスボンベの点検, 山間部での雪崩注意など10項目の安全チェックを住民に指示した。
1. 31 雪崩対策	自由民主党 毎. 2. 1-16	自民党の災害対策特別委員会, 国土開発雪寒地委員会の合同会議で, 生能町柵口地区の雪崩防災対策について, 建設省と林野庁は61年度事業で本格的に取り組む方針を明らかにした。
1. 31 見舞金	西頸城郡能生町 毎. 2. 1-16	能生町議会の柵口雪崩災害対策特別委員会は, 今回の雪崩被災者に対する町単独の見舞金を, 死亡1人一律50万円, 負傷同1万円, なお入院費は全快するまで町が全額負担, 全壊家

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 1 視界	村上市山辺里 毎. 2. 2-17	屋1戸につき100万円, 半壊同50万円, 一部損壊同20万円を決めた.
2. 1 スリップ	佐渡郡羽茂町村山 新. 2. 2-18	5時10分ごろ, 国道7号線で自転車に乗っていた男性(49才)は, 後ろからきた大型冷凍車に追突され, 胸などを強く打って間もなく死亡した. 現場は直線道路だが, 事故当時は雪模様で見通しが悪く, 路面はアイスバーン状になっていた.
2. 1 雪崩	十日町市中条 新. 2. 2-19	7時半前, 国道で生コン運搬車が, マイクロバスと正面衝突した. この事故でマイクロバスの運転者が両足骨折の重傷を負ったほか, 同乗者13人のうち1人が右足に, 1人が胸にそれぞれ打撲傷を負った. 男性(43才, 47才), 女性(52才). 国道は雪で幅員4mほどになっており, 前夜からの雪が凍結していたため, すれ違いの際, 生コン運搬車がスリップしてマイクロバスに衝突した.
2. 2 踏切	加茂市青梅町 新. 2. 3-19	16時20分ごろ, 通称新水部落の県道で, 雪庇落としをしていた作業員が, 約5mの高さから落ちてきた4m ³ の雪の塊の直撃を受け, 脳内出血などで18時30分過ぎ病院で死亡した. 男性(60才)作業員は, ワイヤを使って道路山側斜面の雪庇を落としていたが, 取り残しの雪が落下した.
2. 2 スリップ	西蒲原郡巻町竹野町 新. 2. 3-19	5時5分ごろ, 国鉄信越線の通称千刈踏切で, スリップして脱輪していた乗用車に貨物列車が衝突, 乗用車は遮断機と貨物に挟まれ大破した. この事故で, 運転者は車外に脱出していて無事だったが, 貨物列車は現場に1時間20分立ち往生, 旅客列車2本に50分から12分の遅れが出たほか, 貨物列車7本にも影響が出た.
2. 2	新潟県	7時過ぎ, 県道でトラックと軽ライトバンが正面衝突, トラックの男性(34才)運転者が右足骨折などの大けがをした. 現場はカーブの雪道で, トラックがスリップして対向車線に入ったため.
		朝, 県内は強い冷え込みとなった. これは朝方晴れ間が広が

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
低温水道管		<p>ったことによる放射冷却現象のために、津南-12.6℃、津川-12.2℃、長岡-7.9℃、新潟-6.6℃といずれも今冬の最低気温を記録した。このため、新潟市水道局には市民から30件以上の水道管破裂の応急処置の依頼があり、同局員は終日修理作業におわれた。</p>
* 1986. 2. 2 スキー場	山形県西置賜郡小国町小国小坂町 新. 2. 3-19	<p>8時半ごろ、片岩スキー場でスノーモビルが暴走、約300人のスキー客の中に時速30kmで突っ込み、大人3人、中学生2人がはねられ、頭を強く打ったり背中や足などに打撲傷やすり傷を負った。スノーモビルの運転者が振り落とされ、無人で暴走した。</p>
* 2. 2 スキー場	長野県木曽郡 木曽福島町 新. 2. 3-19	<p>10時半ごろ、木曽駒高原スキー場で、リフトのワイヤが外れ、乗っていたスキーヤー28人全員が、約4m下の雪上に転落した。この事故で中学生3人が右腕骨折などの重傷、大人9人が手、足、胸などに軽傷を負った。リフトから降り損なったスキーヤーが慌てて飛び降りたため、振動で上の緊張滑車からワイヤが外れたのではないかとみられている。新潟陸軍局によると、ワイヤのすべてが外れた事故は、これまで報告例がない。</p>
* 2. 2 列車、積雪	青森県 朝. 2. 3-20	<p>豪雪に見舞われている青森市では、1日21時から2日15時までの降雪が37cmにのぼり、積雪は173cmと明治27年に青森地方気象台が観測以来、第3位の積雪を記録した。</p> <p>国鉄青森保線区では、1,300人の作業員を動員して、青森駅構内などの除雪作業をしたが、激しい降雪に除雪が間に合わず線路のポイント操作などに支障が出て列車の運行が出来なくなった。このため、特急列車など34本が運休、特急列車が106分遅れるなど軒並みダイヤが乱れた。青森県内の積雪による国鉄の運休は今冬初めて。</p> <p>青森市では、1月21日以降真冬日が続いており、青森県警のまとめでは、雪下ろし作業中に屋根から落ちたりして4人が</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 3 踏切	上越市寺町 新. 2. 5-18	死亡, 30人がけがをするなど雪による事故が続いている。 21時半ごろ, 国鉄信越線仲町踏切内で, 压雪のため立ち往生した軽乗用車に, 普通列車が衝突, 車は大破したが, 運転者と列車の乗客約40人にけがはなかった。
2. 3 列車	上越市長浜 新. 2. 5-19	21時半ごろ, 国鉄北陸線直江津駅-谷浜駅間で, 貨物列車が雪を抱き込んで運転不能となった。
2. 3 倒壊	中頸城郡柿崎町柿崎 新. 2. 5-19	21時半過ぎ, 鉄骨建て工場の一部が倒壊した。上越北署の調べでは, 全長180mの建物の中央部が40mにわたってつぶれた。屋根の積雪は150cmあり, 雪の重みで倒壊した。人身などの被害はなかったが, 資材の一部など被害を受けた。
2. 3 警報	新潟地方気象台 新. 2. 4-19	新潟地方気象台は, 夕方, 上越, 中越, 下越に今冬7回目の大雪警報を発令, 注意を呼びかけている。同気象台によると輪島上空に-30℃の寒気団があり, 上越, 中越の山沿い地方を中心に大雪の恐れがある。海岸平野部でも終日雪になる見込み。
* 2. 3 スリップ	鳥取県日野郡日野町 中菅 山. 2. 4-不明	朝, 国道180号線で道路左側に車を止めて, チェーンを装着していた男性(48才)運転者が軽ライトバンにはねられ, 左胸の骨を折る1箇月の大けがをした。黒坂署の調べでは, 軽ライトバンは4輪ともスパイクタイヤだったが, 緩い左カーブでブレーキをかけたところ, 約1cmの凍結した压雪のため左側にスリップしたらしい。
2. 4 スリップ	中頸城郡大潟町 蜘蛛池 新. 2. 5-18	0時半過ぎ, 北陸自動車道上り線で, 大型トラックが除雪作業中の標識車に気づき急ブレーキをかけたためスリップ, 標識車に追突, さらに除雪中のグレーダーに玉突き衝突した。この事故のため, 現場付近に停車中の大型トラックに郵便車が追突し, 運転者が右足打撲のけがをした。また, この事故処理で, 県警高速隊では約20分間, 上越インター入り口を閉鎖した。このため約30台の流入車両が足止めされた。
2. 4	見附市田之尻町	7時半ごろ, 自宅前の市道で小学1年生男子(6才)が, バッ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
除雪車		クしてきた除雪車と雪壁(高さ1.7m)に挟まれ、骨盤などを折って3箇月の大けがをした。
1986. 2. 4	南魚沼郡湯沢町	9時ごろ、城平スキー場内の上水道配水設備建物の屋根の雪下ろしをしていた作業員が、張り出した雪庇を踏みはずし、3.5m下に転落、胸や腰の骨を折って重傷。作業員はスノーダンプを使っていた。男性(41才)。
転落	新. 2. 5-19	
2. 4	十日町市八箇	18時15分ごろ、住宅の台所でプロパンガスが爆発、主婦が顔に
ガス爆発	朝. 2. 6-17	軽いやけどをしたほか、ガラス戸などが壊れた。十日町署の調べでは、台所の外に置いたボンベにホースがつながっていないのに気づかず、コックを開けたため、漏れたガスが換気口を通じて床下に充満し、すき間から台所に入り、灯油ストーブの火に引火したらしい。ボンベはコンクリート壁で囲まれているうえ、周囲には屋根から下ろした雪がうずたかく積まれていたため、漏れたガスが床下にしか流れることが出来なかった。
2. 4	北浦原郡豊浦町荒町	22時過ぎ、県道で乗用車が雪の壁に突っ込んだ。
雪壁	新. 2. 6-18	
2. 4	上越市	新潟地方気象台高田測候所の15時の観測で、高田の積雪が
積雪	新. 2. 5-19	294cmに達し、観測史上4番目、戦後では2番目の記録となった。また、3年連続して250cmを越えたのは過去に例のない豪雪記録となった。
2. 4	新潟県	県は15時、新たに中頸城郡大潟町に対し、県災害救助条例の
救助条例	新. 2. 5-19	適用を決め、次の市町村に対し同条例の適用期間を延長した。上越市、柏崎市、東頸城郡浦川原村、中頸城郡柿崎町、同頸城村、同清里村、西頸城郡名立町。同条例の適用は38市町村になった。
2. 4	国鉄新潟鉄道管理局	上越地方を中心に襲った雪は終日降り続き、新潟鉄道管理局
列車	新. 2. 5-19	では除雪が追いつまず、雪を抱き込みたち往生する列車や事故が相次ぎ、北陸、信越線のダイヤが大幅に乱れた。この影

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 4	新潟県教育委員会 休校 新. 2. 5-19	響で、特急列車、急行列車など6本の運転が途中で打ち切られたほか、特急列車22本、急行列車6本、普通列車20本の合計48本が運休した。また、急行列車が長岡で11時間40分遅れたのを最高に、軒並み60分から2時間半以上の大幅な遅れが出た。一方、同局管内の運転規制は18時現在、信越線長岡駅-黒姫駅間、飯山線川口駅-戸狩駅間で第3次規制(旅客20~40%運休)、米坂線坂町駅-萩生駅間、只見線小出駅-只見駅間、北陸線富山駅-直江津駅間でそれぞれ第2次規制(旅客0~20%運休)となった。
2. 4	西頸城郡能生町柵口 通行止め 新. 2. 5-19	柵口で3日から4日にかけて、今冬の最高降雪100cmを記録住宅裏のがけに雪の亀裂が見つかり、雪崩の危険性が出たため、地元消防団員15名が災害後初めて出動、がけに積もった雪を除雪した。また、この異常降雪のため柵口へ通ずる県道は、同町横-西飛山間の約5kmが当分の間通行止めとなった。
* 2. 4	広島県山県郡 転倒 千代田町本池 中. 2. 4-21	9時20分ごろ、国道261号線で老人が大型バスにひかれ、病院に運ばれたが内臓破裂で9時間後に死亡した。可部署の調べでは、老人がバスに乘ろうとして雪に足を滑べらせて転倒、バスの運転手が倒れた老人に気付かずにバスを発車させ、右前輪でひいたらしい。男性(84才)。
2. 5	中頸城郡柿崎町 列車 新. 2. 6-19	7時ごろ、国鉄信越線柿崎駅で、急行列車が雪のため車両故障を起し、運転不能となった。
2. 5	柏崎市茨目 列車 新. 2. 6-19	7時40分ごろ、国鉄信越線茨目駅で、列車が雪を抱き込み、運転不能となった。
2. 5	中頸城郡柿崎町 列車 新. 2. 6-19	8時ごろ、国鉄信越線柿崎駅で、列車が雪を抱き込み、運転不能となった。
2. 5	西頸城郡青海町	12時過ぎ、国鉄北陸線親不知駅構内で、貨物列車用の機関車

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
列車	新. 2. 6-19	が、雪を抱き込んで前輪が脱線した。このため下り線が不通となつたが、復旧作業の結果16時56分に開通した。
1986. 2. 5 流雪溝	中魚沼郡中里村田沢 朝. 2. 7-21	夕方、自宅前の国道117号線わきの流雪溝(深さ1.6m, 幅45cm, 水深10cm)に誤って転落、約12m流され死亡した。男性(55才)。
2. 5 火災	長岡市東新町 新. 2. 7-22	23時ごろ、住宅から出火、木造二階建て住宅約290m ² を全焼隣の住宅の外壁を一部焦した。また、焼けた一階物置付近から老人が焼死体で見つかった。長岡署の調べでは、同住宅では一階居間で豆炭こたつを使っていた。また、同住宅は奥行きが長く、表側を除いては2m以上の雪に囲まれ避難できない状態だった。
2. 5 積雪	西頸城郡能生町 新. 2. 6-19	激しい降雪のため、大雪崩災害のあった同町柵口の積雪は、520cmに達した。
2. 5 救助法	新潟県 新. 2. 6-19	県豪雪災害対策本部(本部長・君知事)は、厚生省と協議した結果、上越市、糸魚川市、新井市、東頸城郡牧村、中頸城郡清里村、同板倉町、西頸城郡名立町の7市町村に災害救助法の適用を決めた。これで適用市町村は西頸城郡能生町、小千谷市、北魚沼郡広神村と合わせて10市町村となった。
2. 5 列車	国鉄新潟鉄道管理局 新. 2. 6-19	新潟鉄道管理局管内では、大雪の影響で特急列車16本、急行列車4本、普通列車10本の合計30本が運休した。また、特急列車が5時間10分遅れたのを最高に、信越線で軒並み30分から4時間の遅れが出た。同局管内の運転規制は、信越線長岡駅—黒姫駅間、飯山線越後川口駅—戸狩駅間、北陸線直江津駅—富山駅間でそれぞれ第3次規制(旅客20～40%運休)、信越線新津駅—長岡駅間、磐越西線新津駅—喜多方駅間、米坂線坂町駅—萩生駅間、只見線小出駅—只見駅間でそれぞれ第2次規制(旅客0～20%運休)となっている。
2. 5 警報	新潟県 新. 2. 6-19	3年連続豪雪で、今冬は戦後最高という記録的豪雪の中で、上越市高田地区では消雪パイプ使用などで地下水位が急激に

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
死傷者 2. 5	新潟県警察本部 新. 2. 6-19	<p>低下, 地盤沈下への影響が深刻な事態になったため, 新潟県は15時, 地下水の揚水量を50%削減する警報を発令した. 同県が定めた地盤沈下緊急時対策の中で, 具体的な取水規制措置が取られたのはこれが初めて.</p> <p>県警察本部外勤課は, 昨年12月から4日までの雪害による死傷者数をまとめた. 期間中の死者数は29人, 負傷者数は97人. 死亡原因別では雪崩によるもの15人, 雪下ろし中の転落によるもの6人, 屋根などからの落下雪によるもの4人, 小型除雪機によるもの1人. 一方, 死亡者の年齢では60才以上が13人, 50代6人, 20代と30代が各3人の順で高齢者に雪が大きな脅威となっている.</p>
休校 2. 5	新潟県教育委員会 毎. 2. 6-20	<p>県教育委員会のまとめによると, 雪の影響で上越地方の高校3校, 小学校3校が臨時休校したほか, 高校5校, 中学校4校, 小学校5校の計14校が授業開始を遅らせたり, 授業を午前中で打ち切った.</p>
積雪 2. 5	上越市高田 朝. 2. 6-17	<p>新潟地方気象台高田測候所の観測では, 15時現在, 高田地区で最深積雪が298cmに達し, 戦後最高記録と並んだ.</p>
違反車 2. 5	新潟県 新. 2. 6-17	<p>除雪作業の障害になる路上駐車をなくそうと, 今年から長時間放置車両追放強化週間(2月3日~2月9日)を設置した.</p> <p>4日夜, 長岡市中心部のパトロールを行い, 違法駐車車両に警告書61枚を取り付けた. また, 長岡署ではこれと並行して駐車違反取り締まりを行い, 31台を摘発, うち7台をレッカ一車で撤去した.</p>
要綱 2. 5	新潟県 新. 2. 6-16	<p>県の企画調整部克雪・地域振興課が取りまとめている「克雪・利雪対策要綱」は, 交通, 通信, 医療, 産業振興など総合雪対策指針として策定を目指すもので, 住民, 市町村との協力体制や県民の意識高揚へ向けた取り組を示し, 4月1日施行予定. その後の状況によっては条例化も検討していくことになっている.</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 2. 5 遊び	宮崎県仙台市中山2 朝. 2. 6. 19	14時半ごろ、菖蒲ため池に張った氷に乗って遊んでいた兄妹園児が、氷が割れて2人とも水の中に落ちた。通りかかった警察官が飛び込んで2人を引き上げたが妹(5才)はまもなく死亡した。池は直径約30m、水深は深いところで約3mあり、この日は厚さ約3cmの氷が張っていた。
* 2. 5 視界	鳥取県岩美郡岩美町 新井 山. 2. 7-18	18時20分ごろ、国道9号線で自転車に乗っていた男性(52才)が、トラックにはねられ、頭など全身を強く打って意識不明の重体。岩美署の調べでは、トラックの運転者が自転車に気づくのが遅れ、急ブレーキをかけたがスリップして追突したとみている。事故当時は雪が降っていて、視界が悪く路面は凍結していた。トラックは4輪ともスノータイヤだった。
2. 6 列車	糸魚川市 朝. 2. 7-21	8時40分ごろ、国鉄大糸線小滝駅—平岩駅間で、普通列車が雪を抱き込み、運転不能となった。この影響で18時現在、上下列車22本のうち9本しか運行できず、13本が運休した。
2. 6 倒壊	中頸城郡大潟町潟町 朝. 2. 7-21	12時半ごろ、スーパー二階の倉庫の屋根が雪の重みで崩壊、一階の店舗を一部押しつぶした。上越北署の調べによると、崩壊したのは、木造一部二階建て店舗兼倉庫延べ475m ² のうち、倉庫と店舗合わせて計212m ² 。同店では今冬1回も雪下ろしをしておらず、屋根の積雪は1.5m前後になっていた。
2. 6 雪崩	西頸城郡能生町柵口 新. 2. 7-23	18時40分ごろ、県道西飛山—能生線で幅約45m、長さ約28m、厚さ3.5mの全層雪崩が発生、約4,000m ³ の雪が長さ40mにわたって厚さ3～4mの雪で、同県道が埋まり通行不能となったが、夜中に通行可能となった。
2. 6 避難勧告	西頸城郡青海町 新. 2. 7-23	10時、青海町豪雪対策本部は、同町宮花町の通称向山(標高254m)の山腹に7本の亀裂があり、雪崩の発生する危険があるため、3世帯4人に避難勧告を出した。
2. 6 避難勧告	西頸城郡能生町柵口 新. 2. 7-23	午後、能生町は警察や消防と協議した結果、最高気温と最低気温の差が大きくなり、降雪量も多いことなどから、雪崩の起きる直前の気象条件と似ていると判断。権現岳寄りの12世

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 6 通行止め	糸魚川市根小屋 朝. 2. 7-21	帶26人に再び避難勧告を出した。 県糸魚川土木事務所は、国道148号線糸魚川市根小屋一長野県境間16kmで小さな雪崩が頻発したことから、21時同国道を通行止めにした。
休校	新潟県教育委員会 新. 2. 7-23	県教育委員会によると、雪のため県内では新井高校が臨時休校したほか、上越、頸城地方の小、中、高校10校が始業時刻延期、授業打ち切りなどの措置をとった。
条例	新潟県 新. 2. 7-23	県は、新たに中頸城郡妙高村に県災害救助条例を適用、さらに17市町村の同条例適用と適用期間延長を決めた。同条例再適用町村は、北魚沼郡守門村、刈羽郡小国町、同高柳町、中頸城郡吉川町、同三和村、東頸城郡松代町、同松之山町、同大島村、三島郡越路町、古志郡山古志村、中魚沼郡津南町。また、同条例適用期間延長市町村は、長岡市、栃尾市、北魚沼郡湯之谷村、東頸城郡安塚町、中頸城郡中郷村、西頸城郡青海町。
2. 6 災害救助法	厚生省 新. 2. 7-23	厚生省は、小千谷市、北魚沼郡広神村、西頸城郡能生町の3市町村の災害救助法の適用期間を2月15日まで延長することを決めた。
対策本部	中頸城郡妙高村 新. 2. 7-23	雪害対策強化のため豪雪対策本部(本部長、水野法隆村長)を設置した。これで県内の豪雪に伴う対策本部設置市町村は50市町村となった。
陳情	新潟県 新. 2. 7-20	県会克雪対策特別委員会(星野伊佐夫委員長)のメンバー13人が、建設、農水、国土など関係6省庁を訪ずれ、国の雪対策を陳情した。要望項目は、1激甚災害の指定、2災害救助法の適用、3雪崩対策事業の促進、4異常豪雪等に伴う特別交付税の増額配分など7つ。
2. 6 申し入れ	共産党県委員会 新. 2. 7-20	共産党県委員会(小林与藏委員長)は、県豪雪災害対策本部(本部長・君知事)に対し、西頸城郡能生町の大雪崩災害対策や災害救助法、災害救助条例などについて、現実に即して

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 2. 6 スリップ	鳥取県日野郡江府町 武庫山. 2. 7-18	機敏な適用を図るよう申し入れた。 未明, 国道181号線でトラックが横転して右側の山に衝突, 運転者が胸の骨を折るなど1箇月の大けが. 溝口署の調べでは, 現場は緩い左カーブで, 路面が凍結していたためスリップしたとみている。
* 2. 6 スリップ	鳥取県 日. 2. 7-18	県内は雪のため15時までに11件のスリップ事故が発生, 1人がけがをした. また, 雪の影響で鳥取空港の大阪便2便, 午後の東京便が欠航したほか, 米子空港の午前の東京便1便が欠航した。
* 2. 6 注意報	鳥取地方気象台 日. 2. 7-18	鳥取地方気象台は, 冬型の気圧配置が強まって東部の海岸部を中心に夕方までに10cm前後の雪が降り, 14時40分に大雪着雪なだれ注意報を発令した. 同気象台では, 今回の雪は湿気が多く, 電線などが切れたり, ビニールハウスなどの倒壊が心配と注意を呼びかけている。
2. 7 倒壊	三条市居島 新. 2. 8-23	8時ごろ, 木造二階建て店舗の屋根が, 雪の重みで抜け, 二階部分約78m ² を壊した。
2. 7 意識調査	西頸城郡能生町柵口 新. 2. 8-23	能生町は, 雪崩被災者に対する2度目の意識調査を実施した。同町の集約によると, 全員が死亡して後継者が地元にいない2世帯を除く5世帯が他地区への移転を希望, 4世帯が同地区に残りたいとの意向が明らかにされた。同町では, 意識調査を基に被災者の住宅問題に対処する方針。
2. 7 救助法	新潟県 新. 2. 8-23	県豪雪対策本部(本部長・君知事)は, 厚生省と協議の結果10時25分から刈羽郡高柳町, 同小国町, 中頸城郡頸城村, 同三和村, 西頸城郡青海町の5町村に, また, 20時から柏崎市東頸城郡浦川原村, 同松代町, 同松之山町, 同大島村, 中頸城郡吉川町の6市町村に災害救助法の適用を決定した。これで適用は21市町村となった。
2. 7 救助条例	新潟県 新. 2. 8-23	県豪雪対策本部(本部長・君知事)は, 北魚沼郡堀之内町, 同川口町に対し新たに県災害救助条例の適用を決定。また, 北

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 7	信越郵政局 非常取扱 新. 2. 8-23	魚沼郡入広瀬村, 同小出町, 中魚沼郡川西町, 同中里村に対する同条例の再適用を決めた。 信越郵政局は, 郵便局での為替貯金, 簡易保険, 郵便年金の非常取扱いを, 雪害で新たに災害救助法が適用された糸魚川市, 新井市, 上越市, 西頸城郡名立町, 中頸城郡板倉町, 同清里村, 東頸城郡牧村の7市町村の郵便局にも拡大した。保険料の払い込み猶予, 貯金の支払いなどで便宜を図る。期間は3月4日まで。
2. 7	新潟県 チェーン 朝. 2. 8-21	県公安委員会(鈴木正二委員長)によって, 一部改正された県道路交通施行細則が, 7日公布, 施行され, ゴム製および樹脂製タイヤチェーンの使用が正式に認められた。
2. 7	新潟県 予算 朝. 2. 8-21	県は異常豪雪で足りなくなった道路除雪費16億9千万円など総額185億余円の専決予算を決めた。
*	福島県大沼郡新鶴村 転落 立石田村前 毎. 2. 9-19	16時ごろ, 男児(6才)が自宅前の雪穴(深さ約1m)の中に誤って転落, 死亡した。会津高田署の調べでは, 男児は14時半ごろから1人で自宅前の田んぼで雪穴を掘って遊んでいるうち頭から雪穴に落ちたらしい。
*	山形県最上郡大蔵村 落雪 清水 中. 2. 8-3	19時ごろ, 最上川にかかる大蔵橋で, 下校途中の中学生男女4人に, アーチ形になった橋の上部から雪の塊が落下, 男子(13才)が左腕の骨を折る3箇月の重傷, 他の3人も頭や腕などに軽傷を負った。新庄署の調べによると, 中学生が同橋(幅5.5m, 長さ165m)に差しかかったが, トラックが来たため, 橋中央の避難場所に入って, トラックをやり過ごしたところ, 突然頭上12mのアーチ上部から長さ3m, 幅1m, 厚さ1m, 重さ約3トンの雪の塊が落下したため。
*	鳥取県 スリップ 日. 2. 8-16	鳥取県地方は, 強い寒気団に覆われ, 各地でこの冬最低気温が観測され, また, 東, 中部を中心に20cm前後の雪に見舞われ, 鳥取空港のダイヤが大幅に乱れたほか, 各地でスリップ事故が相次ぎ, 15時半までに県内全域で27件のスリップ事故

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 8 転落	三条市金子新田 新. 2. 9-23	があったほか、バスダイヤも朝と夕方、1時間半から30分ほど遅れた。
2. 8 踏切	十日町市宇都宮 新. 2. 9-22	9時過ぎ、工場の屋根の雪下ろし中の作業員が、足を滑らせ3.5m下の地面に転落、肺破裂などで約1時間後に死亡した。男性(57才)。三条署の調べでは、作業員4人で雪下ろしを始め、事故当時、雪庇部分を削り落とす作業をしていて、消雪されたコンクリート面に転落した。
2. 8 スリップ	北魚沼郡堀之内町 下倉 朝. 2. 9-17	9時過ぎ、国鉄飯山線の八幡田踏切で、軽トラックと快速列車が衝突、軽トラックは大破、列車は1両目の燃料タンクなどが壊れた。十日町署の調べでは、軽トラックが踏切内で雪のためスリップ、立ち往生したため、運転者と列車の乗客にはけがはなかった。
2. 8	北魚沼郡堀之内町 下倉 朝. 2. 9-17	10時半ごろ、関越自動車道上り線下倉山トンネル内で、ワゴン車がスリップして左側壁に衝突、同車線をふさいで止まった。このため、後続の乗用車が停止したところへ軽ライトバンが追突、はずみで乗用車が追越し車線に飛び出し、同車線を走って来た乗用車と接触、さらにこの後方で、追い越し車線に出ようとしたトラックに別のトラックが追突するなど6台が衝突した。これらの事故の影響で上り線は約1時間通行止めになった。県警高速隊の調べでは、事故現場の路面には、所々に約1cmの圧雪があり凍結していた。
2. 8 流雪溝	北魚沼郡広神村並柳 新. 2. 10-19	10時ごろ、1人で自宅前の流雪溝に入り、スコップで詰まつた雪を流す作業をしていた男性(79才)が、作業中に水の流れの勢いで足をとられて倒れ、そのまま流されて水死した。
2. 8 転落	北蒲原郡豊浦町本田 新. 2. 9-23	15時半ごろ、自宅の屋根の雪下ろし作業中、足を滑らせて約4mの高さから転落、病院に収容されたが、頭を強く打っているほか、脊椎損傷の疑いもあり約1箇月の重傷。男性(61才)。
2. 8	三条市由利	16時ごろ、鉄骨トタンぶき平屋建て自動車修理工場、約96m ²

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
倒壊 1986. 2. 8	新. 2. 9-23 新潟県	が屋根に積もった約80cmの雪の重みで倒壊した。同工場は一昨年から営業を休んでおり、人が人はなかった。
救助条例 2. 8	新. 2. 9-22 糸魚川市	県豪雪対策本部は12時、東蒲原郡津川町に対し県災害救助条例の適用を決めた。現在の適用市町村は19。
予算 * 2. 8	朝. 2. 9-17 鳥取県	臨時市議会が開かれ、6,700万円余りの一般会計補正予算案が可決された。この補正予算はすべて道路などの除雪にかかる費用。
スリップ * 2. 8	日. 2. 9-18	鳥取県地方は、強い寒気団の影響で、最低気温が鳥取市で-4.8℃とこの冬最低となったほか、米子市でも-2.8℃と冷え込んだ。また、鳥取市では夕方までに35cmのドカ雪に見舞われ、積雪がこの冬初めて50cmを越えるなど、東部の海岸部を中心に大雪となった。この雪のため、鳥取空港の午前の東京便、大阪便がそれぞれ欠航したほか、米子空港でも朝の東京便、大阪便各1便が1時間半から30分遅れた。また、道路でのスリップ事故も相次ぎ、12時までに34件のスリップ事故が発生3人が軽いけがをした。
警報 * 2. 8	島根県隠岐郡 山. 2. 9-12	隠岐地方は、この冬一番の大雪に見舞われ、15時現在で西郷町では45cmの積雪を記録した。この雪で、島後の一畑バスは15系統62便がすべて運休。小、中、高校計22校が臨時休校した。西郷測候所は6時20分、同地方に大雪警報を発令、13時20分に大雪波浪注意報に切り替えたが、今後も山間部を中心に雪は降り続くと予報しており、雪害の注意を呼びかけている。漁船が係留されている八尾川では、船が沈没しないよう漁師が除雪に追われていた。
交通事故 2. 9	東蒲原郡三川村取上 新. 2. 10-18	1時半前、国道49号線で乗用車とワゴン車が正面衝突した。この事故で、乗用車の運転者が左足と右ひざを骨折、ワゴン車の運転者が左足骨折、ワゴン車に同乗していた7人が軽傷を負った。
2. 9	南魚沼郡湯沢町神立	9時半ごろ、国道17号線のスノーシェッド内で、乗用車とワ

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
交通事故	新. 2. 10-18	ゴン車が正面衝突した。この事故で、乗用車の3人とワゴン車の4人の合せて7人が首などに2週間から10日間のけがをした。
1986. 2. 9	北蒲原郡中条町	9時半ごろ、自宅の屋根の雪下ろし作業中の男性(35才)が1.5m下の自宅前に転落して倒れているのを発見、近くの病院に運んだが、くも膜下出血で意識不明の重体。
転落	平木田	
毎. 2. 10-19		
2. 9	西頸城郡能生町能生	11時半ごろ、物置小屋が屋根の雪の重みでつぶれ、野菜を取り出すため中に入っていた男性(67才)が下敷になったが、約1時間後、近所の人や消防署員に救出された。男性は左足に軽い打撲傷。小屋のビニール製波板屋根には約1.5mの積雪があった。
倒壊	新. 2. 10-19	
2. 10	小千谷市時水	9時半過ぎ、関越自動車道上り線で、除雪作業中のロータリーカーが故障した。このため、県警高速隊では、故障車を除去するため、同線の小千谷一越後川口間7.9kmを約1時間にわたって閉鎖した。
通行止め	新. 2. 11-22	
2. 10	小千谷市薄生北上殿	16時半ごろ、鉄骨トタンぶき駐車場の屋根が、積もった雪の重みで突然大音響とともに抜け落ち、中に有った乗用車など27台が大破した。同駐車場は幅36m、奥行き13m、高さ15m。小千谷署の調べでは、事故当時、屋根には約3mの積雪があり、空洞状の建物天井の梁が支え切れなかった。
倒壊	新. 2. 11-23	
2. 10	西頸城郡名立町野上	16時半過ぎ、自宅のトタン屋根から落ちた雪を、家庭用除雪機(20馬力)で除雪していた男性(49才)が、後進する際ハンドル操作を誤り、自宅の側壁と除雪機の間に挟まれて死亡した。
除雪機	新. 2. 11-23	
2. 10	新潟市関屋	16時半過ぎ、県道でトレーラーが、新潟交通電車線の電車と接触した。電車には100人ほどの乗客がいたが無事であった。電車はブレーキ管を損傷して走行できなくなった。
スリップ	新. 2. 11-22	
2. 10	長岡市	長岡市議会雪害対策特別委員会(家老俊男委員長)で、今冬の除雪への批判と除雪体制の見直しを迫る意見を出され、市
雪対策	新. 2. 11-19	

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 10 救助法	新潟県 新. 2. 11-23	長は、市民の不満の強い雪対策を再検討する方向を示した。県豪雪対策本部(本部長・君知事)は19時、厚生省と協議の結果、北魚沼郡守門村に災害救助法の適用を決定した。これで県内の同法適用は22市町村となった。
2. 10 陳情	新潟県 新. 2. 11-20	君知事は、上京して建設省、自治省、国土庁に今冬の豪雪に対する除雪費の増額と特別交付税の増額などを陳情、各省からも配慮するとの回答を得た。
2. 10 除雪費	小千谷市 新. 2. 11-19	小千谷市議会臨時議会が開かれ、除雪費用8.465万円を追加する一般会計補正予算が可決された。
2. 10 申し入れ	西頸城郡能生町 新. 2. 11-22	能生町議会柵口雪崩災害特別委員会(大滝優委員長)が開かれ、当面の対策を協議した結果、専門家の意見を聞いたうえ早急に避難勧告を解除し、地域住民の不安を取り除くよう町長に申し入れた。
2. 11 倒壊	小千谷市千谷川 新. 2. 13-18	15時ごろ、トタンぶき平屋建て倉庫198m ² の庇部分約20m ² が雪の重みで落ちた。小千谷署の調べでは、同倉庫は数年前から廃屋になっており、屋根の上には約3mの積雪があった。
2. 12 転落	南蒲原郡中之島村 中之島 新. 2. 14-23	10時ごろ、部落の集会場の屋根の雪下ろしをしていた作業員が、足を滑らせ高さ5mの二階屋根から2m下にある玄関の屋根に転落、さらに3m下の雪のない舗装道路に落ちた。作業員は両足の踵の骨を折って3箇月の重傷。見附署の調べでは、屋根がかわらぶきのため、雪が滑ったもの。男性(51才)。
2. 12 倒壊	北魚沼郡川口町 西川口 新. 2. 14-23	12時過ぎ、木造一部鉄骨トタンぶき平屋建ての倉庫1棟約300m ² が屋根の雪の重みで倒壊した。小千谷署の調べでは、同倉庫の屋根は急勾配の自然落下式だが、豪雪のため雪が滑らず約3mの積雪があった。
2. 12 落雪	中頸城郡妙高村 斑尾高原 新. 2. 14-23	昼ごろから自宅周辺の除雪をしていた男性(38才)が、自然落下式屋根から突然落ちてきた雪(厚さ1m、幅3m、長さ5m)の下敷になり、窒息死した。

発生年月日 (項 目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記 事 の 内 容
1986. 2. 12 踏切	柏崎市小倉町 2 新. 2. 13-18	15時25分ごろ、国鉄越後線第1羽森町踏切で、下校中の小学生が、3両編成のトロ車に巻き込まれ、左足を切断する大けがをした。男子(9才)。柏崎署の調べでは、トロ車は除雪された雪を運搬中で、監視員が通行禁止の合図をしていたが小学生が飛び出した。また、踏切の両側は高さ2m余りの雪の山があり視界が悪かった。
2. 12 避難勧告	西頸城郡能生町 柵口 新. 2. 13-18	能生町柵口雪崩災害対策本部(本部長・伊藤仙太郎町長)は、現地で打ち合せ会を開き、大雪崩災害現場付近の12世帯26人に出されていた避難勧告を17時、5日ぶりに解除した。
2. 13 用水路	糸魚川市大字岩木 新. 2. 15-23	15時ごろ自宅の除雪をしていた男性(61才)が、誤って自宅前の農業用水路に転落、220m流されて水死した。
2. 13 融資	通産省中小企業庁 新. 2. 14-1	通産省中小企業庁は、今冬の豪雪で被害を受けた新潟県内の中小企業者を救済するため、政府系の中小企業金融公庫、国民金融公庫、商工組合中央金庫に対し災害貸付の発動を指示した。今回の措置で被害を受けた中小企業は、一般の融資枠とは別枠の融資が受けられる。中小企業庁によると1月20日現在、工場や店舗の一部損壊など7件に上り、被害額は1,746万円に達している。
2. 13 非常取扱	信越郵政局 新. 2. 14-21	信越郵政局は、郵便局での為替貯金、簡易保険、郵便年金の非常取り扱いを雪害で災害救助法が適用された11市町村にさらに拡大した。対象は柏崎市、刈羽郡高柳町、同小国町、西頸城郡青海町、中頸城郡三和村、同頸城村、同吉川町、東頸城郡浦川原村、同松代町、同松之山町、同大島村。保険料の払い込み猶予、貯金の払い戻しなどで便宜を図る。期間は3月6日まで。
* 2. 13 見直し	国土庁 新. 2. 14-1	国土庁は豪雪地帯の雪害対策や産業振興、生活環境整備の在り方などを定めている豪雪地帯対策基本計画を14年ぶりに見直す方針だ。豪雪地帯を取り巻く環境が変化し、新たな対応が求められているため、近く国土審議会(首相の諮問機関)

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 14 雪崩	北蒲原郡黒川村鼓岡 毎. 2. 16-21	<p>の豪雪地帯対策特別委員会に企画部を設置、見直し作業に入る。</p> <p>18時50分ごろ、国設胎内スキー場で幅20m、長さ20m、厚さ1.5mにわたって約600m³の全層雪崩が発生、下で雪庇の切り崩し作業をしていた9人のうち3人が押し流された。3人も自力で脱出したが、作業員2人が胸や腰などを打って軽いけがをした。男性(45才, 48才)。中条署の調べでは、昼ごろ同スキー場第3リフトの下の雪庇にひび割れが発見されたため、18時ころから雪庇切り崩し作業をしていた。雪崩は標高390mの同リフト頂上付近で発生したが、ゲレンデとは反対側の斜面だった。この日は気温が高く、前日の雨で雪が緩んでいた。</p>
2. 14 視界	新津市吉岡町 朝. 2. 16-17	<p>17時半ごろ、市道交差点で道路を横断しようとした小学生が、乗用車にはねられ右足の骨を折る大けがをした。新津署の調べによると、現場は道路わきに除雪した雪が高さ1.5mほどに積もり、見通しが悪かった。男児(9才)。</p>
2. 14 落雪	上越市大字福田 新. 2. 15-23	<p>20時半ごろ、従業員寮の浴場屋根から落下した5m³の雪が浴場の窓ガラスを押し破り、入浴中の男性(34才)がガラスの破片で両足を切り1箇月の重傷を負った。</p>
2. 14 説明会	新潟県 新. 2. 15-20	<p>県豪雪対策本部は、長岡市で雪崩防止対策説明会を開き、各市町村の防災担当者に雪崩のメカニズムを知るためのパンフレットを配るとともに、被害を未然に防ぐため作成した。雪崩災害防止要領に基づき、監視、通報、避難体制の強化を訴えた。今冬災害対策本部を設けたり、雪崩危険個所を抱えたりしている69市町村の防災担当者や消防本部、警察署、県土木、林業事務所などから約250人が参加、要領パンフレットの説明に聴き入っていた。</p>
2. 14 予算	上越市 新. 2. 15-21	<p>上越市は、昭和61年度一般会計当初予算で、克雪対策費として、過去最高の総額約2億円を計上し、雪処理池、雪処理場、</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 15 雪崩	西頸城郡青海町深谷 新. 2. 16-23	流雪溝の新設、克雪住宅相談専門員、市克雪住宅建設低利建築資金貸付制度などの新規事業を盛り込んだ。
2. 15 倒壊	長岡市大島本町 5 朝. 2. 16-17	11時ごろ、国道8号線の深谷洞門付近で雪崩が発生、約800m ³ の雪が洞門上に崩れ、一部が国道を埋めた。さらに上部に亀裂が確認されたため、同国道は青海町－富山県境間15.1kmが全面通行止めとなった。亀裂は長さ20m、幅約30m、深さ1m。このため雪崩の専門家も現地入りし、現場の状況を確認した結果、洞門内の排雪が完了した後、警戒要員を現場に配置して、20時半に片側交互通行で9時間ぶりに開通した。
2. 15 注意報	新潟地方気象台 新. 2. 16-23	13時半ごろ、木造平屋建て資材倉庫約86m ² が雪の重みで倒壊した。
2. 16 スリップ	新潟地方気象台 新. 2. 16-23	新潟地方気象台は16時半、上越、中越、下越地方に大雪注意報を発令した。同気象台によると、県下は冬型の気圧配置が強まり、中越地方の山沿いを中心に強い雪となり、24時間の降雪は平野部で40～50cm、山沿いで60～80cmに達しそう。
2. 16 吹雪	南魚沼郡塩沢町石打 新. 2. 17-19	1時ごろ、国道17号線でスキーに来た大学生グループの列に乗用車が突っ込み、女子(21才)1人が首や足を打って2週間のけがを負ったほか、同僚の女子4人、男子1人が腰や足の打撲で1週間のけがをした。六日町署の調べでは、路面圧雪のうえ吹雪で視界も悪く、乗用車がスリップ、30人の列の後尾6人に突っ込んだため。
2. 16 視界	上越市寺町 新. 2. 17-19	8時半ごろ、県道上越一安塚一柏崎線で、猛吹雪のため視界が2～3mとなり、乗用車4台が停車した。このため、後方から来た乗用車が前車をよけるため右へハンドルを切ったところへ、後ろから来た高速バスが追突した。このはずみで前方で停車中の4台のほか、対向車線に停車中の2台も玉突き状態で衝突した。さらに、高速バスの後方から走ってきた乗用車5台も次々に衝突した。事故現場は路面が凍結しているうえ視界が吹雪で遮られ、車はスピードを抑え気味だったため

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 2. 16 スリップ	長野県長野市北長池 新. 2. 17-19	<p>大事故には至らなかったが、衝突した13台の乗用車の運転者や同乗者7人が軽い打撲傷を負った。バスの乗客にはけがはなかった。この事故のため、現場は約4時間にわたって全面通行止めとなり、事故処理と除雪作業が行われた。負傷者は男性(19才, 37才, 39才, 52才), 女性(19才, 23才, 42才)。</p> <p>0時10分ごろ、国道18号線でマイクロバスが、スリップしながら対向車線に飛び出してきた大型トレーラーと衝突した。この事故でマイクロバスの運転者が肋骨を折るなど重傷、マイクロバスに乗っていた1人が手と足に骨折する重傷のほか同乗の9人が軽傷、大型トレーラーの運転者も頭部打撲の軽傷を負った。長野中央署の調べによると、大型トレーラーが前車を追い越そうとしたところ、路面が雪でぬれていたためスリップして車体後部が路面左側の信号機に衝突、はずみで車体前部が反対車線に飛び出した。</p>
* 2. 16 冬まつり	北海道常呂郡 留辺蘿町仲町 新. 2. 17-18	<p>11時5分ごろ、国鉄の空き地で開かれた、るべしへ冬まつりの会場内で、馬ソリが暴走、付近にいた見物客が馬ソリにひかれて7人が重軽傷を負った。北見署の調べでは、調教師らが馬にソリを取り付けていたところ、見物客の子どもが騒いだ声に馬が驚いて暴走したらしい。重傷、男性(37才), 女児(4才), 軽傷、大人1人、子ども4人。</p>
* 2. 16 遭難	滋賀県滋賀郡志賀町 北比良 中. 2. 17ター3	<p>23時半過ぎ、フジハゲ山山頂付近で凍死している男性(27才)が発見された。堅田署の調べによると、男性は比良山系の釧廻岳(標高1,061m)に登り、国鉄湖西線北小松駅へ向う途中、疲労と雪のため身動きがとれなくなり凍死したとみられている。現場付近は約150cmの積雪があり、発見当時も風雪が強かった。</p>
2. 17 スリップ	長岡市福田町 新. 2. 18-18	<p>10時半ごろ、関越自動車道上り線で、大型トラックが雪のためスリップ、雪壁に突っ込み上り線をふさいだ。また、後方100mの地点で3台が関係した物損事故が発生したため、県</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		警高速隊では、同線の長岡一小千谷間(15.7km)を閉鎖。午前中いっぱいをかけ、渋滞車両約100台を逆行させ、長岡インターから出した。
1986. 2. 17 記録	上越市高田 新. 2. 18-18	新潟地方気象台高田測候所の観測では、今冬の降雪累計が60豪雪を上回り、59豪雪に次ぐ戦後2番目の1,375cmを記録した。
2. 17 視察	自由民主党 新. 2. 19-17	自由民主党の日本農政刷新同志会(福田一會長)のメンバーが豪雪の南魚沼郡六日町を訪れ、地元選出の桜井新同会幹事長をリーダーに、松田九郎事務局長、加藤卓二幹事が我田塩沢町長らの案内で同町柄塙地区の豪雪状況を視察した。
* 2. 17 除雪車	秋田県秋田市四ツ小屋小阿地 朝. 2. 18-21	16時半ごろ、幼稚園児が、市道を除雪中のブルドーザーにひかれ、病院に収容されたが、頭を強く打っており、約1時間後に死亡した。女児(5才)。
* 2. 17 遭難	群馬県吾妻郡草津町 新. 2. 18-18	12時前、白根山で15日午後、林間コースのスキーツアーに出掛けたまま行方不明になっていた男女3人の凍死体が、長野原署の捜索隊によって発見された。死亡、男性(25才, 26才), 女性(28才)。
* 2. 17 ガス中毒	神奈川県横浜市南区井戸ヶ谷下町 毎. 2. 19-21	8時ごろ、住宅の一階6畳居間で3人が倒れているのが発見された。横浜南署の調べでは、男性(60才)1人と女性(59才)はすでに死亡しており、男性(49才)1人は意識不明の重体。隣の8畳応接間の固定式石油ファンヒーターがONの状態のままであり、部屋は密閉状態だったことなどから、同署はファンヒーターによる一酸化炭素中毒の疑いが強いとみている。
2. 18 列車	五泉市小栗山 朝. 2. 20-19	23時15分ごろ、国鉄磐越西線で貨物列車が雪を抱き込み動けなくなった。救援列車で復旧作業中、最後部の1両が脱線した。この事故の影響で、同線は19日の15時47分まで不通となり、普通列車17本が全部または区間運休となった。新潟鉄道管理局の調べによると、事故当時、現場付近は猛吹雪で、降り積もった雪のため貨物が浮き上がって脱線したらしい。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 2. 18 雪崩	島根県仁多郡横田町 中. 2. 18夕- 3	2時ごろ、国道314号線が雪崩のため不通となった。
* 2. 18 雪崩	島根県仁多郡横田町 八川 中. 2. 18夕- 3	8時50分ごろ、国道314号線で乗用車が路上に崩れていた雪に乗り上げ、近くの民家に救援を求めに行っている間に再び雪崩が起き、乗用車は雪に埋まった。三成署の調べでは、斜面の雪が高さ40m、幅10mにわたって崩れていた。同道路は通行止めとなった。
* 2. 18 スリップ	広島県庄原市上原町 中. 2. 18夕- 3	4時50分ごろ、中国自動車道下り線で大型トラックが雪のためスリップし横向きになって止まったところへ、後続のトラックと大型トラック2台が次々と追突した。この事故で運転者1人が運転席に挟まれ1時間後に救出されたが、胸や足の骨を折り1箇月の重傷を負った。男性(25才)。県警高速隊の調べでは、当路面に5~10cmの雪があり、チェーン装着規制が出ていたが、4台ともチェーンをつけていなかった。
		この事故のため、同線は三次~庄原間が2時間にわたって通行止めになった。
* 2. 18 スリップ	広島県神石郡油木町 中. 2. 18夕- 3	6時45分ごろ、国道182号線で路線バスが大型ダンプカーと正面衝突した。この事故でバスの乗客が顎を切って1週間のけが、バスの運転手も右足に5日間のけがをした。男性(45才)、女性(58才)。福山東署の調べでは、路面に10cmの雪が積もり、バスがカーブでブレーキをかけたためスリップし、対向車線へ飛び出したらしい。
* 2. 18 雪害	広島県 中. 2. 18夕- 1	国道2号線など県内の幹線道路も雪のため軒並み渋滞、因島大橋でも6時から今冬初のチェーン規制をした。また、県内では10時現在、雪による交通事故が41件発生、13人のけが人が出た。一方、広島空港では、滑走路に雪が積もって発着不能となり、午前の東京便6便と鹿児島便2便が欠航した。各地で雪のため、樹木が倒れショート事故などが発生、中国電力の調べでは、広島市西区三滝地区で約1,600戸が、6時半

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 2. 18 列車	広島県, 岡山県 中. 2. 19-17 中. 2. 19-19	<p>から約2時間停電したのをはじめ、同市南区宇品地区でも400戸が停電した。</p> <p>県教育委員会の9時現在のまとめでは、県内の高校13、ろうあ・養護学校5、中学校2、小学校9の合わせて29校が休校した。また、小学校など11校が最高1時間半、始業時間を繰り下げるのをはじめ、20校が午後の授業を打ち切った。一方、この日、県下では市立高校7校が、入学試験の2日目となっていたが、雪のため国鉄呉線沿線の受験生を中心にかなりの遅刻者が出ていたため、試験開始を1時間繰り下げた。</p> <p>広島、岡山両県下を中心にこの冬最高の積雪となった。典型的な春の雪で、里雪だったため、両県を中心に陸、空の便が大きく乱れ、通勤、通学の足が奪われ、高校入試に支障が出たほか、停電も相次いだ。</p> <p>この雪で山陽新幹線は岡山駅ー新下関駅間で始発から110～160km/hの徐行運転をした。また、三原駅ー新岩国駅間などでポイントが凍結、追越用線路が使えなくなり、218本の列車が最高2時間半から30分遅れて終日ダイヤが大きく乱れ、21万人の足に影響した。国鉄山陽本線、呉線でもポイントの転換のできない駅が続出した。また、呉線風早駅ー安浦駅間で、雪のため木や竹が線路をふさいだため、同線は12時45分まで不通となった。このため、上り電車が6時間遅れたのを最高に52本が乱れ、各線で混乱した。雪の影響で広島鉄道管理局管内の在来線利用客約8万人の足が乱れた。</p> <p>山陽方面の雪のため、国鉄米子鉄道管理局管内では、岡山と山陰を結ぶ伯備線、因美線の両線で特急、急行の優等列車を中心に終日ダイヤが乱れた。因美線では急行が3時間10分遅れたのをはじめ、列車は軒並み3時間前後の遅れとなった。また、伯備線では特急列車の1時間を最高に、普通列車とも夜まで遅れが続いた。</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 2. 18 除雪中	長野県長野市篠ノ井 塩崎 毎. 2. 20-19	18時45分ごろ、自宅玄関前の市道に積もった雪をスコップで除雪して、道路反対側の畑へ運んでいた主婦(45才)が、乗用車にひかれ、頭を強く打ってまもなく死亡した。長野南署の調べによると、事故当時かなりの雪が降って、凍った道路が滑りやすくなっていたのに乗用車が安全運転していなかった。
1. 19 吹雪	北蒲原郡水原町堀越 毎. 2. 20-16	1時半ごろ、国道49号線の水原町堀越から同郡安田町寺社にかけての約2kmにわたって猛吹雪となり、視界がまったくきかなくなってしまった。このため、同区間で数台の車が立ち往生、追突などの危険があるため、水原署は同国道を通行止めにした。この通行止めは約8時間続き、9時半までに大型車を中心に約130台が国道で徹夜した。
2. 19 吹雪	北蒲原郡笠神村大日 毎. 2. 20-16 原	国道290号線は猛吹雪のため、1時半から9時半まで全面通行止めの規制が行われた。
2. 19 傷害	柏崎署 新. 2. 20-22	柏崎署は、男性2人を傷害の疑いで逮捕した。同署の調べでは、2人は自宅付近の路上で除雪していた男性(37才)に、除雪のやり方が悪いといって、顔などに頭突きや膝げりの暴行を加え、1週間の傷害を与えた。
2. 19 予算	新井市 新. 2. 20-20	新井市は総額80億8,800万円の新年度一般会計当初予算を発表した。重点の克雪対策には、60年度当初比21.3%増の4億5,500万円を投入、流雪溝建設、流雪緑道整備などを進める。
2. 19 予算	小千谷市 新. 2. 20-2	小千谷市は61年度予算案を発表した。新年度の主要な事業の一つとして、流雪溝、消雪パイプ整備など克雪対策に4億1,000万円が盛り込まれた。
2. 19 パトロール	北魚沼郡 新. 2. 20-19	道路沿いの雪崩事故を防ごうと、県小千谷土木事務所小出分所、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村の職員でチームを組み、雪庇のせり出し具合、積雪状況のチェック等のパトロールを続けている。広神村では国道352号線、同291号線、県道三ツ又一小出線など7路線21個所を点検。同村で

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 19 視察	国土庁 新. 2. 19-18	<p>は既に2箇所で雪崩事故が発生している。同パトロールは週1回で3月末まで続けられる。</p> <p>国土庁は新潟県の今冬の豪雪状況を現地視察する。同庁から白川勝彦政務次官、中沢豪雪地帯振興課長、竹本防災課長、広瀬計画整備局総務課長補佐を派遣し、19日は南魚沼郡湯沢町、20日は十日町市、東頸城郡大島村、新井市、上越市の予定。県側から企画調整部の職員が同行する。</p>
* 2. 19 大雪	福島県 毎. 2. 20-19	<p>福島県内は18日17時から雪が降り始め、19日9時現在、福島市で28cm、いわき市(平)で22cm、また、白河市では15時現在29cmと、それぞれ今冬最高の積雪を記録した。普段あまり雪の降らない浜通り(太平洋岸)にも積もったため、同地方は午前中、街中の交通が渋滞したほか、小、中学校12校が休校した。また、東北自動車道は18日夜から白河一一関間で全線50km/hの速度規制。タイヤチェーンなどの滑り止めがなければ通行出来なくなつた。</p>
*1986. 2. 19 大雪	長野県 毎. 2. 20-19	<p>長野県内は18日夕方から大雪となり、長野地方気象台によると19日9時現在の積雪は、飯田市で35cm、松本市で33cm、長野市で13cm、北佐久郡軽井沢町で28cmを記録した。特に県南部の飯田地方は昭和29年1月以来32年ぶりの積雪となった。県警の調べによると、県内ではこの雪のため、降り始めから19日8時半までに277件スリップ事故が発生、死者1人、負傷者17人となった。スリップ事故は普段雪のない飯田、伊那、諏訪など南信地方に集中した。</p>
* 2. 19 大雪	宮城県 毎. 2. 20-19	<p>宮城県内は18日夜の降り始めから19日15時までの積雪が、仙台市で17cm、石巻市で14cmのほか平野部で20～30cm、山間部で50cm以上を記録した。降雪のピークが朝方だったため、通勤、通学ラッシュと重なり、10時過ぎまで交通が渋滞、路線バスに一部30分から1時間以上の遅れが出た。一方、国鉄仙台鉄道管理局管内では合計30本の普通列車に1時間6分から</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 2. 19 大雪	東京都 中. 2. 19夕ー3	10分の遅れが出た。また、空の便は、仙台空港発着の15便が欠航した。
* 2. 19 列車	東京, 国鉄 新. 2. 20—22	首都圏は18日夜から19日朝にかけ、2年ぶりの大雪に見舞われ、積雪15cmを記録した。この雪のため、首都高速道路の入口封鎖が続出、東京に乗り入れる京葉道路など主要幹線道路も放置された車が通行を妨害、陸の足は麻痺した。
* 2. 19 入学試験	東京, 大学, 高校 中. 2. 19夕ー3	国鉄は、雪の影響を受け線路のポイント故障が相次ぎ、京浜東北、東海道線など14線区で111本の列車が運休したのをはじめ、29線区で始発からダイヤが乱れ、午前中の通勤、通学生ら37万人の足が乱れた。天気が回復した15時ごろまでにはほぼ全線区でダイヤが復旧、夕方の帰宅ラッシュは平常運転となった。首都圏のダイヤの乱れは豪雪となった昭和59年2月以来だが、この時と比べて影響人員が多かった割には主要ターミナルで目立った混乱はなかった。
* 2. 19 転倒	東京消防庁 中. 2. 19夕ー3	都内では、この日私立大学、高校の入学試験日に当り、雪による混乱が予想され、一部の大学、高校で試験の開始時刻を1時間半から30分遅らせる措置を取った。
* 2. 19 欠航	東京, 羽田空港 中. 2. 19夕ー3	東京消防庁のまとめでは、6時から8時までに、雪のため転倒した5人を救急車で病院に収容した。18日の降り始めからこれで150人以上が雪道で滑って転び救急車ではこぼれ、うち28人が手や足を骨折した。一方、雪のためスリップによる事故も18日から続発し、けが人は19日朝までに33人に達した。
		空の便も積雪で滑走路を一時閉鎖した羽田空港では、1番機から欠航便が続出、午前中の日航、全日空、東亜国内の航空3社で計83便が欠航、8,000人が影響を受けるなど空のダイヤは大きく乱れた。運輸省東京空港事務所では、除雪車11台を投入して滑走路や誘導路の除雪に当った。昭和44年以来3番目という20cmの大雪で手間どったが、10時55分に閉鎖を解除した。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 19 列車	東海道, 山陽新幹線 中. 2. 19夕-3	東海道, 山陽新幹線は朝, 新横浜駅構内で雪のためポイントが動かなくなり, 始発の列車が13分遅れて発車したほか, 東京駅ー三島駅間の一部区間で110~160km/hの徐行運転をしており, 上下線とも30分前後の遅れが出た.
2. 20 スリップ	長岡市永田町 新. 2. 21-23	8時ごろ, 国道351号線で乗用車が集団登校中の児童の列に突っ込み, 3人が顔や足に2週間から10日のけをした. 長岡署の調べでは, 乗用車がブレーキをかけたところ, 車が左方向へスリップ, 児童の列へ突っ込んだ. 現場は直線で見通しは良かったが, 路面が凍結していたうえ, 2m近い雪の壁で道路の幅員は5mとなかった. 男児(9, 9, 10才).
2. 20 スリップ	新潟市長潟 新. 2. 21-23	8時前半, 県道で軽乗用車とトラックが正面衝突した. この事故で軽乗用車を運転していた女性(24才)が, 首の骨を折って死亡した. 新潟南署の調べでは, 事故当路面は凍結しており, 軽乗用車がスリップして対向車線に飛び出したため. トラックの運転者も頭に軽いけをした. 男性(47才).
2. 20 踏切	南魚沼郡大和町五箇 新. 2. 21-23	18時20分過ぎ, 国鉄上越線の岩山踏切で, 小学生が貨物列車にはねられ, 20mも飛ばされて死亡した. 六日町署の調べでは, 友人と下校途中で, 上り列車が通過したため, そのまま踏切を渡りはねられた. 同踏切は警報機付きだが, 遮断機は冬季間使われていなかった.
* 2. 20 列車	宮城県岩沼市館下 毎. 2. 21-27	6時45分ごろ, 国鉄東北本線岩沼駅構内の切り替えポイント付近を右側に曲がろうとした回送電車の運転士が滑るような異常音を感じ急ブレーキをかけたが150m走り, 先頭車両と2両目が脱線, 先頭車両は左側の下り線をふさいで停車した. この事故で同線は名取駅ー岩沼駅間が上下線とも不通, 上下特急列車4本, 上下普通列車55本が運休, 数10本の列車に遅れが出た. このため仙台などに向う朝の通勤客など約4万8千人の足が奪われ, 国鉄では30台の代行バスを出して輸送した. 上り線は10時過ぎ, 下り線は夕方復旧した. 岩沼署と

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 21 雪壁, 視界	長岡市学校町2 新. 2. 22-23	仙台鉄道管理局で原因を調べているが、前夜から朝にかけて約20cmの降雪があり、レールの間の雪が凍って右側のレールが長さ40cmにわたって1cm程度膨らんだため脱線したらしい。15時半過ぎ、国道交差点で下校途中の小学生男児(7才)が普通トラックにひかれて即死した。長岡署の調べでは、歩道になっている高さ1.5mの雪道を下りた後、横断歩道を渡ろうとしてひかれたらしい。現場は雪の壁で見通しが悪かった。同市内の歩道は現在も1mから2mの雪の山で、交差点は各所で見通しの悪い状態になっている。
2. 21 避難勧告	新潟県 新. 2. 22-22	16時、県豪雪対策本部は2月6日から西頸城郡青海町宮花町の3世帯4人に出していた避難勧告を解除した。これで県内に出されていた避難勧告はすべて解除された。
* 2. 21 遭難	長野県下高井郡 山ノ内町 毎. 2. 23-22	22時ごろ、中野署にホテル経営者から、志賀高原横手山(標高2,305m)へスキーに出かけた泊り客3人が帰らないと届け出があった。同署は22日未明から地元遭難対策協議会員らとともに地上から捜索した結果、群馬県吾妻郡六合村のガラン沢で新しいスキーの跡を発見、群馬県警へ連絡、同県警委託のヘリが7時過ぎ六合村の山中で3人を発見、救助した。
2. 22 雪崩	上越市茶屋ヶ原 新. 2. 23-22	1時ごろ、国道8号線で長さ20m、幅5mにわたって雪崩が起き、上下線とも通行不能となった。また、崩れ落ちた雪塊に大型トレーラーが乗り上げたが、けが人はいなかった。2時半から片側交互通行となつたが、12時に全面開通した。
2. 22 交通事故	新発田市富塚町 毎. 2. 24-19	23時半ごろ、市道で乗用車が高さ2mの雪壁に乗り上げて反転、そのまま約12m滑走、車の屋根部分を大破した。この事故で助手席に乗っていた少年(18才)が右大たい骨骨折で3箇月の重傷、運転していた少年(18才)も軽い打撲傷を負った。新発田署の調べによると、乗用車が前車を追い越そうとした際、スピードを出しすぎてハンドル操作を誤ったため。
2. 23	西蒲原郡味方村味方	7時半前、村道わきの側溝に男性(53才)が首を突っ込ん

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
側溝	新. 2. 24-19	で死んでいるのが発見された。白根署の調べでは、帰宅途中、水深25cmの側溝に誤ってはまり、でき死したのではないかとみている。
1986. 2. 23	新津市田家	15時半ごろ、神社境内の雪の中に男の人が死んでいるのが発見された。新津署の調べでは、外傷がなく凍死とみている。
凍死	新. 2. 24-19	
2. 23	長岡市上除町	19時19分ごろ、市道で乗用車が倒れていた男性(56才)をひいたが、乗用車のスピードが約10km/hだったためと路上の雪がクッションがわりになり、けがはなかった。長岡署の調べでは、事故当時、雪が強く降っており、視界が悪かったため倒れている男性の発見が遅れた。
視界	朝. 2. 26-20	
2. 23	長岡市中沢1	20時ごろ、県道で自転車を押して道路右側を歩いていた男性(59才)が、乗用車にはねられ左足骨折の2箇月の重傷を負った。長岡署の調べでは、事故当時、雪が強く降っており視界が悪かったうえ、対向車の前照灯に幻惑され、男性を発見するのが遅れた。
視界	新. 2. 25-22	
2. 23	東蒲原郡三川村	20時40分ごろ、国鉄磐越西線東下条駅—五十島駅間の深沢トンネル入口付近で、普通列車が線路上の雪崩のデブリに乗り上げ、先頭車の前輪が脱線し、先頭車の前部がトンネルの壁に接触した。列車には約70人の乗客がいたが、乗客、乗務員にけがはなかった。(24日8時58分に復旧した)。
雪崩	五十島	
	新. 2. 24-19	
*	山形県山形市	13時ごろ、蔵王スキー場の樹氷原コース付近で、スキーヤーが樹氷に衝突、上半身を樹氷の中に突っ込んで抜けなくなつた。スキーパトロール隊が約15分後に助け出ましたが、間もなく死んだ。山形署の調べによると、窒息死とみられている。
スキー場	蔵王温泉	
	朝. 2. 24-23	
2. 24	中魚沼郡川西町	県立川西高校で体育授業として行われたスキーレースの途中
スキー授業	新. 2. 25-23	スタートから約1時間後、生徒が倒れ救急車で病院に運ばれたが、17時過ぎ急性心不全で死亡した。男子(17才)。
2. 24	柏崎市久米	18時ごろ、住宅一階台所から失火、木造二階建て住宅132m ² を全焼、焼け跡から老女(79才)が焼死体で発見された。柏崎
ガス爆発	新. 2. 26-18	

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 2. 24 自殺	山形県山形市 小白川町 毎. 2. 25-27	署の調べでは、台所の外壁近くにプロパンガスのボンベが置いてあったが、その調節器が破損していた。家が雪壁に囲まれていたため、漏れたガスが台所床下に入り込み、充満して爆発したらしい。老女は台所わきの居間から逃げ遅れた。また、火災の前にガス漏れ警報器が作動したが異常には気づかなかったという。
2. 25 スリップ	南魚沼郡湯沢町神立 新. 2. 26-18	7時15分ごろ、10階建て住宅北側入口付近で、中学生がうつ伏せになって倒れているのが発見され、病院に運ばれて手当を受けたが、両足と腰の骨を折って重体。山形署の調べによると、7階通路の高さ1.2mのコンクリート壁を乗り越えて約19.8m下に発作的に飛び降りたらしい。地面には約15cmの雪があり、この雪がクッションとなり助かった。
2. 25 視界	南魚沼郡塩沢町 新. 2. 26-18	4時過ぎ、関越自動車道下り線湯沢インター出口付近で、大型トラックが雪でスリップ、後続の大型トラック7台が次々に玉突き衝突した。この事故で、同道路は約3時間半にわたって通行不能となった。事故当時、現場は約5cmの圧雪で、吹雪いでおり視界が悪かった。
2. 25 スキー場	中頸城郡妙高村樽本 新. 2. 26-19	10時半過ぎ、関越自動車道塩沢インター手前3kmの上り線で除雪車の作業を避けるため止まっていた大型トラックに、後続の乗用車5台が次々に玉突き衝突した。県警高速隊では、11時から塩沢一六日町間の上り線を約1時間閉鎖して事故処理に当った。現場は吹雪いで視界が悪かった。
		14時半ごろ、斑尾高原スキー場第5リフト(長さ535m、支柱10本、1人乗り)の5番目の支柱でロープが滑車からはずれ、乗っていた約40人のスキー客のうち12人が座席から約2.5m下の雪面に転落した。この事故で学生5人が手足や腰などを打って軽いけがをした。事故当時の風速は3~10m/s、現場付近の積雪は2.5mで、前夜から降り積もった約50cmの新雪がクッションになって軽いけがで済んだ。新井署の調べによる

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 25 要望	日本共産党 新. 2. 26-16	と、ロープが滑車から外れたのは乗客が座席を揺らしたのが原因。
2. 26 スリップ	上越市長浜 新. 2. 27-22	共産党県委員(小林与蔵委員長)は、新潟県が策定中の克雪、利雪対策要綱について、要綱ではなく条例の形で総合的な雪害対策の推進を図るよう、大川県企画調整部長に要望した。4時半過ぎ、国道8号線で追い越しをかけた車が圧雪でスリップしたため、対向車や後続車など4台が次々に衝突する事故があり、同国道は約3時間にわたり通行止めになった。この事故で、大型トラックの運転者が運転台に挟まれ、消防工作車で救助されたが、右下たい部骨折の重傷を負ったほか、運転者2人が右手親指骨折や胸の打撲傷を負った。重傷、男性(31才)、軽傷、男性(30才、35才)。
2. 26 落雪	長岡市蓮潟 新. 2. 28-22	上越北署の調べでは、現場は急なカーブで、深夜からの雪で路面は圧雪状態だった。同国道はこの事故のため両方向で約10kmにわたり車が渋滞した。
2. 27 寄贈	新潟市大島 新. 2. 28-22	21時半ごろ、倉庫の屋根雪約72m ³ が7mの高さから落下、プレハブ鉄骨平屋建て工場約127m ² のうち事務室、作業場などを半壊した。けが人はなかった。建物の間隔は約2mだった。
* 2. 27 落石	鳥取県気高郡青谷町 長和瀬 日. 2. 28-18	オートバイや除雪機の販売を手がけている株式会社アルファ(山崎晃社長)は、創立10周年を記念して、県社会福祉協議会へ小型除雪機10台を贈った。同協議会では、上越、中越を中心に町村単位の福祉協議会に贈り、老人世帯などの除雪に役立てたいとしている。
2. 28 スリップ	十日町市八箇 新. 3. 1-22	8時半ごろ、農免農道建設現場で側溝の除雪作業をしていた作業員に、斜面を滑り落ちてきた重さ約2トンの石が当り、病院に運ばれたが、12時10分出血多量で死亡した。男性(71才)。
		6時ごろ、国道でトラックが除雪作業中のロータリー車に追突、トラックの運転者が左足骨折のけがをした。男性(43才)。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 28 スリップ	西蒲原郡巻町角田浜 毎. 3. 1-20	<p>十日町署の調べでは、トラックの運転者がロータリー車に気づくのが遅れたため。</p> <p>6時45分ごろ、シーサイドラインで乗用車が雪でスリップして対向車線に飛び出し、前から来た乗用車と正面衝突した。この事故で女性(51才)運転者が肋骨を折る重傷、男性(48才)運転者が足に軽いけがをした。</p>
2. 28 スリップ	三島郡越路町神谷 新. 3. 1-22	<p>7時5分ごろ、関越自動車道下り線で大型トラックが吹雪のため前を徐行していた大型トラックに追突、追突された運転者が左肩や頭に10日間のけがをした。男性(38才)。また、約10分後、現場から約100m後方で、この事故のため停車中のトラックに大型トラックが追突、はずみで大型トラックはトレーラー2台に次々と追突した。この事故で運転者3人が軽い打撲傷を負った。男性(28才、41才、44才)。県警高速隊の調べでは、現場は圧雪5cm、吹雪で視界は15~16m、路面は凍結しており、雪のためスリップしたとみている。この事故で同線は小千谷一長岡間15.7kmが約2時間にわたって閉鎖された。</p>
2. 28 停電、列車	北蒲原郡加治川村 毎. 3. 1-20	<p>9時50分ごろ、国鉄羽越線金塚駅一加治駅間の信号高圧線に雪の重みでたれ下った線路わきの竹がひっかかってショートした。この影響で、白新線の新発田駅一黒山駅間の信号機が停電、約55分間にわたって同区間が不通となり上下2本の普通電車が40分から50分遅れた。</p>
2. 28 倒壊	南蒲原郡栄町 猪子場新田 新. 3. 1-23	<p>14時5分ごろ、木造平屋建て空き倉庫1棟115.5m²が屋根の雪の重みで倒壊した。三条署の調べでは、トタンぶき屋根には約1.5mの積雪があり、今冬1回も雪下ろしをしていなかった。</p>
2. 28 落雪	五泉市本町5 新. 3. 1-23	<p>17時20分ごろ、県道交差点で信号待ちしていたライトバンに道路わきのガレージの屋根の雪が落下して直撃、ライトバンの屋根部分がつぶれ、中にいた運転者が腰の骨を折るなど2</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 2. 28 記録	上越市高田 新. 3. 1 - 22	<p>箇月の重傷を負った。男性(19才)。五泉署の調べでは、同ガレージはこの冬1回も雪下ろしをせず、約70cmの積雪があり、暖気のため約51m³の雪が一気に滑り落ちた。屋根には雪崩防止用パイプが設置されていたが、それを壊して落下した。現場は市の中心部で、通学路にもなっており時間帯によっては大事故になる恐れもあった。</p> <p>新潟地方気象台高田測候所の観測では、9時現在、今冬の降雪累計が1,457cmに達し、過去最高記録となった。同測候所の観測史上では、昭和20年の1,729cm、同2年の1,532cmに次ぐ3位の記録になる。</p>
* 2. 28 スリップ	広島県北婆郡東城町 帝釈宇山 中. 3. 1 - 3	<p>20時40分ごろ、中国自動車道下り線で、乗用車が中央分離帯の側溝へ脱輪したところへ、大型トラックが追突、後続のトラック2台が次々と玉突き衝突した。さらに後方で事故に気づいた大型トラックが急ブレーキをかけて中央分離帯に接触したり、大型トラックが横滑りしてライトバンに接触するなど、合わせて8台が事故を起した。この事故で運転者1人が首に1週間のけがをした。男性(28才)。</p> <p>また、同時刻前、現場付近の上り線でも乗用車が中央分離帯に衝突する事故を起こしており、同線は三次ー東城間が6時間半にわたって通行止めになった。事故当時、吹雪で路面は凍結していた。</p>
* 2. 28 大雪	広島県 中. 3. 1 - 21	<p>強い冬型の気圧配置に覆われた広島地方は、県北部を中心で激しい雪となり、海岸部でも2~7cmの積雪を記録、朝の通勤、通学の足が大きく乱れたほか、各地でスリップ事故が相次いだ。また、広島空港を発着する空の便も欠航や遅れが相次いだ。県警交通部のまとめでは、積雪や路面凍結で発生した交通事故は90件、負傷者は35人にのぼった。</p> <p>また、県立養護学校と小学校3校、中学校1校の5校が雪のため休校したほか、7校が始業時間を繰り下げたり午後の授</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 2. 28 踏切	鳥取県米子市尾高 日. 3. 1 - 18	<p>業を打ち切った。</p> <p>11時50分ごろ、国鉄伯備線岸本駅—伯耆大山駅間の鹿間第1踏切(警報機付き)で、普通列車と軽ワゴン車が衝突した。この事故でワゴン車の運転者が頭に軽いけがをした。米子署の調べによると、軽ワゴン車が踏切手前で停車しようとしたが、雪でスリップし踏切内に進入してしまった。この事故で同列車は現場に10分間停車したほか、後続の特急列車も25分遅れた。</p>
3. 1 スリップ	小千谷市蘿生甲 新. 3. 2 - 18	<p>6時半ごろ、国道17号線で大型トレーラーが、雪のためスリップして対向車線に飛び出し、除雪作業中のグレーダーと正面衝突、双方の車は前部を大破し、トレーラーの運転者は前部の窓から車外にほうり出され、肋骨骨折で一箇月の大けが。男性(34才)。また、双方の車に後続の大型トラックも追突。この事故で同国道は2時間にわたって上下線とも各1kmの渋滞が続いた。</p>
3. 1 雪崩	栃尾市吹谷 新. 3. 2 - 18	<p>10時半過ぎ、国道290号線わきで長さ17m、幅7m、厚さ1.5mの雪崩があり、約180m³の雪が道路上に落ちた。このため同国道は通行止めとなつたが、12時10分過ぎ開通した。</p>
* 3. 1 吹雪	広島県佐伯郡吉和村 中. 3. 1 - 3	<p>1時15分から中国自動車道は、吉和インター付近で吹雪のため、広島北ジャンクション—鹿野インター間の上下線が、4時間余り通行止めになつた。</p>
* 3. 1 スリップ	広島県広島市佐伯区 五日市町五日市 中. 3. 2 - 23	<p>2時10分ごろ、国道2号線西広島バイパスで、乗用車がスリップしたところへ、後続の大型トラックが衝突、さらに、後続の大型トラックなどが次々に玉突き衝突し、8台の車が約200mにわたって道路をふさいだり、中央分離帯に衝突した。この事故で、追突した最後尾のトラックの運転者が内臓破裂で即死、7人がむち打ち症などの軽いけがをした。死亡、男性(21才)、軽傷、男性(25才、32才、33才、38才、42才、42才、48才)。廿日市署の調べでは、路面は夜半から凍結してツル</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 3. 1 列車	島根県大原郡大東町 山. 3. 2-16	<p>ツルの状態だったのに、事故を起こした8台の車は滑り止めのタイヤを使用していなかった。現場は高架橋に入って約500mの直線道路。未明にかけて県内で発生した雪による交通事故は、この事故を含めて8件になった。</p> <p>6時半ごろ、国鉄木次線下久野駅構内で、普通列車が雪をかきこんで動けなくなった。同列車が1時間半遅れたほか、同線の普通列車2本に40分から1時間の遅れが出た。また、伯備線の特急列車1本が、雪による東海道、山陽新幹線の遅れの影響で、30分遅れた。</p>
* 3. 1 スリップ	島根県大田市 五十猛町 山. 3. 2-16	<p>午前、国道9号線で大型貨物保冷車が、積雪でスリップし、前から来たミキサー車と衝突、ミキサー車の運転者が右足太股骨折などで3箇月の大けが、保冷車の運転者が顔などに軽いけがをした。男性(24才, 35才)。大田署は保冷車が雪道でハンドル操作を誤ったとみている。この事故で、現場付近は約2時間通行止めになり、交通渋滞が続いた。</p>
* 3. 2 スリップ	鳥取県人頭郡用瀬町 鷹狩 日. 3. 3-16	<p>8時25分ごろ、国道53号線でワゴン車と軽ライトバンが衝突、軽ライトバンの運転者が右足骨折、ワゴン車の同乗者が顔の骨を折ってそれぞれ2箇月のけがをしたほか、双方の同乗者合わせて4人が首などにそれぞれ1週間のけがをした。重傷女性(26才, 55才)。智頭署の調べによると、ワゴン車がスリップしてセンターラインを越え、道路をふさぐような形で止まったため、対向車が衝突した。現場は緩い左カーブで、圧雪はなかったが凍結していた。双方の車はチェーンを付けていなかった。</p>
* 3. 2 停電	青森県青森市 朝. 3. 3-23	<p>13時40分ごろ、八甲田山の八甲田ロープウェーが突然停電となり、2つのゴンドラがロープウェーの中央付近で宙つりになった。ゴンドラには上りに80人、下りに3人乗っていたが17時10分までにゴンドラに付属した救助袋を使って全員救出した。この停電は、青森市荒川南荒川山の東北電力矢別発電</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*	3. 2 欠航 島根県 山. 3. 3-10	所の電流測定用機器が雪の重みで破損したため。 冬型気圧配置となっている島根県地方は、時折激しく雪が降った。積雪のため出雲空港では東京便、大阪便など6往復12便が欠航した。
*	3. 2 列車 山口県, 岐阜県 毎. 3. 3-19	東海道、山陽新幹線は、山口県吉敷郡小郡町と岐阜県不破郡関ヶ原町付近の雪のため、始発から13時まで減速運転をした。このため、上下76本の列車が21分から5分遅れ約6万人が影響を受けた。
3. 3 倒壊 南蒲原郡下田村笛岡 新. 3. 5-19		15時半ごろ、木造二階建てかわらぶき住宅1棟約168m ² のうち半分が雪の重みで倒壊した。住人は行方不明となっており今冬は1回も雪下ろしをしていなかった。
3. 3 規制 新潟県 新. 3. 4-19		上越地域では2月5日から消雪用地下水の50%規制が出されていたが、10時、県は上越地域に発令していた地盤沈下警報を解除し、注意報に切り替えた。
3. 4 スリップ 三島郡出雲崎町 上中条 新. 3. 5-18		4時過ぎ、国道116号線で乗用車が雪のためスリップし上下線ともふさいだところへ大型トラックが衝突、さらに大型タンクローリー車が衝突した。このため乗用車は路外に転落した。
3. 4 スリップ 新. 3. 5-18		6時半ごろ、国道116号線で軽トラックに大型トラックが雪のためスリップして追突した。
3. 4 スリップ 新. 3. 5-18		7時半前、国道116号線で乗用車が雪のためスリップ、対向してきたトラックに衝突した。乗用車は道路下の水田に転落したが、けが人はなかった。
3. 4 雪崩 中魚沼郡津南町 新. 3. 5-18		10時半ごろ、国鉄飯山線の長野県境で、ジーゼル列車が右側山から雪崩た約285m ³ の雪に乗り上げて脱線した。列車は先頭部分が約1.7mほど浮き上がり、前部を小破、正面ドアや運転席反対側のガラスが破れて、雪が車内に飛び込んだが、乗員と17人の乗客にけがはなかった。現場は寺石トンネル出口から80m地点で、山の斜面にある雪崩防止柵のわきから

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 4 用水路	五泉市二ツ柳 新. 3. 6-23	落ちた雪塊が、下方で長さ16m、幅6mの雪崩を起こし線路わきの雪壁を押し出していた。同線は1日中不通になった。
除雪中 転落	北魚沼郡湯之谷村 宇津野 新. 3. 6-23	用水路で男性が死亡しているのを通行人が発見した。五泉署の調べでは、男性(40才)は夕方、村を回って帰る途中、誤って高さ約1.5mの用水路に転落、ショック死したらしい。
河川		9時ごろ、国道352号線の石抱橋で、4mの積雪から同橋を守るために、雪庇落としをしていた作業員6人のうち2人が約5m下の北之岐川に転落、1人が死亡、1人が頭などに1週間のけがをした。小出署の調べでは、同橋は幅7m、長さ22mで、水深40～50cmの川に転落した作業員は、体を強く打ったあと水死、雪の上に落ちた作業員は軽傷であった。死亡、男性(45才)、軽傷、男性(51才)。
除雪費	長岡市 新. 3. 7-19	長岡市が今冬支出した除排雪費は、過去最高だった前年度の6億7,000万円を上回り、史上最高を記録する見込みとなった。当初予算と追加予算合わせて7億8,783万円余に達した。これは一般会計予算総額の1.87%に当る。
		また、同市は老人世帯や母子世帯など要援護世帯の除雪費助成を行っているが、豪雪のため2月までに、額も当初予算の3倍1,749万余となり、制度発足以来の新記録となった。
踏切	西蒲原郡黒崎町坂井 毎. 3. 7-20	16時10分ごろ、新潟交通電鉄の坂井通路踏切で、乗用車が立ち往生し、普通列車と衝突した。乗用車は大破したが、運転者や列車の乗客にはけがはなく、列車は40分後に発車した。
		新潟西署の調べでは、同踏切は冬季は除雪のため踏切板を撤去するので、通行止めになっていた。
助成	新潟県 県議会 新. 3. 7-20	県議会2月定例会は一般質問を再開。質疑のなかで君知事はスキー用具課税に反対、寒冷級地見直しで交付税配分が大幅に減らないよう強く要望していくなどの見解を述べた。
	新潟県 新. 3. 7-20	県は今冬の豪雪が農業生産に影響を及ぼす事態になったため異常豪雪災害対策事業を実施することを決めた。消雪促進、

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 7	新潟市	共同苗代設置などを実施する市町村、農業組織に経費を助成することを骨格にしている。59豪雪(58年度)いらい3年連続しての助成になる。
道路表示	新. 3. 8-21	雪国の冬の終りを告げる路面表示の塗り替え作業が始まった。除雪車やスパイクタイヤで削られた横断歩道表示 8,600箇所とはみ出し禁止表示600kmを塗り替える。総費用は6億7,000万円。
3. 8 雪崩	中魚沼郡津南町秋成 毎. 3. 9-19	9時ごろ、町道深見一堂平線の通称深見坂で、雪崩のデブリが同町道をふさいでいるのが発見された。十日町署の調べによると、雪崩は町道沿いの山の斜面の雪が幅約100m、高さ約4m、厚さ約3mにわたって、約1,200m ³ の雪で道路をふさいだ。同町道は全面通行止めとなり、迂回路はなく復旧の見通しは立っていない。
3. 8 雪壁	柏崎市常磐台 新. 3. 9-22	12時半前、国道で乗用車が運転を誤って、反対車線の雪壁に突っこんだ。
3. 8 火災	西頸城郡能生町高倉 新. 3. 10-19	12時50分ごろ、木造二階建て住宅から出火、同住宅132m ² を全焼し、2人が焼死した。糸魚川署で原因を調べているが、現場は同町中心部から10kmの山間地で、積雪は4m近くでどの家も一階部分はほとんど雪の中に埋まり、部落内はまだ人が1人通れる程度の雪道で、消防車も近づけず、貯水槽や消火栓も雪の下で、大雪が消火活動を阻んだ。男性(57才)女性(85才)。
* 3. 8 スキー場	富山県上新川郡 大山町原 新. 3. 9-23	10時30分ごろ、北アルプスの極楽坂スキー場で、満員のペアリフトが約300m逆戻りし、雪上に飛び降りたスキーヤー9人が首を捻挫するなど1~3週間のけがをした。大沢野署の調べによると、リフトの運転員が乗り損った客を見つけ、危険防止のためリフトを停止させたところ、乗客120人の重みでリフトが約300m逆送して自然停止した。この事故で、約100人の乗客が飛び降りるなどして、一時はパニック状態と

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 9 雪崩	糸魚川市小滝 新. 3. 10-19	なったが、けが人の大部分は腰や足の軽い打撲、すり傷にとどまった。
3. 9 スキー場	南魚沼郡塩沢町舞子 新. 3. 11-18	12時前、国道148号線の赤石平洞門付近のかげで雪崩が発生約700m ³ の雪が落ち、同国道を長さ30m、厚さ2m、幅6mにわたってふさいだ、このため同国道は約1時間通行止めになった。
3. 9 落雪	長岡市滝谷町 新. 3. 11-18	17時半前、石打後楽園スキー場で、雪上車が小学生に接触したため、小学生は左顔面を切るなどの重傷を負った。六日町署の調べでは、雪上車の運転者が周りをよく確認しないでUターンした。
3. 9 遭難	南魚沼郡湯沢町 新. 3. 10-19	夕方、自宅の排雪をするため、空地の雪を掘っていた男性(47才)が、上から落ちた約4m ³ の雪に胸を圧迫され、窒息死した。
* 3. 9 雪崩	岐阜県大野郡白川村 内ヶ戸 中. 3. 10-17	8日13時過ぎ、かぐらスキー場第5リフトを降りて、山スキーに出かけた高校の先生2人が一昼夜たっても帰らず遭難騒ぎになったが12時過ぎ2人とも反対側の中魚沼郡津南町に無事下山した。調べでは、2人は道に迷ったため、持っていたテントで1泊し、夜明けを待って動きだして同町大場地区にたどりついた。
* 3. 9 車粉	北海道札幌市 朝. 3. 10-23	13時15分ごろ、国道156号線で雪崩が発生、同村役場建設課長大沢友久(48才)が巻き込まれ死亡した。高山署の調べでは、同課長は12時半ごろ、同所で高さ5m、幅26mにわたって起きた雪崩を処理するため、現場で作業中、西側の山から高さ5m、幅27mの雪崩が発生、巻き込まれた。同署はここ数日の気温上昇で雪が融け、雪崩が起きたとみている。
		スパイクタイヤによる車粉公害に悩む札幌市は、スパイクタイヤのピン抜き所をオープンさせた。昨春、初めて試みたところ、期間中に6,000台の利用があり、効果は上々。このところ暖かさで路面が顔を出し、車粉が舞い始めたため、昨

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 3. 9 車粉	宮城県仙台市 朝. 3. 10-23	春より6日早めた。 仙台市はスパイクタイヤによる粉じん清掃を始めた。石井市長は清掃に参加した町内会、主婦連合会、消費者協会などの約300人を前に、スパイクタイヤ装着率が20%台に減ってきている。市民総参加で脱スパイクに取り組もうとあいさつ。参加者は目抜き通りの清掃を行った。
3.10 用水路	新井市小丸山新田 新. 3. 12-18	夕方、1人で自宅の庭先を除雪中、誤って自宅前を流れる用水(幅75cm、深さ25cm)に転落、急流に流された。下流約350mの地点で、捜索していた新井署員らに水死体で発見された。
男性(85才)		
3.10 注意報	新潟県 毎. 3. 11-18	10時、県は上越地域に出していた、地盤沈下注意報を解除した。同地域の地下水位は順調に上昇している。
3.11 転落	岩船郡山北町上大島 新. 3. 12-19	9時半ごろ、山林で高さ15mの木に登り、枝をはらっていた木材伐採作業員に、突然折れた上方の木の枝が当たり、約9m下の雪の上に転落、病院に収容されたが約3時間後に、脳挫傷で死亡した。男性(49才)。
3.11 通行止め	県糸魚川土木事務所 朝. 3. 12-21	国道148号線の糸魚川市根小屋一山之坊間約11kmを、雪崩の危険のため夜間通行止めにした。規制時間は19時から7時まで。同国道は、このところの暖かさで、雪崩が頻発しているためで、この規制は当分続けられる見込み。
3.11 雪害対策	長岡市 新. 3. 12-15	長岡市議会は本会議を開き、雪害対策、地下水汚染対策など市政に対する一般質問が5市会議員によって行われた。これに対して市長は、多くの反省点が出ている。除雪会議の見直しもその一つだ。全庁あげて克雪に対する短期的な実施計画を立て、中、長期的計画にもつなげていきたい。新年度は市街地の雪問題を主眼に検討する。体制については専門課を設置することを検討の一つとしている。と述べた。
3.12 落雪	柏崎市田屋 新. 3. 13-22	21時ごろ、自宅裏手の1mの雪の下に埋まって死んでいる老女(76才)が発見された。柏崎署の調べでは、老女は自宅外壁

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 14 発会式	新潟労働基準局 新. 3. 15-23	<p>周辺の除雪中、屋根に積もっていた60cmほどの雪が、一気に落なし、下敷になって窒息死したらしい。老女は1人暮らしだった。死後4日ほどたっているとみられる。</p> <p>新潟労働基準局(兵頭正行局長)が中心になって、屋根の雪下ろし作業中の労働災害を防ごうと結成準備を進めてきた、県屋根除雪作業労働災害防止対策協議会の発足式が、新潟市で開かれた。同協議会は本年度の事業として、墜落防止のための安全指針づくり、教育用テキスト作成と安全教育実施、災害防止推進大会開催の三つの柱で活動する。</p>
3. 14 死傷者	新潟県警外勤課 毎. 3. 15-18	<p>14日現在、雪崩をはじめ、この冬の雪による犠牲者は40人に達し、けがをした人も162人に上ることが県警外勤課のまとめでわかった。同まとめによると、屋根の雪下ろし中の転落死が9人、屋根や木から落ちた雪による死者6人、雪崩による死者15人、また、今冬の小型の家庭用ロータリー除雪機で14人がけがをするなど、家庭用除雪機による事故が増えているのが特徴。</p>
* 3. 14 注意報	気象庁 毎. 3. 15-21	<p>気象庁によると、東京の降雪は今年に入って14回目。同庁は21時、多摩地区西部と東部に大雪注意報を出した。雪は15日朝まで続く見込みで、降雪量は多摩西部で10～15cm、東部で5～10cmになりそうという。</p>
* 3. 14 閣議	政府 新. 3. 15-20	<p>政府は閣議で市町村道の除雪費の特別補助32億円を60年度の一般会計予備費で充てることを決めた。また、国道、道府県道の除雪費不足については、道路整備特別会計から38億円を充てる。市町村道除雪費の特別措置がとられるのは58、59両年度に統いて3年連続。補助金交付対象市町村数は17道府県の492市町村で、59年度の389市町村を上回っている。</p>
* 3. 14 列車	神奈川県横浜市 毎. 3. 15夕-9	<p>23時10分ごろ、国鉄京浜東北線神奈川駅の南行き線構内で、ポイント3箇所が雪で凍結し作動しなくなった。このため、同線南行き電車8本が最高57分遅れ、この影響で横浜線も上</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 3. 14 スリップ	茨城県岩井市鶴戸 新. 3. 16-23	下6本の電車が最高72分遅れた。 22時ごろ、市道で乗用車がブロック塀に激突、車の前部を大破し、運転者は頭など強く打って即死した。境署の調べでは乗用車が雪道でハンドルをとられスリップしたらしい。
3. 15 追突	南魚沼郡湯沢町三国 新. 3. 16-23	3時半前、国道17号線で車にチェーンを付けるため止まっていた大型トラックに、トラックが追突、追突したトラックの運転者が積み荷の鋼材にぶつかり、顔や手に2箇月の重傷を負った。男性(26才)。
3. 15 除雪機	上越市飯塚 新. 3. 16-23	11時過ぎ、自宅近くの水田で、除雪作業中の男性(51才)が除雪機に巻き込まれ、頭部裂傷で約2週間のけがをした。上越北署の調べでは、積雪140cmの水田にビニールハウスを建てるため除雪作業をしていたが、除雪機に詰まった雪を取り除こうとして、衣類が機械に巻き込まれたらしい。
* 3. 15 スリップ	東京都稻城市東長沼 朝. 3. 15夕-19	1時10分ごろ、都道で乗用車が道路左側のコンクリート電柱に激突、助手席の男性(22才)が頭や胸などを強く打って、間もなく死亡した。運転者も右足骨折などの重傷。男性(17才)。日野署の調べでは、事故当時、雪が降り続いており、道路上には約3cmの雪があり、スリップしたらしい。
* 3. 15 転倒	東京都町田市 下小田町 毎. 3. 15夕-9	9時45分ごろ、私立小山田老人福祉センター近くの坂道で、老人が雪で足を滑らせて転倒、頭を強く打って病院に収容されたが間もなく死亡した。男性(76才)。町田署の調べでは、前夜からの積雪が5cmあった。
* 3. 15 積雪	関東地方 朝. 3. 15夕-19	9時現在の積雪は、東京の都心で1cm、八王子4cm、横浜2cm、熊谷3cm、秩父4cm、前橋3cmとなり、真冬に逆戻り。雪のため、中央自動車道が山梨県下でチェーン規制されたほか、首都高速道路も路面凍結のため、埼玉県側の一部で7時まで速度規制された。また、奥多摩有料道路と陣馬街道が交通止めになっている。 東京消防庁の調べでは、都内で17人が歩行中に雪のため転ん

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		で救急車で病院に運ばれ、うち1人が入院した。
		東京都教育委員会の調べでは、雪の影響で西多摩郡檜原村の北秋川中学校が2時間、同村藤倉小学校が1時間、それぞれ始業時間を遅らせた。
3.16 スリップ	南魚沼郡湯沢町三国 新. 3. 18-22	17時過ぎ、国道17号線の火打峠でワゴン車とマイクロバスが正面衝突、ワゴン車に乗っていた女子高校生(16才)が骨盤骨折で2箇月の重傷を負った。六日町署の調べでは、ワゴン車が路面圧雪でスリップ、対向車線に入り衝突した。
* 3.16 車粉	環境庁長官 朝. 3. 17-22	森環境庁長官は、道路粉じんによる健康への影響が心配されているスパイクタイヤ問題の現場を視察するため、仙台市を訪れた。視察後の記者会見で森長官は、「道路粉じん公害はほっておけないと実感した。スパイクタイヤを規制する必要があると思うが、それによってスリップ事故など交通事故が増えることも心配だ。直ちにというわけにはいかないが、立法化に向け努力したい」と語った。
3.18 雪崩	東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬 新. 3. 19-19	13時過ぎ、県道角島一日出谷停車場線さつき橋一水無月トンネルの中間付近で、通行中のライトバンが雪崩に巻き込まれたが、乗っていた4人は自力で脱出し、無事だった。津川署の調べでは、山の斜面に積もっていた雪が長さ25m、幅6mにわたって崩れ落ちた。現場は3月1日にも雪崩が発生したところ。
3.19 いたずら	燕市小牧 新. 3. 20-23	14時半過ぎ、上越新幹線新潟駅—燕三条駅間で、線路わきに設置されている消雪用のスプリンクラーのノズル73本が折れたり曲ったりしているのを巡回中の国鉄職員が発見、燕署に届け出た。同署と国鉄新潟鉄道管理局は、悪質ないたずらの可能性もあるとみて調べている。
3.19 転落、池	北魚沼郡守門村 大倉沢 新. 3. 23-22	雪道で足を滑らせ雪穴から池に転落、男性(47才)が水死した。小出署の調べでは、雪穴の直径は2m、深さ3mで、穴から出られず水死したらしい。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 20 用水路	新井市高柳 新. 3. 23-22	昼過ぎに自転車で外出した男性(72才)が、自宅から約2km離れた市道わきの美守用水路に転落、約3m下流の渋江川左岸で水死体で発見された。新井署の調べでは、用水路は幅1.5m、水深70cm、雪融けで増水し、流れが速かった。男性は心筋梗塞の持病があり、発作が起り用水に転落したとみている。
* 3. 21 雪崩	山形県尾花沢市 市野野 新. 3. 23-23	22時20分ごろ、住宅裏山で雪崩が発生、住宅1棟が全壊し、夫婦が生き埋めとなり、救出されたが間もなく死亡した。男性(71才)、女性(65才)。尾花沢署の調べによると、雪崩は高さ330mの裏山の中腹付近で発生、幅20m、高さ2mにわたって起きた。厚さ5~6mの雪が押し寄せ、木造平屋建て住宅を県道側へ5mほど押し出し、県道をすっぽり埋めた。現場には数箇所に雪崩防止の木柵があったが、雪はこれを乗り越えて流出した。
3. 23 スリップ	南魚沼郡湯沢町土樽 新. 3. 25-22	19時過ぎ、関越自動車道下り線で、大型トラックが雪でスリップ、中央分離帯に衝突、車線を完全にふさいだ。この事故で県警高速隊は同地点から谷川パーキングエリア間の同線を約1時間半にわたって通行止めにした。このため現場から関越トンネル北入口まで約700m、群馬県側約2kmにわたって車の渋滞が続いた。
* 3. 23 雪崩	鳥取県西伯郡大山町 新. 3. 24-18	10時半ごろ、国立公園大山の天狗沢付近で、下山中の登山者2人が表層雪崩に巻き込まれ、1人は自力で脱出して無事だったが、1人が行方不明となった。男性(27才)。
* 3. 23 衝突	東京都田無市本町4 新. 3. 24-1	12時10分ごろ、西武鉄道西武新宿線田無駅上り1番線で、パンタグラフに積もった雪を除雪するため停車中の準急電車に急行電車が衝突、急行電車の前部と準急電車の後部が大破、両電車とも窓ガラスがメチャクチャに壊れた。この事故で準急の750人、急行の650人の乗客が、衝突のショックで床に投げ出されたりして、3人が重傷、201人が軽傷を負い、田無病院など15箇所の病院に収容された。田無署の調べによると、

発生年月日 (項 目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記 事 の 内 容
<p>* 1986. 3. 23 倒壊</p> <p>* 3. 23</p>	<p>東京都八王子市 元横山町 新. 3. 24-19</p> <p>東京都八王子市</p>	<p>急行電車の運転士が同駅手前230mにある場内信号が黄色の警戒信号を確認、通常ブレーキをかけたが止まらなかった。このため急いで非常ブレーキをかけたが、全く利かず時速25km/hのスピードで衝突した。準急電車は、雪の重みでパンタグラフが下がり通電しなくなつたため、運転士が雪下ろし作業中だった、また、急行電車は、車輪を締めつけるブレーキの制動子(合成金属)と車輪の間に強風で舞い上がつた雪片が吹き込まれて、それぞれの表面に付き、ブレーキが利かず、空回りしたとみている。</p> <p>東京消防庁によると、この事故で動員された救急車は20台で重傷者から次々に近くの病院に搬送したが、折からの大雪で現場周辺の道路は至る所で渋滞になつており、救急車が現場に戻るまでに30分以上かかる始末。重傷者は1台に1人、中程度のけが人は2人で1台、軽傷者は1台に5~6人でピストン搬送したが、負傷者が多く、全員を収容するまでに3時間近くもかかった。</p> <p>運輸省関東運輸局は、西武鉄道西武新宿線田無駅構内で起きた電車同士の衝突事故を重視し、専門官らを現場に派遣、本格的な事故原因の調査に乗り出した。今回の事故は雪が直接の引きがねになったとみられるが、春先の突然の大雪で、雪が湿り気を帯びるなどの特殊要因があつたとはいえ、背景に雪に対する運転教育の不備や、ブレーキ対策の甘さがあり、同省はこれらの点を中心に調査していく方針。</p> <p>15時半ごろ、映画館のトタン屋根が雪の重みで崩れた。同館は木造トタンぶき平屋建て約580m²で、事故当時、観客18人がいたが、2人が逃げ遅れて屋根の下敷きとなつた。1人は自力で脱出、1人は八王子消防署員に救出されたが、足や肩に軽傷を負つた。男性(35才)。</p> <p>16時半ごろ、雪かき中の男性(21才)が、切れて垂れ下がつて</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
除雪中 * 1986. 3. 23	中野上町 東京都	いた高压線(6,600V)をどけようとして、高压線に触れて感電死した。
大混乱	新. 3. 24-19	関東から甲信地方にかけて襲った大雪や強風の影響で、国鉄、私鉄各線が不通となったのをはじめ、羽田、成田両空港でも欠航便が続出、東名高速や中央自動車道などの道路の通行止めも相次ぎ、首都圏を中心に交通が大混乱した。
		国鉄首都圏本部によると、11時29分、中央線立川駅で上りの架線が切れて同線が不通となったのをはじめ、山手線、京浜東北線など19線区が列車のパンタグラフなどの故障で次々と不通となった。東海道、山陽新幹線は、15時40分、静岡駅－浜松駅間で下りの架線が切れ、東京－博多間の全線が不通となった。また、西武新宿線をはじめ小田急、京王、東急などの私鉄各線も正午前後から軒並み不通となった。 成田空港では14時50分、強風のため管制塔での業務ができなくなり、一時は管制官が全員避難、航空機の発着が不可能となった。羽田空港でも13時過ぎから雪の影響で欠航便が続出し、到着便は着陸できず名古屋、大阪などの各空港へ振り分けられた。
	東京都	東名高速の大井松田－沼津間、中央自動車道の相模湖－勝沼間、東北自動車道の泉－福島飯塚間など高速道路の各所が閉鎖されたほか甲州街道、川崎街道などの幹線道路も東京都内の5路線で一部通行止め。首都高速は全線チェーン規制となつた。
* 1986. 3. 23	東京都 新. 3. 24-19	東京消防庁によると、大雪で滑って転び救急車で病院に運ばれた人は、20時現在43人、このうち15人が中程度のけがで、28人が軽傷。また、雪のためスリップによる交通事故で6人が軽いけがをした。
* 3. 23	神奈川県厚木市 新. 3. 24-19	12時ごろ、東京電力の送電用の鉄塔(高さ約80m, 27,500V)6基が大雪と強風で倒れ、約121,000世帯が停電した。このう

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
		ち, 12時10分ごろ, 厚木市戸田で倒れた鉄塔1基が, 走行中の乗用車を押しつぶし, 運転者が下敷となり, 肩や顔に2週間のけがをしたほか, 住家6棟の庇などが壊れた. 東京電力神奈川支店の調べでは, 湿り気の多い雪の重みと風速10~20m/sの強風で倒れたらしい.
*1986. 3. 23 倒壊	埼玉県春日部市大畠 新. 3. 24-19	16時35分ごろ, 歩道に張り出したビニール製の庇(長さ12m, 幅4m)が雪の重みで落ち, 公衆電話をかけていた男性(36才)にぶつかった. 男性は救急車で病院に運ばれたが首の骨を折っており, 間もなく死亡した.
3. 23 停電	福島県いわき市 朝. 3. 24-22	18時過ぎ, 東北電力小名浜変電所など3変電所で, 雪のため6,600Vの高圧配電線が切断などして, いわき市内で約50,000戸が停電した. 深夜になっても復旧の見通しは立たなかった. この日, 福島県全域に15時半, 暴風雪波浪警報, 着雪注意報が出されていた.
* 3. 23 凍死	福島県相馬市 山上大久原 朝. 3. 27-23	26日14時半ごろ, 林道で除雪中の作業員が, 雪の中で凍死体となっている老夫婦を見つけた. 相馬署の調べによると, 2人は23日, 子牛が生まれそうなので, 大雪の中を無理して外出先から帰宅しようとして, 自宅まであと300mの所で力尽きたらしい. 男性(62才), 女性(57才).
* 3. 23 列車	広島県 中. 3. 24-19	関東地方の雪や架線事故の影響で, 東海道, 山陽新幹線のダイヤも大幅に乱れた. 広島駅では, 下り列車36本が1時間から最高8時間遅れて到着した. また, 上り列車16本の発車も最高2時間遅れた.
* 3. 23 列車	山梨県 朝. 3. 24-22	未明からの大雪で山梨県内は, 国鉄中央線の駅でポイント, 信号, 送電線の事故が相次ぎ, 同線は8時に全線不通, 列車が立ち往生して, 夜までに乗客約1,300人が駅や列車内に足止めされた.
* 3. 23 列車	東海地方 中. 3. 24-18	東海地方を襲った雪のため, 12時半ごろ, 静岡県内で東海道本線と東海道, 山陽新幹線の停電事故が発生, 復旧は夜半に

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
* 1986. 3. 23	関東甲信地方	までズレ込んだ。このため、山陰本線の特急列車2本が米子駅で運転を打ち切った。米子駅では30人近くの乗客が22時現在、待ち合い室や駅長室で足止めされている。24日着の特急列車1本も運休した。
警報	朝. 3. 24-1	関東甲信地方は台風並みに発達した低気圧の影響で、未明から雨が激しい雪に変わり、終日降り続く大雪となった。風も吹き荒れ、同地方のほぼ全域に大雪警報が出された。気象庁によると、雪の区域は夕方から次第に北上し、その後は北関東から東北地方に移る見込み。福島、宮城両県にも夕方、大雪警報が出された。
* 3. 23	神奈川県	神奈川県で23日発生した送電線の鉄塔倒壊事故で、23日132戸が停電した。東京電力などが全力を挙げて復旧作業に当たり、18時現在、神奈川県など1都3県で約55,000戸の停電が続いている。
* 3. 24	神奈川県高座郡 寒川町	送電線の倒壊事故の影響でストップした、浄水場の8台の給水ポンプは回復したが、一度に送水すると管が破裂するため1台ずつ慎重に作動させており、19時現在約58,000戸の断水が続いている。全面復旧は夜になる見込み。
* 3. 24	岩手県	岩手県はスパイクタイヤの使用を4月1日から11月30日までの8箇月間自粛することなどを運転者に義務付けた使用自粛要綱を策定した。これによりスパイクタイヤの使用規制については、条例化した宮城県を除く東北5県がすべて要綱化したことになる。全国では13番目。
* 3. 24	成田空港	強風と雪のため、成田空港では欠航便の乗客ら約4,000人が、機内や出発ロビー、サテライトで不自由な一夜を過ごしたが6時からほぼ平常通りに運航が再開され、目的地に向けて飛び立った。
* 3. 24	東京都	首都圏を大混乱させた大雪の後遺症は、24日も終日続き、予想を上回る被害を与えた。
列車	新. 3. 25-23	

発生年月日 (項 目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記 事 の 内 容
		<p>東海道、山陽新幹線は、平常ダイヤで運転を始めたが、23日のダイヤの乱れが朝まで続いたため、車両と乗務員の調整や発着ホームの変更などに手間取り、8時過ぎから遅れが雪ダルマ式に広がり、最高2時間遅れて発車したほか、209本の列車に1時間半から1時間の遅れが出て、25万人の足に影響を及ぼした。</p> <p>国電は朝の始発からほぼ運転を再開したが、中央線や東海道線などでは午前中いっぱい80%の間引き運転を実施、計113本の列車が運休、利用客228,000人の足が乱れた。</p>
1986. 3. 27 火災	南蒲原郡下田村棚鱗 毎. 3. 28-20	<p>4時10分ごろ、木造平屋建て住宅から出火、1棟39m²を全焼、老女(91才)が焼死した。三条署で原因を調べているが、住宅の天井にある暖房用ヒーター付近がよく燃えていることから、ヒーターの故障によるものとみられ、老女は逃げ遅れらしい。</p>
3. 28 凍死	上越市岡原竹原 毎. 3. 29-18	<p>9時20分ごろ、畠で少年(16才)が雪に埋まって死んでいるのが発見された。上越南署の調べでは、少年は1月29日家出し、警察に捜索願いが出ていた。外傷はなく死後約4週間を経過していることなどから、現場で休んでいるうちに疲れなどから寝こんでしまい、そのまま凍死し、雪に埋まったものとみている。現場はまだ1.3mの積雪があり、4週間前には3mを超える積雪のため遺体は発見されなかつたらしい。</p>
3. 28 地すべり	東頸城郡松代町田沢 新. 3. 29-23	<p>国道253号線沿いの山林で、地すべりの徵候がでている。この影響で同国道は20日過ぎから、道路中央部が隆起してき裂が発生、28日までに長さ約60m、幅30cm、深さ40cmに広がっている。県安塚土木事務所松代分所では、危険察知と同時に同国道を通行止めにする態勢をとっている。</p>
3. 30 地すべり	東頸城郡松代町大平 新. 3. 31-19	<p>0時過ぎ、大規模な地すべりが発生、国道253号線が崩落して全面通行止めになったほか、国道沿いの渋海川が土砂で埋まり、下流の同町茅島部落の11世帯に3時15分、避難勧告が</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
*1986. 3. 30 スキー場	群馬県利根郡水上町 向山	出た。(6時に解除された)さらに3時15分に崩落現場から奥の同町菅刈など7部落200世帯で、電話回線切断、水道の使用不能が起きている。
3. 31 転落	北魚沼郡入広瀬村 田小屋	10時20分ごろ、奥利根スキー場で、最上部の第5リフト(153m)のワイヤーの一部が支柱から外れ、揺れた搬器からスキーカー7人が約5m下のゲレンデに転落した。この事故で女子高生(16才)が頭や腰を打って入院したほか、6人が3週間から10日間のけがをした。沼田署の調べによると、リフトに乗っていたスキーヤーの1人が座席の間に挟まったストックを取ろうとして搬器を揺すったため、下り線のワイヤーが上から約3分の1のところまで支柱から外れて垂れ下がった。事故当時、同リフトは満席で40人が乗っていた。
3. 31 地すべり	東頸城郡松代町 新. 4. 1 - 19	15時ごろから1人で自宅わきの苗代用の田の雪消し作業をしていた女性(64才)が、山水を引いて雪が消えていた深さ3m、直径45cmの穴に誤って頭から落ち窒息死した。
3. 31 表彰	西頸城郡能生町 朝. 4. 2 - 21	30日に発生した同町大平の地すべりによる国道253号線崩落は、近くに迂回路が無いため、田沢、犬伏、茅島地区から同町中心部への通勤、通学者に大きな重圧を与えている。現場は3m近い積雪があるため、復旧工事に着手できるのは4月末になりそうだ。このため町では新学期とともに通学不能となった13人の中学生を、冬季宿舎を延長する形で救済を図るほか、高校への通学生47名もこれに準じた措置を取ることにした。しかし、約40人いる通勤者は災害発生以来、1時間10分かけて、雪の山道を歩いて通っている。一方、切断された電話回線の復旧は、4月2日昼の見込み、また、水道の復旧工事もようやく始められた。
		能生町柵口の大雪崩災害時、懸命に被災者の救助にあたった町消防団(小林利男団長)の功績が認められ、東京の自治省消防庁で関根則之長官から表彰状を授与された。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 3. 31 スキー場	鳥取県西伯郡大山町 日. 4. 1-17	大山スキー場パトロール隊(吉本勇隊長)が31日までにまとめた、今シーズン中の大山スキー場内でのけが人は、捻挫の125人をはじめ、骨折や打撲など計367人。調べが始まった54年度以降で最も少ないシーズンとなった。(59年度は630人、60年度は559人)。
4. 1 土砂崩れ	北魚沼郡川口町荒谷 新. 4. 3-19	8時ごろ、住宅近くの斜面で約100m ³ の土砂崩れが発生したが、住宅に被害はなかった。
4. 1 表彰	小千谷市上の山町 朝. 4. 2-21	小千谷署は、流雪溝のふたをあけて、自宅庭に積もった雪を捨てた後、ふたをしめる際誤って流雪溝に転落して流された女性を、助けた主婦と長男の小学生の2人を、人命救助で表彰した。
4. 1 融資	上越市 朝. 4. 5-20	上越市は、市内に克雪住宅を新築したり増改築する人に対し工事費の一部を低利で融資する、克雪住宅低利建築資金融資制度を4月からスタートさせた。融資の対象になるのは、屋根雪を電気や地下水などで融かす融雪式住宅、屋根雪を自然落下させる落雪式住宅、屋根雪を下ろさなくて済む耐雪式住宅と高床式住宅の4種類。
* 4. 1 条例	宮城県 新. 4. 2-19	全国に先駆けた宮城県のスパイクタイヤ対策条例が施行され粉じん公害の元凶とされるスパイクタイヤ追放運動が本格的に始動した。違反車両には最高5,000円の反則金が課される。
4. 2 用水路	豊栄市大月 新. 4. 3-19	17時50分ごろ、自宅裏の幅90cm、深さ30cmの用水路に、誤って老人が転落、水死した。男性(72才)。
4. 2 避難勧告	北魚沼郡川口町荒谷 新. 4. 3-19	県道沿い斜面にある住宅わきで、雪融け水による地面の亀裂が見つかり、土砂崩れの危険があるため、1世帯6人に避難勧告が出された。県小千谷土木事務所では、高さ約30mの斜面の雪を除去し、一部シートをかぶせて雪融け水の浸透を除ぐ作業を行った。
4. 3 凍死	西頸城郡能生町小見 新. 4. 4-23	8時前、自宅裏の土手を散歩していた老女(80才)が、誤って土手から約1.2m下に転落、凍死した。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 4. 3 雪崩	古志郡山古志村竹沢 新. 4. 4 ター3	20時半ごろ、県道柏崎一高浜一堀之内線わきの斜面で全層雪崩が発生、幅45m, 高さ45m, 厚さ2.5mの雪約5,000m ³ が、県道を45mにわたってふさいだ。雪崩の直前通りがかった軽トラックの運転者が、小さな雪の崩れを発見、現場に車を残して通報に行った後崩れ落ち、車は大破した。同県道は通行止めとなったが、4日17時に通行止めは解除された。
4. 3 雪害	新潟県 毎. 4. 5-16	県警外勤課はこの冬の雪害状況をまとめた。それによると、3月末までの雪による死者は41人と昨冬に比べて6人減っているものの、負傷者は164人と昨冬の31人増。死傷者の内訳は雪崩29人、屋根からの転落事故88人で、人的被害の44%を占める。一般家庭に普及した小型除雪機に巻き込まれる事故も17件と増加傾向にある。一方、建物の被害も、住宅の全半壊10、一部破損31など計176棟に上り、昨冬に比べて約49%増となっている。
4. 4 表彰	小千谷市城内町 新. 4. 8-15	小千谷署は、3月30日午後自宅近くの茶郷川に三輪車ごと転落して、雪融けで増水した川を約80m流された男児(4才)を、川に飛び込んで救助した男性2人に、人命救助の功労で感謝状を贈った。
4. 6 強風	佐渡郡赤泊村赤泊 朝. 4. 8-21	19時ごろ、風速20mを超す突風のため、住宅の屋根200m ² のかわらが吹き飛んだほか、住宅や倉庫など合わせて5棟でかわらが吹ぶ被害が出た。
4. 6 竜巻	三島郡寺泊町寺泊 新. 4. 7-19	19時10分ごろ、竜巻が発生、木造二階建て住宅のトタン屋根60m ² がめくり取られたほか、近くを通行中の女性(86才)が強風にあおられ転倒、太ももの骨を折る重傷を負った。与板署の調べでは、この竜巻で同町の中心部だけでこのほか、12棟で屋根がわらが飛んだり、窓ガラスが割れるなどの被害があり、駐車中の乗用車2台が横転した。
4. 7 河川	西頸城郡名立町平谷 新. 4. 8-19	正午ごろ、近くの家に遊びに行く途中の老女(83才)が、自宅裏の名立川支流沢内川(幅約7.5m, 水面まで2.9m, 水深10cm)

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 4. 7 大雪	中越地方 新. 4. 8-18	<p>に架かる幅1mほどの丸木橋を渡る際、誤って川に転落して水死した。</p> <p>中越地方は6日夜から強い雪に見舞われ、関越自動車道、国道17号線の二大動脈とも除雪車が出動し、チェーン規制が行われた。関越自動車道では、6日21時35分から7日いっぱいチェーン規制が関越トンネル湯沢坑口一塩沢石打インター間で実施された。国道17号線では、湯沢町神立で六日町署がチェーン装着指導をした。このため数件のスリップ事故を除きトラブル、渋滞はなかった。</p>
* 4. 9 規制	群馬県 新. 4. 10-18	<p>群馬、新潟両県境の谷川岳(標高1,936m)の沢など危険区域の登山を4月12日から5月6日までの25日間禁止すると発表した。これは昭和41年に制定した、同岳遭難防止条例に基づくもので、全層雪崩発生の時期を迎えて、今後は大規模な全層雪崩が発生する可能性があると警告している。</p>
4. 10 スキーリゾート	南魚沼郡 新. 4. 11-23	<p>南魚沼郡の4町内には34箇所のスキー場があるが、これまでの記録を126万人も上回る700万人余りの入り込み客となった。要因としては、関越自動車道の全通、上越新幹線の上野乗り入れが大きく影響し、日帰り客が急増したことや、雪の降り具合など好条件がそろったとみられる。</p>
4. 12 側溝	南魚沼郡湯沢町神立 新. 4. 13-23	<p>17時半過ぎ、自宅近くで幼女(2才)が誤って側溝(幅1m、水深50cm)に転落、800mほど流されて死亡した。</p>
4. 12 春スキー	糸魚川市大所 新. 4. 14-18	<p>瀬戸川付近で春スキーツアーに来ていた女性(40才)が転倒して左足首を骨折した。仲間4人の助けて蓮華温泉まで下山したが、県警ヘリコプターこしかぜで救助、糸魚川市内の病院に収容された。</p>
4. 12 解散	長岡市 新. 4. 12-22	<p>長岡市の雪害対策本部(本部長・日浦晴三郎市長)は、正午で解散する。同市は3年連続の豪雪で、累計降雪量は11.93mに達し、昭和20年に次ぐ戦後2番目の記録となった。</p>
4. 17	北魚沼郡湯之谷村	<p>9時ごろ、上折立地先のシルバーラインで、道路わきの斜面</p>

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
雪崩 1986. 4. 17	新. 4. 18-23 上越市	から約 5 m ³ の雪が崩れ落ち、止まっていた乗用車を直撃した。乗用車の左ドアがへこんだが、運転者にはけがはなかった。また、道路の片側が雪で埋まったが、県小千谷土木事務所小山分所で除雪して復旧した。
水道料 4. 17	朝. 4. 18-21	上越市では、雪の重みや凍結などでこの冬、水道管の破裂が相次いだ。出っぱなしの水は春先の検針で多額の使用料となってはね返る。この事態に対応するため、同市では各家庭などで水漏れの原因を見つけることが困難だったと認めた場合にかぎって、料金の一部を減額する救済措置を昭和60年4月に設けた。減額措置は同市ガス水道局の内規として、使用水量認定基準の中に定めている。
解散 4. 17	新潟県 新. 4. 18-20	県豪雪対策本部(本部長・君知事)は17時に解散した。設置期間は1月11日の豪雪対策本部開設から97日間、1月27日の豪雪災害対策本部開設から81日間だった。
スキー客 4. 17	新潟県 新. 4. 18-20	今シーズン、県内72スキー場を訪れたスキーパー客は、1,043万人で、初めて1,000万人の大台を突破した。
通行止め 4. 17	東頸城郡松代町大平 新. 4. 18-22	地すべりによる崩落で全面通行止めになっていた国道253号線の仮設道路が完成、19日7時から小型車だけを通すことになった。信号機による1車線交互通行で、バスをはじめ大型車は依然通行止めとなる。
一般公開 4. 18	長岡市栖吉町字前山 朝. 4. 19-21	科学技術週間(14日から20日まで)にちなんで国立防災科学技術センター雪害実験研究所は、施設を一般公開した。また相談コーナーが設けられ、市民の雪害対策の相談に研究員が応じた。
記者会見 4. 19	竹下大蔵大臣 新. 4. 20-2	富山市を訪問された竹下大蔵大臣は記者会見し、雪国の住民から要望の強い税制上の優遇措置について、四全総や税制調査会での検討事項だが、個別的な事情をしん酌しての税制措置にはおのずから限界があると、否定的な見解を示した。
4. 20	北蒲原郡 笹神村	11時ごろ、折居川(幅10m,深さ60~100cm)に幼女(2才)が誤

発生年月日 (項 目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記 事 の 内 容
河川 1986. 4. 21	下一分 新. 4. 21-21	って転落, 約500m流されて死亡した.
山菜採り	刈羽郡小国町三桶 毎. 4. 23-18	9時50分ごろ, 横倉山の沢で山菜採り中の老人が, 雪渓で足を滑らせ, 40m下の沢に転落, ショック死した. 男性(84才).
4. 22 表彰	長岡市琴平 新. 5. 9-18	17時10分ごろ, 誤って栖吉川に転落しておぼれている男児(0才)を, 散歩中の男性と高校生2人が協力して救助した. 長岡署は人命救助で3人に感謝状を贈った.
土砂崩れ 4. 22	南魚沼郡塩沢町上野 新. 4. 23-23	19時ごろ, 国道353号線わき斜面の土砂が崩れ落ち, 約70m ³ が道をふさいだ. 同国道は現場で通行止めになった.
4. 23 融雪水	南魚沼郡塩沢町 新. 4. 24-20	13時ごろ, 万条新田から南田中に至る魚野川2kmの間で, 堤防4箇所が融雪水で削られているのが発見された. 同町消防団など150人が出て, ブロックを入れるなどして, 被害の拡大を防いだ.
4. 23 地すべり	中頸城郡妙高村樽本 新. 4. 24-20	15時ごろ, 住宅の裏山で地すべりが起きているところが分かった. 住宅から上方150mの斜面に長さ100m, 幅30m, 深さ10mの土砂が動いている. このため村当局は17時30分, 1世帯に避難勧告を出した.
4. 24 融雪水	新潟市 朝. 4. 25-20	夕方, 信濃川で練習中の高校漕艇部のボートが, 本川大橋の橋脚にぶつかって船体が割れ, 乗っていた女子生徒5人が川に転落, 1人が行方不明になった. 新潟中央署の調べでは, 事故当時付近に同校のボート5隻が練習していた. 事故を起したボートは, 本川大橋を100m超えたところでUターン, コースを下流に変更して, ボートの態勢が整わぬうちに橋脚にぶつかったとみている. 新潟地方気象台や建設省信濃川下流工事事務所などによると, この時期の信濃川は上流から雪融け水が大量に流れ込んでおり, 流れが速く, 水温が低い.
4. 24 地盤沈下	上越保健所 新. 4. 26-20	上越地域で消雪パイプ用井戸の掘削実績がある工事業者15社の代表を集めて, 上越保健所は地盤沈下防止対策への協力要

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 4. 26 地すべり	刈羽郡西山町石地 新. 4. 27-22	請をした。 昨年11月18日夜，刈羽郡西山町と三島郡出雲崎町の郡境の国道352号線沿いの斜面が幅90m，長さ170mにわたり崩れ，20,000m ³ の土砂が流出した大規模地すべりで，同国道も海に押し出されて不通になっていたが，5箇月ぶりに開通した。
4. 27 雪崩	柏崎市木沢 新. 4. 28-19	11時前，自宅裏の山で山菜採り中の男性(47才)が全層雪崩に巻き込まれ生き埋めとなり，左足骨折などの重傷で救出された。
4. 28 豪雪禍	上越市 朝. 4. 29-21	戦後最高の豪雪に見舞われた上越市内の商店は，ドカ雪の影響をまともに受けて，売上げが大幅に減少し資金繰りなどが一段と悪化していることが，国民金融公庫高田支店の商況調査でわかった。同店によると，豪雪で客足が遠のいたうえ，消費者の購買力の一部が雪下ろし費用に回ったこと，商店の除雪費や光熱費増で利益が圧迫されたことなどが原因している。このため，同店では，豪雪禍で業績不振の商店主には，貸付金の返済期限を延ばしたりして，景気の回復に乗り出した。
* 4. 29 遭難	山形県西村山郡 西川町 新. 4. 30-19	27日午前，月山(標高1,980m)中腹の月山スキー場からスキーツアーに出たまま消息を立っていた男女計8人は，早朝から再開された大掛かりな搜索で，10時までに約47時間ぶりに発見，救出された。
* 4. 29 大雪	静岡県駿東郡小山町 新. 4. 30-19	12時過ぎ，富士山三合目の通称凸凹(でこぼこ)山の山小屋で男性(49才)がぐったりしているのを，見回りに来た管理人が発見した。御殿場署の調べでは，3月22日に須走り口から入山したが，23日に大雪で下山できなくなり，山小屋で雪をたべながらじっとしていたという。山小屋付近は今でも60cmの積雪があり，ブレザーコート姿の軽装の男性は，小屋にあった布団にくるまっていた。全身衰弱で病院に収容されたが生命に別条はない。

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 4. 30 表彰	豊栄市前新田 毎. 5. 10-18	午後, 新井郷川に誤って転落, おぼれている小学生を, 通りかかった高校生と男性が発見, 川に飛びこんで救助した. 豊栄署は2人を人命救助で表彰した.
5. 1 土砂崩れ	小千谷市南荷頃 新. 5. 2-15	7時ごろ, 融雪水の浸透による土砂崩れが起り, 約500m ³ の土砂が県道約30mを埋めた. 県小千谷土木事務所が復旧作業を行った結果, 夕方, 片側通行が可能になった. 同県道は, 北魚沼郡川口町荒谷でも土砂崩れによる交通止めが続いているため, 中間にある小千谷市蘭木地区42世帯の住民は一時, 車の通行が不可能となった.
5. 1 表彰	上越市仲町 朝. 5. 8-21	14時ごろ, 雪融け水で増水していた儀明川に, 誤って男児(4才)が転落, 騒ぎを聞きつけた男性2人が, 服のまま飛び込んで救助した. 上越南署は2人を人命救助で表彰した.
5. 4 山菜採り	十日町市下組 新. 5. 5-19	17時45分ごろ, 山菜採りに出かけた男性(29才)が, 集合時間になつても戻らないため, 捜していた友人らに, 通称下倉山の雪渓の幅75cm, 深さ5mのクレバスの中に転落して窒息死しているのを発見された.
5. 4 山菜採り	柄尾市鳥田 新. 5. 5-19	前日, 山菜採りに出かけ行方不明になっていた女性(61才)が死んでいるのを, 捜していた家族が発見した. 柄尾署の調べでは, 1人で自宅裏山に入り山菜採り中, 誤って転落, 雪と地面の間にはさまれたまま抜け出せず, 夜になって凍死したらしい.
* 5. 5 チェーン	ニューヨーク市 新. 5. 7-17	独特の作風で海外でも著名な作家安部公房氏が, ニューヨーク市で開かれている第10回国際発明家エキスポ'86に出品していた新型の雪道用タイヤチェーンが, 佳作第3位に相当する銅賞を獲得した.
5. 7 地下水	南魚沼郡六日町 新. 5. 9-18	六日町は消雪用地下水くみ揚げによる地盤沈下防止対策に, 建設省北陸地方建設局, 県六日町土木事務所, 県環境保健部など行政側が一体となって, 効率良く事業推進するにあたつての協力体制の申し合わせを行った.

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 5. 8 土砂崩れ	東頸城郡松代町犬伏 新. 5. 8 ター 3	1時ごろ, 山の斜面が崩落, 下の国道253号線が約700m ³ の土砂で埋まり不通となった。県安塚土木事務所松代分所で復旧作業を行った結果, 17時半に片側交互通行で通行可能となった。
5. 8 凍死	南魚沼郡湯沢町湯沢 毎. 5. 9-18	5時半ごろ, 国鉄上越線越後湯沢駅南350mの杉林の中で, 一部白骨化した女性(51才)の凍死体が発見された。六日町署の調べでは, 今年の1月10日, 自宅に遺書を残して行方不明になり捜索願いが出ていた。
5. 8 採択	関東甲信越議会 議長会 朝. 5. 9-21	関東甲信越1都9県の議会議長会が開かれ, 各都県から提案された国への要望9項目, 雪崩, 融雪による地すべり対策など豪雪地帯の雪害対策事業促進などが採択された。
5. 12 貯水池	東頸城郡松代町 小荒戸 朝. 5. 13-21	12時半過ぎ, 幼女(1才3箇月)が自宅の庭先にある雪消し用の貯水池に落ちて水死した。安塚署の調べでは, この池は自宅から2mほどのところにあり, 縦5m, 横10m, 深さ60cm。周りには残雪があり, 水温は10℃と冷たかった。
* 5. 18 スキーヤー	長野県駒ヶ根市 毎. 5. 19-19	12時10分ごろ, 中央アルプス中岳(標高2,925m)の頂上付近で, スキーをしていた男性(69才)が, 小屋のエンジンルームの外壁を避けられず衝突, 頭を強く打って即死した。
5. 19 遭難	南魚沼郡湯沢町 新. 5. 20-21	5時前, 谷川岳に春スキーに登って, 万太郎山7合目付近のブナ林の中で道に迷い, 救助を求めていた男性を六日町署員, 山岳救助隊員ら9人が救助した。
5. 21 スキーカー	中頸城郡妙高高原町 毎. 5. 22-21	赤倉や妙高高原杉ノ原, 国際スキー場などを抱える妙高高原町は, 今シーズンのスキー客の利用状況をまとめた結果, スキー客は延1,809,000人と昨年より126,900人も上回った。これは降雪が以外に早かったこと, シーズンを通して天候に恵まれ, 降雪による交通網の支障などもなかったことが, 好結果につながったと分析している。
5. 23 用水路	北魚沼郡守門村渋川 新. 5. 24-23	14時ごろ, 散歩中の老人が, 国道252号線沿いの, 自宅の反対側にある幅60cm, 深さ80cmの用水路に誤って転落, 水深30cmの用水に流され約400m下流の破間川で水死した。男性(88才)

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
1986. 5. 27 雪崩	小千谷市吉谷 新. 5. 29-23	19時ごろ、山林で農夫が斜面から滑り落ちてきた約 5 m ³ の雪塊に直撃され、内臓破裂などで死亡した。男性(63才)。
6. 1 山菜採り	南魚沼郡塩沢町清水 新. 6. 2-18	9時ごろ、通称西谷後沢で山菜採りの男性(53才)が、残雪のあった沢を渡ろうとして雪の上に乗ったところ、雪が割れ約 2 m 下の岩の上に割れた雪とともに転落、背骨を折って死亡した。
6. 3 雪害	新潟県 朝. 6. 4-21	61豪雪による被害は、県内で213億800万円余りにのぼっていることが、県消防防災課の調べでわかった。これは3日開かれた県議会克雪対策特別委員会で報告されたもので、前年の60豪雪の316億1,500万円に比べ減っているものの、3年連続の豪雪による被害は、合計1,000億円を超えた。
		61豪雪の被害を主な項目別でみると、土木関係99億3,200万円、農地部関係41億6,800万円、農林水産部関係41億300万円などとなっている。
		土木部関係では融雪水による河川関係の被害が前年に比べ減っているのが目立つ。農林水産部関係では、上越、中越地方中心の降雪だったため、下越地方の果樹被害が少なくなっている。また、県内の道路、鉄道、電力通信関係の除雪費は合計224億8,800万円にのぼっている。雪崩や雪下ろし中の事故などで、死者41人、重軽傷者195人の人的被害が出た。
* 6. 4 地すべり	長野県長野市上松 新. 6. 5-23	昨年7月、死者26人を出した地附山の地すべり現場で、最上部の土塊が落ちそうになっていることが分かり、長野県は地質学の専門家などで構成する地すべり予知判定会を開き、亀裂の状況や今後の対策について話し合った。現場最上部の中央に、横に走っている亀裂の長さは約100m。
6. 5 地すべり	三条市 朝. 6. 6-21	昨年11月、三条市の通称如法寺住宅団地南側の裏山で発生した地すべりで、住宅など4棟が全半壊した事故で、三条市は被災した3世帯に合計685万円の見舞金を出すことを決めた。
6. 12	三島郡越路町西谷	8時45分ごろ、町道の災害復旧工事現場で、2トントラック

発生年月日 (項目)	場所・機関等 (新聞名,月日,頁)	記事の内容
転落	毎. 6. 6-21	がバックしている最中、左後方の路肩が崩れ、トラックは1回転して3m下の田に転落した。この事故で運転者が脳挫傷で死亡した。男性(23才)。現場は春先の雪融け時に道路の一部が崩れたため復旧工事を行っていた。
1986. 6. 16	佐渡郡羽茂町	13時47分ごろ、農道整備工事現場で土砂崩れが発生、作業員
土砂崩れ	羽茂本郷	3人が生き埋めになった。3人は同僚に救出されたが、女性(45才)1人が窒息で死亡、男性(44才)1人が恥骨骨折などで1箇月の重傷、女性(59才)1人が胸などに軽い打撲傷を負った。相川署の調べでは、土砂は幅15m、高さ6mにわたり約20m ³ が突然崩れ落ちた。
6. 18	東蒲原郡津川町鳥井	1時ごろ、国道49号線で、軽ライトバンが道路左わきの雪崩
交通事故	毎. 6. 19-20	防止用スノーシェッドのコンクリート壁に激突、車は大破し運転者は背骨を折って即死した。男性(55才)。

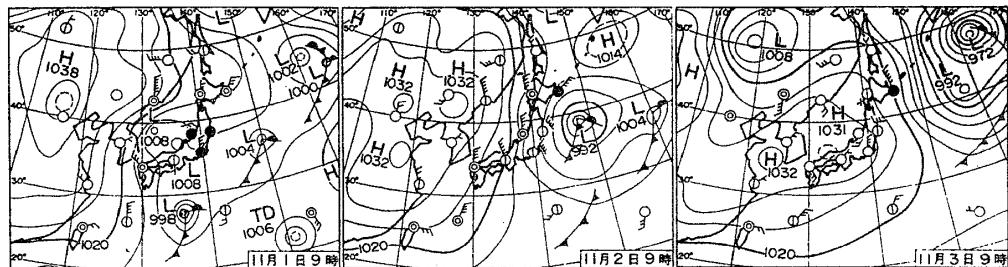
天気図日記

防災科学技術研究資料 第118号 1987年3月

1985年11月

千鳥足の冬便り

- 各種冬便り、早遅まちまち。
- 北陸、東北の日本海側など多雨。輪島、新潟、高田で11月雨量の記録。
- 月平均気温はほぼ平年並。
- 今夏、南風強く、東京の光化學スモッグ吹払われて、注意報、被害とも最少、代って北関東の被害大きくなる。



1日(金) 冷雨

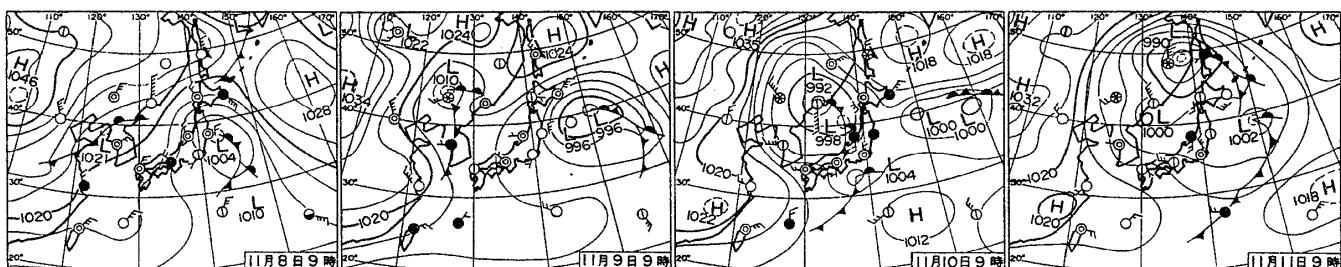
幅広い気圧の谷がゆっくり通過。中部日本を中心にほぼ終日●。並雨だが全般に低温。沖縄は1日①、西日本も①れたが、夜は日本海側で吹出しによる●。都内で茶の花咲く。

2日(土) 木枯し1号

冬型となり、本州の日本海側、北海道は●、道北は○。北陸で50mm前後。東京最大瞬間風速23.1m/sで木枯し1号だが気温は平年並。その他低温帯広、根室平年よりや、早く初雪。

3日(日) 奈良初霜

八王子、甲府なども。冬型早くもゆるみ、朝方の冷込み厳しくなる。日の気温も平年よりや、低い。北日本のしぐれも朝のうちに上り、全般に①～○。富士山9合目で滑落死。



8日(金) 濃霧

関東付近濃霧、観音崎沖で客船と小型貨物船衝突。Lようやく東にぬけたがや、発達しながら北上。北日本終日●模様。関東以西①～②だが、上空を寒気通過し不安定な天気。

9日(土) 北日本も天気回復

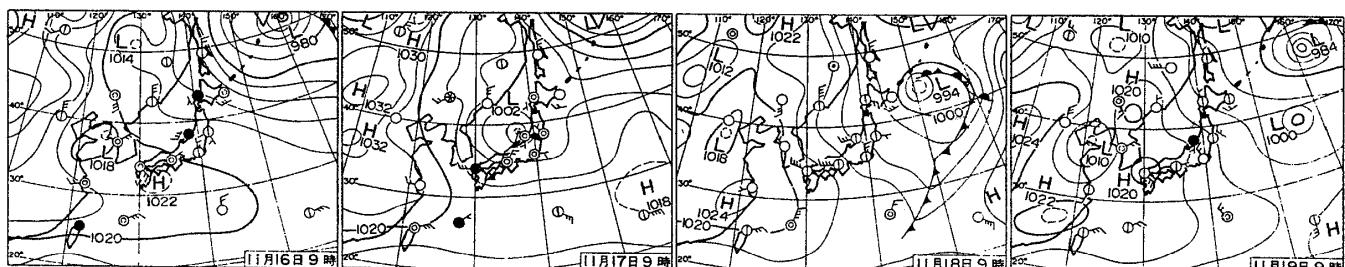
東海上のL、ようやく東に離れ、北日本もも直す。全般に①～○だが次の谷近づいておりすっきりはしない。全国的に終日高温。沖縄方面は暖湿流入って、南部で強雨。

10日(日) 気圧系動き早まる

南海上と日本海北部をしが通る。関東は午後まですっきりしない天気。北日本はほぼ終日●。西日本は①たが午後は吹出しの●、maxも低い。沖縄も豊いぱい●だが大降りなし。

11日(月) 冬型

だいぶ変形の冬型だが、本州～九州の日本海側は吹出し雲による●が続々、日本海西部の寒気を伴ったしで夜は●頻発。太平洋側、沖縄はお、むね①～○で暖か。



16日(土) 伊吹山初冠雪

平年より6日早く、冬型ようやく弱まり北陸も次第に小降りとなり、午後には青空も。夜は日本海西部に低気圧現われて西日本の日本海側からまた●。中部日本低温。

17日(日) 貨物船沈没

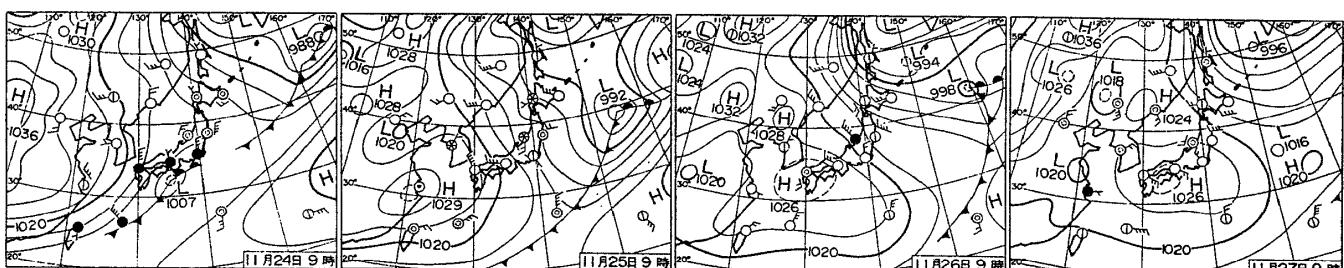
シケの山口県沖で韓国船、死不明10人。L北東進して夜東海上へ。日本海側は終日●交えた●で、北陸50mm前後だが、その他は大降りなし。太平洋側は①～○。北海道地震頻発。

18日(月) 冬型

北海道北部○、本州の日本海側は●で北陸は今日も50mm前後。九州の北部、西部もしぐれたが夜は回復。沖縄も同様の変化、関東を除いて低温続き。都内でビワの花咲く。広尾II。

19日(火) 八王子初氷

平年より5日遅く、min1.2(-3.9)。新島初雪、Hのはり出しはゆるんだが、北海道上空に-39°の寒気があり北日本の日本海側は○。高田初雪。太平洋側①だが、関東を除いて低温。



24日(日) 高速低気圧

前日華南にあったLの動き速く、昨夜半には沖縄～西日本で●降り出す。夕刻東海上にぬけ冬型分布となるが、東日本は北東風残って翌未明まで●。北日本に寒氣入る。相川、仙台初雪。

25日(月) 寒気南下

北海道北部上空に-42°の寒気。強い冬型で東北は太平洋側も○。北陸40mm前後。西郷など初雪。max 東日本は平年よりや、低い程度ですが、その他は-6°前後。富士山-21.6°。

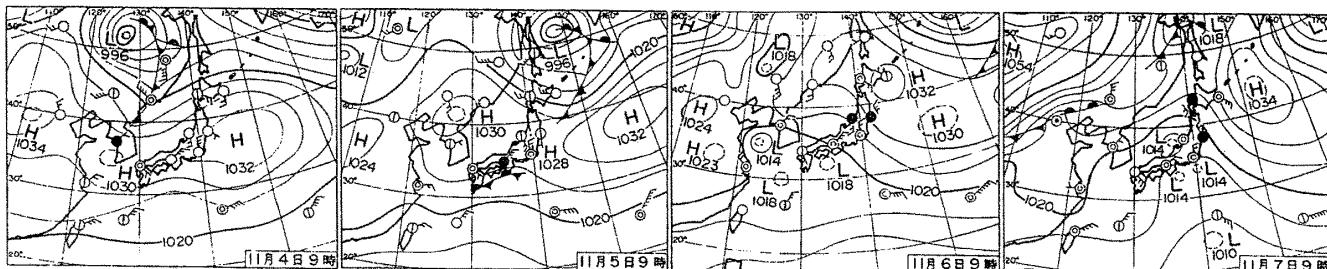
26日(火) 低温続く

気圧傾度ゆるくなり、寒気は根強く、北陸の降水昨日を上まわる60～70mm。道東や関東以西は①～○だが相変わらずの低温。東京4.2°(-2.1)、郊外では霜真白。広島、横浜など初霜。

27日(水) 京都III

0902頃、奈良、舞鶴などIII、名古屋、岡山II。冬型ゆるみ、道西を除いて午後はしぐれ止む。帯広-8.1、日光-5.3など今冬1番の所もあったがその他寒さや、和らぐ。都内にツグミ。

1985~1986年冬期の積雪に伴う被害——五十嵐



4日(月) 陽気好転

大型の移動性Hにおわれて全国的に①～○、気温平年を上まわる。谷も東進して西日本の南岸は昼から所で●。夜は北のF南下で北日本も所々●、○の所も。秩父で初氷。

5月(火) 土佐沖L

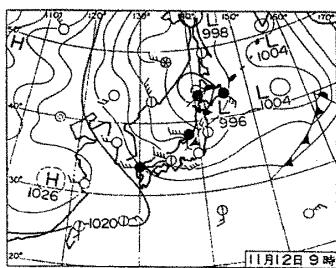
Hベルトの切れ目で、四国沖がF帯、午後にはLも描かれる。関東以西は○で南岸中心に●。南紀～四国で50mm前後。北日本、沖縄は①。気温はほぼ全国的に高目。

6日(水) 東京震度III

0031頃、千葉、横浜Ⅲ、大島などⅡ。南海上のL動き遅く、暖湿流も入って、四国～東海で●を交え100～200mmの所。関東も朝から、午後には東北も●、九州、沖縄は①。

7日(木) 立冬暖か

曇雨天の所が多いこともあってmin平比+7°前後の暖かな朝、日中も暖か。気圧の谷の動き非常に遅く、東日本、北日本は終日●で50～100mmの所。西日本～沖縄は終日ほぼ①。



12日(火) 異常潮位

ほぼ全国的に先週末から+20～45cm。しの東進できのうよりはっきりした冬型。北陸で50mm前後。伊吹山、輕井沢、函館で初雪。西日本で低温目立つ。福岡12.3(-6.0)、根室II。

13日(水) 冬型強まる

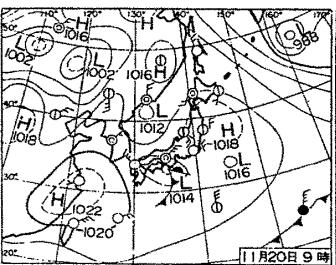
輪島上空も、前日に今冬初めて-30°を記す。冬型の配置、分布で、北陸は●交えた強雨もあり100mm前後の所も。道西全般に○、秋田、新庄など初雪。都内でウグイス笛鳴き。

14日(木) コロンビア大噴火

(日本時) 冠雪融け大洪水、国連機関発表で死者2万2千人。冬型で沿海上空に-36°の寒気。東北南部、北陸で50mm前後。京都初霜、酒田初雪。「しらせ」出航。

15日(金) 雪の季節到来

昨日八方でスキー初滑り、今日天神平でもスキー一部可に。上越新幹線スプリンクラー初稼働、関越道に初の除雪車。北陸大降り続くも山陰はもち直す。北日本中心に低温。



20日(水)

名古屋初霜初氷

上空に寒気を伴った低気圧が、九州から東南東に移動。九州では未明●も多發したが大降りなし。その後も関東にかけて南岸の1部で小雨の程度。冬型解消し日本海側も①れる。

21日(木) 南高型で暖か

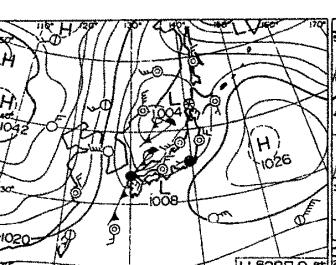
関東～沖縄ほぼ○。北を谷通過して北陸以北は日本海側中心にしがれがちだが①～○。朝方は冷えて、浜松、佐世保などで初霜もあったが、日中は全国的に暖か。山形14.1(+3.5)。

22日(金) 東京Ⅲ

1317頃、宇都宮、横浜Ⅲ、日光、千葉などⅡ。L、夕刻対馬海峡から日本海へ。九州は朝から次第に○り昼夜には山陰にかけて●降り出す。雨域夜中部まで。山形19.1(+8.7)。

23日(土) パカ陽気

全国的に●→○から冬型分布にもどる。●10～20mmの程度。F通過後も寒気入らず。max平比、関東以西で+5°東北は+8～9°の暖かい休日。スキー場大賑わい。東京23.2(+8.2)。



28日(木)

日本海L

L日本海を2段構えて北東進。未明に西日本から降り出し、昼には沖縄を除いて●または○。北陸～秋田で50mm前後の他は並雨。夕刻西日本から次第に①。日中寒暖まちまち。

29日(金) 首都圏国電停まる

通信回線數十個所切断され全線不通、夕刻回復。冬型分布で夜は山陰も○に変る。松江、宇都宮初雪。西日本は低温。北東流の南関東①からしぐれ模様に。都内などで霰の所も。

30日(土) 青森雪47cm

11月の最深積雪記録、上空推内-41、輪島-31°と寒気強く、北日本の日本海側は終日○。北陸は○→●から夜は①。寒さ厳しく京都、奈良初氷。東京3.6(-2.0)月のmin。

▶熊谷では、長野県中部地震など、震源が西方にあると1回の地震で2度ゆれることがあるとの報告(地震学会)。2回目の揺れは榛名山など北関東の山岳からの反射波ではないかという。

▶ハワイなど、太平洋プレートに乗る島が、プレートの移動に伴って毎年4～8cm、日本に接近しつゝあるという(郵政省電波研究所)。

▶鳥島のアホウドリ、今秋の産卵数76個で戦後最多。成鳥数も138羽で秋の確認数としては最多という。

天気図日記

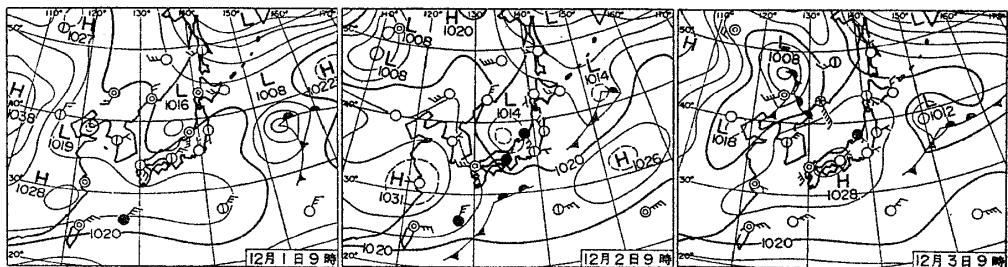
防災科学技術研究資料 第118号 1987年3月

1985年12月

中旬、急に寒冬タイプに
・平均気温は、北海道と山陰の
1部でかなり低かった他はや
や低目。

・降水量は、北海道、本州の日本海側、九州で平年並の他は少な目。

・メキシコ大地震、コロンビアの大噴火が世界10大ニュースのトップ。世界の航空機事故犠牲1700人以上で史上最悪。



1日(日) 穏かな寒波入り

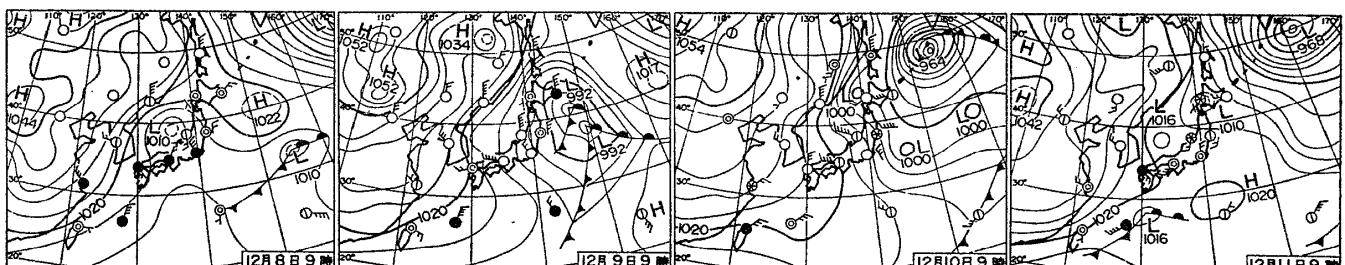
冬型分布で、北日本は○、北陸以西はにわか●、50mm前後の所もあったが寒氣ゆるむ。北日本を除いてmaxもほぼ平年並。太平洋側は穏かに○。大阪初水、和歌山初霜、伊助咲く。

2日(月) 深浦IV

1614頃、青森、秋田Ⅲ、函館Ⅱなど。日本海に新たなし入り、関東以西の太平洋側も○った所があるが午後は○～○。日本海側は●～○だが昨日より少量。冷込み全国的に和らぐ。

3日(火) 移動H

移動Hに捲され、日本海側のシグレも次第に上り○～○。北海道は沿岸から谷近づき、日本海側で終日○の所。富士山頂積雪81cm。秩父夜祭、4日のmin-2.5(-1.1)。父島Ⅲ。



8日(日) 高波釣人さらう

銚子港の堤防で、死2人不明1人。幅広い谷で全国的に●～○の朝。西日本からゆっくり回復して夜はほぼ冬型の配置分布。大降りはなし。熱海梅園の紅白梅咲き出す。

9日(月) 背振山初冠雪

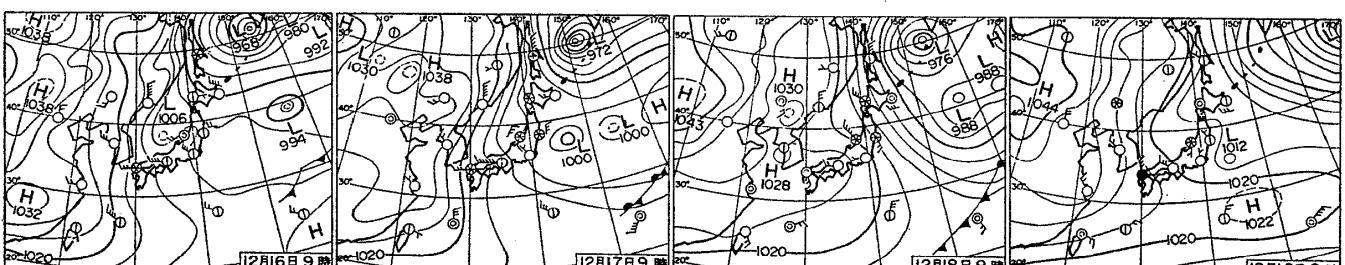
福岡、舞鶴など初雪。寒気強く、広島、甲府など太平洋側でも初雪、千葉も平年より37日早く。早朝濃霧で常磐線など遅れる。西日本を中心に寒くなり始める。北陸40mm前後。

10日(火) 京都初雪

平年より7日早く、名古屋も同。冬型強まり冬便りしきり。東海道新幹線、雪で今シーズン初の徐行。関越自動車道凍結で開通以来初の全面通行止め。全国的にmax平比-4～-10°。

11日(水) 桜島初冠雪

10日早く、5合目まで雪。東京初雪10日遅く。冬型分布、南西諸島も終日●。浦賀水道で米軍艦と貨物船が衝突。昨日と同程度の寒さ、冷込。富山の国道でスリップ事故死者2人。



16日(月) 早い初雪

銚子38日、三宅島32日早い初雪、大阪も12日早く。北陸の大降りはひと休みだが、高田は9時までに53cm降り、積雪99cm。各地とも厳しい寒さ続く。東海道新幹線、関越道徐行。

17日(火) 東京初雪

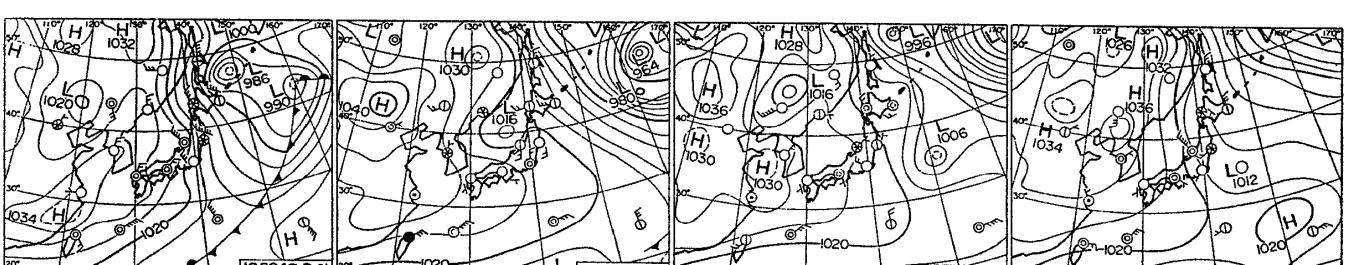
平年より16日早く。-0.4(-3.4)で初の氷点下。八王子-5.5°、北陸大雪続く。min max全国的に平年より4～8°低い。陸空交通混乱。新潟の工事現場ナダレで1人死。

18日(水) 寒気通過

上空-42°の寒気中心東海上にねけ、北陸の○もやゝ小降りに。富山の積雪71cmでこの時期としては記録的。霞ヶ浦でボート転覆、高校生3人死不明。台26, 27号発生で今年の打止。

19日(木) 冬型続き

1部が移動Hとなり冬型はゆるんでみえるが、寒気がじわじわ南下しており、石川県では雷交えて50mm前後。各地とも寒いが東日本のmaxは平年並。気象庁露場にシロハラ?



24日(火) 雪で脱線

磐越西線、15度傾いたが乗客にケガなし。未明、吹出しで東京の最大瞬間23.4m/s。型通りの冬型だが、大陸H弱く、夜山陰は○れる。気温おおむね平年並。ロウバイ咲く。

25日(水) 飛行機に落雷

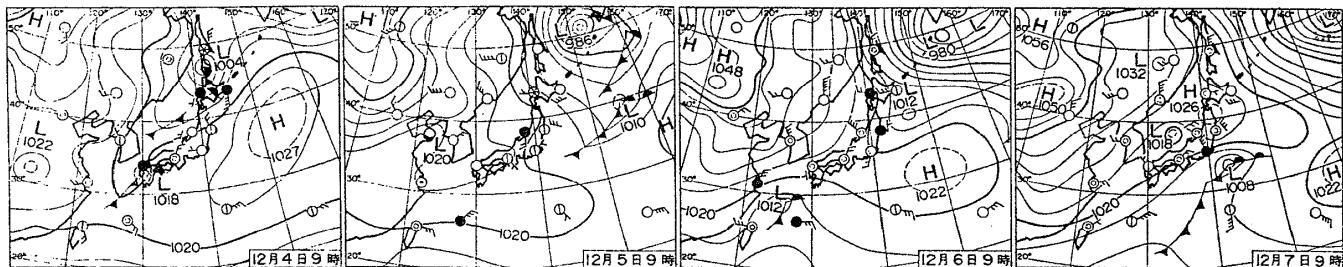
新潟空港上空で、全日空機2機に、わずかだが機体に損傷が出たのは珍らしいという。日本海側は北陸以北で○、その他○～○。太平洋側は○～○だが、東・北日本はやゝ寒い。

26日(木) 弱い冬型

北陸以北は●○の所も多いが1時的に○の所も。その他の各地は○～○で穏かな天気。朝方は暖かな所多く。日中もほぼ平年並。東京2.3(+0.1) 11.2(+0.3)。

27日(金) 貨物船転覆

強風注意報下の東京湾で、死不明2、またパナマ貨物船の座礁も。冬型気圧配置だが、小さな谷が午後東海上にねける。東北地方は昼間いっぽい太平洋側でも○の所。



4日(木)漁船転覆

強風の納沙布岬で、3人不明。南北に長い気圧の谷の通過で各地とも天気崩れる。北海道終日●～◎だが気温高く max 平比+5°前後。降水は全国的に並程度。新潟12日遅い初霜。

5日(木)桜島爆発415回目

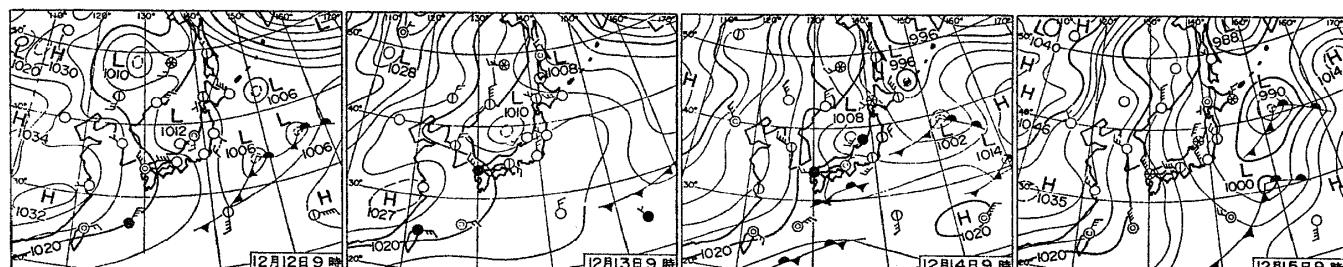
1955年観測開始以来の最多記録(年末までに474回、過去は'60年の414回)。冬型だが降水少量。南西諸島には発達した積乱雲もかかり、先島伊良部193mm。北日本北部また寒く。

6日(金)南西諸島大雨

暖湿流で●交え、那覇143mmなど軒みなみ100mm前後。北日本は終日冬型。南のしに伴う雨域午後近畿、夜関東へ。九州～北海道の降水は20～30mmの程度。父島I。

7日(土)北東気流

L通過後も北東気流が残って、東京など終日雨模様。奥多摩有料道5cm前後の雪で通行止。東京12mmが今月の最多日雨量。北日本は冬型。西日本は北部からゆっくりもちらおず。



12日(木)東京初霜

平年より15日遅く。横浜初氷。冬型ゆっくり衰えており、日本海側の●、◎も次第に小降りとなり、青空の所も。西日本で冷込みが和らいだが寒さは相変らず。

13日(金)日中寒さ和らぐ

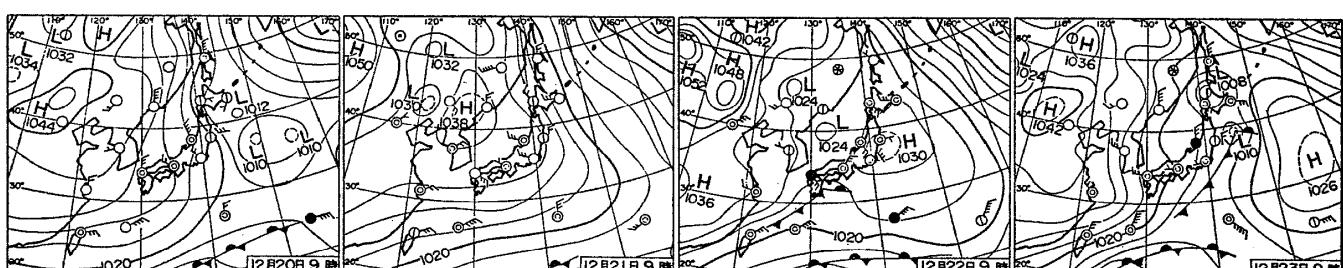
それでも max 平比-3～-4°。ほぼ冬型の分布で、日本海で雷の所もあったが大降りはなくあちこちで青空も。太平洋側○～①、成田近くで空から7キロの氷塊、開港以来の最大級。

14日(土)「しらせ」豪船救出

氷にとじこめられていたオーストラリアの南極観測船救出に成功。寒気と小Lで北陸大降り、●交え50から1部で100mm近い降水。朝方の冷込みはゆるみ、minはおむね平年並。

15日(日)鹿児島初雪

平年より24日早く。冬型強く、日本海側は昨日●だった北陸以西も、九州まで◎に。北陸は50mm前後の降水続く。①～○の太平洋側含めて寒さぶり返し max 平比-5～-9°。



20日(金)長期予報修正

暖冬から寒冬予報に。冬型気圧配置だが、降雪の中心は北陸で、山陰などは早々と◎の止んだ所が多く青空も。東海道新幹線は徐行連続6日目。maxは4°前後低目の所が多い。

21日(土)北陸も小降りに

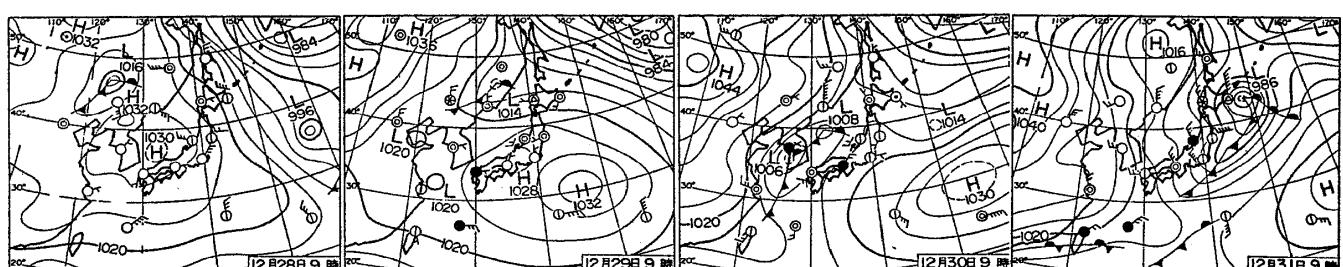
上空-30°線北上して津軽海峡を越える。北陸以北は9日以来の冬型分布をまぬがれていったん青空の所も。○～①の太平洋を含めて日中の寒さは相変らず。水戸II。大船渡II。

22日(日)寒い冬至

移動H東にむけて東・北日本もほぼ朝から○で陽气回復のひまなく、全国的に低温続く。気圧の谷の東進で西日本は朝から●、午後は東日本も。降水は各地とも少量。

23日(月)船衝突

濃霧の銚子沖で貨物船と漁船、千葉北部、茨城など濃霧で常磐線など乱れる。成田空港も。冬型に戻るところだが、谷の暖気で暖かな所が多い。台風26号や、北上。



28日(土)冬型

移動Hに捲われているが、北陸以北は夕刻まで冬型分布、降水は少量。その他の各地はほとんど○、気温も1部を除いては平年並の穏かな御用納め。輪島32日遅い初霜。

29日(日)南高型で暖か

移動Hが発達しながら南東進。北日本はLの接近で◎。西日本もゆっくりしが接近して次第に●だが、全般に南風で暖か。東日本は終日○～①。東京1.4(-0.3)11.5(+1.0)。

30日(月)日本海Lで高温

全国的に max 平比+5～10°。東京18.8(+8.5)でこの月の max。雨域朝西日本、午後は北日本まで。●と高温でナダレ。前穂で死不明2人。蕨では雪洞つぶれ高校生1人犠牲。

31日(火)バカ陽気の大晦日

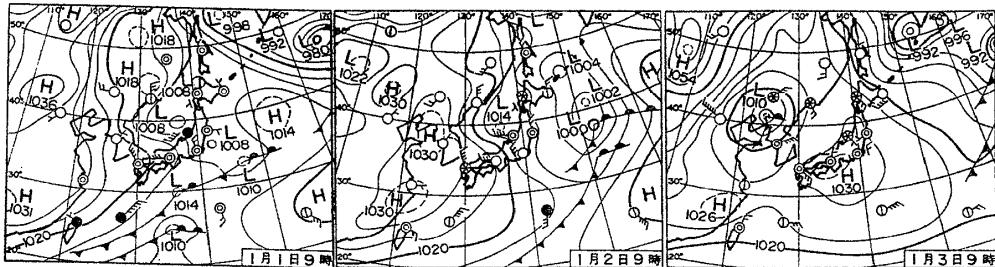
日本海Lに伴う暖気で min max とも平比+5～9°の暖かさ。気圧配置は朝から冬型に戻っているが高温で◎は北海道付近だけ。南西諸島でやまとまつた降りの他は少量。

天気図日記

1986年1月

下旬に大雪

- ・21日からほぼ1週間の寒波攻勢があったが、月降水量としては北陸以北の日本海側で平年並。道東で多い所もあったがその他は大幅に少なかった。
- ・平均気温は全国的に-1°前後平年より低い。
- ・3が日の初詣客、7950万人で、この10年間で4位。
- ・天王星にもオーロラ



1日(水) 穏か

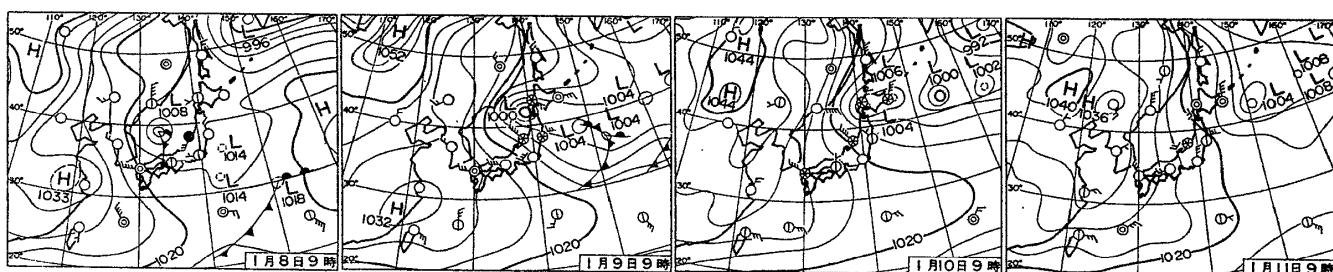
気圧傾度ゆるく穏かだが正月日和とまでは、日本海と南海上のLを結ぶ谷で、関東以西の太平洋側も未明からあいにくの○。西日本日中寒く、南西諸島は50mm前後の●。大島I.

2日(木) 西日本寒さ続く

max 平比-5°前後。東日本はほぼ並だが北日本はやや寒くなる。日本海の○昨日より強く20~30cm。太平洋側はよく①れたが、東京でも午後小○の所。南西諸島もちなおす。

3日(金) 寒さ全国的

朝方の冷込みも効いて全般に寒く、日中も3~5°平年より低い。H移動性となり、○は山陰方面から次第に上ったが、北陸中心に30~50cmの降り、夜は次のLで西日本から●。



8日(水) 寒さゆるむ

九州などは暴雨天で昇温しなかったがその他は久しぶりに平年を上回った所が多い。L夜半北海道に接近。この日の降水は日本海側で10~20mmの程度。太平洋側①。河口湖I.

9日(木) 諏訪湖御神渡り

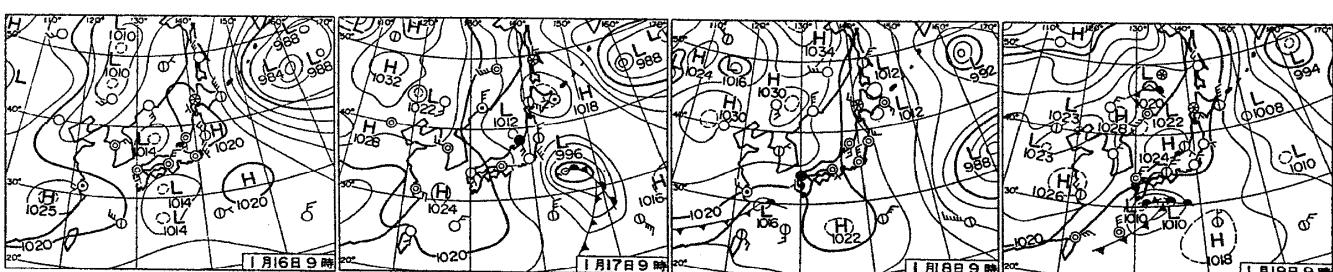
全面結氷は7日。Lのひとつ北海道で停滞気味、上層に寒気。日本海側、北日本は太平洋側も所々20cm前後。千歳空港40cmで午前中マヒ。太平洋側①だが寒さ戻る。東京17%月min.

10日(金) 大雪

北海道上空に-42°の寒気中心。東北南部~北陸の山間部など1m前後の大雪。北海道も局地的に。十勝の広尾106cmで1月の記録。上信越線などマヒ状態。太平洋側は寒い晴天。

11日(土) 高田降雪140cm

積雪194cm。北陸中心に50cm前後の大雪続く。太平洋側は冷たい晴天続き、max全国的に3~5°低い。東海道線1時不通、冷込みでレールにヒビ。東京-1.3(-1.8)で月のmin.



16日(木) 横浜初雪

平年より13日遅く。その他の関東南部も所々ミゾレ、小雪など。南西諸島~九州は昨夕から●降り出し、関東以西の沿岸で今朝から●。関東は北東の寒風。台湾北東沖でM6.5.

17日(金) 尼崎で大火

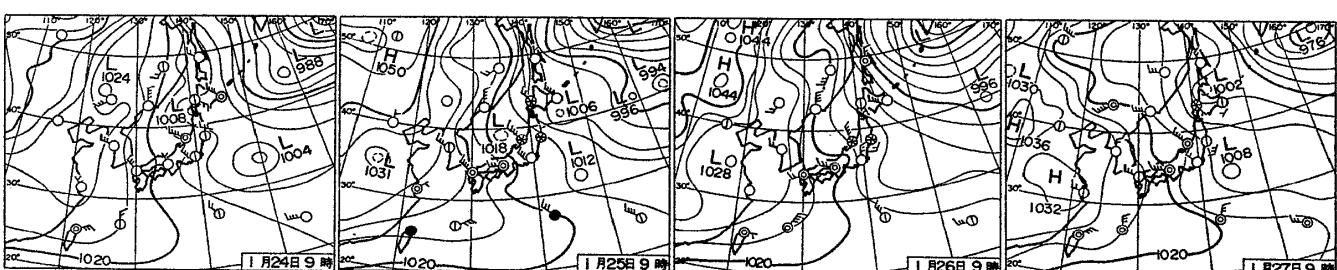
未明火出、56戸焼失。冬型くずれ、北日本に残っていた雪もいったん止む。しかし午後には再びよわい冬型、分布に。maxほぼ全国的に2~3°高目となる。父島I.

18日(土) 南岸L

揚子江のL東に進み、九州では昼前から●降出す。雨域は西日本の南岸まで少量。北日本は終日冬型だが降雪も少量。東京11.8(+2.4)でこの月のmax.

19日(日) 海底火山噴火

南硫黄島近海、72年ぶり。新島誕生の期待ひろがる。今日も南岸沿い所で●、屋久島55cmのほかは少量。L接近による北日本の○も少量。北見校幸流氷接岸。T536頃、父島II.



24日(金) 網走流氷接岸

平年より4日早く。寒気居座り、北陸~東北で日量およそ40cm前後の大雪続く。高田9時降雪71cm積雪195cm。南西諸島もちなおす。全国的な寒さ相変らずだが銚子、種子島ウメ開花。

25日(土) 大雪続く

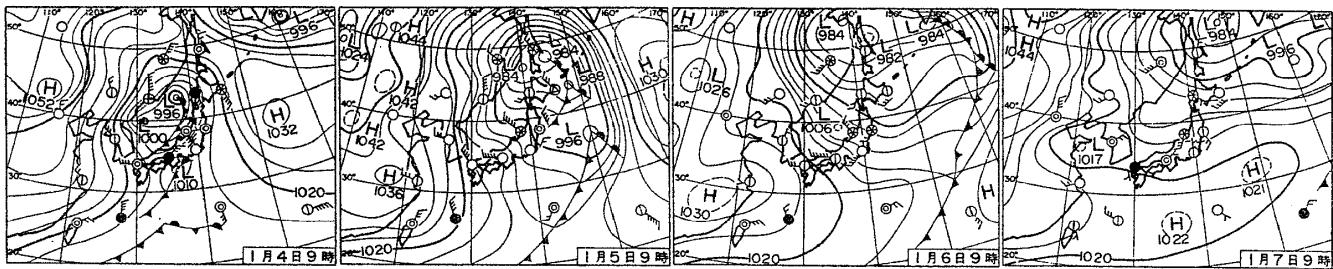
勢いが幾分弱まるとみられていたが、寒気居座って衰えず。北陸、東北中心に日量40~50cmのベース変らず。名古屋も未明から夕刻まで○。寒さも相変らず。紋別5日早く流氷接岸。

26日(日) 雪崩民家襲う

深夜、新潟県能生町で、11戸36人をのみ13人死亡。大雪ベース落ちず、区域、近畿の日本海側まで拡がる。南西諸島も昨夕から●に。全国的に前日上回る寒さ。

27日(月) 八丈島初雪

平年より2日早く。大雪は少し勢いを落したが、北陸、東北南部で30cm前後、長野県森宮野原降雪110cm積雪340cm、金沢降雪54cm。全国的に低溫続き max 平比-3~6°.



4日（土）北海道も雨

深い谷の通過で全国的に●所々◎。おむね20~30mmだが、北海道宇登呂78mm。太平洋側は午後西日本から回復。関東1か月ぶりの●らしい●。奥多摩道◎で閉鎖。千葉県勝浦II。

5日（日）屋久島初雪

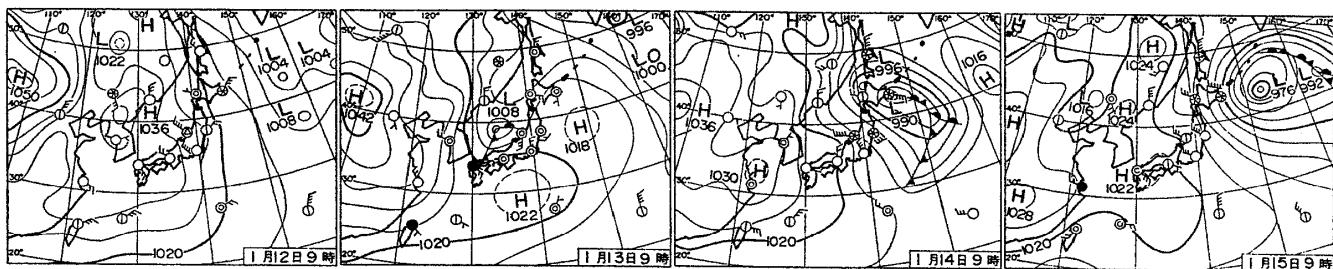
◎は5年ぶり。L構太で発達、強い寒気を引き込んで輪島上空-39.7°。日本海側の◎は山陰を含めて20cm前後。よく①れた太平洋側もあちこちで小雪チラつく。西日本厳しい寒さ。

6日（月）鹿児島大雪

積雪23cmで9年ぶり。東北南部~北陸40~50cmその他も大雪。甲府min -10.7 (-7.2)。日中全国的に寒さ厳しく、列車ダイヤ、道路など大混乱の寒の入り。

7日（火）寒波小康

中心のひとつ東にぬけて山陰方面から次第に◎→●。しかし9時までの降雪は北陸、東北で40cm前後。maxやや上って平比-2°前後。七草や似つかぬ草も打まじり 松藤夏山



12日（日）網走流氷初日

平年より3日早く。館山平年より4日早くウメ開花。寒波のひとつ東にぬけて大雪次第に収まる。午後山陰①、北陸で青空も。自衛隊の落下傘突風に流されて1人ケガ。

13日（月）日本海L

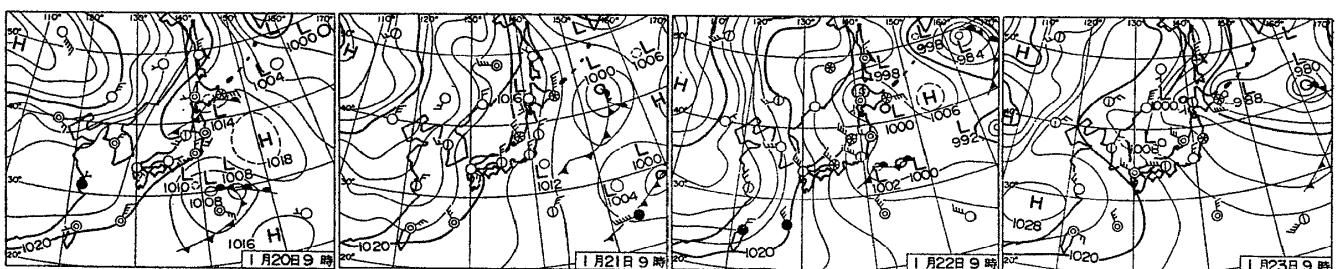
日本海側は朝から●や◎だが、日降水量は10mm程度。max平比、関東など-2~3°だがその他はほぼ平年並に。夜半c·f通過して東京も強風吹く。南西諸島はここ1週間①ベース。

14日（火）寒さ戻る

東北のmax平比-6°前後。北海道は暖かく、旭川-5.2(+8.0)-3.0(+1.3)。根室降雪26cmで15年ぶりの大雪という。引きの冬型で山陰は◎から次第に①。

15日（水）吹雪で死者

北海道、前日来の大雪と強風、札幌郊外で道に迷った人など4人行倒れ。群馬、福島なども局的に50cm前後の◎。西日本は谷に入つて朝から◎。天候穏かな奈良若草山で山焼。



20日（月）鹿児島ウメ開花

平年より3日早く。北日本はLの通過後冬型に戻る。その他はおむね①れて暖かだったが、東京など関東南部は北東流で終日曇雨天で寒い。福岡13.2(+4)、東京6.1(-3.4)。

21日（火）雄武流氷接岸

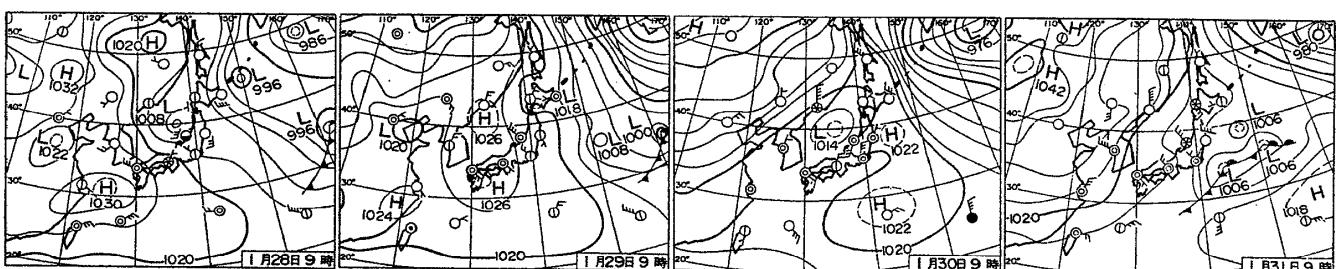
寒気南下。北陸以北の降雪や強まり10~20cmのベース。大陸Hのはり出しも次第に強まって夜は西日本の日本海側~南西諸島も吹出しの●。関東北東流、東京でも夜遅く小雪。

22日（水）猛烈寒波

-48°の寒気中心北海道上空へ。輪島-41.1°。東北南部、北陸を中心には大雪、寒さ、北日本はきのうからだが、今日は全国的に。水戸◎うっすら、近郊はかなり降った模様。

23日（木）稚内-50.1°C

1月として2位の低温。降雪勢いを増し、9時までの日降雪、奥只見の139cmを筆頭に北陸、東北中心に大雪。寒さ厳しく、東京min-1.2°で10日ぶりに平年下。浜松初雪。



28日（火）東海沖群発地震

深夜から29日夜にかけ、いずれも無感だが15回、震源浜名湖沖。寒波、ピークはすぎたが相変わらず波状攻勢の勢いもほとんど変らず。min maxともほぼ全国的に低い状態が続く。

29日（水）スペースシャトル

打上げ直後に爆発、7人死亡（現地28日）。北陸以北の大雪、前半は相変わらずだったが、のち次第に小降に。移動性Hに捲られて午後には北陸にも青空。北日本を除き陽気回復。

30日（木）北海道寒し

歌登-35.5旭川-24.5(-10.7)。日本海と南海上にも弱いL発生して東進。九州は朝から、午後には東・北日本も所々●または◎。降水少量。西日本は暖かくなる。

31日（金）気温平年並に

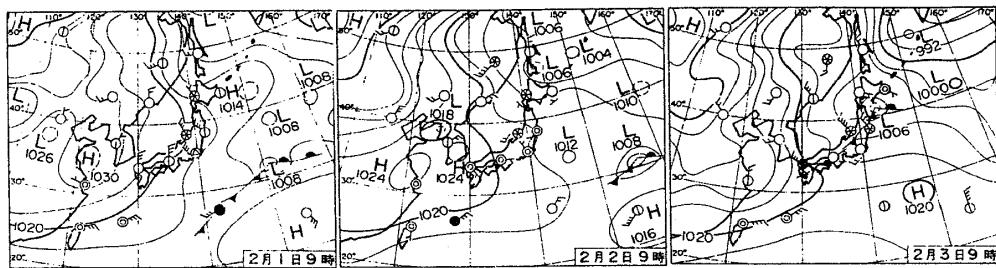
max 北日本で低目の所もあるがおおむね平年並。東京10.5(+1.1)で13日ぶりに平年を上回る。弱い気圧の谷が東にぬけ、ゆるやかな冬型。北陸以北◎、以西は●→①。

天気図日記

1986年2月

低温、季節現象遅し

- ・月平均気温は中部以西で 2°C 前後、関東以北で $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 平年より低目。
- ・降水量は本州の降雪地帯ではほぼ平年並の他は少な目の所が多かった。東京 27.5mm で 43% 。
- ・11日、南極昭和基地で 6.9°C 。2月としては観測史上最高のバカ陽気という。



1日(土) 台風第1号発生

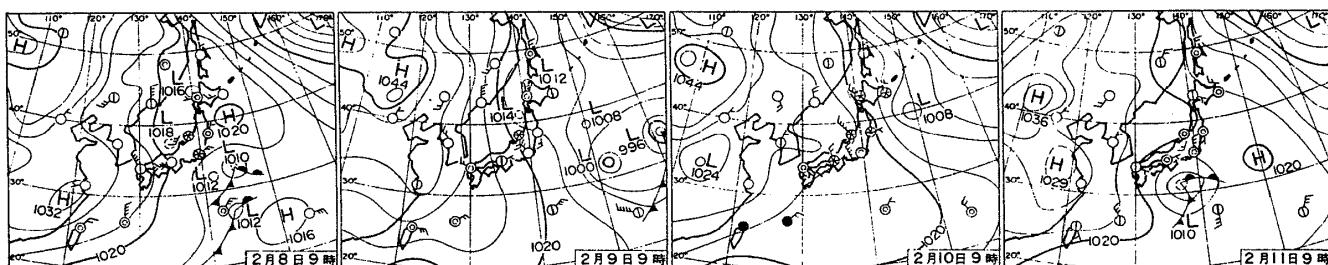
カロリン諸島に、冬型の配置、分布だが、南海上を通過したLで、関東ははじめ●や◎、水戸 4cm 、東京も郊外では淡雪。北茨城市内で猪あばれ主婦2人ケガ。浦河Ⅲ、帯広Ⅱ。

2日(日) 北日本寒い

前日よりさらに寒く max 平比-4~6°その他はほぼ平年並。冬型はくずれてきているが、午後には日本海にしが入り北陸以北の雪止まず。大降りはなし。北海道小規模地震続く。

3日(月) 春もどき

日本海Lの通過で東京 $14.5(+5.0)$ で 8.6m/s の南西風も吹いたが立春の前日で春一番とはならず。太平洋側は○～①。日本海側は冬型に戻つて◎次第に強まる。



8日(土) 東京雪 5cm

今冬の初積雪。東日本所々で◎。東京は午後上って○、大島は夕刻まで。弱い谷の通過で北陸などいったん◎が止んだが午後から再び。三陸は◎降り続けてきょうも $30\sim 40\text{cm}$ の所。

9日(日) 東日本冷込一番

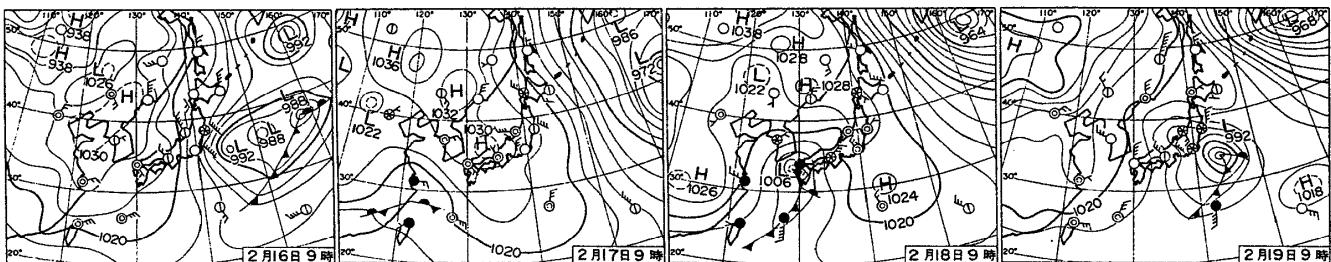
東京-1.6(-2.3)横浜-2.3(-3.0)など今冬一番。北海道上空に -45° の寒気。仙台なども◎。北陸～東北で日量 $40\sim 50\text{mm}$ の降り。その他は○～○だが日中も低温続き。

10日(月) ツル北帰行

出水のマナヅル6羽。冬型ゆるんで日本海側の◎も衰勢に向う。①の太平洋側を含め max 平比-3°前後。弱い谷の東進で九州南方に小し発生。九州南部は夜に入ってから●降出す。

11日(火) L南海上で発達

関東以西の太平洋側は○～◎で所々●や◎。午後関東南部は全般に◎で21時の積雪は大島 12cm 勝浦 7cm 東京 0cm 。静岡初雪。日本海側◎続くも少量。伊豆熱川で旅館全焼、24人焼死。



16日(日) 北風吹き荒れる

東京で 26.3m/s の突風、板、ビニールなどが飛んでケガ6人。国電に混乱も。終日、近頃にない吹き荒れ。北陸～東北々部 $40\sim 50\text{cm}$ 。気温も一気に下り max 平比-4~7°。

17日(月) 冷込み厳し

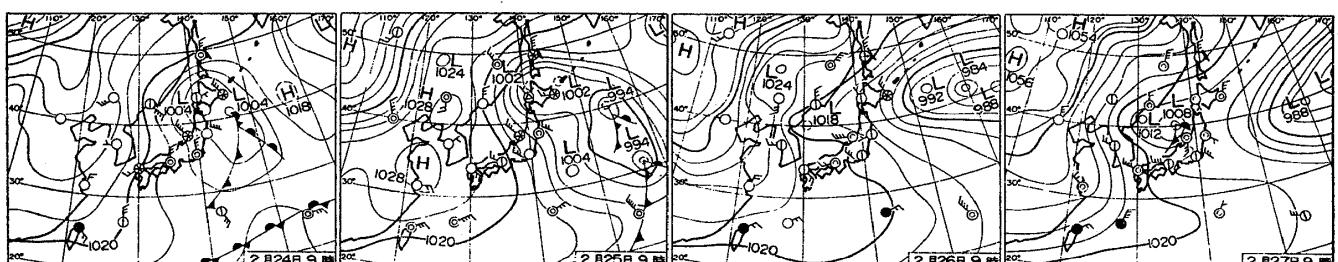
前日来ほとんど○で東日本～西日本 min 平比-3~6°。宇都宮-9.2八王子-6.7で今冬一の冷込み。北陸～東北の◎ $30\sim 40\text{cm}$ 。九州は昼から●富士山積雪 113cm で今冬の最深。

18日(火) 東日本大雪型

しが発達しながら東進。三陸沖に冷Hが舌状に下る典型的の大雪型。しが南岸に近く、●◎の判断の難かしい型でもあった。西日本はじめ◎から●に。東京昼前から◎降出す。

19日(水) 甲府 46cm

最深積雪タイ記録。横浜 37cm 、東京 18cm 、八王子 31cm など。東京の◎昼前に止み夜①。東北の太平洋側は夜まで◎。北海道○～①の他はほぼ冬型の分布。八戸、宮古Ⅱ、向島でウグイス鳴く。



24日(月) 寒さぶり返す

谷はば東にかけて冬型強まり、北海道上空には -42° の寒気中心かかる。久しぶりに日本海側から九州の北・西部まで軒なみ◎。北陸など $30\sim 40\text{cm}$ 。西日本中心に寒さ厳しい。

25日(火) 寒気相交らず

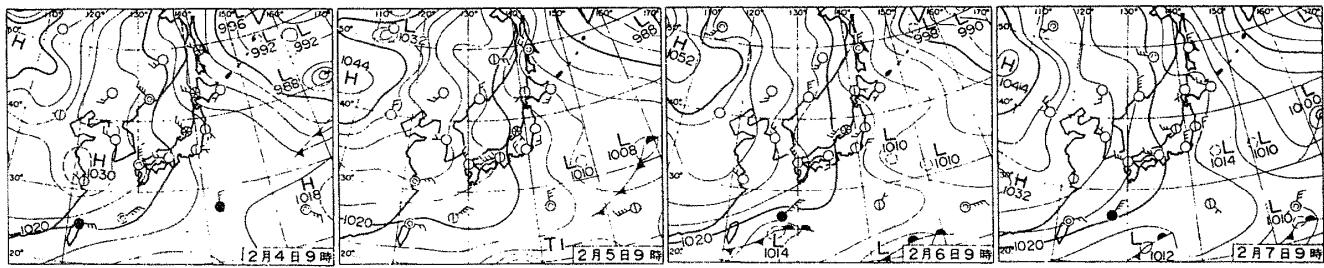
寒気中心は順調に南東進しているが -42° 線まだ北海道にかかる。北陸、東北南部の降雪昨日同様。伊豆大島も収束雲で◎。北海道を除き、今日は関東、東北も厳しい寒さ。

26日(水) 動き遅い日本海L

日本海西部の小L、夜に入ってやっと動き出す。北陸以北の◎次第に上り、山陰は午後から●、夜は西日本全般に○。関東などよく①れたがまだ低温。館山でウグイス鳴く。

27日(木) 日本海L

谷のひとつに対応して午後関東の南にL、南関東でも●や○の所。いったんもち直した北陸もまた◎に。山陰～九州北・西部は谷のあと吹出しで終日◎。西日本で寒さ厳しい。

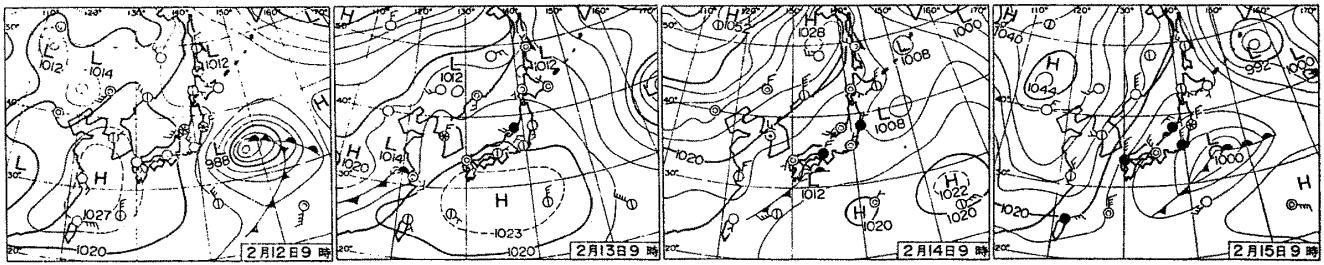


4日(火)立春にドカ雪
北陸中心の大雪で、新潟では1m前後の降雪の所も。寒気厳しくmax平比全国的に-3~6°。三宅島の雄山初冠雪。寒さの中、松山、潮岬ウメ開花。千葉II、福島、東京、岐阜I。

5日(水)青森185cm
9年ぶりの大雪。札幌積雪79cmだが青空に恵まれて雪まつり始まる。◎の勢いは昨日よりぐっと衰えたが北陸で40~50cmの所も。maxは関東ではほぼ平年並の他は4°前後低い。

6日(木)高田324cm
戦後の最深記録。北陸を中心に大雪。南西諸島はLの発生で昨夜から●、30mm前後。その他の各地は①~○だが相変わらずの低温。東日本も寒くなる。北日本は冷込みも厳しい。

7日(金)山陰も雪強まる
相変わらず北陸中心の大雪だが、山陰も雪多くなり所々で30~40cm。南西諸島は吹出しによる●続く。その他○~①だが低温。夜、北東風に変って関東南部から崩れる。大島◎。

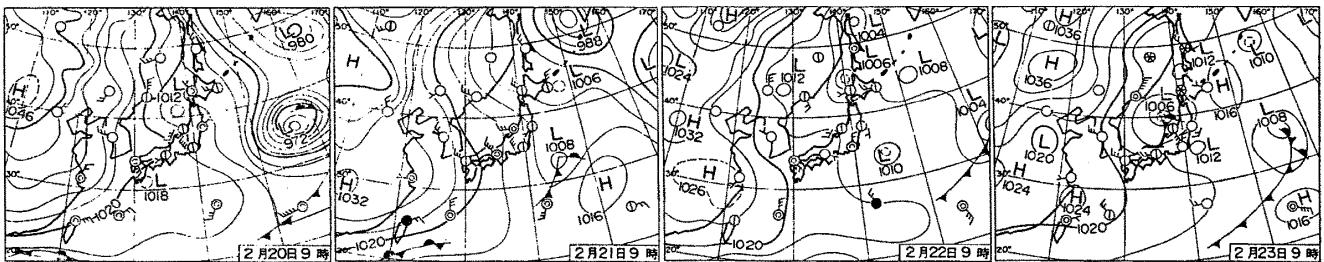


12日(水)銚子、水戸IV
1159頃、東京、福島III、浦河、金沢I。寒気ゆるみ、1部を除いてmaxほぼ平年並。H移動性で日本海側の◎も南から止み夜は①の所多くなる。八丈島で竜巻。出水ツル9羽立つ。

13日(木)南高型
移動Hが発達して南偏、北日本は暖かく、その他も平年並の陽気。北陸以北の日本海側は◎。沿岸州から日本海にL入り、午後は西日本の日本海側から●。浜松ウメ開花。

14日(金)東京も暖か
北海道やその他の1部を除き暖か。東京12.3(+2.3)で平年を上回ったのは11日ぶり。南岸L夜半過ぎ東海上へ、九州~南西諸島で30~40mmの他は並雨。北日本は弱い冬型分布。

15日(土)東京ウメ開花
平年より13日遅く。Lは遠ざかりつつあるが、南海上に谷残って回復遅れるタイプ。西日本はゆっくり回復に向ったが、北東流の関東は終日●大勢は冬型の配置、分布に。

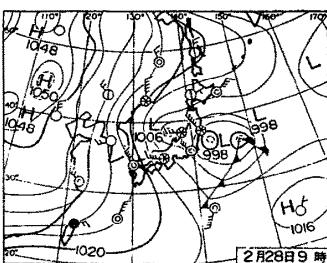


20日(木)ソ連宇宙基地打上
宇宙船6機の母船という大規模なもの。冬型だが、南海上を小しが東進、南岸は雲が多い。東京は昼前から夜半まで○。気温は全国的に平年より低目。高松ウメ開花。

21日(金)冬型強弱くり返す
弱い谷が頻繁に通り、冬型は短周期で強弱をくり返している。北陸以北の◎は日量20~30mmが大勢。南海上に小L発生して、夜東京で小雪、チラついた程度だが今冬8回目の◎。

22日(土)雪小降りに
日本海に弱い谷が入って、北陸以西もいったん①。南西諸島も5日ぶりに天気回復。その他の各地は○~①だが陽気回復せず、日中の気温も平年より2~3°低目の所が多い。

23日(日)寒気ゆるむ
日本海Lで北日本は◎、北陸などは◎→●→◎と忙がしい変化。北海道で厳しい低温の他はほぼ平年並。東京10.8(+0.2)わずかだが平年上は9日ぶり。埼玉県桶川でヒバリ鳴く。



28日(金)冬型強まる
谷本体ようやく東進して冬型強まる。日本海側の◎も次第に本降りとなる。関東付近に小しあって朝のうち◎。東京9回目の◎だが1cm足らず。低温厳しく名古屋 max 1.4(-9.5)。

スクラップより

▶首都圏2年ぶりの大雪(18~19)・東海道新幹線、電車などベタ遅れ、運休も100本超す。東名高速道路100キロの渋滞、20日までの3時間で都内のケガ人419人、うち入院は177人。
▶ソ連、宇宙基地「ミール」(平和)打上げに成功。6つの有人、無人宇宙船とドッキングでき、テスト的なサリュートに続き、実用的な恒久施設だという。(朝日)

▶長寿世界一の泉重千代さん死去、120歳238日。
▶都内の鎮守の森にトラフズク木みづつく、TVの放映をみてファンが集まり眼をひらかせようと木をゆすったりフラッシュをいたたり。保護すべき動物や植物をめぐってこうした不心得な物好きの話題も絶えない。
▶岐阜県川島町の木曾川に珍鳥コウライアイサのつがい、日本への初

飛来。
ボナルバトルカモメも多摩川に初飛来。
千葉県富津市にカナダヅル、これは関東への初飛来。(読売)
▶豪雪地の山形県朝日村に「雪降ろし体验ツアー」。定員に数倍する申し込み者があり、2回に分けて実施とのこと。美食に飽いてカユライアイサのつがい。

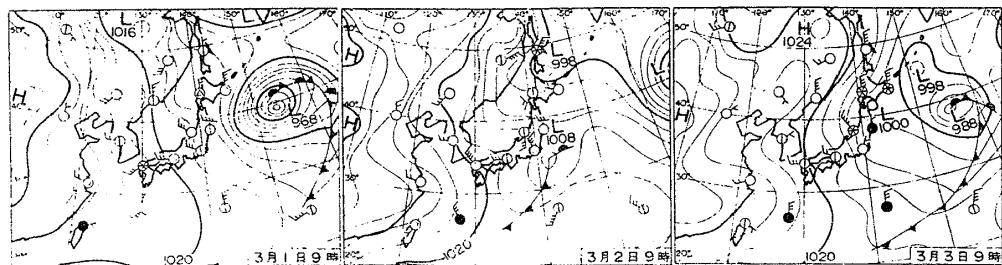
天気図日記

防災科学技術研究資料 第118号 1987年3月

1986年3月

首都圏に彼岸の大雪

- ・23日、ベタ雪で高圧鉄塔倒壊、130万世帯停電、断水50万戸、交通網マヒ、死者2人など。多摩地区の林業被害規模は明治以来。
- ・月平均気温平比0~-1°、降水量関東以西の太平洋側で多い所が目立つ。
- ・ペルー沖、エルニーニョ現象始まる。



1日(土) 冬型続く

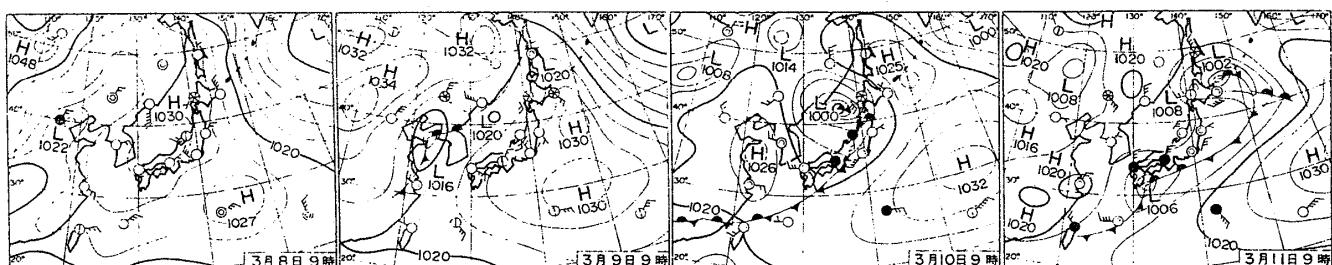
前日來の冬型で、山陰、九州北・西部も $\otimes\otimes$ 、夜まで、南西諸島も季節風による●。西日本の低温は昨日同様で max 平比-6° 前後、関東など2°前後。降水は北陸含めて10~20mm。

2日(日) 宮古、盛岡IV

1609頃、仙台などIII、東京I・冬型で、九州北・西部も $\otimes\otimes$ 終日。西日本、南西諸島の低温続き、那覇では min 8.8° で今冬2番目の寒さ。北日本は平年並。午後、成田で竜巻。

3日(月) 冬型ゆるむ

西日本は未明から、北海道なども午後から次第に①・北陸、東北の日本海側は \otimes 続き、降水10~20mm。太平洋側は○~①だが低温続き。強風下のラングーンで大火2,000戸焼く。



8日(土) 移動H

大型の移動Hに掩われて全国的に○~①。西日本でや、冷え込んだ他は min, max とも平年より高く、中部のmax +5° 前後。L通過後の北海道は冬型の分布から次第に解消。

9日(日) 北九州、東海春一番

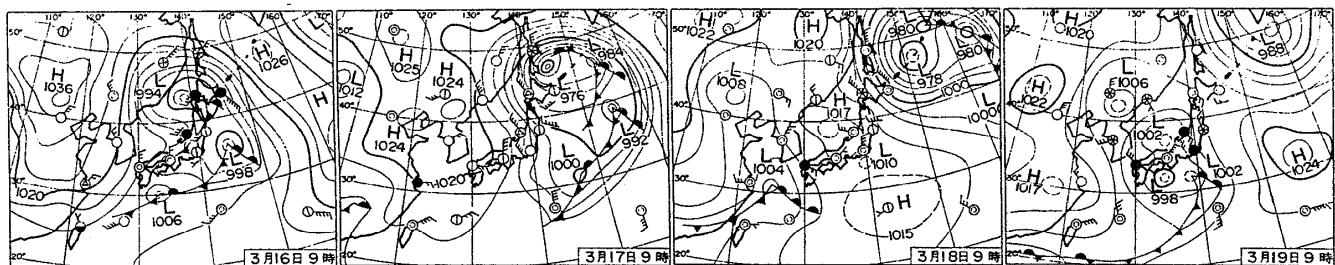
北海道はLの通り道で $\otimes\otimes$ の所が多かった。その他は南高型でよく①れ、max 平比+3~10° のバカ陽気。黄海のL、夜日本海に入る。八丈島III・父島I・高山Iと地震頻発。

10日(月) 関東甲信春一番

平年より13日遅く。日本海Lの東進で、沖縄を除き今月初の全国的な崩れ。南紀~東海で50mm前後の所もあったが他は並雨。高温続く。浜田に今年初の黄砂。

11日(火) 天気ぐずつく

谷短周期で今日は南岸L。昨日いたるも直した西日本も未明から●。北海道は冬型解消して次第に回復。関東は朝から、東北は夕方から●とめまぐるしい変化。中部以西低温。



16日(日) 石垣島海開き

あいにくの○空から●も降ったが、北日本は発達したLの通過で朝から●や $\otimes\otimes$ 。登別59mm、いったん①れた東日本はc·fの南下で午後○。西日本○→①で近畿まで黄砂。浦河II・

17日(月) 吹出し強まる

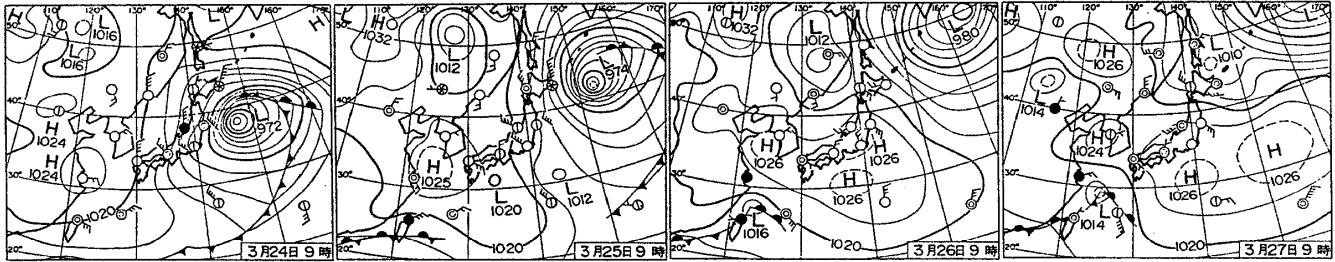
1時目的が強い冬型で、北日本では暴風雪の所も。白河31.0m/s、東京でも20m/sを超す。関東以北○~①でmaxは全国的に2~3°低目。東京湿度19%で月の最小。シナ水仙咲く。

18日(火) 寒い彼岸入り

max 平比、東・北日本はや、低い程度だが、西日本は-3~5°。北海道の $\otimes\otimes$ も朝のうちに上り次第に①。揚子江Lの接近で九州では朝から●降出し、50mm前後の所。他は①→○。

19日(水) 二つ玉L

L、九州の西で閉塞して二つ玉に。雨域は未明に東日本まで。千葉、茨城など50mm前後、東京も37mmで、1時間に13mmのや、強い降りも。その他は並の降り。東・北日本低温続く。



24日(月) 宮崎サクラ開花

3日早く。昨日神奈川の停電による断水50万戸、今日もうち1割は復旧せず。大発達のLの影響で東日本の天気回復は夜になってから。西日本は朝からよく①れたが全国的に低温。

25日(火) 高知サクラ開花

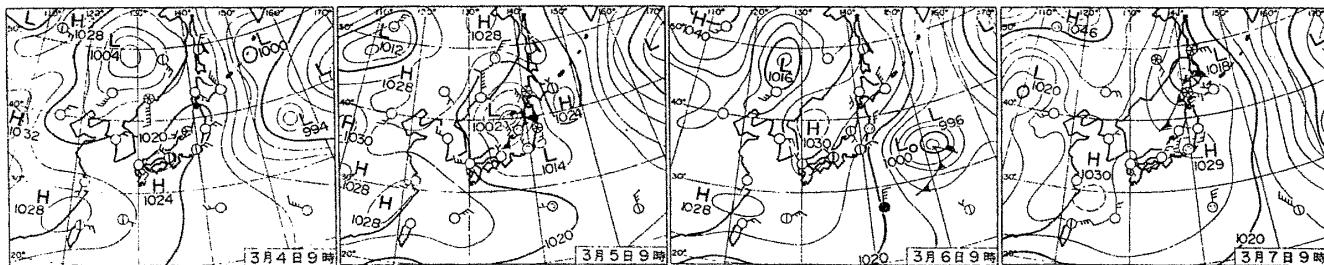
平年並。北日本は冬型の配置、分布だが降水は少量。関東も朝から①れ、九州にかけてほとんど○だが、低温傾向は続き、東日本のmax平比は-3~6°。沖縄はFでぐずき。東京II。

26日(水) 大型移動H

午後、東シナ海中部にL発生したが大型Hに押えられて動きほとんどなし。南西諸島~九州南部ぐずつく。北日本も北方Lでぐずつき気味、雷も。その他①で陽気も直す。

27日(木) ア拉斯カ火山噴火

オーガスティン火山が10年ぶりに。東シナ海のL、発生時とほとんど位置が変わらないがこのあとゆっくり動き出す。雨域夜には近畿まで。並雨だが尾之間141mm。1部除き暖か。

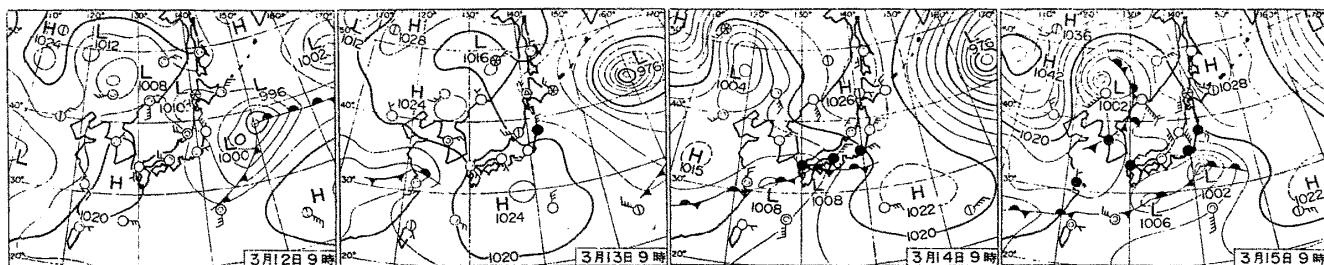


4日(火) 厳しい冷込み
北日本中心に放射冷却強く、札幌は-16.2(-9.6)で今冬一の冷込み。旭川23.6(-12.7)、東京0.0(-2.8)でこの月のmin. 北陸などに残っていた④も午後には上る。日中も寒い。

5日(水) 四国春一番
平年より12日遅く、日本海しの通過で北日本、北陸は④。東海以西は①～○。関東は近海に小Lも発生して不安定。東京もミゾレやにわか雨、夕刻には雷雪も。

6日(木) 啓蟄
Lの通過後、等圧線の混んだ部分は東海上にあり、吹出しあほとんどなし。北日本で1時的に④●もあったがほぼ全国的に○～①、気温は並。網代I、銚子II。

7日(金) 高山Ⅲ
0325頃、飯田II、河口湖、敦賀I、北方をL通過。北海道は④、c・fの通過で東北も●④の所があったが少量。その他の各地は移動H圏内で好天。max +2°前後で全国的に暖か。

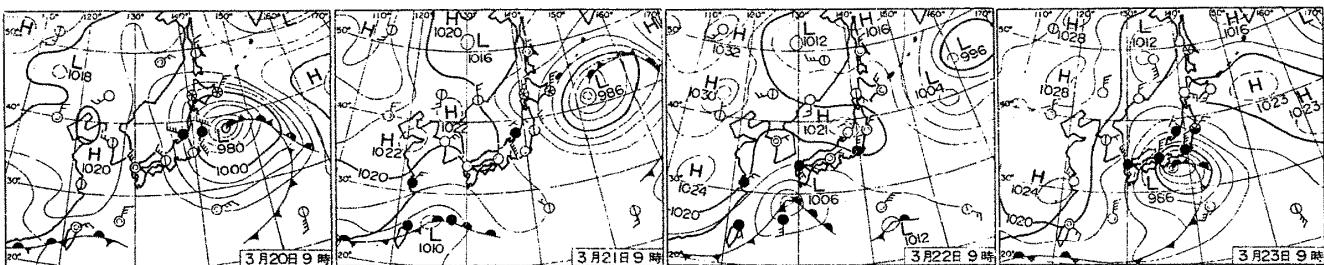


12日(水) 黄砂西日本一帯に
小Lの通過とその後のよわい冬型で北日本や北陸は④●の所多い。西日本は①～○、東日本も朝から回復。maxは東・北日本でやや低目の程度でminを含めおむね平年並。

13日(木) 黄砂拡がる
西日本から甲信、北陸まで、北陸以北は冬型分布。関東以西はよく①れたが、揚子江しの東進で夕刻、西日本から●。朝、ベタなぎの銚子沖で貨物船と漁船衝突、死不明3人。

14日(金) 西日本大雨
南海上のF上を小しが次々通過。南九州～四国で前日来の●100mm前後。関東も朝から冷たい●、深夜には都心で④に変る。北日本は終日ほぼ①。郊外でイワヒバ開く。

15日(土) 東日本雪
東京の④は朝から●に変ったが、日光、河口湖など20cm、箱根35cm。西日本も終日○～●だが暖か。東日本終日●で寒い。旧初午。初午の祠ともりぬ雨の中 芥川龍之介

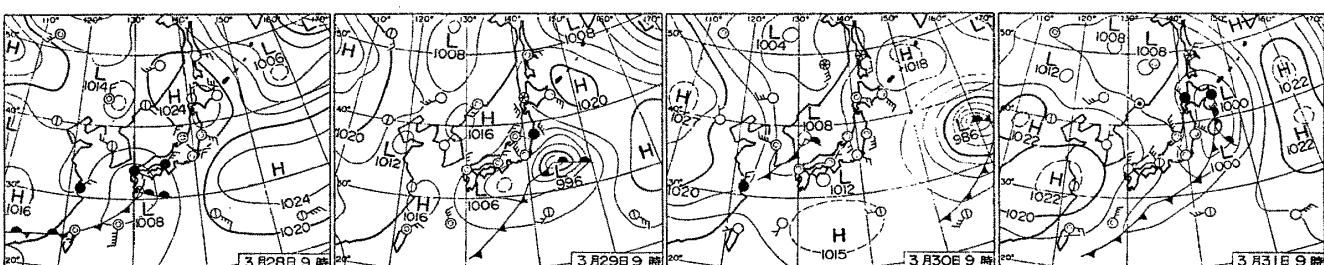


20日(木) 冬型
L東海上で発達して引きの冬型。北陸以北は日本海側を中心に④●20～30mm。山陰も夕刻までぐずつく。関東以西は①～○、西日本に寒気入る。南西諸島はFの影響で○～●。

21日(金) 民家に雪崩
夜、山形県尾花沢市で、2人死亡。北日本は冬型で、北陸以北の日本海側を中心に④●だが少量。南西諸島のF活発化し●交えて50mm前後。その他おむね①だがmaxや低目。

22日(土) 鹿児島サクラ開花
平年より5日早く、台湾L発達しながら北上、前面のHに押えられて動きは遅く、深夜四国沖へ。雨域、正午に四国まで。関東は北東流で朝から降り出す。北海道のみ○～①。

23日(日) 彼岸の大雪
台湾L発達を続けながら東進。首都圏内陸部は未明から、都心は夕方から④。春雷とどろく。東京9八王子22河口湖75cmなど。停電、断水、国電ストップ、大島近海で海難10人死。



28日(金) 一転して冷雨
L夜半には関東の南海上へ。関東も昼から●に。東海以西30mm前後、東日本10～20mmの冷たい●。甲府8.6(-7.1)東京12.8(-2.0)。西日本も終日ぐずつき、北海道のみ①。

29日(土) ぐずつく
南海上のF上に小しが発生して西日本も前半はぐずつき気味。午後になつてはっきり回復。東日本の回復は夜、max 平比-5°前後、北日本もすっきりせず。福岡三宅島サクラ開花。

30日(日) 気圧の谷短周期
また谷が東進して朝から○の所多い。北海道は朝から④、その他も○～●。北日本、西日本のmaxはほぼ平年並だが、本州中部は平比-5°前後の低温続き。大分静岡などサクラ開花。

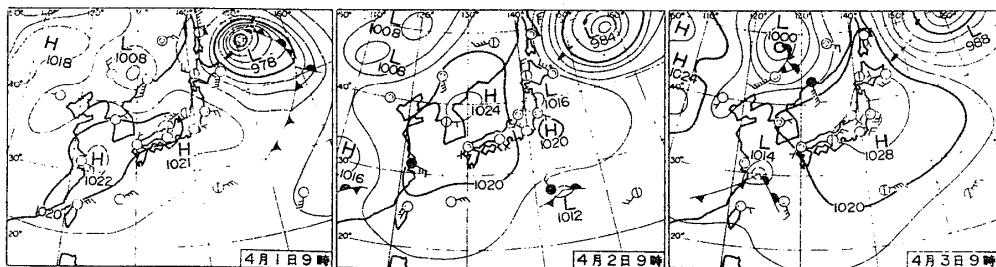
31日(月) サクラ前線房総へ
館山で平年並の開花。しが東海上で発達して、北陸以北は冬型分布。関東も昼から①れてmaxようやく平年並に。西日本①、沖縄は○。カリフォルニア州北部でM5.3。

天気図日記

1986年4月

月後半に菜種梅雨

- ・オホーツク海Hのブロッキング顕著で『菜種』をつける必要ない感じ。
- ・月平均気温は、東日本で平年よりやゝ低い他はおむね平年並。
- ・月降水量は、西日本の1部、北海道の1部でやゝ多かった他は平年より少ない。



1日(火) 大島群発地震

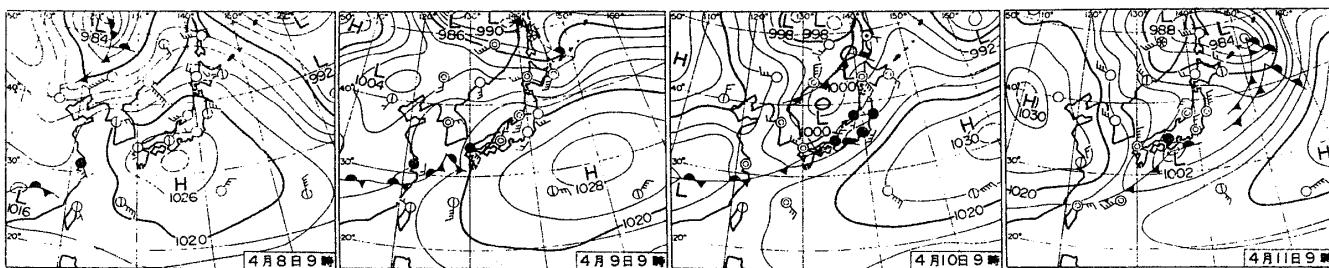
震度Ⅲ5回など、この日の有感33回。移動性Hに掩われて全国的に①たが、関東南部は北東風で雲多く小雨の所も。北海道も冬の季節風で④の所、東日本で低温の他はmax平年並。

2日(水) 大阪サクラ開花

広島、横浜なども。沿海州にあったcold Lが北日本を通過。この方面は所により雷を交えて●④など。降水は多い所で10~20mmの程度。その他①。大島群発地震続く。

3日(木) 東京サクラ開花

平年より4日遅く。Lの接近で九州は未明から●の降り出した所も。しかしHの勢力強く、雨域は夜半にやっと近畿まで。maxはほぼ平年並だがフェーンの鳥取21.9(+7.1)。



8日(火) 戦場ヶ原 -15.5°C

冷込み厳しく、東日本～北九州で平比-5~-8°。東京4.6(-3.9)で月のmin。冬型は解消して北日本も①～○だが、次の谷の接近で西から雲を増し、午後九州で●降り出す。

9日(水) 北九州大雨

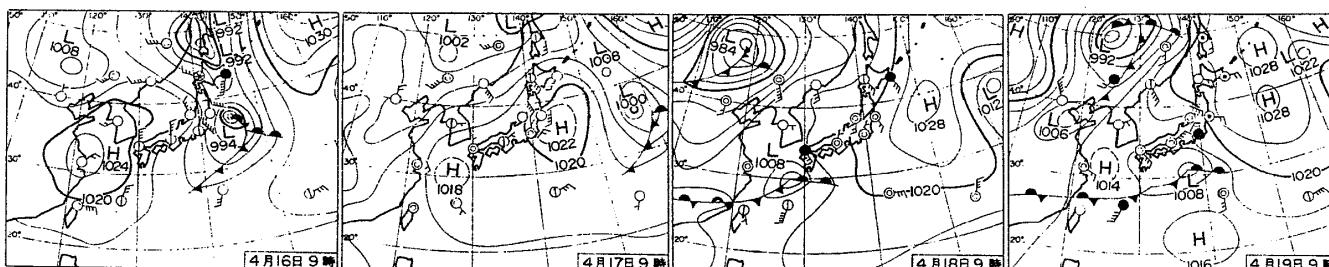
平戸118mmなど。南東海上のHも強く、関東は夕刻まで、北日本は夜半すぎまで①。北九州、山陰で低温の他は高温で、max平比+3~-6°の所が多い。横浜ツバメ初見。

10日(木) 前線南下

関東以西朝から●。四国で局地的に100~150mm。その他西日本、岐阜などで50mm前後。西日本は昼から、東日本は夕刻から天気回復。min maxとも西日本で高温目立つ。

11日(金) 天気変化速し

未明、九州の西にL発生、午後には関東の東海上へ。雨域、午後には東、北日本に移り、西日本は急速に回復。各地とも並の降り。北海道は①から夜吹出して④の所。



16日(水) 根室Ⅲ

2152頃、釧路Ⅲ、浦河Ⅱ、福島Ⅰ、1022頃、水戸Ⅰ。北海道は吹出しによる④夜まで。関東以西は朝から①れたが吹出しや強く、東京23m/sの突風も。高円寺でヤエザクラ咲く。

17日(木) 福島サクラ開花

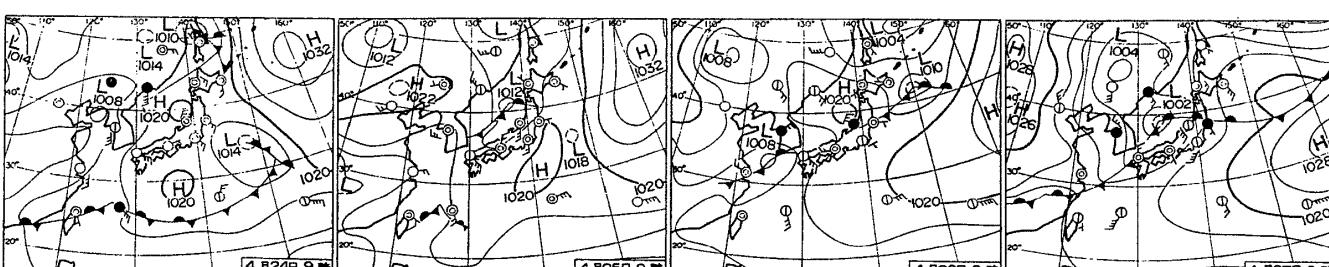
平年より6日遅く、新潟も4日遅く。道北は上空寒気による④が続く。その他おむね①～②だが、min maxとも低い。華南からのFのびて西日本～沖縄は午後④で●の所も。

18日(金) 尾鷲Ⅲ

津Ⅲ。西日本は朝から●。雨域は夜になって東海まで。西日本低温続き、北陸や北日本は高温。都内でピアガーデン、オープン1番のり。アラスカのバブロフ山噴火。

19日(土) 菜種梅雨

関東以西は朝から●。東風で尾鷲80mm。Fに暖湿流が入って沖縄で局地的大雨、読谷188mm。西日本は午後雨の上った所が多いがすっきりせず、北日本は①。仙台サクラ開花。



24日(木) 皆既月食

皆既の21時頃は、北日本○、東日本○～①、近畿以西○、南西諸島○所。昼間もほぼ同様の天気だった。気象庁構内のフジ咲き出す。フィリピンで貨客船沈没、犠牲180人。

25日(金) 北冷西暑

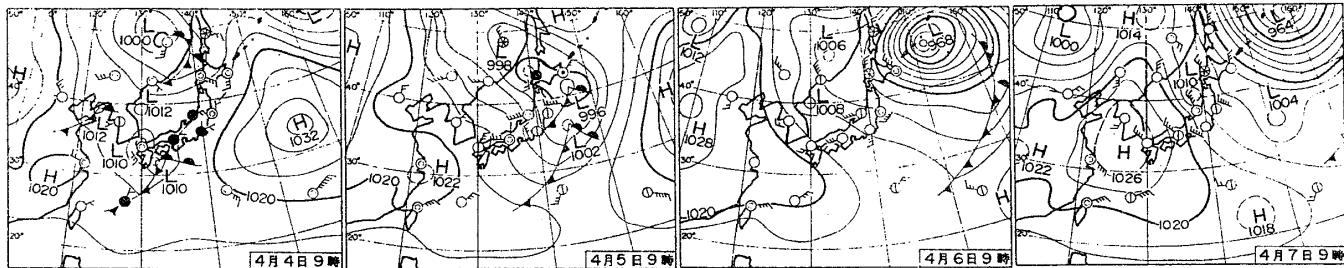
冷雨の青森9.3°C(-5.4) フェーン気味の鳥取27.3(+8.6)。東京20.5(+0.5)、郊外ではオガタマの花咲う。日本海Lを中心とする谷の通過で各地とも○る。久米島131mm。

26日(土) 弘前サクラ咲く

北陸あたりを前線帯が通っており、これを境に北では○～●、ただし北海道は○～①、南では○～①の天気続く。北冷西暑も相変わらず。次のLの接近で夕刻九州で●が降り出す。

27日(日) 高田31.0°C

日本海Lの東進で西日本は朝から●。高田は降り出しが午後でフェーン効く。Lは夜半に北海道を通過。北陸～北海道で50mm前後。東北々部、北海道低温続き、その他は高温。



4日(金) 線路畠づり

国鉄水郡線、線路下の大岩、土砂が崩れて12m畠づり。北海道、沖縄で①の他は●。紀伊~東海で30~50mmの他は並の降り。夜、西日本は回復。アマガエル鳴く。

5日(土) ペルーで強震

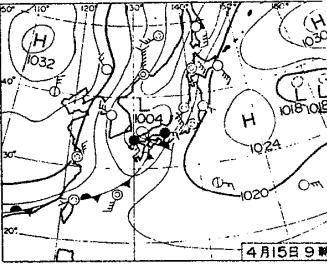
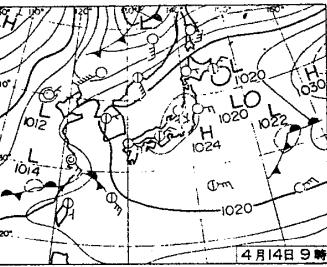
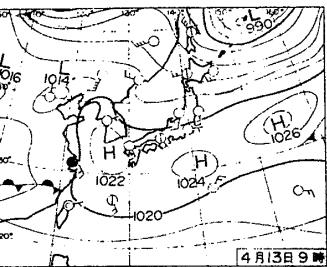
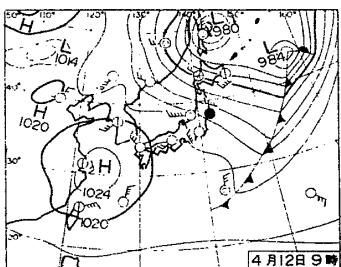
(現地) インカの古都クスコで、18人死亡、古建築にも大被害。北陸や東北は午前中、北海道は夜まで●。朝方、東・北日本沿岸の広範囲で霧。他の他は並の降り。夜、西日本は回復。

6日(日) 山火事頻発

山陽、四国などで、引きの冬型から、午後には日本海に cold Lも入って、冬型の天気分布。関東以西はよく①れて max と並。東京ツバメ初見。沖縄、西日本に黄砂。

7日(月) 冬型

東北上空に -39°C の寒気中心。山陰も含めて冬型分布。日光で積雪20cm, max -2.5°C (-10.7)。長野も7cm, 1.8~13.2)。九州南部、沖縄を除いて各地とも寒さ厳しい。



12日(土) 冬型

北海道上空に -36°C の寒気中心。北日本中心の冬型だが、北陸、北関東でも④の所。降水は少量。北日本から近畿まで max 平比 -5° 前後。東京湿度19%でこの月の最小。

13日(日) 陽气回復

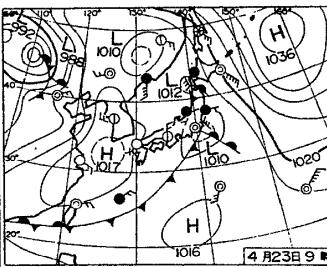
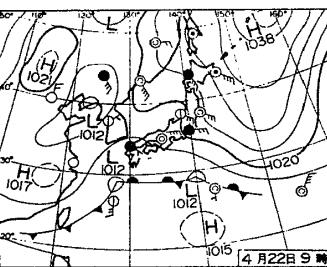
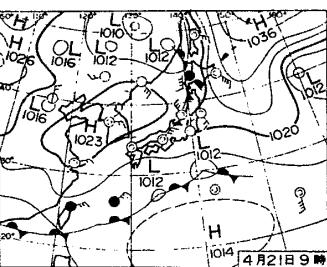
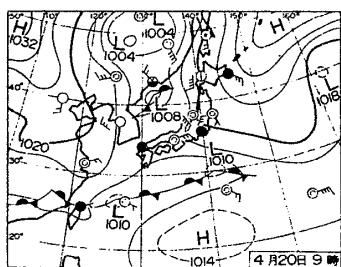
北日本を除いて今朝も冷込み強かったが、日中は各地ともほぼ平年並。H、帯状となって日本を掩い、北日本の1部で春シグレの他は○~①。盛岡ツバメ初見。都内でヤマブキ。

14日(月) 宇都宮Ⅲ

2148頃、日光Ⅱ、千葉Ⅰ、0731頃、父島Ⅰ、全般に①~○だが、西日本から雲を増す。南西諸島①~○所々●。揚子江のL東進で九州は午後から●降り出す。暖か。

15日(火) 高波で船転覆

午後、土佐沖で真珠作業船、3人死。日本海Lで中部以西は朝から●。午後は東北まで。北九州、高知などで100mm前後の所も。夜は北海道も●、西日本はゆっくり回復に向う。



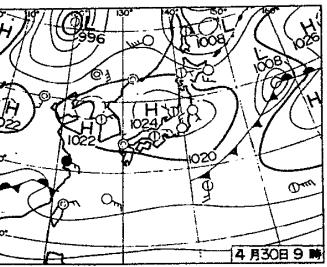
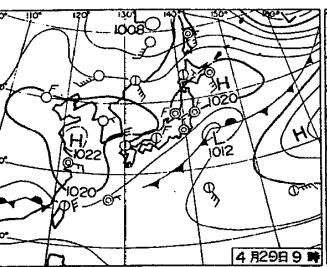
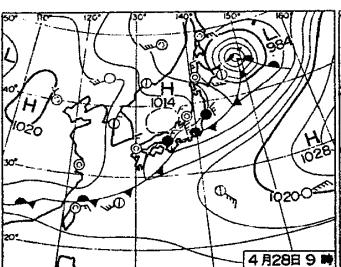
20日(日) ぐずつき

日本海Lの影響もあって、日本海側や北日本①~○ながら所々●。Fやや遠のいているが太平洋側全般に○で所々●。「しらせ」南極から帰る。冷雨の中、ウグイス盛んに鳴く。

21日(月) スリランカ洪水
暴風雨洪水で死者多数、バンダラデシュでも。オホーツク海Hと移動Hの間の谷に入つて全国的にぐずつき。東日本の低温は解消。アメリカハナミズキ咲く。会津若松サクラ開花。

22日(火) 四国、東海で大雨
気圧配置は梅雨型で全国的に雨。四国~東海のあちこちで100mmを超す。天城山 191mm。東京も24.5mmでこの月の最多雨量。西日本で夜に入つてからゆっくり回復に向う。

23日(水) 桜島爆発百回目
今年に入ってから、南のしの通過で東京も午後には①。東日本の低温も解消して max $+5^{\circ}$ 前後。北日本はしの動き遅く、終日ぐずつき。沖縄ぐずつき。西日本はよく①れる。



28日(月) ソ連原発大事故

現地時間28日に発表。発生日時、原因、犠牲者数など不詳。Lに伴うF南下して沖縄を除き全国的に●。東海で50mm前後の他は並の降り。関東以西の南岸、F通過後もぐずつき。

29日(火) 移動H

はじめ北高気味だったが、移動H帶状に連なる。東日本の天気もゆっくり回復、午後は全国的に①~○。日の中の気温は中部日本で 3° 前後低い他は並。都内でコデマリ咲く。

30日(水) メキシコM7

現地0107頃。全国的に①で、maxは北日本 $+3^{\circ}$ 前後、その他は平年並。大陸東岸の気圧の谷が東進しており、西日本は午後から○り始める。夜、九州の所々で●降り出す。

ソ連原発事故(キエフ)

- 信頼できるソ連筋の話(読売5月2日夕刊)
 - 停電が引金、停電の原因は不明。非常用発電機作動せず。
 - 停電で原子炉の冷却水循環ポンプが止り、予備ポンプ作動せず。
 - 原子炉が過熱、水素濃度が過剰となり爆発。
 - 火災発生。1日現在、完全には鎮火していない。

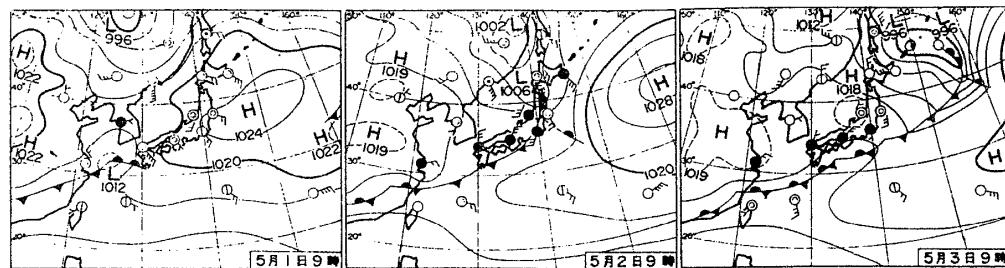
天気図日記

防災科学技術研究資料 第118号 1987年3月

1986年5月

月後半異常低温

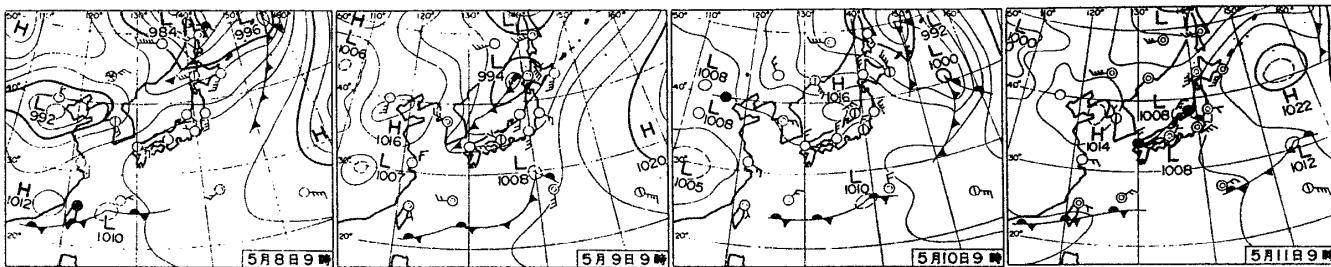
- ・月半ば頃から北日本中心に低温が持続したが、月平均では北海道でやゝ低い所、九州でやゝ高い所があった他はほぼ平年並。
- ・月降水量は関東以西でやゝ多い他はおゝむね平年並。
- ・台風の進路予報表示、暴風警戒域を加えたものに、6月から実施。



1日(木) 青森サクラ開花
平年より3日遅く。東シナ海のL動き速く夜は日本海中部へ。南風の暖かな●九州は昨夜から、この日夜には東北まで。北陸、北日本のmax平年比+5~6°。九州で30mm程度。

2日(金) 東日本で連続地震
0937頃、水戸I. 0943頃、水戸II. 0952頃、水戸III. 大船渡I. 南西諸島I~IIIの他は全国的に●の朝。Fの速度遅く、関東以西は夜まで●残る。雨量は北陸30mmの他は少量。

3日(土) 雨の憲法記念日
F上を小Lが次々通過て関東以西は終日冷たい●。土佐、北陸、近畿の日本海側で50mm前後。東北は○。北海道は終日○。北陸の雪渓で2人滑落死。都内でシロの花咲く。

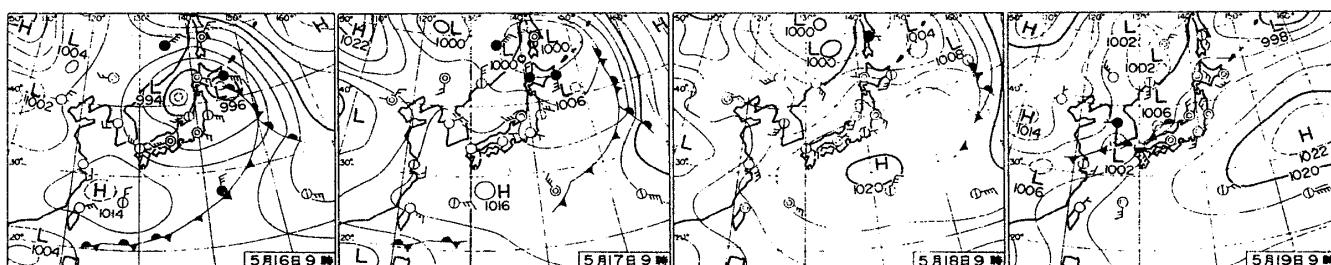


8日(木) M7.7
0747頃、アリューシャン中部で、津波、釧路23cm、その他九州までの太平洋沿岸で10cm前後。沖縄で梅雨空の他は①で高温。福島30.0(+10.3)、東京など今年初の光化学注意報。

9日(金) 南高型
北海道~九州でおゝむね①~○。関東近海は霧が深く貨物船の衝突など相次ぐ。F、午後北陸にかかり、日本海側、北日本●で○の所も。北日本を主として全国的高温、南の強風も。

10日(土) 北日本に冷気
F通過後、移動Hに掩われておゝむね①。関東以西のmaxはほぼ平年並だが、北陸、北日本は冷涼な天気に、夜、西日本にL接近。ひまわりⅢ号、8日頃から不調。

11日(日) 宮古島Ⅲ
1025頃、石垣島、名護Ⅲ、那覇I. 1747頃、水戸I. 谷の通過で西日本を除いて終日●、○で低温。東海でやゝまとまとった●の所も。ひまわりⅢ号復調。長良川鯉始まる。

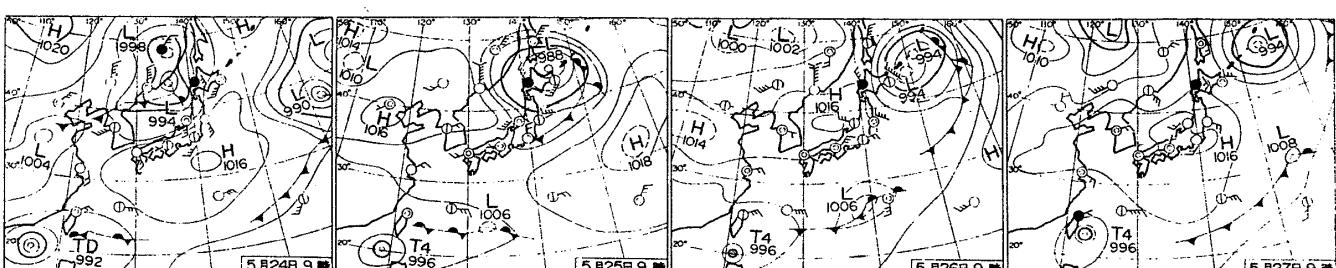


16日(金) 不安定
日本海上空に寒冷渦あり不安定。西日本は昨夜から、東・北日本は昼頃から、不安性の●○。関東南部の気温は平年並だが、その他のmax平比は-3~6°。

17日(土) 台風第3号発生
マリアナ南東方に、北日本はきょうも不安定で①~○ながらあちこちで●も。maxも6°前後低い。関東以西は○~①max平年並。甲府の近くにカッコウ。宮古Ⅱ、大船渡I.

18日(日) 南高北低
北日本は北低の影響を受けて不安定・低温状態も続く。関東以西も大陸の谷の東進で次第に雲を増すが、南風で高温。フェーンも加わり金沢28.3(+6.0)、鳥取30.4(+8.5)など。

19日(月) 西日本大雨
L日本海に入り、これに向って大型帶状Hのフチをまわって暖湿流入。九州~中国で100~150mmの大暴雨。厳原214mm。午後は沖縄除き全面的に●。ソロモン暴風雨で死者100人を超す。

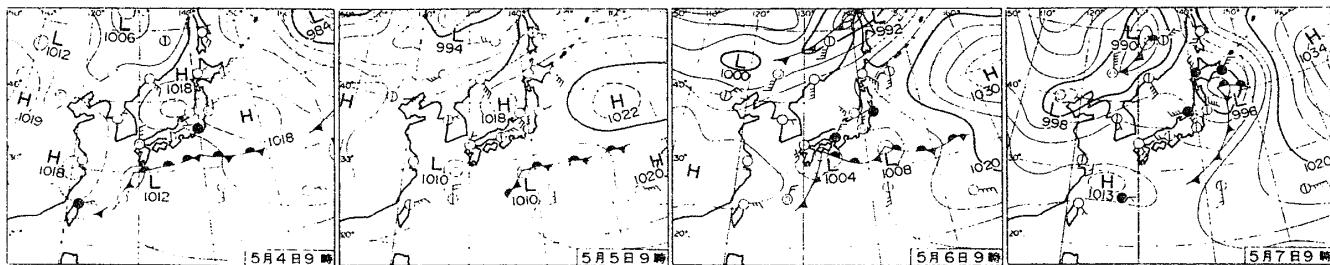


24日(土) 北日本の低温更に
Lの接近で北日本は未明から●降り出す。終日●で30mm前後。低温ぶり、旭川10.9(-8.2)、札幌9.5(-8.9)。関東以西は①~○でmaxほぼ平年並。c.f.夜北陸まで南下。

25日(日) フェリー転覆
バングラデシュで先月に続き川フェリー転覆、死400人以上という。関東、東北も昼には天気回復。さわやか。東京22%で月の最小。北海道は終日●、網走ミゾレ。

26日(月) 北日本低温続く
cold Lの影響で北海道初め●。網走は午後までミゾレ。旭川 max 9.2°でmax平比昨日に続き-10°。長野では凍霜害。台4号の間接影響で石垣105mm。関東以西も低温。

27日(火) フィジーM6.7
25分後にもM6.2。西日本に弱い谷かかり九州は朝から、四国、中国も夕方から●少量。関東はよく①れて異常乾燥注意報の出た所も。北日本もよく①れたが低温。水戸I.



4日(日) 放射能異常値

ソ連原発事故によるもの、15都県で。関東以西は南岸を中心に終日ぐずつく。低温はおむね解消。○の北海道を中心に北日本は高温、札幌21.7(+6.1)、東京17.4(-4.0)。

5日(月) 北海道サクラ開花

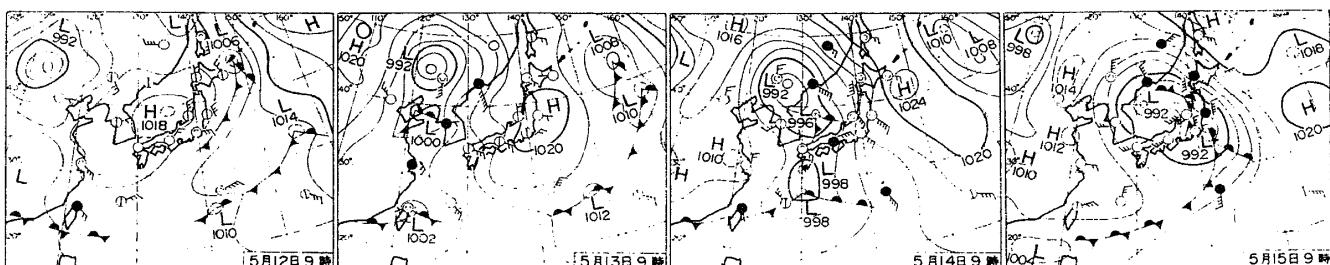
函館平年並、札幌は1日遅く。日本南部を谷が東進。暖湿流も入り九州で局的に100mmを超す所。関東も①から●に、本州の日本海側、北日本は①で高温。札幌25.3(+9.4)。

6日(火) 雨の連休明け

Lは夜半に関東へ。関東以西に20~50mmのやまとまつた●。西日本は昼から回復。ソ連原発事故は化学爆発だった。ソ連政府の委員長らがこの日はじめて明かす。「立夏」

7日(水) 沖縄梅雨入り

平年より4日早く。L、太平洋沿岸を北上。北日本は●、南部から次第に回復。関東以西は朝から①。東京25.5(+3.6)で初の夏日。沖縄は●で、那覇21.1(-5.1)。



12日(月) 関東以西陽気回復

ただし、北東風で天气回復の遅れた関東南部は低温。東京17.8(-4.4)。北陸、北日本も3度前後低目。移動Hに擁われおむね①。沖縄も青空。気象庁近くの街路の西洋石楠花咲く。

13日(火) 奄美梅雨入り

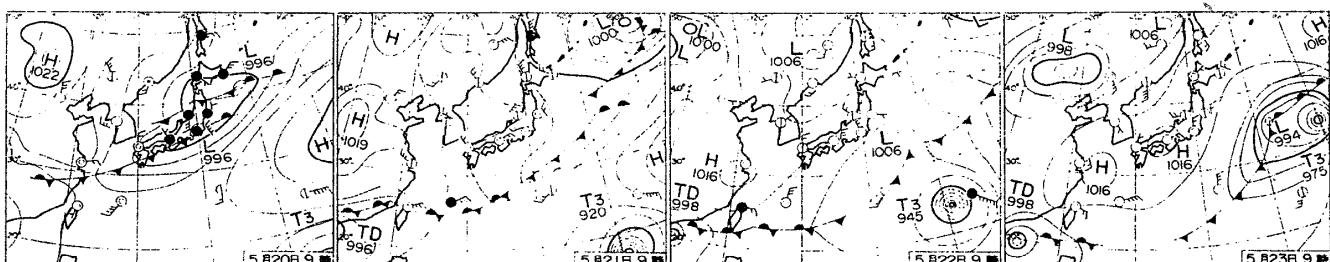
平年より2日遅く。L、Fに暖湿流入り、先島諸島に豪雨、大富338、多良間247mmなど。北日本は終日①、関東以西も①だが西から雲を増し午後九州で●降り出す。近畿以西高温。

14日(水) メイ・ストーム

深い気圧の谷の通過で、関東以西の随所で100~200mmの大雨。東京80.5mm、15日にかけての24時間雨量100mmで5月の新記録。午後西日本は回復、近畿~東北は終日●。

15日(木) 宇都宮II

0212頃、水戸II、大船渡、千葉I、東北きょうも50mm前後。関東ももちろんおしたが不安定、近畿以西は朝から①~○、沖縄もよく①れる。気温は全国的に高めまちまち。



20日(火) 雨続く

夕方まで全国的に●。東海~南関東50~150mm、箱根156、天城山124mm。低温ことに北日本厳しい。気象庁、エルニーニョ心配なしと発表。中国、ひょうで死者100人以上の由。

21日(水) 低温続き

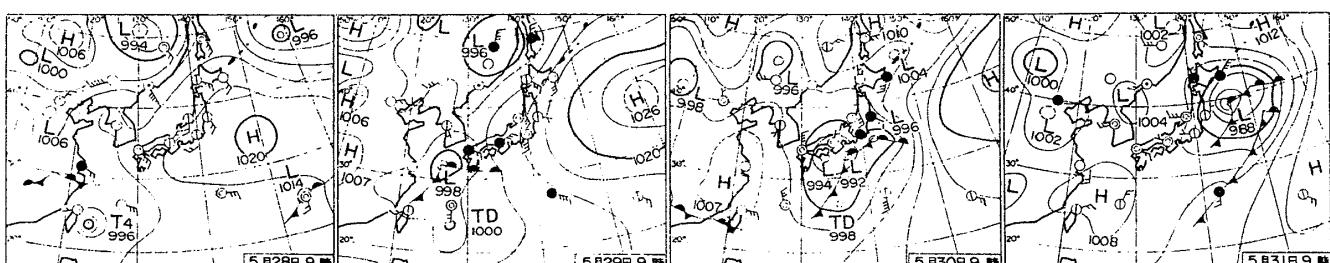
北日本中心に、北海道はすでに1週間続き、旭川9.4(-9.6)、関東以西も-2~6°。関東は北東流で終日ぐずつく。北海道、沖縄もぐずつき、その他はほぼ①。都内でカキの花。

22日(木) 気圧の谷

移動Hが帶状にはり出しているが、本州付近は南北にのびる気圧の谷にも当っている。北陸、東北を除いて関東、北海道の天気はすっきりしない。西日本は①。関東も夜は回復。

23日(金) 台風第4号発生

南シナ海に、移動Hの東進で関東以西は①~○。北日本は○~①。北日本中心に低温の所が目立つが、前日よりはやむち直し。埼玉のあちこちからカッコウの便り。



28日(水) 北日本低温を脱す

ほぼ2週間ぶりに平年を上回る。旭川22.2(+2.4)、秋田24.2(+3.5)。H発達して西日本の●いったん上る。午後揚子江の東進でまた降り出す。東、北日本①~○、豆台風の●少量。

29日(木) 西日本大雨

L、夜九州で閉塞。雨域は午後関東まで、東風の冷たい●で西日本max平比-4°前後。北日本は①~○で暖か。九州~紀伊半島100mm前後。尾鷲124mm。台4号昨夜TDとなる。

30日(金) 北日本また低温

南岸して、西日本の●は朝方南の方から上り始め、関東、東北は終日●。伊豆半島~七島で100mm前後。北海道も夜は●。maxは中部~東北で3~6°低くその他はほぼ平年並。

31日(土) 釧路III

1240頃、根室III、帯広IIなど。北日本の●も夕刻にかけて次第に上る。北海道低温。関東以西はおむね①れて+2°前後。東京26.9(+2.6)で今月のmax。